

2024（令和6）年度

2024（令和6）年4月1日から2025（令和7）年3月31日まで

知識集約型社会を支える人材育成事業

—新時代の地域のあり方を構想する
地域戦略人材育成事業—

成果報告書



大正大学



目 次

巻頭序言	1
1. 基本情報	
（1）申請の概要	3
（2）事業の概要	18
（3）事業の成果	26
2. 事業の報告	
（1）探究科目	60
（2）データサイエンス教育	64
（3）クロスディシプリン（学融合）教育	85
（4）アントレプレナーシップ育成教育	124
（5）学修支援・学びのコミュニティ	188
（6）チューター育成プログラム	202
終わりに	212

巻頭序言



大正大学 学長
神達 知純

令和2年度に本学の取組み「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」が文部科学省の助成事業「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択され、令和6年度は助成期間の最終年度となりました。本事業は、本学が強みとする地域連携・産学協創を活かしながら、現代社会の課題解決に資する人材の育成を目標としています。本学はこの事業の推進に伴って、データサイエンス教育やアントレプレナーシップ育成教育を新たに導入し、また、学融合教育の構築に注力してきました。これらの新たな教育活動により、課題解決を目的とした実践的な学修を促進することで、未来の社会で求められるスキルや人間性を育成することを目指しています。学融合教育については、学生が自らの専門分野を深く探究すると同時に他学科の異なる学問領域を統合的に学ぶことを通じて、複眼的な視野を養うことを目的としています。アントレプレナーシップ育成教育については、課題解決を目的とした実践的なプログラムであり、初年次教育や学科専門教育で身につけた知識・技能を実践するための装置という役割を果たしています。

大正大学は大正15年（1926年）に開学した私立大学です。仏教連合大学構想を創立の由縁とし、大乘仏教の精神である「智慧と慈悲の実践」を建学の理念としています。長い歴史をもつ大学として、これまで時代や社会の状況に応じた教育・研究を探究してきました。大正大学の建学の理念には、本学で学んだ者たちが生涯を通じて飽くことなく智慧を探究し、隔てなく慈悲を実践する者であってほしいという願いが込められています。テクノロジーやデータ主導の時代においても、生きとし生けるものの尊厳を忘れることなく、社会において人がいかなる役割を果たすことができるのかを、これからも問い続けていく所存です。

さて、先端技術の高度化によって経済発展や社会課題の解決が期待される時代が到来すると言われています。それに伴い、大学教育に従事する者にも発想の転換が求められます。すなわち、教員が何をどう教えるかではなく、学生自身が何をどう学ぶかという視点に立ち、大学をより実践的な学びの場に変えていくことが重要になります。また、教室とキャンパスの外を行き来することで、理論と実践を往来することで、学生たちは自らの知識をどのように生かせるかを学ぶことになります。

さらに、学生時代に、地域・社会・自然に存在する問題に、自分事として向き合い、他者と協働して課題解決にあたる経験を積んでほしいと、私は願っています。社会全体で、これからの時代の教育を考えていくことが重要であることは、言うまでもありません。変化の激しい時代を生きる人を育てるために、高等学校ではICTを活用した探究的な学びが既に始まっています。これらの教育活動の接続を考えて、高等学校と大学、大学と社会を

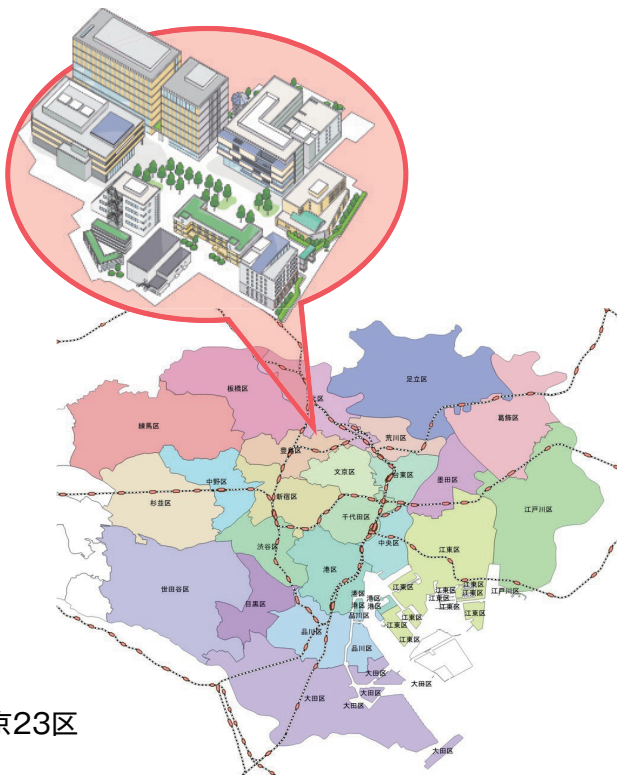
一続きのものと考えて支援していく必要があります。さらに、少子化の影響で、各大学は生き残りを懸けた競争のただ中にあります。各大学の改革のキーワードとしては、「課題解決」・「産学連携」・「データサイエンス」・「学融合」・「複眼的視野」・「学びの個別最適化」・「グローバル」・「ダイバーシティ」・「ウェルビーイング」等があります。

本学もこれらのキーワードを含めた改革を推進してきました。各大学は、切磋琢磨しながらも、時には手を携え、若い世代の学びを支援していくことが望まれます。それが、新時代の持続可能の発展につながるものと信じております。

最後に、私は令和5年11月に学長に就任し、『「4つの人となる」ための10の力』という学生のための学修指針を公表しました。これは建学の理念に改めて光を当て、「智慧と慈悲の実践」が学生にとっての一生涯の目標であることを表すとともに、在学中に修得すべき資質・能力を「10の力」として示したものです。変化の激しい現代社会においても、学生たちに大乘菩薩の精神で生き抜いてほしいという願いがここには込められています。令和6年度より全学共通科目において「10の力」の習得を目標とした教育が始まっています。来年度以降は学科の専門教育においても「10の力」を取り入れる予定です。そのため、学科DPに「10の力」を反映する予定であり、学生は入学から卒業まで「10の力」を意識して学修を進めることになります。まだ端緒にすぎませんが、これからの変化の激しい社会を生きる学生にとって学びの道標として機能することを期待しています。

1. 基本情報

(1) 申請の概要



東京23区

大正大学

学生数：4,821名

男子：2,403名

女子：2,418名

専任教員数：155名

専任職員数：185名

※令和6年5月1日現在

大正大学の6学部・3研究科



仏教学部



人間学部



臨床心理
学部



文学部



表現学部



地域創生
学部

仏教学研究科

人間学研究科

文学研究科



大学教育再生戦略推進費 「知識集約型社会を支える人材育成事業」 計画調書

[基本情報]

1. 大学名	大正大学							
2. 機関番号	32635							
3. 事業者 (大学などの設置者)	ふりがな かしわざ まさひろ (氏名) 柏木 正博				(職名) 理事長			
4. 申請者 (大学の学長)	ふりがな かんだつ おじゆん (氏名) 神達 知純				(職名) 学長			
5. 事業計画責任者	ふりがな まえだ のぶこ (氏名) 前田 長子				(所属・職名) 学修支援センター 教授			
6. メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム							
	事業計画名 新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業							
7. 事業プログラム に参加する学生の 所属学部等名	社会共生物学部、地域創生物学部、表現学部、心理社会学部、文学部、仏教学部							
8. 事業計画の ポイント (400 文字以内)	幅広い学融合の知識や創造力、変化に対応する力、異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力を本学で学ぶ全学生に身に付けさせることにより、我が国において新時代の地域を牽引するアントレプレナーシップを身に付けた「地域戦略人材」（多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー）を育成するもの。実施にあたっては、本学の特色である地学連携体制・産学協創体制を生かして学融合・学際・課題解決型の教育プログラムを構築する。また、教育組織と事務組織を統合する学内第三の組織である総合学修支援機構 DAC をハブとして学内の各組織を有機的に連携させ、教育及び学生支援体制の基盤を確立すると共に社会とのインタラクションを活発化させる。また、リカレント教育の提供等による生涯を通じた教育サポートの構築や、独自メディアを活用した成果の発信も予定している。							
9. 学生・教職員数		学生数				教職員数 (R2.5.1)		
		入学定員 (令和2年度)	全学生数 (R2.5.1)	収容定員 (令和2年度)	定員充足率 (R2.5.1)	教員数	職員数	合計
	学部	1,125 人	4,774 人	4,590 人	104.0%	156 人	165 人	321 人
	大学院	95 人	137 人	208 人	65.9%			
	合計	1,220 人	4,911 人	4,798 人	102.4%			
10. 連携先機関名 (他の大学、民間企業等 と連携した取組の場合 の機関名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバンク株式会社 ・全国商工会連合会 ・株式会社フジテレビジョン 							

11. 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 3 項において「公表するものとする」とされた教育研究活動の状況について、公表している HP の URL

<https://www.tais.ac.jp/guide/info/>

12. 事業計画経費（単位：千円） ※千円未満は切り捨て							
年度（令和）		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合 計
事業規模		51,927	65,395	67,660	61,640	68,190	314,812
内 訳	補助金申請額	50,000	50,000	50,000	33,333	15,000	198,333
	大学負担額	1,927	15,395	17,660	28,307	53,190	116,479

※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金は「大学負担額」に計上しないこと。

※2. 国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金、私立大学の私立大学経常費補助金等は「大学負担額」に計上しないこと

13. 事業プログラムの受入学生定員（1学年あたり、事業最終年度）	
1,125 名	

<メニュー1のみ記入>

14. 専門分野 (主たる分野の順に記載 してください(最大5 つ以内))	大分類	中分類	小分類
	社会科学	C3_ 社会学関係	A8_ 公共社会学
	社会科学	D9_ その他	E3_ 地域創生学
	人文科学	B9_ その他	J2_ 表現文化学
15. 授与する学位 分野・名称	学士（公共政策学、社会福祉学、経済学、表現文化学、人間科学、臨床心理学、日本文学、人文学、歴史学、仏教学）付記する名称：地域戦略人材育成課程の修了		

(大学名：大正大学)

(事業名：新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業)

新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

地域戦略人材とは

- 多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー
- ・幅広い文理横断の知識や創造力
 - ・変化に対応する力
 - ・異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等

必要となる改革の方向性

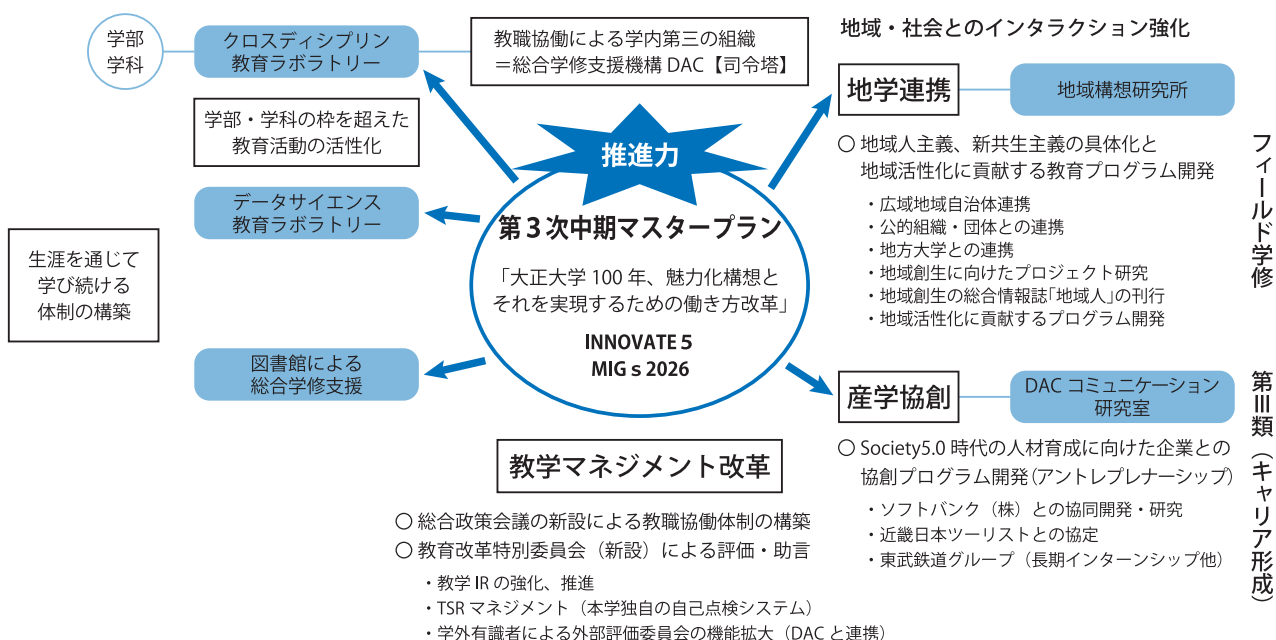
- ✓ 本学第3次中期マスタープラン・INNOVATE 5・MIG s 2026 を踏まえた人材育成
- ✓ 超スマート社会の中で地域を支え、活躍する人材を育成する教育プログラム構築
- ✓ 全学横断的な教育改革の実現に向けた組織改革、教職協働体制の確立
- ✓ 目指す人材像の育成に向けた地域・社会とのインタラクション強化

【事業方針】 ● 地学連携・産学協創による新しい教育プログラムの実現

● 学内第3のマネジメント組織＝総合学修支援機構 DAC を司令塔とする全学横断的な教育改革の実現、ガバナンス強化

● 生涯を通じた学びの体制構築による人材の好循環促進、社会とのインタラクション強化

事業概要



- ・ DAC (機構長：学長) の司令塔機能強化、学長補佐の協働による学内組織 (教育・研究・地域連携) の連携強化
- ・ 大学のビジョン達成に向けた FD・SD の徹底 (FD・SD 手当の支給)
- ・ 教学 IR 体制の組織・運営強化 (エビデンスに基づくプログラム開発)
- ・ DAC ポートフォリオの開発と活用 (学修成果の可視化による育成強化)
- ・ 専属チューターによる共通教育の目標達成サポート体制構築
- ・ 新教育分野開発のためのラボラトリーの設置
 - ① クロスディシプリン教育ラボ (学融合)
 - ② データサイエンス教育ラボ (文理融合)

本補助金の目的・趣旨



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY

大学サイエンスの発展 大 サイト内検索 検索

会費・報道・お知らせ 政策・審議会 白書・統計・出版物 申請・手続き 文部科学省の紹介 教育 科学技術・学術 スポーツ 文化

トップ > 教育 > 大学・大学院、専門教育 > 国公立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進 > 知識集約型社会を支える人材育成事業

● 知識集約型社会を支える人材育成事業

「知識集約型社会を支える人材育成事業」は、Society5.0時代等に向け、全学横断的な改善の循環を生み出すシステム（全学的な教学マネジメントの確立、管理運営体制の強化や社会とのインタラクションの強化等）の学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的とした事業です。

補助金の交付要綱等は「[大学改革推進等補助金について](#)」を参照してください。

令和2年度

令和2年度の公募について

- 令和2年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」公募について
- 令和2年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」公募説明会の開催について

令和2年度の申請状況について

- 令和2年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」申請状況について

文部科学省＞トップ＞教育＞大学・大学院、専門教育＞国公立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進＞知識集約型社会を支える人材育成事業

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/intelligence.htm

「知識集約型社会を支える人材育成事業」は、Society5.0時代等に向け、全学横断的な改善の循環を生み出すシステム（全学的な教学マネジメントの確立、管理運営体制の強化や社会とのインタラクションの強化等）の学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的とした事業です。



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会

文字サイズ変更 小 中 大 サイト内検索 サイトマップ

一般の方へ 研究者・機関担当者の方へ English

日本学術振興会について 事業のご案内 事業の成果 調達情報 職員採用情報 情報公開 アクセス方法 お問い合わせ

TOP > 事業のご案内 > 知識集約型社会を支える人材育成事業

メニュー
MENU

- トップ
- 制度概要
- 公募・申請関係
 - 公募説明会
 - 公募・申請関係データ
 - 申請状況
 - 審査結果
- 委員会
 - 会議資料
- 関連リンク
 - 文部科学省
- JSPS Home

知識集約型社会を支える人材育成事業

「知識集約型社会を支える人材育成事業」は、Society5.0時代等に向け、全学横断的な改善の循環を生み出すシステム（全学的な教学マネジメントの確立、管理運営体制の強化や社会とのインタラクションの強化等）の学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的とした事業です。

本会では、知識集約型社会を支える人材育成事業委員会を設け、本事業に関する審査・評価を実施します。

■ 新着情報

- 2020年12月16日 [令和2年度知識集約型社会を支える人材育成事業委員会（第5回）会議資料を公開しました。](#)
- 2020年11月18日 [令和2年度知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果を公開しました。](#)
- 2020年11月18日 [令和2年度知識集約型社会を支える人材育成事業委員会（第4回）会議資料を公開しました。](#)
- 2020年10月14日 [令和2年度知識集約型社会を支える人材育成事業委員会（第3回）会議資料を公開しました。](#)

日本学術振興会＞TOP＞事業のご案内＞知識集約型社会を支える人材育成事業

<https://www.jps.go.jp/j-chishiki/index.html>

【事業の趣旨】

我が国では、経済的な価値が資源や物から知識や情報へとシフトし、知識を共有・集約することで、様々な社会課題を解決し新たな価値が生み出される、まさに知識集約型社会の到来が予想されている。

このため、大学においては、この知識集約型社会を支える人材育成に対する社会の要請に応えるため、専門教育においても、知識の水準の高度化だけでなく、分野を超えた専門知の組み合わせが必要とされる。

このたび大正大学は、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に、「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」として採択され、五年間この事業を推進する。

本事業における教育プログラム内容／体系

〔本事業の実施にあたって「地域戦略人材」の育成に必要な能力を育成する観点から、
本学の科目区分を活用してそれぞれの分野に必要な科目を配当する。〕

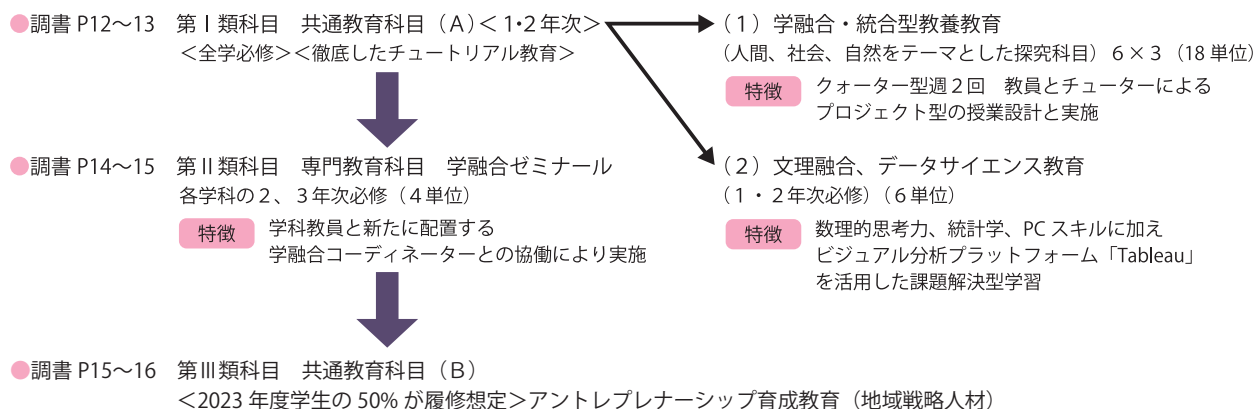
- 第Ⅰ類科目（共通教育科目（A））
- 第Ⅱ類科目（専門教育科目）
- 第Ⅲ類科目（共通教育科目（B）アントレプレナーシップ育成教育）

＜1＞養成する人材像（ビジョン）・・・・・・・・

「地域戦略人材」

多面的な性質を持つ異なる専門分野の多様な人材を
統合し調整する課題解決型リーダー

＜2＞人材育成のための教育体系



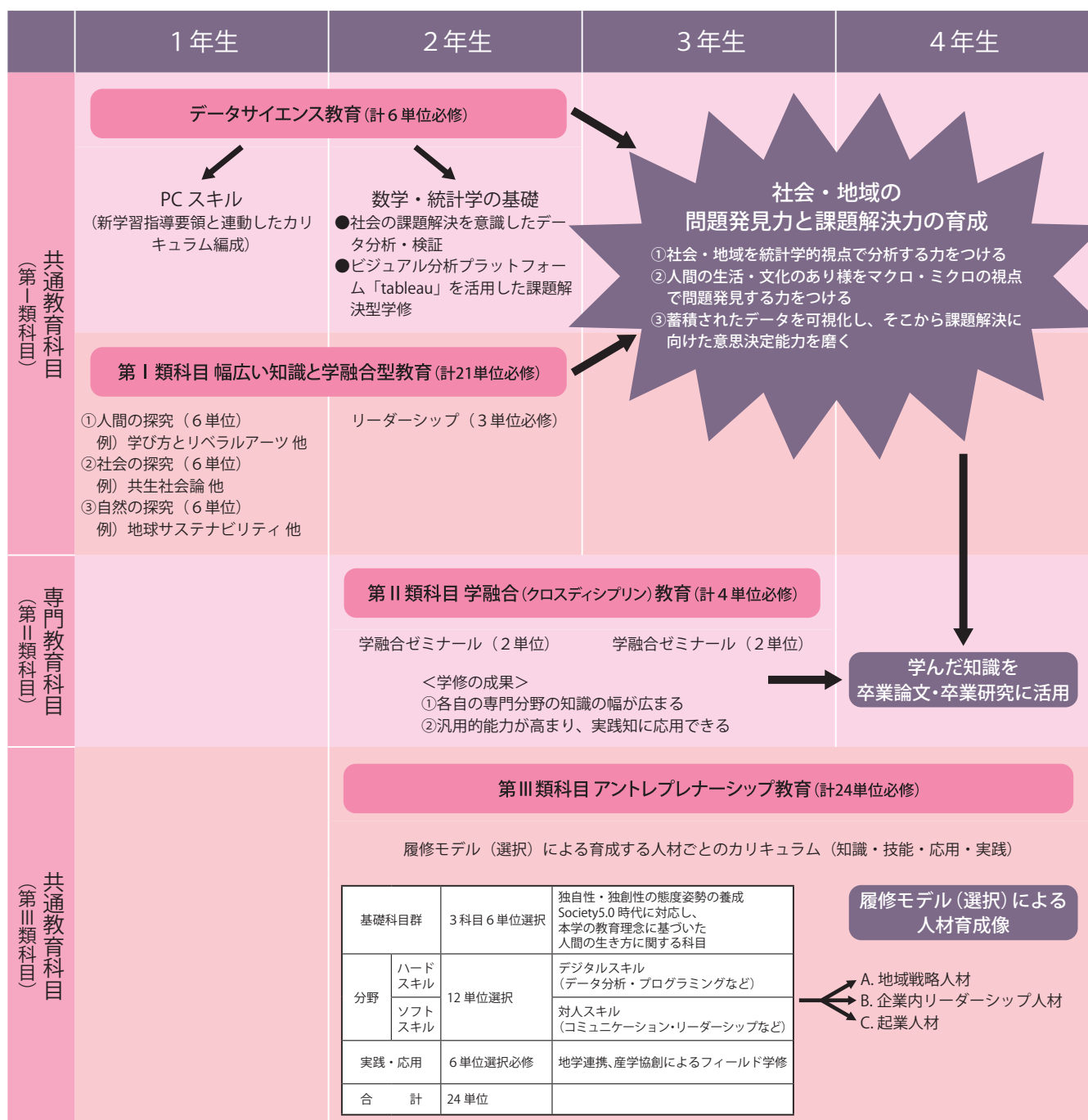
養成人材別 履修モデル

- ①新共生主義：地域人イズム、超スマート社会、アントレプレナーシップ等
- ②ハードスキル：論理的思考、データ分析、プログラミング、ファイナンス等
- ③ソフトスキル：コミュニケーション・リーダーシップ、ビジネス関係等
- ④実践応用：ワークショップ、インターンシップ、フィールドワーク、海外研修等（地学連携、産学協創によるプログラム等）

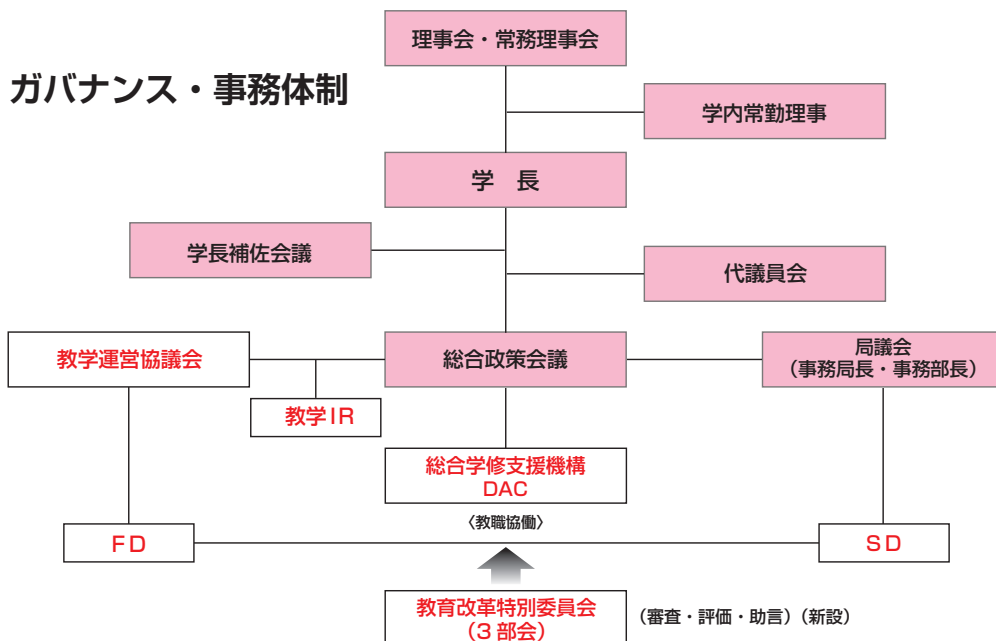
3つの履修モデル 人材像

- A. 地域戦略人材
- B. 企業内リーダーシップ人材
- C. 起業人材

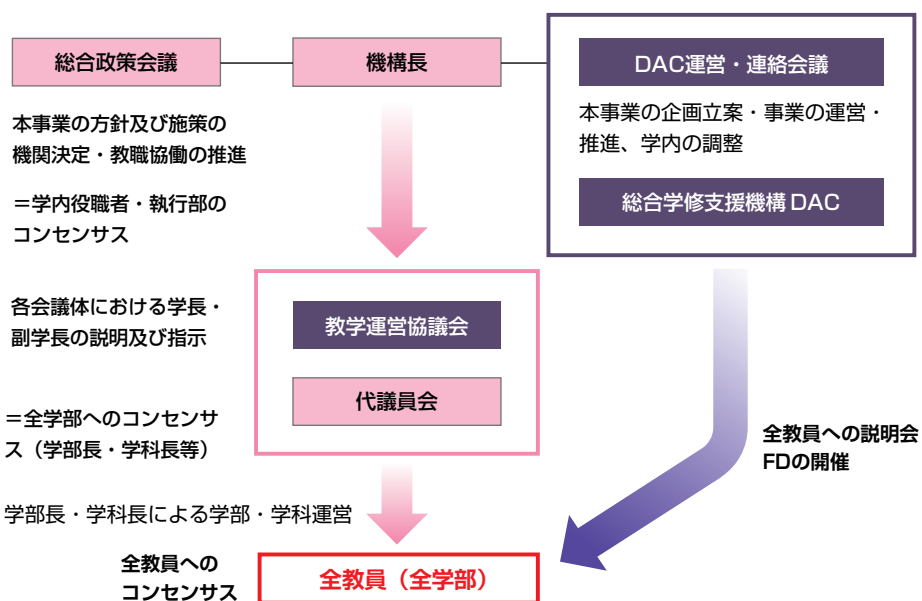
本事業により育成する人材像・教育体系（イメージ図）



ガバナンス・事務体制



本事業のコンセンサスについて



令和2年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学等名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

〔採択理由〕

本事業計画は、新時代の地域を牽引するアントレプレナーシップを身に付けた「地域戦略人材」（多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー）を育成するため、当該大学の特色である地域連携体制・産学協創体制を生かして学融合・学際・課題解決型の教育プログラムを構築するものである。

本事業計画は、社会が直面する課題を踏まえ、大学が社会・地域に果たすべき役割や人材育成を明確に設定しながら当該大学が進められてきた「地域人材育成」を柱とする取組を基に、これまでの地方自治体や企業等との社会連携の実績を生かした地域連携型教育に加え、アントレプレナーシップ、データサイエンス教育などを全学へと展開するものとなっている。また、教育組織と事務組織を統合する学内第三の組織である「総合学修支援機構 DAC」をハブとして既存の学内の各組織を有機的に連携させ、教育及び学生支援体制の基盤を確立するとともに社会とのインタラクションを活発化することとしている。大学を挙げて構築する実施体制により、全学生を対象とする教育プログラム構築を目指す本事業計画の着実な実施が期待できる。

また、全学展開を行う上で課題となる入学目的の異なる学修者への動機付けや伴走体制、文系学生を念頭に学修者の苦手意識の克服・リテラシー向上を重視したデータサイエンス・理数系教育の工夫は、本教育プログラムにおける学修目標を達成するための方策として評価できるものであり、将来的にそのノウハウは中小規模大学の取組として共有すべきモデルともなりうるものと考えられる。

さらに、学生の学修支援・メンタリングに従事するチューターについて独自の養成プログラムを開発し、約 100 名を養成・配置する体制づくり、チューターと教員の協働による学修支援、教員の資質・能力の開発・向上と評価に関する指標・プログラムの作成など、教育プログラムに関わる人材の資質・能力を継続的に養成・開発、向上していく視点は、本教育プログラム全体の持続可能性につながるものである。チューター養成システムの公表等も企図されており、取組成果の他大学への波及が期待できる。

以上のことから、当該大学の事業計画は「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学の教学マネジメント改革」という今回の事業趣旨に沿った、普及性・実現可能性・継続性が高い提案となっていると評価でき、着実な計画の実施が望まれる。

知識集約型社会を支える人材育成事業 令和3年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学等名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューⅠ 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

1. 進捗状況の概要

- ・本事業計画の目的に照らし合わせた申請時の理念や内容が確実に実現化しつつある。
- ・学融合の考え方が、第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目の各対象教育プログラムに反映されており、計画どおりに着実に実行されている。
- ・「チューター」を含む学生の教育に関わる者の間で、情報共有や取組検討の機会がしっかりと準備されており、教員間での円滑なコミュニケーションが実現している。
- ・「データサイエンス科目」を含む第Ⅰ類科目の活動は、他の人文社会科学系大学のモデルにもなるべき取組である。具体的には「チューター」を入れたチームティーチングを実現化し、細やかなフォローで大学での学びのスタートを支援しているほか、ICT活用によってコロナ禍においても学びを止めないシステムを構築している。
- ・「データサイエンス科目」必修化について、学生自身がその有益さを理解し、将来、自分自身のキャリアに役に立つことを認識しているプログラムとなっている。
- ・第3の職種と呼ばれる「チューター」を自学で育成し雇用するという、持続性が高いシステムを構築している。
- ・人生100年時代に学生の成長に寄り添うことをやりがいとする第3の職種「チューター」を設定し、セカンドキャリア、デュアルキャリア、パラレルキャリア等の多様な働き方を可能にする場を作り、学生教育の質向上に役立てている。
- ・全教室Webカメラ設置やBYODなどDX化を進めており、ハイフレックス授業等、個別最適な学びを支援している。

2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)

- ・ガバナンス体制については、いまだその意思決定のプロセスが不明瞭との印象を受けた。学長を中心とした何事にも迅速に対応できるマネジメント体制の構築を検討いただきたい。
- ・本事業計画と学士課程教育との関係性を整理いただきたい。特に付与される学位の根拠である専門教育との関係性をディプロマ・ポリシーも含めて明らかにする必要がある。
- ・第Ⅱ類科目、第Ⅲ類科目の取組は年次進行で進んでいくことに加え、第Ⅲ類科目については選択科目にもなることもあり、学生との意見交換においても第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目に対する認識が浸透していなかったことから、今後はさらに学内広報にも力を入れていただきたい。
- ・第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目を必修で学修した後、本事業計画に係る授業を選択する学生、そうでない学生と様々なカリキュラムのバリエーションが生まれることになる。それらの学びの特性について、学修成果を可視化することによって明らかにしていただきたい。

知識集約型社会を支える人材育成事業(メニューⅠ・Ⅱ) 中間評価結果

大学名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューⅠ. 文理横断・学習の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

(「知識集約型社会を支える人材育成事業委員会」による評価)

【総括評価】

A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

事業の実施体制については、本事業を運営していくための組織として、教育組織と事務組織を統合し教職協働を具現化する「学内第三の組織」とされる総合学修支援機構DACを設置しており、学部学科での専門教育とのハブとなって連携・協働を行っている点が評価できる。また副学長をその長である機構長に任命することにより、持続可能な組織化に取り組んでいる。

事業の具体的な取組の進捗状況について、まずはディプロマ・ポリシーの改正・増補により「三つの方針」を通じた学修目標の具体化が、事業目的に沿う形で適切に設定されたことを評価する。また学修成果の可視化についても、IRを中心に多様なデータを収集できている。今後はこれらアセスメントツールを本事業を俯瞰するアセスメントプランとして取りまとめていただき、本事業全体の評価精度を高めていくことを期待する。事業の内容としては、第Ⅰ類で展開しているデータサイエンス教育は、企業との連携により、文系学生であっても将来に必要なスキルと認識しやすい仕組みを取り入れていること、また苦手な学生にはチューターやスチューデント・アシスタントがサポートする学修支援システムを組み合わせることで、全国の文系大学におけるモデルとなる活動であると高く評価する。その一方で、第Ⅱ類の学融合ゼミナールについては知識提供に止まっているのではないかなどの懸念もあり、内容と授業方法には改善の余地が大きい。また令和4年度は試行とした第Ⅲ類アントレプレナーシップ養成教育プログラムは全学の半数の学生が受講することを想定する本事業の目玉プログラムであることから、事業後半に向けて質の高い取り組みを期待する。

事業の実施計画・継続性については、本事業が大学の第3次中期マスタープランに位置付けられていることから、理事会において資金面を含めた経営資源を投入し、さらに充実・発展する環境が整っている。各会議体のそれぞれの役割、機能が本事業の運営を行うにあたり構造的・合理的なものであり、特に第Ⅰ類科目におけるチューターの養成と配置は斬新なアイデアで効果が期待できる。

事業成果の普及については、チューター養成のための「総合的学修支援者育成プログラム」や文系学生のためのデータサイエンス教育は他大学のモデルとなりえる取り

組みである。

採択時に付された留意事項及び現地視察報告書への対応については、適切に対応している。

経費執行の適切性については、適切と認められる。

知識集約型社会を支える人材育成事業 令和5年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューⅠ 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

1. 進捗状況の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・本現地視察により、本事業計画が確実に進捗していることをまずは確認した。具体的な内容は以下のとおりである。 ・第Ⅰ類科目：データサイエンス科目においては、これまでも度々触れられてきたが、本事業計画におけるDX教育には大きな特徴がある。PCの扱いが得意ではない文系学生が多い中、学生からの質問を待つのではなく、複数のチューターから頻繁に学生に声掛けをするプッシュ型支援を行っている点である。そのような細やかな学習支援が文系学生の苦手意識を払拭し、自己肯定感を高めながら学んでいる状況を生み出している。これは他の文系大学のモデルとなり得る取り組みである。 ・同授業の発展形としての資格取得を目指す春夏特別プログラム（単位外）も、半数の学生が合格していることから学生のキャリアにとっても有益なプログラムとなっている。また資格取得に関しても、経済的な補助システムを導入して動機づけを喚起している。 ・第Ⅱ類科目：学融合（クロスディシプリン）教育においては、2～3学科が組み合わせられ、異なった視点からの学びを得ることを目的としており、「学融合ゼミナールⅠ」と「学融合ゼミナールⅡ」から構成されている。中間評価においては、「ゼミナール」という名称であってもその教育方法は講義形式であることを指摘したが、統一的な授業スタイルを導入し、講義形式の中においても、グループディスカッションなどのアクティブ・ラーニング要素を取り入れており、一部改善が見られる。 ・第Ⅲ類科目：アントレプレナーシップ育成教育プログラムでは、令和4年度時点では試行的であった内容と比較すると大きな充実が見られる。具体的には、講師陣の新規雇用に伴い、プログラムの内容が充実するとともに、令和5年度においては、対象の全2年生、3年生のうち、78.9%の学生が受講するプログラムに発展している。その人数の内訳も全6学部のだこかに偏るのではなく、まんべんなく散らばっていることから、本プログラムが、学内のどの学士課程教育においても一定の認知度を得られていると判断する。 	
2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)	
<ul style="list-style-type: none"> ・第Ⅱ類科目：学融合（クロスディシプリン）教育においては、いまだ改善の余地が大きいことを指摘したい。複数の視点を得るための学科の組み合わせは事前に決定しており、ゼミナールⅠ、Ⅱではその組み合わせが繰り返される。内容において一部類似のものもあることが学生との意見交換で明らかになった。また授業全体でディスカッションの機会が導入されたことは改善がなされた点として認められるが、同じグループでの浅いディスカッションに留まっているとの指摘もある。所記の目的を果たすべく、アクティブ・ラーニングの活用など、授業方法については更なる検討が求められる。また、決まった学科の組み合わせだけで「現代社会の課題」に込めているのか疑問が残る。オンデマンドなども駆使して自由に選択できるようなシステム等も考えられるのではないか。あわせて、授業内での他学科との学生との対話・交流も検討いただきたい。 ・第Ⅲ類科目：アントレプレナーシップ育成教育プログラムにおいては、その発展が認められるものの、通常のキャリア教育の範疇に留まっている印象も受ける。キャリアセンターにおいて行われている類似のサポートとの差異を明確にするべきである。また当初の本事業計画の趣旨である「地域戦略人材」の視点をもっと取り入れることが望まれる。 	

知識集約型社会を支える人材育成事業 令和6年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューⅠ 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

1. 進捗状況の概要

- ・全体として大きく進捗している印象を受ける。次にその具体的内容を3つの類に分けて説明する。
- ・「学内第三の組織」としての総合学習支援機構 DAC は、第Ⅰ類科目のマネジメントを引き続き行っており、本事業の基盤を作り上げている。特に文系学生対象のデータサイエンス教育は、複数チューターの学修支援により質保証を可能にしている。この必修授業を支えるのが教職員に次ぐ「第三の人材」としての複数人のチューターであり、独自に運営する「大正大学チューター育成プログラム」を経て大正大学チューターを輩出する制度を構築している。チューターについては、苦手科目のある学生へのサポートを行い、全1年生を対象とする「学生面談」を実施するクラスチューター（臨時雇用）、クラスチューターを取りまとめるコアチューター（任期制専門事務職員）の2種類を配置しており、苦手な科目のある学生を対象とした学修支援が効果的に行われている。これは全国の文系大学におけるデータサイエンス教育のモデルとなる活動であると判断する。
- ・第Ⅱ類科目「学融合教育」に関しては、令和5年度現地視察報告書において改善の余地が大きいことを指摘したが、今回は大幅に改善したことをまずは認めたい。決まった学科の組み合わせでは現代社会の課題に对应していないという前回の根本的な指摘に対して、ゼミナールⅠからⅡの設計、さらにゼミナールⅡに自由選択のタイプB、4年次の選択科目「クロスディシプリンフィールドワーク」の設置など、その学びの幅が大きく広がり展開されている。学生との意見交換でも4年生が受けた学融合教育と現在の2年生が受けている学融合教育とは、その内容と興味の深さが違うことが確認された。学内の組織を大きく巻き込みながら、着実に教育改革を行ってきたことが明らかになった。各授業の内容もシステム化され、異なる学科間で意見交換できるように座席の指定を行い、学科パート+横断パート+学科パートなどの授業設計を全ての教員間で統一していることは大きなFDとして認められる。
- ・第Ⅲ類科目は、アントレプレナーシップ育成教育プログラムとして継続して運営されている。学生からは就職支援としてのキャリア教育として位置づけされているところもあり、アントレプレナーシップとしての側面の強化が今後期待される。
- ・本事業計画は第4次中期計画にも示されているとおり、2つの事項にて継続・発展することが理事長から説明があった。1点目は地方自治体、地域、卒業生、事業者等をつなぐ「すがも街なかインキュベーションセンター<すがもバレー>」の設置、2点目は本事業計画で開発された学融合が地域戦略人材として有効であることを認め、新たに文理融合型デジタル人材の育成を推進することを目的とした「情報科学部」の新規設置である。この新学部はJABEEも申請予定であり、文系大学に新たに工学系学部を設置することでカリキュラムだけでなく、学生の交流も期待するものである。いずれも大正大学が新しい教育に向けて改革するために本事業計画が弾みになったことが伺えるとともに、実現可能性が高く大いに期待できる。

2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)

- ・ 本事業計画で開発した様々なボトムアップの教育プログラムで身に付く知識および資質・能力を、新学長により設定した「10の力」に沿って新たに整理することが肝要と考える。それらが各学部のディプロマ・ポリシーに落とし込まれることで、第Ⅰ類と第Ⅲ類の横の学び及び第Ⅱ類と学士課程の縦の学びが組み合わせられることによって面の学びが実現できると考えられることから、「10の力」の整理及び学生が理解しやすいカリキュラムの構築を今後期待したい。
- ・ 本事業計画の特徴となっている第Ⅰ類科目のデータサイエンス教育だが、学生との意見交換の中で年次が上がると使わなくなり忘れてしまうとの指摘が一部あった。これを受けて、獲得した知識・スキルが継続し、さらに発展するよう、専門科目等でも使用する機会の創出を御検討いただきたい。
- ・ さらに第Ⅰ類と第Ⅲ類の教員組織は、チューターや実務家教員、非常勤講師など多岐にわたる。それが地域戦略人材にとって大きな糧となっている反面、大学ガバナンスとしての組織性を失わせることも危惧される。FD・SDの高度化を是非御検討いただきたい。

(2) 事業の概要

①「知識集約型社会を支える人材育成事業」の申請について

コロナ流行期の2020年より「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業（以下、地域戦略人材事業）」に取り組んできた。当事業は文部科学省の2020年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択され、今年度で最終年度を迎える。「知識集約型社会を支える人材育成事業」の意図について、文部科学省は次のように説明している。「Society5.0時代に向け、全学横断的な改革の循環を生み出すシステム—全学的な教学マネジメント体制の確立、管理運営体制の強化や社会とのインタラクションの強化など—の学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的とした事業である」。

本学の地域戦略人材事業が採択された理由は、「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学の教学マネジメント改革」に対する評価であった。当事業を推進するにあたって全学的な教育改革を断行したことが評価された。

本学は地域戦略人材を「多面的な性質をもつ地域の課題解決にむけて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整することができる人材」と定義する。これに基づいてデータサイエンス教育、学融合教育、アントレプレナーシップ育成教育を新たに導入し、社会の課題に積極的に取り組む人材の育成をめざすこととなった。学生たちがこれからの社会を生きるためには、そのような教育こそが必要だろうと考えたのである。

文系大学の本学にとってデータサイエンス教育を全学必修とし、企業や自治体の協力による課題解決型の授業については学生の満足度も高く、そればかりか学生が学外で学修の成果を発揮している事例も出ている。たとえば、2022年度には学生たちが学外コンテストで優秀な成績を収め、また2023年度、2024年度には Tableau Academic Ambassador に本学の学生が選抜された。

学融合教育では、「幅広い教養と深い専門性を両立した人材」とあるように、自らが所属する学科の専門領域だけではなく、他分野にも関心をもち、それらの学びを統合すること（学融合）を目標のひとつとした。そのため各学科に「学融合ゼミナール」を開講し、学生たちが他学科の専門領域に触れることで、複眼的な視野を得ることをめざしてきた。他分野に対する学生の関心を喚起した点において開講の意義があった。今後は学科の枠を超えた学びの交流がさらに活発になることを期待したい。

アントレプレナーシップ育成教育については、課題解決を目的とした実践的なプログラムであり、初年次教育や学科専門教育で身につけた知識・技能を実践するための装置という役割を果たしている。

以上の地域戦略人材事業の経験を活かして、本学が次なる挑戦と位置付けるのが高度デジタル人材の育成である。現在、設置に向けての構想段階であるが、デジタル技術による地球環境の保護や地域の発展、また文化財・自然遺産の保護・活用に寄与する人材を育成していきたいと考えている。情報・データ全盛の時代にあっても、生きとし生けるものの尊厳を忘れることなく、人が社会においてどのような役割を果たすことができるのかを問い続ける姿勢を私たちは育まなければならない。

*社会のニーズ分析と養成を目指す人材像

これからの日本では少子高齢化の加速や技術革新など、人の生き方・働き方が大きく変わる可能性がある。とくに情報を基盤とした超スマート社会の到来は、これまでの教育のあり方に変化を求めてくることが予想される。データサイエンスを基礎的な素養とした上で、ビッグデータをどのように活用するか、AIの導き出した集合知からどのような価値を創造していくかなど、変化が激しく予測が難しい時代にあって、従来の枠組みを超えた学融合的な視点を身につけ、時代の変化に合わせて社会を支えていく人材の育成が求められる。

社会的ニーズに応えるために、本学では建学の理念「智慧と慈悲の実践」にのっとり、地域において課題を解

決するリーダーの育成を目指す。具体的には、地域における課題の解決に向けて、幅広い学融合の知識や創造力、変化に対応する力、コミュニケーション力を全学生に身につけさせようとするものである。

また本事業は実社会に適用できる能力を育成することを目標とするため、社会・地域とのインタラクションの形成が必要となる。地学連携・産学協創による教育展開を予定している。

＊第3次中期マスタープラン改訂・増補

新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

(A) 地域戦略人材育成の目的は、多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダーの育成と位置付け、以下の能力、資質を育成し、社会に輩出する。

④幅広い文理横断の知識や技能を身に付け、活用できる能力を育成

⑤社会の変化に対応する力を育成

⑥異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等を養成

(B) 必要となる教育改革の方向性は以下のとおりである。

④本学第3次中期マスタープラン・INNOVATE 5・MIG s 2026 を踏まえた人材育成

⑤超スマート社会の中で地域を支え、活躍する人材を育成する教育プログラム構築

⑥全学横断的な教育改革の実現に向けた組織改革、教職協働体制の確立

④目指す人材像の育成に向けた地域・社会とのインタラクション強化

(C) 本事業の基本方針の方向性は以下のとおりである。

④地学連携・産学協創による新しい教育プログラムの実現

⑤学内「第3のマネジメント組織」＝総合学修支援機構 D A C を司令塔とする全学横断的な教育改革の実現とガバナンス強化

⑥生涯を通じた学びの体制構築による人材の好循環促進、社会とのインタラクション強化

＊第3次中期マスタープラン改訂・増補に関する補助資料

令和2年度に文部科学省に採択された“大学教育再生戦略推進費”「知識集約型社会を支える人材育成事業」（令和2年～6年度までの助成事業）を一過性なものではなく、

(1) 本学教育改革の中長期的な指針として位置づける。

(2) 理事会が、本教育を推進する上での“最高意思決定機関”の役割を果たし、「ヒト・モノ・カネ・情報」を集中させ、責任を持って確実に実行を継続するものであることを確認する。

本学は、令和2年文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択を受けて、Society 5.0 時代（デジタル化社会）を支える人材育成事業を実施（2020年12月～2025年3月）している。本事業による教育改革の概要は、以下のとおりである。

①学科の専門知を基盤に異なる分野の専門知を融合することで、新しい発想を生み出す能力の養成【学融合】

②集積されたデータを分析し、活用するための基礎スキルを必修化することで分散している大量のデータが利用可能となり、新しい価値を生むための教育を実施【文理融合】

③3・4年次を対象とした後期共通教育科目（社会や地域の課題を解決し、新しい価値を創造する人材育成教育）を実施し、社会や企業、インクルーシブな関係を構築する。

④第Ⅲ類科目（24単位）

A. 地域戦略人材 公務員コース

B. 企業内リーダーシップ人材 イントレプレナーコース

C. 起業人材 アントレプレナーコース

*第4次中期計画に関する補助資料

新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

令和2年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業（新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業）」は、文理融合・学融合・データサイエンスなどの学習を基盤にアントレプレナーシップの育成を目標とし、本学が目指す「社会・地域の課題解決を担う新しいリーダー“地域戦略人材”」の養成に取り組んでいる。

本事業は、申請時の教育目標、カリキュラム並びに運営方針を原則として変更できないことから、補助期間である令和6年度末まで計画通り実施し、教育目標の達成に向けて全学で取り組む。事業採択5年目を迎えた現在も、本事業の教育効果は学内外から高い評価を得ている。そのため、補助期間終了後においても、“地域戦略人材”の養成を目指す本事業の基本方針を踏襲した教育活動は継続し、発展させて実施するものとする。

②実施計画

*授業科目・教育課程の編成・実施

本学の現状の教育課程にはいくつかの課題があり、第Ⅰ類科目（共通教育科目）と第Ⅱ類科目（専門科目）の接続及び第Ⅲ類科目（地域連携、キャリア教育、資格科目）の位置付けには検討の余地があると考えられてきた。今回の事業を推進するにあたって、この問題に積極的にアプローチをして改革を行った。

まず第Ⅰ類科目については令和3年度より全学共通の第Ⅰ類教育をスタートさせた。その第Ⅰ類の特色を3つ挙げたい。

- ・学融合・統合型教養教育
- ・文理融合・データサイエンス教育 反復学修によって文系学生の苦手意識を克服した上で、課題解決をはかるための論理的思考力を育むことをめざす。
- ・徹底したチュートリアル教育

次に第Ⅱ類科目は本学の教育課程において中心に位置するものであるが、第Ⅰ類科目・第Ⅲ類科目との整合性と有機的接続を進めていきたい。そして、本事業実施のため第Ⅱ類科目を改編し、2・3年次に学融合ゼミナールⅠ・Ⅱ（必修）を設置することとする。地域戦略人材について各学科で検討し、令和4年度より開講となる学融合ゼミナールの内容については、クロスディシプリン教育ラボラトリー・チームが各学科の第Ⅱ類科目コーディネーターと協議し、推進した。

次に第Ⅲ類科目の再編については、元来、第Ⅲ類科目は卒業後のキャリア形成にかかわるものであり、教職・諸資格等の授業科目は従来通りとなる。本事業実施にあたって育成人材モデルをA地域戦略人材、B企業内リーダーシップ人材、C起業人材と想定し、それぞれに応じたアントレプレナーシップ育成プログラムの授業科目群を用意する。

学生が目線から見れば、1年次は共通教育である第Ⅰ類の学修が中心となる。2年次より第Ⅱ類が中心となることはこれまで通りだが、並行して第Ⅲ類が履修できるよう機会を拡充する。学生の特質を見て、適宜、第Ⅲ類のアントレプレナーシップ育成プログラムの履修を薦めるなど、細やかな履修指導を行う。

③内容

上記の第Ⅰ類科目～第Ⅲ類科目の改編をふまえて卒業要件にも変更を加える。令和2年度において、社会創造系学部群ではすでに改革された第Ⅰ類科目が実施されている。令和3年度からは全学的な施行とした。また第Ⅱ類科目においては令和2年度にコロナ禍の臨時的取り組みではあったが専門総合の開講を行った。令和4年度からは、第Ⅱ類科目「学融合ゼミナール」、第Ⅰ類科目「リーダーシップ」を実施した。第Ⅲ類科目については、令和3年度にアントレプレナーシップ育成教育プログラムを一部実施し、基礎科目を令和4年度に実施した。

そして、令和5年度より、スキル科目群と実践科目群からなる各コースを実施した。

＊実施体制・組織

＊事業計画実施体制

本事業を全学的に組織的に実施するためにDACを司令塔とする。DACは本来、教育組織と事務組織を統合し教職協働を具現化する「学内第三の組織」である。総合政策会議を新設し、意思決定を明確にし、学長のリーダーシップによってDACを動かしていく。そのため、DAC運営・連絡会議を設置し、総合政策会議とDACの意思疎通を円滑にしている。

また、本事業を側面的に支えるのはFDとIRである。FDについては、FD委員会を設置し、カリキュラムのアセスメントや編成についての研修会を実施し、本事業について全教員が共通理解・コンセンサスを取れるように、FD活動等を推進した。IRについては、教学IR推進部会を設置し、学長のガバナンスと教学による教育改善を進めるマネジメントを連動させ、教育の質保証を実質化する体制を推進していく。

④令和6年度までの事業概要

- ・第Ⅰ類科目において全学統一カリキュラムを導入、チュートリアル教育の推進
- ・Tableauを活用したデータサイエンス授業を実施
- ・令和4年度からのカリキュラム改革を学内の合意形成を経て再編
- ・SD・FDの推進
- ・第Ⅲ類科目においてアントレプレナーシップ育成教育を導入
- ・アントレプレナーシッププログラムの実施、すかもオールキャンパス構想の推進
- ・第Ⅱ類科目「学融合ゼミナール」の全学的導入とクロスディシプリン教育の実証研究
- ・教学IR推進部会によるIR活動の推進、教員評価部会の整備・推進
- ・チューター養成講座の開催とチューターの育成採用
- ・学びのコミュニティと学修支援の推進
- ・情報公開・社会とのインタラクションの推進（日経地方創生フォーラムの参画、文部科学省、マスメディア等からの取材・ヒアリング等）

⑤令和6年度までの事業内容

本事業は、多面的な性質を持つ地域の課題解決に向けて、異なる専門分野の多様な人材を統合して、調整する新しいリーダー（地域戦略人材）の育成を行う取組みであり、幅広い文理横断の知識や創造力、変化に対応する力、異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等を養成することを目標としている。教育課程として、第Ⅰ類科目におけるチュートリアル教育やデータサイエンス教育、第Ⅱ類科目におけるクロスディシプリン（学融合）教育、第Ⅲ類科目におけるアントレプレナーシップ養成教育を展開し、これらの相乗効果により地域戦略人材の育成を実現するものである。

令和2年度については、総合政策会議等の会議体の設置によるガバナンス体制の強化を行い、学長のリーダーシップの下、事業の推進と確認、規程・組織の整理・改編、各組織の役割の明確化・連携等を推進した上で、SD・FD・情報公開・フォーラムへの参画等を実施した。そして、第Ⅰ類科目における探究科目やデータサイエンス科目については、先行実施・FDとして一部実施した。データサイエンス教育については、授業設計と運営における強化ポイント等の設定により、学生の「数学」への必要性の意識が高まり、主体的に学ぶ体制やサイクルを構築することができた。また、授業前後の学修支援体制を構築し、欠席した学生や課題に取り組めていない学生への授業前後のサポートの日常化を担当教員チーム間で構築し、次年度に向けて教育のPDCAサイクルを

推進した。

チュートリアル教育については、次年度以降の全学的な導入に向けた準備を進めるとともに、きめ細かな学生への学修支援を実施した。そして、チューターの採用については、チューター養成講座を通して育成採用するとともに、採用後にも研修を実施し、チューターとしての資質・技能の向上を図った。

学修支援については、学生の視野を広げるとともに、主体的な学びを支援することを目的として、独自講座「学びのコミュニティ」において、チュートリアル教育を推進する総合学修支援機構DACと図書館が連携しながら、対面とオンラインを併用して、学びに生きる読書生活の創造、新しい学びのための図書館活用（著作権等の知識・理解）、AI社会、メディア社会、文学、哲学等の様々な講座の企画・運営にあたり、学部を超えた学生の参加があった。

令和3年度については、第Ⅰ類科目の統合型教養教育において、「人間の探究」・「社会の探究」・「自然の探究」を学生の必修科目として全学的に展開した。「人間の探究」は対自己力、「社会の探究」は対人力、「自然の探究」は対課題力をテーマとして共通のパートを構成している。これらの科目では、汎用的なスキルの取得を目指しており、具体的には、主体的学修態度、知識理解・活用力、表現力、課題探究・解決力、情報データ活用力、対人力、セルフマネジメント、チャレンジ精神、地域密着力等の育成を目指している。加えて、「データサイエンス」についても必修科目とし、社会に出た際の欠かせないスキルとして、データに強い学生を育成することを目標として教育活動を推進している。これらの科目により、学生は、社会や地域の問題発見力や課題解決力を身につけることを目標としている。

そして、本事業での学びは、学生が社会に必要な汎用的スキルを第Ⅰ類科目（学修基礎）で身につけ、第Ⅱ類科目（専門科目）でそれぞれの専門分野を学修し、この段階で他分野の学びを統合・関連付け、思考する学融合の視点を会得しながら、社会で活躍できる知識と実践力を身につけるための第Ⅲ類科目を履修することで、アントレプレナーシップの養成を行うことを目指している。

指標とプログラム、評価法の確立については、教学IR推進部会及び外部評価委員会を設置・開催し、情報交換・意見聴取等を実施した。今後の事業の課題や意見を聴取することができ、取り組みの参考意見・改善課題とすることができた。

データサイエンス教育については、データサイエンス授業設計と運営における強化ポイントを貫いたことで、学生の「数学」の必要性の意識が高まり、主体的に学ぶ体制やサイクルが構築できた。また、授業前後のオンラインでの学習支援体制を構築し、休んだ学生や課題に取り組めていない学生への授業前後のサポートの日常化を教員間（担当教員チーム）で構築し、教育のPDCAサイクルを推進した。

第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ養成教育については、試行（プレ）プログラムとして、希望する学生を対象に、活動テーマを示し、正課外のプログラム（非単位プログラム）として展開し、意欲のある学生がそれぞれのテーマに参加した。全てのプログラムで、企業や自治体との協働も試み、学生はチームでの動き方、学外の社会人への接し方、積極性、組織内での合意形成力や調整力、発想力等を実践的に学ぶことができた。

その他、学生調査・企業調査・卒業生調査等を行い、学生の能力・資質等の現状分析、社会が求めている学生の能力・資質や教育活動等の情報を収集・分析し、学生への教育内容や学修支援に活かせるように学内で共有・検証を行った。

教育課程については、本事業の授業科目の再編により、卒業要件の変更を実施した。このことにより、第Ⅰ類科目・第Ⅱ類科目・第Ⅲ類科目の接続がより有意義なものとなり、全学において育成する人材像のイメージがより明確になることを目的としている。卒業要件については、全学科において第Ⅱ類科目の履修単位を70単位以上に改正した。そのため、一定数の学生が単位以上を履修する可能性があるため、第Ⅱ類科目である各学科の専門科目が70単位で完結するように、各学科において、コアカリキュラムの見直しを、カリキュラムマップ等を用いて設定をした。なお、第Ⅲ類科目は卒業要件24単位以上とし、選択必修4単位を除く、残りの20単位を履修モデルに沿って選択履修していくようにしている。

3つのポリシーについては、全学科のDPについて「知識集約型社会を見すえて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる」という文言を増補した。また、学則・履修規程などを改正し、卒業要件・制限単位（緩和の方向）、第Ⅲ類科目に關しての規程を改正した。さらに、大学のDPにおいて、Society 5.0 で実現する変化の激しい知識集約型社会を生き抜くための新たな目標として、「新共生主義」及び「地域人スピリット」を養成する等の文言を明記した。

情報公開については、福祉系大学経営者協議会、Tableau 大学ユーザー会、採択大学合同シンポジウム等において、本事業の紹介を行った。

令和4年度については、第Ⅰ類科目「リーダーシップ」、第Ⅱ類科目「学融合ゼミナール」を全学的に実施した。「リーダーシップ」は、課題と向かい合う上に必要なリーダーシップについて、ワークを交えながら経験的に学び、学生が自身のリーダーシップ観を知り、またそれを再構成する教育内容としている。「学融合ゼミナール」は、所属学科の専門領域を中心としつつ他領域の知識・技能の修得を意識させる教育内容としている。ゼミナールにおいて、学生は、学融合的な学びの基本的方法を学び、幅広い学融合の知識や創造力、従来の枠組みを超えた学融合的・学際的な視点を身につけ、時代の変化に合わせて社会を牽引し、あるいは支えていく人材の育成、学融合・学際的な知を養成することができる。

第Ⅲ類科目については、資格課程・キャリア形成・アントレプレナーシップ人材養成に資する科目群の位置付けとして改正し、アントレプレナーシップ育成教育プログラムを設けた。基礎科目として、「超スマート社会論」、「新共生社会論」、「地域人イズム論」、「アントレプレナーシップ論」を設けた。全学生は、2科目4単位を選択必修とし、アントレプレナーシップ育成教育プログラム修了を目指す場合、3科目6単位を選択必修とした。

また、令和5年度から始まる履修モデルに基づく3つのコース（A. 地域戦略人材：公務員コース、B. 企業内リーダーシップ人材：イントレプレナーコース、C. 起業人材：アントレプレナーコース）についての説明会等を学生に実施した。

これらのコースには、新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する科目を設けている。講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞き、地域を題材とした学びと活動を一体化したワークショップやインターンシップなどの実践的な学びを通して、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得を目指す。プログラムは、基礎科目・スキル科目・実践科目から構成され、これらの科目を24単位以上修得することにより、修了証を授与する。

情報公開については、文部科学省中央教育審議会大学分科会大学振興部会、私立大学退職金財団広報誌BILANC、文部科学省数理・データサイエンス・認定制度説明会等において、本事業の紹介を行った。また、日経地方創生フォーラムに参画し、セッション1「デジタル時代における実践的アントレプレナーシップ教育の成果と課題」というテーマで、学生の発表と有識者による講演及びディスカッションを行った。

令和5年度においては、アントレプレナーシップ育成教育プログラムにおける履修モデルに基づく3つのコース（A. 地域戦略人材：公務員コース、B. 企業内リーダーシップ人材：イントレプレナーコース、C. 起業人材：アントレプレナーコース）を開始した。これらのコースには、新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する科目を設けている。講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞き、地域を題材とした学びと活動を一体化したワークショップやインターンシップなどの実践的な学びを通して、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得を目指す。プログラムは、基礎科目・スキル科目・実践科目から構成され、これらの科目を24単位以上修得することにより、修了証を授与する。

また、海外インターンシップの実施、「学融合ゼミナールⅡ」の開講とクロスディシプリン研究紀要の発行、学

融合ゼミナールにおいて選出された学生によるプレゼンテーションである「学融合サミット」の開催等を行った。

情報公開については、令和5年度「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」成果発信シンポジウム、「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ4参加校合同主催・教学マネジメントセミナー 2023 ポスターセッション、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム関東ブロック第4回ワークショップ、第12回 Tableau 大学ユーザー会にて本事業の紹介を行った。

令和6年度においては、本事業を中心とする現在の教育を「大正大学」という文脈で意味付けるために、教育ビジョンの見直し等を実施した。本学は仏教系の大学であり、その建学の理念は仏教精神をもって「智慧と慈悲の実践」と表現する。そして、建学の理念に沿った教育ビジョン「4つの人（慈悲・自灯明・中道・共生）となる」を立て、これを全学 DP に関連付けてきた。「4つの人となる」はいわば本学が育成をめざす人間像と言ってよいであろう。この教育ビジョンを用いて、「4つの人となる」ための10の力」という学力観を明示した。あわせて「4つの人となる」の解釈を現代の文脈に合わせて更新した。

そして、令和6年度より「10の力」を全学 DP に定め、これに基づいた初年次教育を推進した。次年度からは学科 DP に「10の力」を反映する予定であり、学生は入学から卒業まで「10の力」を意識して学修を進めることとなる。これからの変化の激しい社会を生きる学生にとって学びの道標として機能することが期待される。

さらに、第Ⅰ類科目・第Ⅱ類学融合ゼミナール・第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ育成教育を履修した学生が卒業する年となり、助成期間の最終年度となる。これらの教育活動等を継続して推進し、学修支援・FD・SD・IR 活動等も推進した。また、第Ⅱ類科目学融合ゼミナールについては、教育方法等を改善し、「学融合ゼミナールⅠ」において、「混合パート」を設けて、異なる学科の学生がグループディスカッションや共同作業を行い、最終的にはプレゼンテーションやアカデミックエッセーの形で成果を発表することとした

「学融合ゼミナールⅡ」においては、「学融合パート」と呼ばれる自由選択型の授業を設けて、学生が自身の興味や研究テーマに応じて、異なる学科の授業を選択し、学問の垣根を超えた学びを実践することとした。また、テーマの選択を通じた授業として「学融合ゼミナールⅠ・ⅡタイプB」も設けた。オンデマンドを活用した講座であり、学科の所属教員以外の本学の実務家教授、客員教授、招聘教授を中心として社会課題・生活課題を中心としたテーマを学生が自由に選択する形で学科の学びとクロスをする授業とした。これにより学生の社会の見方を変えるという点に重点を置いた講義を実施した。続いて、学融合ゼミナールⅡに「旅する学融合」という授業も設けて、学科から推薦された学生を中心に、学生の居住している地域と、全国からそれぞれ1地域（合計2地域）を選択してそのフィールドで学融合を実施した。

本事業を選択・履修した学生層においては、コンピテンシー能力の伸長が見られており、「コンピテンシー総合」、「対人基礎力」、「対自己基礎力」、「対課題基礎力」の数値が全体的に上昇している。就職率も向上しており、希望する企業や団体に就職することのできたモデルケースとなる学生も出てきている。

情報公開については、以下を実施した。①「未来思考型ワークショップ2024（アイデアソン）」に本学教職員・学生が参加、②「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ3参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2024『分野横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援～』が本学を会場として開催され、本学教員・学生が登壇、③「第1回 大正大学 アントレプレナーシップ育成 シンポジウム To the future leaders ～未来のリーダーたちへ～」を開催、④ Tableau Academic Ambassador（2024年）に本学学生2名が選出、⑤2025年第1回 Tableau 学生ユーザー会で本学学生が発表、⑥【IDE 現代の高等教育】2025年1月号に本事業の取組みを神達学長が寄稿、⑦日経地方創生フォーラム学長挨拶において、本事業の取組みを紹介、⑧学生・保護者向け説明（オープンキャンパスでの第Ⅰ類ブース・DS 模擬運営）、⑨企業向けオープンキャンパスにおいて、共通教育およびアントレプレナーシップ育成教育プログラムを紹介。

＊『「4つの人」となるための10の力』

建学の理念に基づいた学力観として、現代社会で求められている汎用的な資質・能力を育成し、汎用的な資質・能力のみを目標とするだけではなく、私立大学の独自性として建学の理念に立ち返る必要があることとした。学問領域は多様なものとなっている。本学も6学部11学科体制である。それぞれのディシプリンが際立つにつれて、大学全体のディプロマ・ポリシー（以下、DP）との乖離が顕在化することも課題である。そこで、両者をつなぐものとして建学の理念に新たな生命を吹き込むことが重要であると考えた。地域戦略人材事業を中心とする現在の教育を「大正大学」という文脈で意味付ける作業を行った。

本学は仏教系の大学であり、その建学の理念は仏教精神をもって「智慧と慈悲の実践」と表現する。そして、建学の理念に沿った教育ビジョン「4つの人（慈悲・自灯明・中道・共生）となる」を立て、これを全学DPに関連付けた。「4つの人となる」はいわば本学が育成をめざす人間像とみなし、この教育ビジョンを用いて、「「4つの人となる」ための10の力」（以下、「10の力」）という学力観を明示した。併せて「4つの人となる」の解釈を現代の文脈に合わせて更新した。

慈悲

生きとし生けるものに親愛なるころを持てる人となる

- 1 他者に共感する力
- 2 物事の本質を見極める力

自灯明

真実を探究し、自らを頼りとして生きられる人となる

- 3 自分自身を理解する力
- 4 自分事として問いを立てる力

中道

とらわれない心を育て、正しい生き方ができる人となる

- 5 根拠にもとづいて思考する力
- 6 自分らしい方法で表現する力
- 7 自らの主張を吟味し、ふりかえる力

共生

共に生き、ともに目標達成の努力ができる人となる

- 8 多様性を尊重する力
- 9 新たな価値を創造する力
- 10 他者と対話し、協働する力

以上のような資質・能力が示されたとき、学生はそれぞれの強み・価値観・ビジョン・関心などによって、あるいは自らが志向するキャリアに応じて学修の目標を立てることになるだろう。当然のことだが、ある力を伸ばすためには、それに応じた適切な学修経験を積む必要がある。

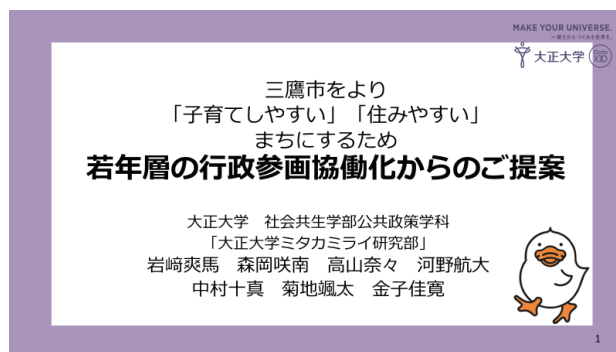
(3) 事業の成果

情報公開・学生の活躍

- ①「未来思考型ワークショップ 2024 (アイデアソン)」に本学教職員・学生が参加しました。
- ②「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」共通テーマ3 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー 2024『分野横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える～文理融合・STEAM 教育の時代における新しい学修支援～』が本学を会場として開催され、本学教員・学生が登壇しました。
- ③「第1回 大正大学アントレプレナーシップ育成シンポジウム To the future leaders ～未来のリーダーたちへ～」を開催し、本学学生が発表しました。
- ④ Tableau Academic Ambassador (2024 年) に本学学生 2 名が選出されました。
- ⑤ 2025 年第 1 回 Tableau 学生ユーザー会において本学学生が発表しました。
- ⑥【IDE 現代の高等教育】2025 年 1 月号において、本事業の取組みを神達学長が寄稿しました。
- ⑦日経地方創生フォーラム学長挨拶において、本事業の取組みを紹介しました。
- ⑧知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP) 総括シンポジウム分科会において、本事業の取組みを紹介しました。

■「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2024」で本学学生が市長賞に輝きました

令和 6 (2024) 年 12 月 21 日 (土) に開催された「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2024」で公共政策学科の学生が上位 3 チームの一つに選ばれ、優秀賞を獲得しました。本学の受賞は 4 年連続となります。この上位 3 チームが令和 7 (2025) 年 2 月 7 日 (金) に三鷹市長を訪問し、プレゼンテーションと意見交換を行いました。その結果、三鷹市長賞を受賞することができました。



*「学生によるミタカ・ミライ研究アワード」とは？

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード」は、学生たちが授業やゼミ活動、その他課外活動などで自ら取り組んだ、未来の地域社会やまちづくりに関する研究や実践活動の成果を、三鷹市長に向けて提案発表する機会を創出するものです。

『三鷹市をより「子育てしやすい」「住みやすい」まちにするため 若年層の行政参画協働化からのご提案』

チーム名：大正大学ミタカミライ研究部

提案者：大正大学 社会共生学部公共政策学科 2 年生

岩崎 爽馬、河野航大、森岡咲南、高山奈々、金子佳寛、菊地颯太、中村十真

大正大学について

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

大正15年(1926)創立。仏教連合大学構想の下、日本仏教諸宗派の教育機関が合同して大正大学となった。

創立から90年以上が経過した現在、6学部・3研究科から成り、4,669名の学部生〔男子2,314名、女子2,355名〕、152名の大学院生〔男子89名、女子63名〕が在籍する(令和6年5月1日時点)。教員数155名、職員数185名。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学びたい」に出会える

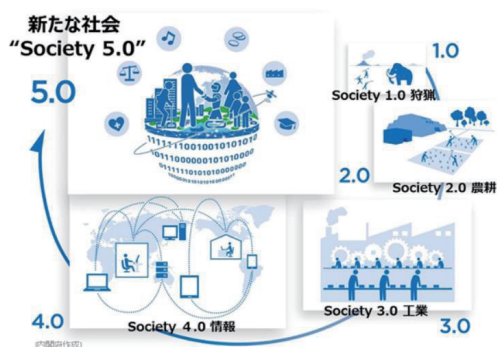
6学部 11学科

多様なニーズに応える6学部11学科で、とことん学びたいテーマが見つかります。



大学教育にいま何が求められているか？

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



□ 社会的な背景

Society 5.0という新たな社会の到来

➡産業構造の変化 働き方・生活スタイルの変容

一人の人間が多くの知識を獲得すること

➡知識をいかに活用するかということや学び続ける意志をもつこと

予測困難な時代に自律的学修者であること

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大学教育にいま何が求められているか？

* 日経地方創生フォーラム「デジタル時代における地域創生と大学教育の役割」(10月18日開催)における挨拶より

- ✓ 学生が何をどう学ぶかという視点に立つこと
- ✓ キャンパスをより実践的な学びの場に変えていくこと
- ✓ 情報・データ全盛の時代にあっても、生きとし生けるものの尊厳を忘れないこと
- ✓ 人が社会においてどのような役割を果たせるかを問い続けること
- ✓ [学生] 外側に存在する問題に自分事として向き合うこと
- ✓ [学生] 他者と協働して課題解決に当たる経験を積むこと
- ✓ 高校・大学・社会を一続きのものと考え、若者の学びと成長を支援すること

⇒若い世代の育成＝地域課題の解決／持続的な地域の発展

* 中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018年)においては、予測困難な時代に卒業後も自律的な学修者であることが求められ、学修者本位の教育への転換が謳われた。

そこでは「学生が何を学び身につけることができたのか」「個々人の学修成果の可視化」を図るため、教学マネジメントの確立が各大学に求められた。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

建学の理念との関連

□ 建学の理念と教育ビジョン

建学の理念：智慧と慈悲の実践

地域戦略人材の育成は建学の理念の発露

智慧と慈悲は大乗仏教の象徴。智慧は、私たちが困難にぶつかったときに、問題の本質を見抜いて人生を切り開いていく力。慈悲は、他者の苦しみを自分のことのように受けとめ、安心を与えるような思いやりの心。

教育ビジョン「4つの人となる」：慈悲・自灯明・中道・共生



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

建学の理念との関連

□「4つの人となる」ための10の力

建学の理念に基づいた新しい学力観＜「4つの人となる」ための10の力＞

* 令和6年度入学の学生から「10の力」を学修目標にした教育が始まっている。

慈悲
外在的な課題を感じ取り、
解決できる人

- ①他者に共感する力
- ②物事の本質を見極める力

自灯明
内在的な問いを見出し、
探究できる人

- ③自分自身を理解する力
- ④自分事として問いを立てる力

中道
論理的・自律的に思考する人

- ⑤根拠にもとづいて思考する力
- ⑥自分らしい方法で表現する力
- ⑦自らの主張を吟味し、ふりかえる力

共生
倫理的・協働的に行動する人

- ⑧多様性を尊重する力
- ⑨新たな価値を創造する力
- ⑩他者対話し、協働する力

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

地域戦略人材育成事業の展開

「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」

* 令和2年度の文科省「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択

当教育事業の特色：学融合やデータサイエンスの学修 アントレプレナーシップの育成

第Ⅰ類
[前期共通教育]

- ・人間の探究／社会の探究／自然の探究
- ・データサイエンス ・総合英語 など

第Ⅱ類
[学科専門教育]

- ・各学科の基礎科目・応用科目 など
- ・学融合ゼミナール

専門ゼミナール
・卒業論文

第Ⅲ類
[後期共通教育]

- ・アントレプレナーシップ育成教育科目
- ・諸資格科目 など

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

地域戦略人材育成事業の展開

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

「地域戦略人材」の定義：多面的な性質をもつ地域の課題解決にむけて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整することのできる人材 → **課題解決型の実践的な教育**

データサイエンス教育

1・2年次必修：PCスキルの修得(新学習指導要領と連動したカリキュラム)／統計学

- ✓ 社会の課題解決を意識したデータ分析と検証
- ✓ tableauを活用した学修

◆ リアリティのある学修：産学連携
連携する企業・自治体から実データの提供を受けている。実データを用いてリアルな課題を解決することを目的とした実践型の演習を行っている。そのことによりデータサイエンスを学修する意義を学生に実感させ、学修意欲を高めていく。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

地域戦略人材育成事業の展開

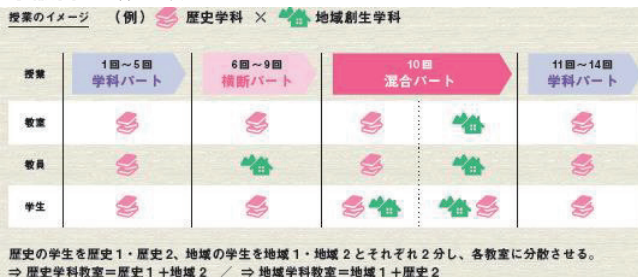
MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

学科の学びを超えた、領域横断的「横の学び」による専門教育であり、自専攻とは異なる専門領域の学びから多面的・重層的な思考を獲得し、複眼的な視野を養うことを目指す。また、複数のディシプリン（分野、領域）の連携と交流から、相互理解を通して現代社会の課題を解決する力を養う。

学融合（クロスディシプリン）教育

2・3年次必修：学融合ゼミナールⅠ・Ⅱ

学融合ゼミナールⅠ



学融合ゼミナールⅡ



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

アントレプレナーシップ育成教育

新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を培う。

「理論」と「実践」の融合により修得する科目：

さまざまな分野で活躍する方々による講義、地域を題材としたワークショップやインターンシップなど実践的な学びを実施。



理論と実践の往還

フィールドを活用した学び

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

予測困難な時代に自律的学修者であること

総合的な学修支援

教員とチューターによるチーム・ティーチング
チューターによる授業内外での学修支援

地域戦略人材育成事業

データサイエンス教育
アントレプレナーシップ教育

DXの推進

LMSを活用した学修成果の可視化

自律的学修者の育成

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

LMS（学習管理システム）導入により → 学生の自立学習を促す。

学習成果の可視化が実現

横断的情報から個別最適な学び

（指導の個別化と学修の個性化）が可能

・学生の自己理解の促進（ガクチカ）

・カリキュラムアセスメントとしての活用（教育の質保証）

日 修学カルテ
田 2020年入学
田 2021年入学
田 2022年入学
日 2023年入学
□ 01公共政策学科
□ 02社会福祉学科
□ 03地域創生学科
□ 04表現文化学科
□ 05人間科学科
□ 06臨床心理学科
□ 07人文学科
□ 08日本文学科
□ 09歴史学科
□ 10仏教学科

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

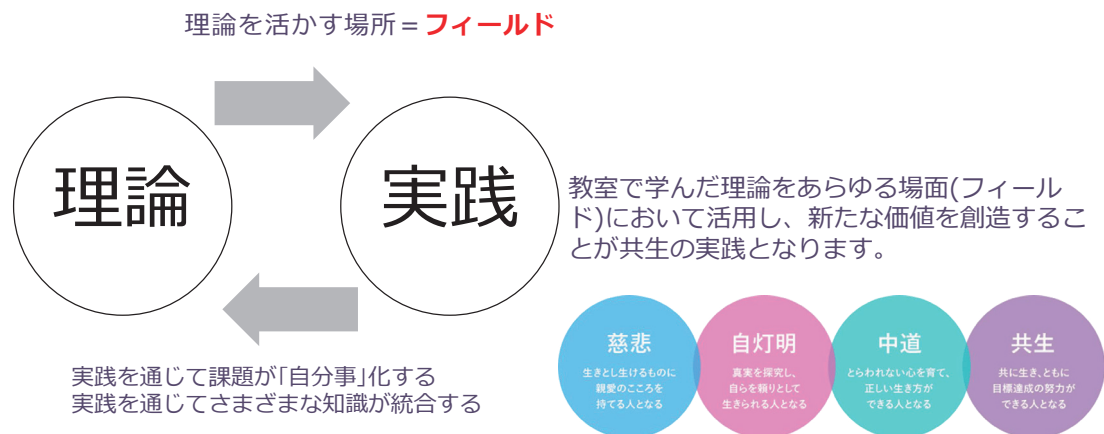
総合的な学修支援

教員とチューターによるチーム・ティーチング
チューターによる授業内外での学修支援

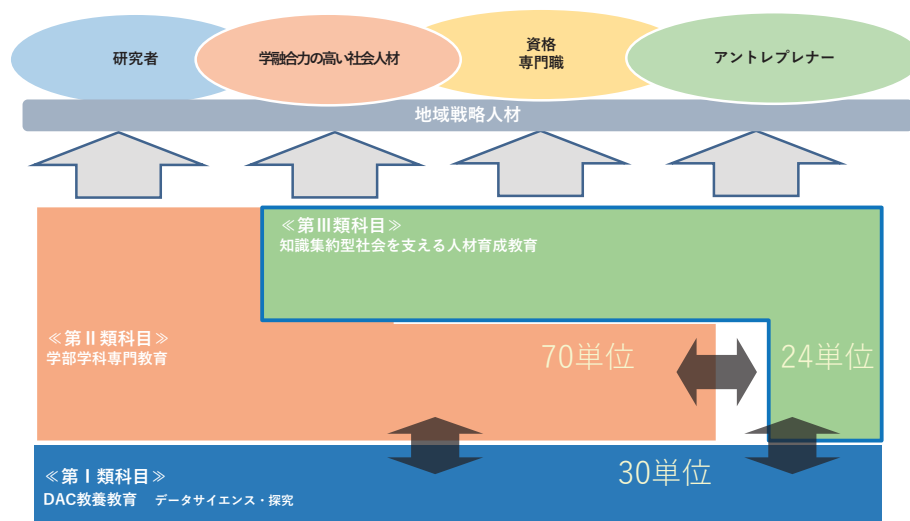
大正大学チューター3つのポイント

 <p>POINT 1</p>	 <p>POINT 2</p>	 <p>POINT 3</p>
<p>教員とチューターがタッグを組んで チーム・ティーチングを 行います！</p>	<p>チューターが学生の 授業外の学修を支えます！</p>	<p>チューターがオンラインで 学生の学びと成長を支援します！</p>
<p>授業では学生に身につけてほしい力を明確にしたうえで、講義やワークを通じて学修を進めます。チューターは教員と連携しながら、一人ひとりの学生にあわせて学修支援を行います。</p>	<p>授業後の質問対応や補習授業のサポート、授業に関連したテーマでのイベント実施、面談などを行い、学生の授業外の学修を支援します。学生が困ったとき、アドバイスやサポートを行うのもチューターの大切な役割です。</p>	<p>学生は授業で学んだことをオンライン上のLMSで振り返ります。チューターは学生の振り返り状況をチェックし、コメントをつけたり、質問に答えるなどして、学びへのモチベーションを高めます。</p>

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

建学の理念・教育ビジョン

仏教精神にもとづいた教育

= 人間性の涵養

= 飽くなき智慧の探究と

隔てない慈悲の実践

理論×実践のハイブリッド教育

理論と実践の往来

= 知識の統合と活用

フィールドを活用した学び

高大社接続の視点に立った支援

高校➡大学➡社会

一人ひとりのキャリア形成の支援

大正大学は令和8年に創立100周年を迎えます！



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第4次中期計画

学校法人大正大学 第4次中期計画（令和5年9月29日理事会策定）において、継続性を明記。

1. 教育活動

① 新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業 令和2年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業（新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業）」は、文理融合・学融合・データサイエンスなどの学習を基盤にアントレプレナーシップの育成を目標とし、本学が目指す「社会・地域の課題解決を担う新しいリーダー“地域戦略人材”」の養成に取り組んでいる。

本事業は、申請時の教育目標、カリキュラム並びに運営方針を原則として変更できないことから、補助期間である令和6年度末まで計画通り実施し、教育目標の達成に向けて全学で取り組む。

事業採択4年目を迎えた現在も、本事業の教育効果は学内外から高い評価を得ている。そのため、補助期間終了後においても、“地域戦略人材”の養成を目指す本事業の基本方針を踏襲した教育活動は継続し、発展させて実施するものとする。

https://www.tais.ac.jp/common/doc/guide/outline/management_vision/medium-term_plan.pdf

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和7年度カリキュラム大綱等

第Ⅰ類科目（探究科目、データサイエンス、リーダーシップ）
第Ⅱ類科目（学融合ゼミナール）
第Ⅲ類科目（アントレプレナーシップ育成教育）



知識集約型社会を支える人材育成事業「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」の枠組みを堅持し、チュートリアル教育、チューター養成講座、学びのコミュニティ、FD・SD・IR・評価を推進し、「地域戦略人材」の育成に向けて教育の質の向上、教育内容・教育方法の改善を行う。
また、アントレプレナーシップ育成教育実践の場として「すがも街なかインキュベーションセンター <すがもバレー>」を展開し、より実践的な教育活動を展開する。



令和7年度 カリキュラム大綱

令和7年度カリキュラムについては、建学の理念に基づく教育ビジョン「4つの人となる」実現のため、現代社会で求められる「10の力」の確立により、Society 5.0の実現、情勢の急激な変化、変わりゆく共生社会に対して、「第4次中期計画」を前提とした本学創立100周年に向けたさらなる飛躍を目指し、文理横断・学融合・データサイエンス・アントレプレナーシップなどの新しい知識を集約し、成長分野をけん引する高度専門人材育成の知識集約型事業（地域戦略人材の育成）ならびに教育改革の継続的展開を進める。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学チュートリアル教育の成果

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



はじめに：鴨の水かき

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



気楽そうに浮かんでいる鴨も、
水面下では水かきを絶えず動かしている



組織的支援の成果には
「人知れない苦労がある」

大正大学

T-Duck

報告の構成

MAKE YOUR UNIVERSE.  大正大学 
一線だからつくれる世界を。

1. 分野横断の学びを支援するチュートリアル教育
2. 組織的支援の運営体制と発展のための取り組み
3. これまでの取り組みの成果

活動の詳細はDACブログをご覧ください。
[DAC\(学修支援センター\)](#) | [大正大学\[公式サイト\]](#) (tais.ac.jp)



1. 分野横断の学びを支援するチュートリアル教育

MAKE YOUR UNIVERSE.  大正大学 
一線だからつくれる世界を。

1、分野横断の学びを支援するチュートリアル教育

新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業
(知識集約型社会を支える人材育成事業)

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一様だからつくれる世界を。

本学の目指す新時代の人材像を「地域戦略人材」＝「多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー」と定義し、その育成のため、第Ⅰ類共通教育科目、第Ⅱ類科目学融合教育、第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ育成教育を推進する。

第Ⅰ類科目(チュートリアル教育・チームティーチング)

探究科目、データサイエンス、リーダーシップ、総合英語

第Ⅱ類科目(学融合教育)

学融合ゼミナールⅠ・Ⅱ(タイプA・B・旅する学融合)

第Ⅲ類科目(アントレプレナーシップ育成教育)

起業人材コース、企業内リーダーシップコース、地域戦略人材コース

「地域戦略人材」へ



特設サイト

1、分野横断の学びを支援するチュートリアル教育

大正大学のチュートリアル教育

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一様だからつくれる世界を。

【定義】 学生が生涯主体的に学び続けるために、自律的に学ぶ姿勢を身につけることを目標として、学生一人ひとりの学びを総合的に支援する教育体制

※ チューターとは

定義：一人ひとりの学びと成長を支える総合的学修支援者

目的：学生が自律した学修者として成長するための支援

役割：教員・職員と協働して支援する「第3の人材」

種別：コアチューター(任期制専任職員)、クラスチューター(臨時雇用)

TAには担えない一人ひとりの学びと成長の伴走者としてのチューターを独自に育成・採用・研修へ

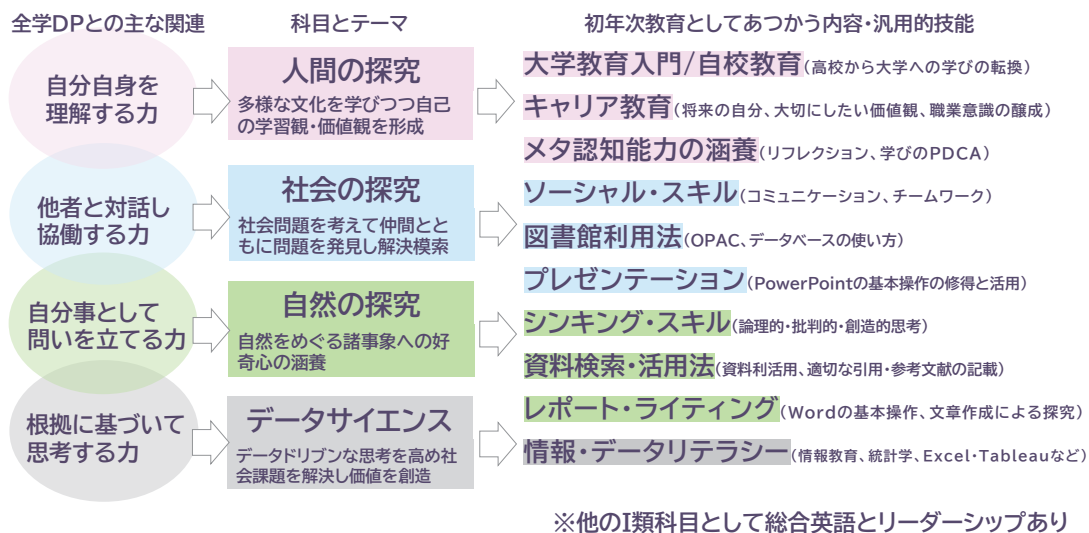
【対象】 学士課程 1, 2 年次に在籍する第Ⅰ類科目履修者(留学生を含む)



チュートリアル教育の概念

高等教育のユニバーサル・アクセスが進む中、従来のTAとは異なる支援や一定の社会人経験が求められる

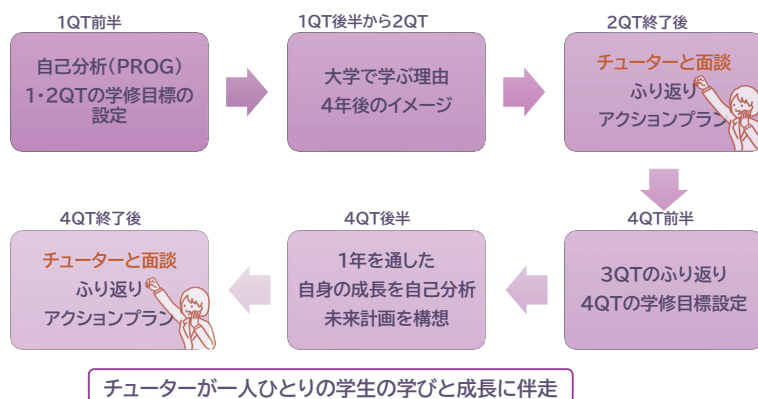
第Ⅰ 類科目の教育内容



第Ⅰ 類科目の分野横断の学びを支援する仕組み

学生自身が「学びと成長の記録」(LMS:修学カルテ)の段階的記入をすすめることで
自らのキャリア形成に関連づけながら様々な学びを統合

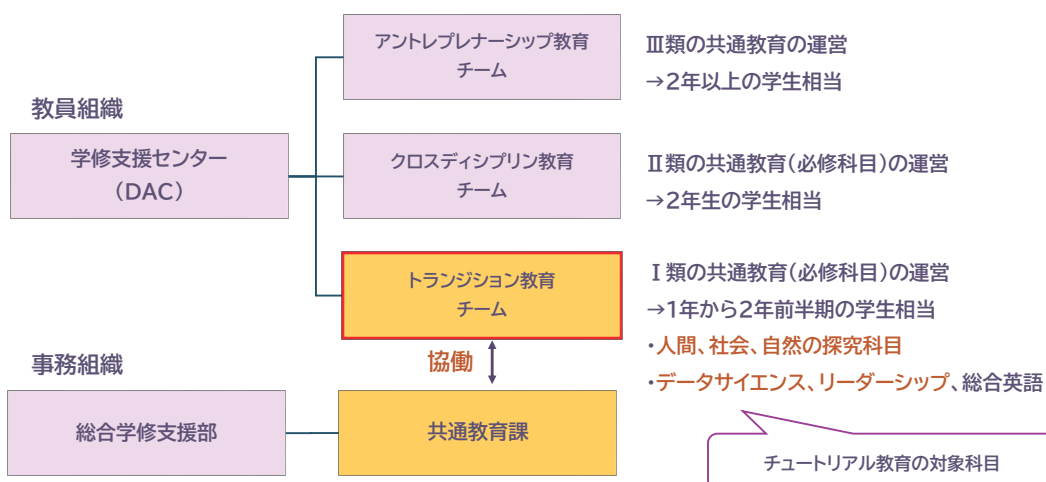
●主な記入内容とステップ

LMSの「学びと成長の記録」
(UR-note修学カルテ)操作画面

2.組織的支援の運営体制と発展のための取り組み

2、組織的支援の運営体制と発展のための取り組み

組織的支援体制：DACと総合学修支援部の協働



組織的支援の運営上の主な問題と取り組み

- チームとして一人ひとりの学生への**持続可能な支援**をどのように展開できるか？
- ➡ 組織のトップと現場の間に教職員からなる「学修支援担当者MTG」を設置し、**不文律の取り組みを可視化して体系化、学修支援のゴールを確認**

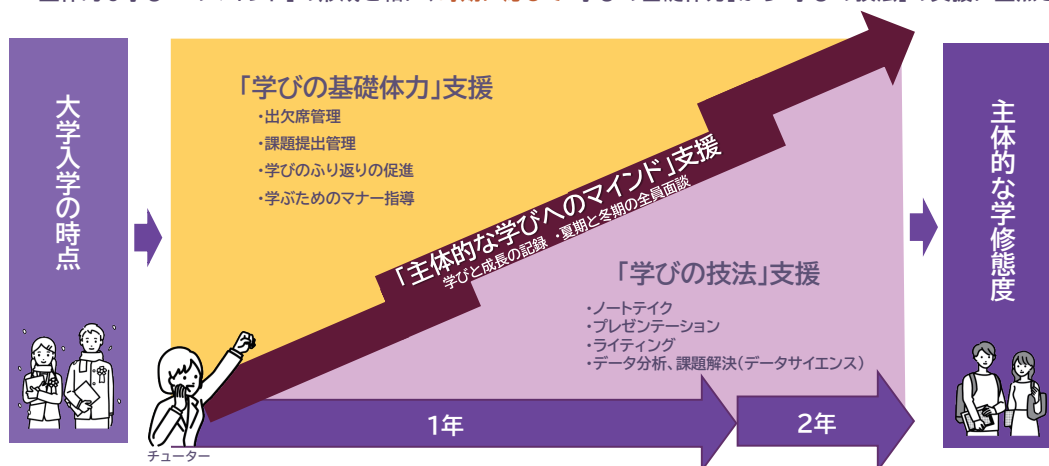
- 学修支援に関わる**仕事の平準化と質的改善を両立**する組織づくりがどのようにできるか？
- ➡ 採用後研修・ミーティングなどで**チームとしての意識合わせ**を実施しながら学修支援のふり返しと改善の**サイクル**を定着させて業務の平準化と質の向上を図る

- 自律的学修習慣の形成支援に加えて、いかにして「**学びの技法**」支援を充実させていくか？
- ➡ 補習(DS)の企画・実施や、学びのコミュニティ(探究)において**各科目の到達目標に紐づく学修イベント**を企画・実施

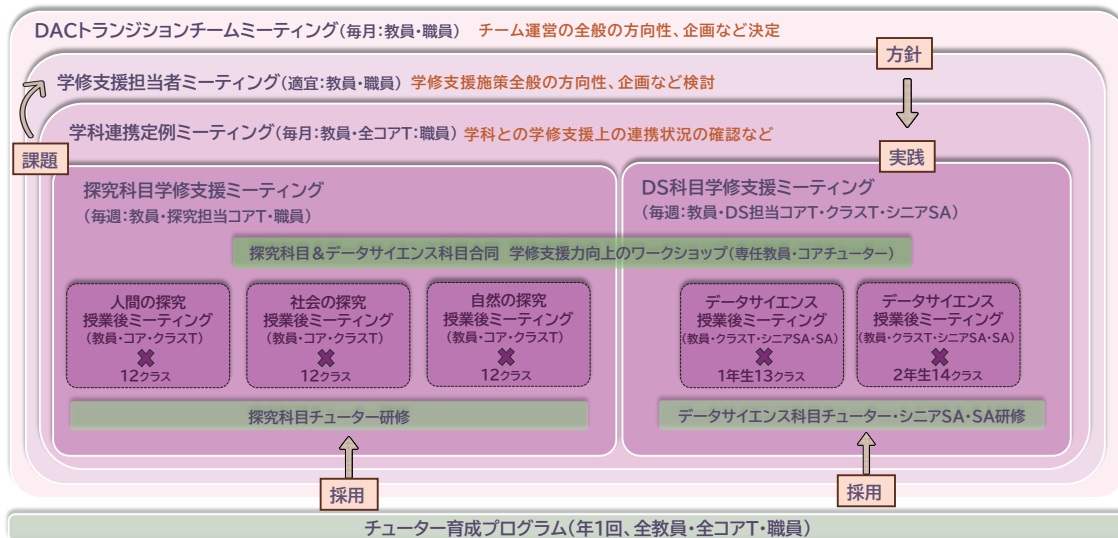
第Ⅰ 類科目に連動する学修支援の基本方針

目的：自律的な学修習慣を身につけて、様々な学びを統合しながら主体的な学びへ転換することを支える

- 主体的な学びの態度を育むために必要な支援の要素を心、技、体という3点に整理
- 「主体的な学びへのマインド」の形成を軸に、**時期に応じて「学びの基礎体力」から「学びの技法」の支援に重点を移行**



チームとしての意識合わせ



授業ごとの学修支援のふり返りと改善例(探究科目のケース)

- 学修支援のふり返りと改善のサイクルを定着させて業務の平準化と質の向上を図る
- 授業後ミーティング(1回あたり最大30分程度)
担当教員とチューターが参加して授業実施直後に実施
チューターがファシリテーターとなり学生の学修状況をふり返り、
教員とともに次回授業での学修支援の具体的改善策などを検討
- 授業報告書・グループワーク観察メモ(ツール)
チューターが学修状況やCOAチューターへの申し送りなどを記入

必要に応じて
課外学修支援へ

COAチューター

授業報告書
(Excelファイル)

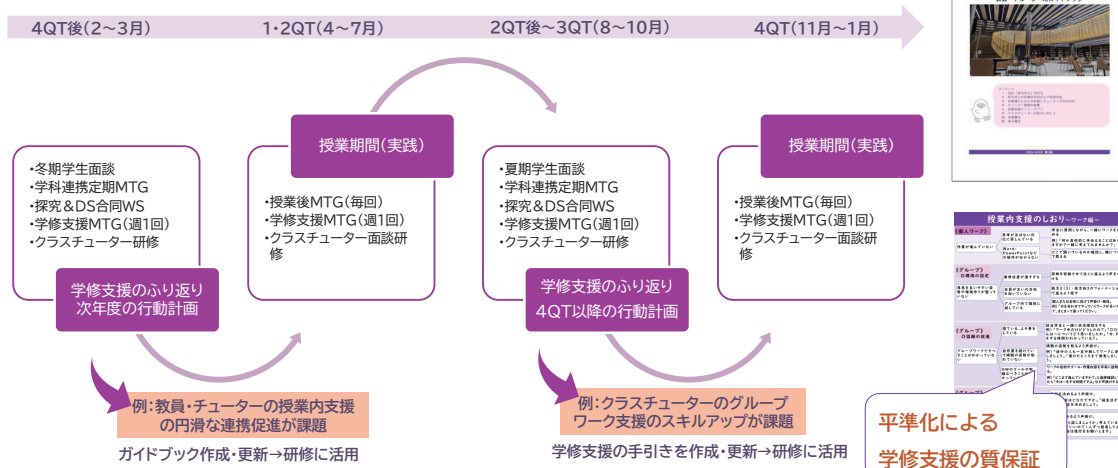
グループワーク観察メモ
(Excelファイル)授業内容の事前共有
授業内支援の連絡
ファイル共有など

情報共有ツールの工夫

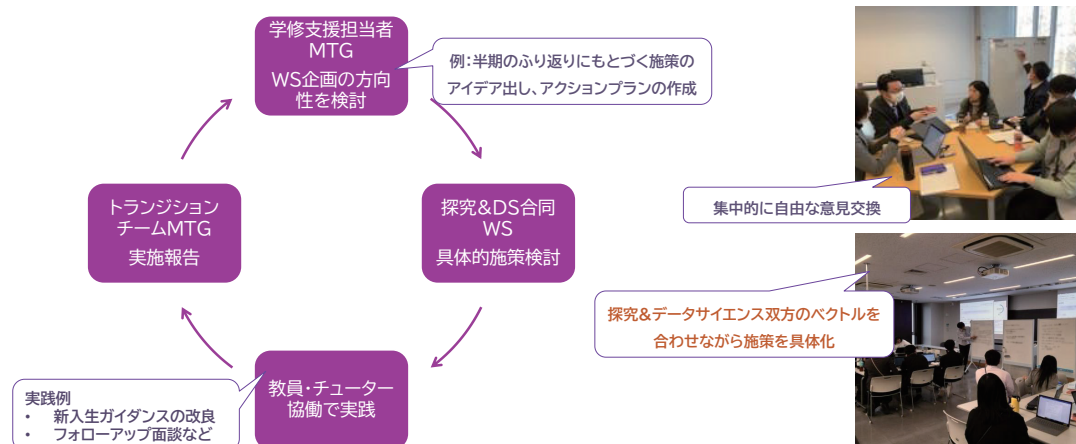


授業ごとのチームのスタッフチャネルのやりとり例

- 学修支援のふり返りと改善のサイクルを定着させて業務の平準化と質の向上を図る



- 教員・コアT全員参加でベクトルを合わせながら学修支援力の向上を目指す
- 探究やデータサイエンス科目の共通する学修支援施策や関連する教育内容のブラッシュアップ



2、組織的支援の運営体制と発展のための取り組み

採用後の主な研修(令和5年度実績)



科目名	時期	日付	名称	出席者	方法	所要時間	実施内容
全体	開講前	3月22日	コアチューター研修会	コアチューター、DAC教員、事務	対面	2時間	知識集約型、大正大学、DAC組織、I 類科目、学修支援方針、履修、施設説明など
		7月14日	夏期面談研修	コアチューター、クラスチューター、DAC教員、事務	オンライン	1時間	夏期面談実施に向けた留意点
		1月11日	冬期面談研修	コアチューター、クラスチューター、DAC教員、事務	オンライン	1時間	冬期面談実施に向けた留意点
データサイエンス	開講前	3月27日	コア研修	コアチューター	対面	4時間	データサイエンス科目の業務について
		2月26日	講師会 #1	新任教員、新任コア、新任クラス	対面/オンライン	1時間30分	大正大学の教育方針、データサイエンス教育の位置づけ他、チームティーチングについて(教員とチューターの役割)
		3月5日	講師会 #2	新任教員、新任コア、新任クラス	対面/オンライン	1時間30分	シラバス確認と授業の進め方、成績評価について
		3月26日	講師会 #3	教員、コア、クラス全員(一部新任のみ)	対面	4時間	令和5年度DS教育方針、チームミーティングなど 大学で使用するアプリケーションの使い方(LMS含む)
		2月26日~	Tableau研修 #1~3	新任教員、新任コア、新任クラス	対面	2時間×3日間	Tableau研修 (Tableau未経験者のみ対象)
		4月3日~	SA研修	SA (3回に分けて開催)	対面	1時間	1QT授業開始前のSA研修、チームビルディング
	4QT前	2QT前	産官学連携分析研修	コア、SA (3年生・4年生のみ、連携先ごとに開催)	対面	1時間40分	データサイエンスVの産官学連携の取り組み前に、連携先ごとのデータ分析を使って研修
		11月22日	SA研修	SA (3回に分けて開催)	対面	1時間	4QT授業開始前のSA研修 (1・2QTのふり返りと4QTに向けた目標設定)
		11月29日	産官学連携分析研修	コア、SA (3年生・4年生のみ、連携先ごとに開催)	対面	1時間40分	データサイエンスVIの産官学連携の取り組み前に、連携先ごとのデータ分析を使って研修
		10月22日	Tableau研修 #4	コア、クラス (※R6からシニアSAも対象)	対面	4時間	コア、クラス向けTableauハンズオン研修
		11月5日	Tableau研修 #5	教員	対面	2時間	教員向けTableauハンズオン研修
探究	開講前	3月27日	コア研修	コアチューター	対面	3時間	探究科目の業務について
		3月20日	講師会 #1	教員、コアチューター	オンライン	1時間30分	探究科目(全体・各科目)について
		3月28日	顔合わせ会	教員、コア、クラス	対面	3時間	探究科目の運営、学修支援について、各クラス担当ミーティング
	1・2QT後	8月上旬	講師会(各科目) #2	教員、コアチューター	オンライン	1時間	1・2QT振り返り
	4QT前	10月下旬	講師会(各科目) #3	教員、コアチューター	オンライン	1時間	第4QTに向けた講師会
	4QT後	2月	講師会(各科目) #4	教員、コアチューター	オンライン	1時間	年間振り返り
	リーダーシップ	開講前	3月	講師会 #1	教員、コアチューター	対面	リーダーシップ科目について
		1QT後	6月	講師会 #2	教員、コアチューター	対面	振り返り

2、組織的支援の運営体制と発展のための取り組み

教職協働の例:チューター育成プログラム(令和6年度採用)



全体・採用 前期共通教育チューター	ナレッジ・セッション	ハンズオン・セッション ワークショップ	ハンズオン・セッション インターンシップ
■職員 <ol style="list-style-type: none"> 講座内容・実施工程検討 チーム内合意形成、学内決裁 告知媒体の検討、掲載準備 募集要項作成・サイト掲載準備 講座開設準備・運営 (LMS設定・受講マニュアル作成、受付フロー検討、履歴書フォーム作成、応募受付対応、プログラム後のアンケート作成実施) 評価基準の検討 採用面接(日程調整、面接) 契約、勤務調整 ■教員 <ol style="list-style-type: none"> 採用候補者選別 採用面接 	■職員 <ol style="list-style-type: none"> ワゲ マド' コングの検討 動画・資料UP、課題設定 ■教員 <ol style="list-style-type: none"> 課題の作成 課題評価 ■コアチューター <ol style="list-style-type: none"> コンテンツの視聴確認 課題提出状況の確認 	■職員 <ol style="list-style-type: none"> 内容の検討 当日運営 評価 ■教員 <ol style="list-style-type: none"> 内容の検討 当日投影資料の作成 当日運営 評価 ■コアチューター <ol style="list-style-type: none"> 進行準備、受講者への案内 事後課題提出状況の確認 当日運営、授業欠席への対応 評価 	■職員 <ol style="list-style-type: none"> オンデマンド動画配信 勤務希望日程調整 事後課題の提出管理 ■教員 <ol style="list-style-type: none"> 参加授業の選定・調整 事後課題の検討 評価 ■コアチューター <ol style="list-style-type: none"> インターンシップ詳細案内 当日注意事項作成・説明 当日運営 評価

2、組織的支援の運営体制と発展のための取り組み

学びの技法の修得支援施策: 学びのコミュニティ

- 探究科目であつかう「**学びの技法**」の修得支援を目的とする
- コアチューターが科目教員と相談して**授業と連動させ企画・運営**
- イベントは大正大学附属図書館と共催
- DACとしては**月1～2回開催(1回約60分)**

令和6年度 1・2QT実施イベント

4月	新入生必見！Power Point基礎スキル習得イベント 課題必須スキル！Word基礎講座
5月	リフレクションがかわればあなたの学びが変わる！～成長に繋がるリフレクションの書き方講座～
6月	Power Point基礎スキル習得イベント2～スライドの視覚効果を高めよう～ エンジョイ！キャンパスライフ！～上手な時間の使い方～
7月	自然の探究 レポート相談

総合学修支援施設(8号館)「学びのコミュニティ」イベント案内

「学びのコミュニティ」とは？

総合学修支援施設(8号館)の総合学修支援施設「学びのコミュニティ」は、学生が自ら学び、自ら学ぶことができるようになるためのサポートを行っています。その一環として、全学生を対象に開催する探究科目「学びのコミュニティ」です。
※内容に変更する場合があります。

※何号館では図書館職員・チューター・教員によるさまざまなイベントを開催します。
ぜひご参加ください！

日時	タイトル/内容	担当
4/17 (木) 17:30～18:30	はじめての写経～般若心経を写経してみよう～ 写経は経典を正確に写しとるための技術で、前編や後編を目的とする際にも集中力や読解力を高める効果があります。今回は、般若心経の写経を行います。写経の楽しさや、心静かに読めるようになるまでを学びます。 ※写経の準備は、当日のイベントで提供いたします。	図書館 大正大学
4/18 (金) 16:30～17:30	2024年度入学生対象 春のオリパ 図書館で学科の中にも交流が広がる機会があります！ 当日は先輩学生も参加予定なので学生生活での疑問点なども相談できちゃいます！ お楽しみ会もあって、とても楽しいですよ！ ※写経の準備は、当日のイベントで提供いたします。	DACスタッフ・学生 図書館
4/19 (土) 16:00～17:00	新入生必見！Power Point基礎スキル習得イベント 大正ではPower Pointを使って資料作成する機会が少なくありません。「Power Point」を使いこなすことで、資料作成がスムーズになり、プレゼンテーションも上手になります。基礎から応用まで、丁寧に指導いたします。 ※写経の準備は、当日のイベントで提供いたします。	DAC コアチューター
4/24 (木) 17:15～18:15	トイレの防災～地震半島地震の避難所トイレ～ 防災に関する講座です。生活に欠かせないトイレは災害時に大変重要な役割を果たしています。トイレの防災について学び、災害時の対応方法を学びます。 ※写経の準備は、当日のイベントで提供いたします。	岡山県庁衛生 保健課(学務)
4/25 (金) 16:30～17:00	課題必須スキル！Word基礎講座 課題で必要となるWordの基礎スキルについて、お悩みや質問を解消します。レポート作成で必要となる基礎スキルについて、ワークを通して、楽しく学ぶことができます。 ※写経の準備は、当日のイベントで提供いたします。	DAC コアチューター



参加申込方法
資料のQRコードから、お申し込みください。
<https://x.gs/z/889/>

問合せ先: 総合学修支援施設 (03-5394-3064) 学修相談コーナー (8号館1階) (03-5394-8450)
図書館情報サービス課 (03-5394-3028) 学修相談コーナー (8号館1階) (03-5394-8450)

2、組織的支援の運営体制と発展のための取り組み

学びの技法の修得支援施策: データサイエンス補習プログラム

- データサイエンス科目の「**テスト対策(補習)**」を目的
- コアチューターが科目教員と相談し、**授業と連動させて企画・運営**
- 補習用教材は教員が作成、講義はコアT、シニアSA、教員で実施
- 2024年度 春学期で**1年生は39回、2年生は38回**開講
(1回あたり約30分)

【事例】データサイエンスⅠ 期末テスト対策補習実施一覧

講義ID	テストID	内容	日付	曜	開始時	所要時	実施形	実施教員
DSⅠ	7回	⑥尺度 (NEW)	5月27日	月	11:00	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	②絶対参照・平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値	5月27日	月	12:40	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	①四則演算・SUM	5月27日	月	13:30	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	⑤並べ替え・フィルター他 (NEW)	5月27日	月	15:20	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	②絶対参照・平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値	5月27日	月	15:20	0:30	対面	754
DSⅠ	7回	③書式設定・行列挿入削除	5月27日	月	16:00	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	⑤並べ替え・フィルター他 (NEW)	5月27日	月	17:10	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	⑥尺度 (NEW)	5月28日	火	11:00	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	④IF関数・COUNT IF	5月28日	火	11:00	0:30	対面	741
DSⅠ	7回	③書式設定・行列挿入削除	5月28日	火	12:40	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	①四則演算・SUM	5月28日	火	15:20	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	⑥尺度 (NEW)	5月28日	火	16:00	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	④IF関数・COUNT IF	5月28日	火	17:10	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	③書式設定・行列挿入削除	5月29日	水	10:20	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	④IF関数・COUNT IF	5月29日	水	11:00	0:30	対面	DSラーコ
DSⅠ	7回	⑥尺度 (NEW)	5月29日	水	13:30	0:30	対面	765
DSⅠ	7回	★なんでも相談会 ※待つ可能性はあります	5月29日	水	15:20	0:30	対面	DSラーコ



コアチューターによる2年生のテスト対策の補習
@DS科目用のラーニングコモンズ (DSラーコ)

学生によるデータサイエンスの学修サポート体制

- チューターとSAが協力して授業内外の学修支援を展開
- シニア・スチューデント・アシスタント(シニアSA)制度を導入
シニアSAは、クラスチューターと同様、個々の学修支援にプラスしてクラス全体を見つ、マネジメント業務をおこなう。

勤務経験が原則1年以上の3・4年生
よりシニアSAの勤務を希望した者

SA、シニアSA、クラスチューター、コアチューターの主な役割

	授業準備および 学修支援など	SAのマネジメント	SA、チューター、シニアSAのマネジメント
SA	○		
シニアSA	○	○	
クラスチューター	○	○	
コアチューター	○	○	○



授業風景



授業でのSAの支援の様子

3.これまでの取り組みの成果

3.これまでの取り組みの成果

環境変化に対応しながら組織的学修支援の体制を整える

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



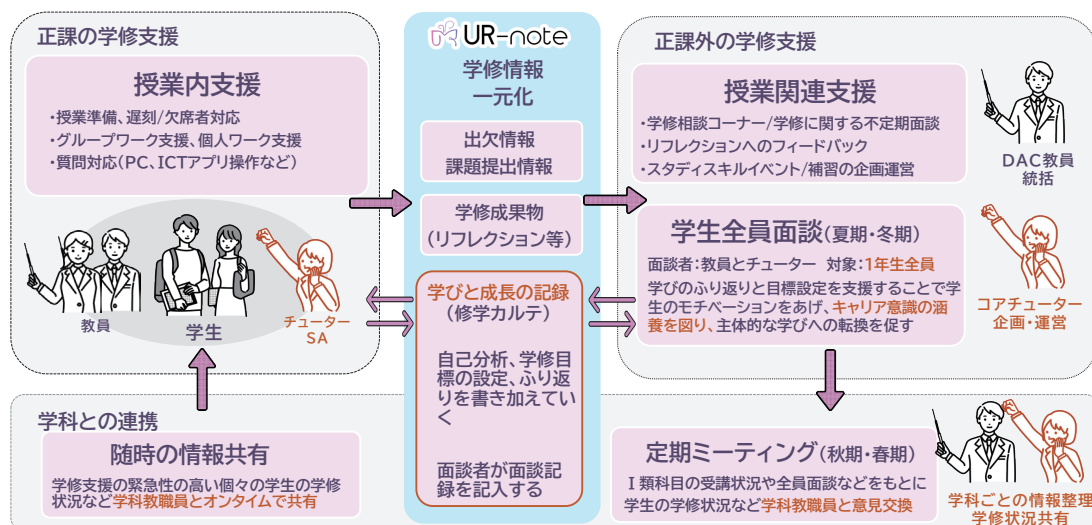
スタートアップ期から安定期へ→これまでの取り組み・成果をあらためて検証していく時期に…

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学修支援の主な取り組み	コロナ禍	知識集約型社会を支える人材育成事業採択	コロナ5類移行	現在	
学修支援のあり方	DACの理念を念頭に各自が取り組み	2021年度より全学展開・2022年度より対面授業復帰	不文律の取り組みを整理して方針策定(体系化)	各科目の重点目標と「学びの技法」の関係を再整理	
夏期・冬期全員面談	社会創造系学部群1年	全1年生対象	全学DPの改編にともなうI類の教育目標の改訂により		
DAC(I類)と学科(II類)の学修支援上の連携	4QTより4学科と実施	2QTより全学科と実施	2QTより全学科と実施	1QTより全学科と実施	
学びのコミュニティ	チューター主導の企画	学修支援方針にそった面談者アンケート導入	学科連携の目的や指針を整理	DACの取り組みについて学科に理解が浸透	科目教員と連携した学びの技法の支援へ
チューター育成プログラム			学修支援方針の施策化の試み	科目教員と連携して年間計画の作成	

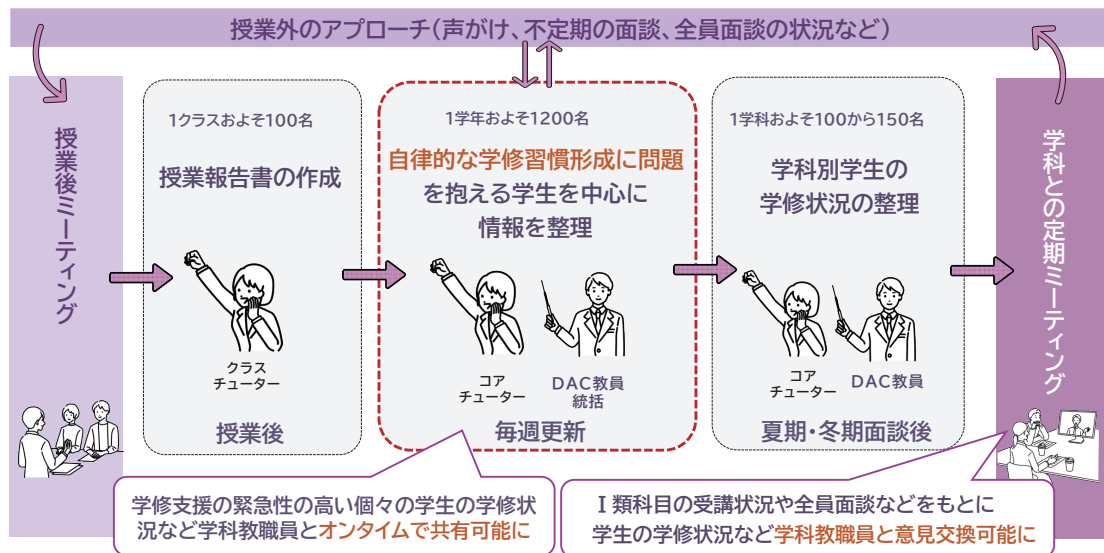
3.これまでの取り組みの成果

チュートリアル教育の全体像

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



DAC(Ⅰ類教育)と学科(Ⅱ類教育)の「連携」のしくみ構築



学修相談コーナーの整備と運用状況

● 探究科目関連の学修相談コーナー(8号館1F)

- ・授業内容のフォローアップ
- ・課題に関する相談
- ・学修方法の相談
- ・グループプレゼンテーションなどの相談

月～金 9:00～17:30

● データサイエンスラーニングcommons(7号館2F)

- ・授業内容のフォローアップ
- ・課題に関する相談
- ・学修方法の相談
- ・PC関連の相談(Wi-Fi、機器操作、アプリの使用法など)

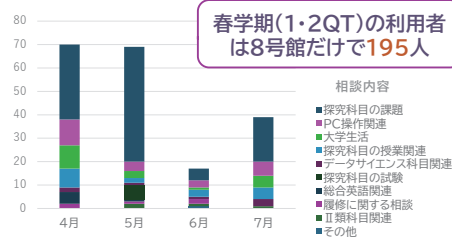
月は11:00～17:30、火水は10:00～17:30、木金は13:00～17:30

● 学修支援センター窓口(7号館2F)

- ・総合英語についての相談
- ・その他Ⅰ類科目についての相談

開講期間 月～金 9:00～18:00
(閉講期間 9:00～17:00)

8号館1Fの学修相談コーナーの利用状況(2024年度春学期)

学修支援センター
川嶋 孝幸コアチューター

新入生が高校生から大学生にスムーズに移行できるようにサポートするのがチューターの使命です。大学で学ぶ意味を見出し、生涯学び続ける人になれるよう支援を行っています。また、チューターは多様な社会経験を持た見識も豊かです。学内に常駐しているので、気軽に相談しに来る学生も多くいますし、気になる学生にはこちらから声をかけることもあります。先生とは違う立場で、学生の学びに寄り添っています。

3.これまでの取り組みの成果

正課外の学修支援の成果:データサイエンス特別プログラム

- データサイエンスの「学修を資格取得につなげる」ことを目的とする
- コアチューターが教員と相談して夏休みと春休みの年2回企画・運営
- 講義は教員、模擬試験と補習はコアチューターが実施

データサイエンス特別プログラム 開講講座一覧

N O	名称	対象の資格・試験	開始時期	令和6年度 対受取者数合格率と人数
1	Tableau Desktop Specialist 対策講座	Tableau Desktop Specialist	2022年度 夏～	100% 57名
2	MOS Excel 一般レベル 対策講座	マイクロソフト オフィススペシャリスト Excel 一般レベル	2022年度 夏～	100% 61名
3	MOS Excel 上級レベル 対策講座	マイクロソフト オフィススペシャリスト Excel 上級レベル	2023年度 夏～	88% 59名
4	統計検定4級 対策講座	統計検定 4級	2022年度 夏～	97% 68名
5	統計検定3級 対策講座	統計検定 3級	2023年度 春～	63% 5名
6	【資格取得ではない】ChatGPTの実践的活用力の向上のための講座	2日間(10時間)参加した学生には修了書を発行	2024年度 夏～	修了書発行学生 35名

MAKE YOUR UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。



◆受講者数推移

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計
Tableau Desktop Specialist	18	25	43	86	25	111	81	81
MOS Excel 一般	93	112	205	142	56	198	98	98
MOS Excel 上級				49	36	85	123	123
統計検定4級	44	31	75	40	15	55	123	123
統計検定3級				12	12	24	24	24
合計	155	168	323	317	144	461	451	451

◆合格者数推移

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計
Tableau Desktop Specialist	10	18	28	56	18	74	57	57
MOS Excel 一般	58	82	140	93	44	137	61	61
MOS Excel 上級				36	24	60	59	59
統計検定4級	17	22	39	22	6	28	68	68
統計検定3級				2	2	5	5	5
合計	85	122	207	207	94	301	250	250

◆対受取者数合格率推移

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計
Tableau Desktop Specialist	50%	72%	65%	65%	72%	67%	70%	70%
MOS Excel 一般	62%	73%	68%	65%	79%	69%	62%	62%
MOS Excel 上級				73%	67%	71%	47%	47%
統計検定4級	39%	71%	52%	55%	40%	51%	55%	55%
統計検定3級				17%	17%	21%	21%	21%
合計	55%	73%	64%	65%	65%	65%	55%	55%

◆対受取者数合格率推移

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計
Tableau Desktop Specialist	100%	100%	100%	98%	100%	99%	100%	100%
MOS Excel 一般	97%	98%	97%	98%	98%	98%	100%	100%
MOS Excel 上級				95%	100%	97%	88%	88%
統計検定4級	77%	92%	85%	88%	60%	80%	97%	97%
統計検定3級				25%	25%	25%	63%	63%
合計	92%	97%	95%	96%	90%	94%	95%	95%

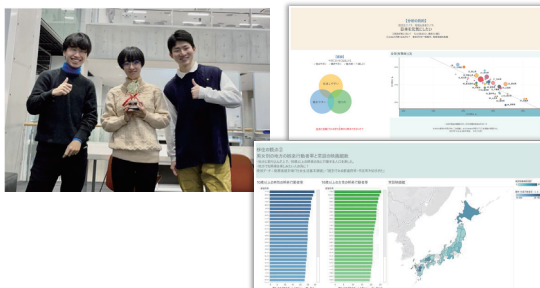
3.これまでの取り組みの成果

正課外の学修支援の成果:外部コンテストへの出場

- データサイエンス関連のコンテスト出場をコアチューターと教員で連携し支援を実施
- 2021年度から毎年2から3チームがコンテストに参加しており、毎年いずれかのチームが優秀賞などを受賞

2022年度 学外コンテストへの参加事例 ①

3年生のSA(この春卒業)の有志学生2チーム(7名)が「企業分析AWARD 2022」に参加。
うち1チームが「優勝」!



発表タイトル「人々の生活時間に注目して日本を元気にしたい!」
見事賞金の30万円も獲得<https://techplay.jp/column/1661>

2023年度 学外コンテストへの参加事例 ②

公共政策学科の2年生(現3年生)の有志学生が三鷹市の「学生によるミタカ・ミライ研究アワード2023」で「優秀賞」を獲得
※3年連続優秀賞受賞

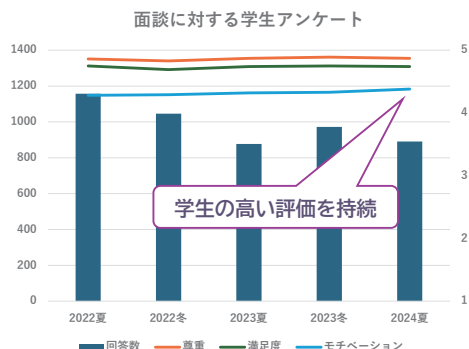


発表タイトル「心も、体も、満タンに。ミタカ・スポーツ」

3.これまでの取り組みの成果

全員面談の学生の受け止め方

MAKE YOUR UNIVERSE.  大正大学 
一緒だから つくれる世界を。



アンケート方法

面談終了後にMicrosoft Formsを用いて実施

【主な質問項目】

- ・面談者はあなたの考えを尊重しながら面談してくれましたか？(5件法)
- ・面談の満足度を教えてください(5件法)
- ・面談によって大学で学ぶことのモチベーションは上がりましたか？(5件法)

「学びと成長の記録」や面談に関する上級生の声



文学部 人文学科
国際文化コース 4年
赤野間 妃葵さん

1年次の「人間の探究」で作成した、大学入学までを振り返る「ライフラインチャート」や大学4年間の学びの計画を立てる「学びと成長の記録」は、自分自身を見つめ直す機会となり、自分の長所に気づくことができました。アットホームな雰囲気に惹かれて入学しましたが、先生とのやり取りの中で自分にやれることは何だろうと考え始め、3年次にインターンシップで海外へ行きました。現地の課題解決に第I類科目で学んだスキルが役立ったことは嬉しかったです。この経験をきっかけに今では海外に関わる仕事に就きたいと考えています。

「チュートリアル教育」を活かして、
自らのキャリア形成に関連づけながら
様々な学びを統合して主体的な学びを展開



MAKE
YOUR
UNIVERSE.
一 緒 だ か ら つ く れ る 世 界 を 。

活動の詳細は、ぜひDACブログをご覧ください。
DAC(学修支援センター) | 大正大学[公式サイト] (tais.ac.jp)



1) 学生支援とPDCAサイクル

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

1) 学生支援とPDCAサイクル

■大正大学では、第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅲ類といった教育プログラムのもとで学生の学びの「ルール」を引き、PDCAサイクルを通じて改善している。

本学では、学生一人ひとりの学びを支えるために、全員面談、LMSの活用、およびガイダンスを定期的実施しています。これにより、すべての学生に平等な機会を提供しながら、それぞれの目標と意志を尊重した支援を行っています。

【全員面談】初年次の夏期および冬期の計2回、個別面談を実施し、学生の学修の進捗状況や悩み、将来の目標について話し合います。さらに、年2回開催される学科連携定期ミーティングにおいて、各学科と学生の学修状況を共有します。この共有を通じて、学科間での連携を強化し、学生支援体制を充実させています。

【LMSの活用】授業内容や学修状況をWEB上で確認できる環境を整えています。また学びを進める機能も備えており、学生が主体的に学修を進め、深めることを支援しています。さらに、修学カルテを活用して学修や成長の記録を残し、学修計画の作成・確認・修正を柔軟に行える仕組みを提供しています。

【ガイダンスの実施】新入生やプログラム移行時のガイダンスを通じて、学修方針や期待される成果を明確にし、学生が安心して学びを進められるよう支援しています。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



キャリア形成と履修選択を支える体系的サポート

学生が自らのキャリアプランを具体化し、それに基づく履修科目選択を体系的に行えるよう、経年的なサポートを実施しています。学生はLMSの「学修計画」を活用し、学修と成長を振り返りながら将来像を構築する仕組みも整えています。この仕組みでは、後期共通教育(第Ⅲ類)の履修モデルを示し、学生が主体的に科目を選択できる体制を整備しています。さらに、全員がLMSに学修計画を入力し、学びの記録、未来計画書、進路研究、アントレの学修計画などを可視化することで、Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類やキャリア支援などの部門を超えての情報共有を行っています。これにより、各学科やキャリアセンター、総合学修支援部、事業部、学修支援センター(DAC)が有機的に連携し、学生一人ひとりの成長を総合的に支援する体制を構築しています。

入学時
1年次

- ✓ 1年次には、入学ガイダンスを通じて履修登録やカリキュラム、大学での学修の意義を理解させる。
- ✓ 夏休みと冬休み期間に全員面談を実施し、学生個々が学修の位置づけを言語化し、目標設定や進むべき方向性を確認する機会を提供している。

2年次

- ✓ 2年次には、リーダーシップ科目を通じて学生が自身の「強み」を見出す時間と充分にとともに、進路研究を通じて3年次以降の就職活動や卒業後の進路に向けた準備を進める。また、3年次以降のコース選択(アントレ3コースの選択有無)について考える機会を提供している。

3年次

- ✓ 3年生の4月から、キャリアセンターによる全員面談を開始。2年次のリーダーシップ科目で全学生がLMSに入力した自己分析や進路研究、学修計画やこれまでの学修ポートフォリオを面談時に活用し、学びとキャリア支援を連携させている。教育現場とキャリアセンターが協働し、学生の成長と進路設計を支援する体制を強化している。

4年次

- ✓ 3年次のアントレプレナー育成教育プログラムのコース選択が重要であるため、2年次の冬に① アントレプログラムのガイダンス、② コース別説明会、③ 授業見学、④ 個別相談会を実施し、学生が自身の選択を深く検討できる機会を設けている。さらに3年次以降の選択コースに関するアンケートを実施し、各学生の進路選択をある程度把握できるようにしている。
- ✓ さらに、3年次の学修計画を年度初めに立て、夏休みには学修計画の見直しの機会を設けており、必要に応じて個別面談も実施している。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



Ⅰ～Ⅲ類の学修と履修選択についての理解を深める機会

年次	タイミング	面談と説明会	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	進路	主な担当部署	学修カルテ (UR-note)
1年生	入学時	入学時ガイダンス(学科/Ⅰ類)	◎	◎			各学科/DAC	学びと成長の記録 (人間の探究Ⅰ～Ⅲ)
	夏休み	夏期全員面談 (👉実施後、学科連携定期MT)	◎				DAC	
	冬休み	冬期全員面談 (👉実施後、学科連携定期MT)	◎				DAC	
	2年生直前	学科ガイダンス		◎			各学科	
2年生	11月～12月	アントレプレナー育成教育プログラムガイダンス アントレプレナー3つのコース別説明会 アントレプレナー各授業見学会 個別相談会			◎		総合学修支援部	自己分析と進路研究 (リーダーシップⅠ～Ⅲ)
	3年生直前	学科ガイダンス アントレプレナーコース別ガイダンス (学修計画書作成)		◎	◎		各学科 総合学修支援部	
3年生	4月以降	全員面談				◎	キャリアセンター	学修計画書の作成 (アントレ3コースのみ4月と8月に実施)
	春・夏	学修計画書作成と見直し			◎		総合学修支援部	
	4年生直前	学科ガイダンス		◎			学科	

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【全員面談】1年次の夏期/冬期の2回実施

2024年度 夏期面談の目的と目標

○全員面談の目的

- ✓ 面談により、学生が自身の学びと成長のための行動を起こすモチベーションをあげて、学びと成長のPDCAサイクルを学生自身で回し、Ⅰ類の教育目標に記載されている「主体的に学ぶ姿勢を養う」ことを主なねらいとする。
- ✓ 学修に課題を抱える学生に対しては軌道修正を働きかけるなど、個々の状況に応じ、その後の学修状況の改善をねらうとともに、面談で得た意見を今後の学修支援方針・施策の改善につなげていくことも目的とする。

○夏期面談の目標

1. 学生がⅠ類科目を学修する目的を理解することができる
2. 学生が学びをふり返ることができる
3. 学生がモチベーションをあげて行動目標を設定することができる

2024年度 冬期面談の目的と目標

○冬期面談の目標

1. 1QTから4QTにかけての「学びと成長」のふり返りを自ら言語化することができる
2. これまでの学修成果と課題を確認しながら目標を再設定することができる
3. 2年次以降にむけた行動計画を自ら考え、具体的に言語化することができる

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】夏期・冬期学生全員面談の成果

全員面談の実施状況の推移



キャリア意識の
涵養を念頭に
様々な学びの統
合的な言語化を
サポート



全員面談(オンライン)の様子
「学びと成長の記録」をもとに1人あたり約20分

「学びと成長の記録」に反映(2024年度夏期学生面談の記録)

夏期面談の記録(面談者コメント)

〇〇さんは、やっと大学に慣れてきたとの感想をお話でした。一度も欠席がなかったことは、「当たり前のこと」かもしれませんが、しっかりとセルフマネジメントができている証拠だと思います。このペースを維持してくださいね。また、グループワークに関しても苦手意識がありながらも発言することに慣れてきたと言っていました。目標をもって取り組んできた成果ですね。ただ、会話うまくできない人がいること、自分の意見を適切に表現できていないように感じる、との課題があるとのことでした。前者については、継続目標として、3QTのPBLで実践を積んでいくとのことでしたね。後者については、言語化ができるようにリフレクションへ取り組みを意識していくことを話しました。たとえば、将来的な夢であるアニメグッズの企画を実現するためにも、ただ観察するだけでなく、感じたこと等をメモに残し研究ノートをつくってみる、といった実践的アイデアもできましたね。ぜひ試してみよう。応援しています。

面談直後に担当者が記入
400字程度でまとめる

1 面談を踏まえてのアクションプラン(夏休み・3QTの目標・行動計画)

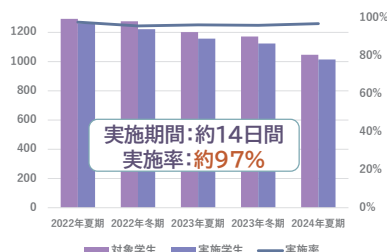
夏休みでは将来就きたい「キャラクターグッズ企画」の夢に一步でも近づけるように、グッズショップに何度も通い、すごいと思ったグッズなどを書き出して「グッズ研究ノート」を作成する。相手に自分の考えていることを伝えることに対しての苦手意識を解消するために、リフレクションなどを使用して自分の考えをまとめる練習をする。そして3QTのグループワークで自分の意見を発言する際にそれを活かせるようにしたい。

面談後に学生自ら記入

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】夏期・冬期学生全員面談の成果

全員面談の実施状況の推移



実施期間：約14日間
実施率：約97%

キャリア意識の
涵養を念頭に
様々な学びの統
合的な言語化を
サポート



全員面談(オンライン)の様子
「学びと成長の記録」をもとに1人あたり約20分

「学びと成長の記録」に反映(2024年度夏期学生面談の記録)

夏期面談の記録(面談者コメント)

〇〇さんは、やっと大学に慣れてきたとの感想をお話でした。一度も欠席がなかったことは、「当たり前なこと」かもしれませんが、しっかりとセルフマネジメントができていた証拠だと思います。このペースを維持してくださいね。また、グループワークに関しても苦手意識がありながらも発言することに慣れてきたと言っていました。目標をもって取り組んできた成果ですね。ただ、会話がうまくできない人がいること、自分の意見を適切に表現できていないように感じる、との課題があるとのことでした。前者については、継続目標として、3QTのPBLで実践を積んでいくとのことでした。後者については、言語化ができるようにリフレクションに取り組みを意識していくことを話しました。たとえば、将来の夢であるアニメグッズの企画を実現するためにも、ただ観察するだけでなく、感じたこと等をメモに残し研究ノートをつくってみる、といった実践のアイデアもできましたね。ぜひ試してみましょう。応援しています。教員・〇〇

面談直後に担当者が記入
400字程度でまとめる

1 面談を踏まえたアクションプラン(夏休み・3QTの目標・行動計画)

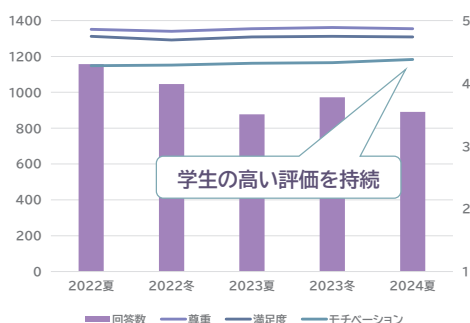
夏休みでは将来就きたい「キャラクターグッズ企画」の夢に一步でも近づけるように、グッズショップに何度も通い、すごいと思ったグッズなどを書き出していく「グッズ研究ノート」を作成する。相手に自分の考えていることを伝えることに対しての苦手意識を解消するために、リフレクションなどを使用して自分の考えをまとめる練習をする。そして3QTのグループワークで自分の意見を発言する際にそれを活かせるようにしたい。

面談後に学生自ら記入

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】1年次の全員面談の学生の受け止め方

面談に対する学生アンケート



学生の高い評価を継続

アンケート方法

面談終了後にMicrosoft Formsを用いて実施

【主な質問項目】

- ・面談者はあなたの考えを尊重しながら面談してくれましたか？(5件法)
- ・面談の満足度を教えてください(5件法)
- ・面談によって大学で学ぶことのモチベーションは上がりましたか？(5件法)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学びと成長の記録」や面談に関する上級生の声



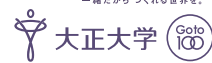
文学部 人文学科
国際文化コース 4年
赤野間 紀葵さん

1年次の「人間の探究」で作成した、大学入学までを振り返る「ライフラインチャート」や大学4年間の学びの計画を立てる「学びと成長の記録」は、自分自身を見つめ直す機会となり、自分の長所に気づくことができました。アットホームな雰囲気になれて入学しましたが、先生とのやり取りの中で自分にやれることは何だろうと考え始め、3年次にインターンシップで海外へ行きました。現地の課題解決に第Ⅰ類科目で学んだスキルが役立ったことは嬉しかったです。この経験をきっかけに今では海外に関わる仕事に就きたいと考えています。

「チュートリアル教育」を活かして、
自らのキャリア形成に関連づけながら
様々な学びを統合して主体的な学びを展開

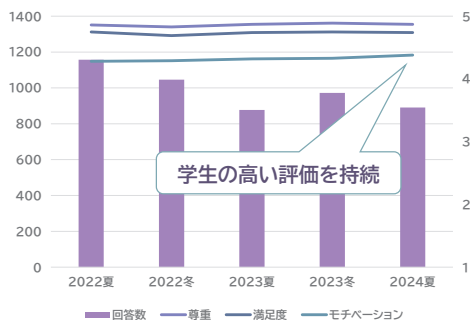
大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【参考】1年次の全員面談の学生の受け止め方

面談に対する学生アンケート



学生の高い評価を継続

アンケート方法

面談終了後にMicrosoft Formsを用いて実施

【主な質問項目】

- ・面談者はあなたの考えを尊重しながら面談してくれましたか？(5件法)
- ・面談の満足度を教えてください(5件法)
- ・面談によって大学で学ぶことのモチベーションは上がりましたか？(5件法)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学びと成長の記録」や面談に関する上級生の声



文学部 人文学科
国際文化コース 4年
赤野間 妃葵さん

1年次の「人間の探究」で作成した、大学入学までを振り返る「ライフラインチャート」や大学4年間の学びの計画を立てる「学びと成長の記録」は、自分自身を見つめ直す機会となり、自分の長所に気づくことができました。アットホームな雰囲気に惹かれて入学しましたが、先生とのやり取りの中で自分にやれることは何だろうと考え始め、3年次にインターンシップで海外へ行きました。現地の課題解決に第1類科目で学んだスキルが役立ったことは嬉しかったです。この経験をきっかけに今では海外に関わる仕事に就きたいと考えています。

「チュートリアル教育」を活かして、
自らのキャリア形成に関連づけながら
様々な学びを統合して主体的な学びを展開

大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【LMS(UR-note:修学カルテ)を活用】した学生の学修と成長の記録

学年	授業科目	UR-note イメージ	時期	学生の記録	その他
1年次	人間の探究Ⅰ・Ⅱ	人間の探究Ⅰ・Ⅱ～1・2QTの学びと成長の記録～ ☑	4月	入学時のわたしー多面的な自己分析(1年次 1・2QT)	※PROGの結果参考 ※SPI結果参考 夏期面談の記録記載 (面談者コメント)
			7月～8月	1・2QTの目標・計画・評価	
	人間の探究Ⅲ	人間の探究Ⅲ～3・4QTの学びと成長の記録～ 未来計画書～2年次以降に向けて～ ☑	11月	3QTの目標・計画・評価 (夏期面談の記録を含む)	PROG リテラシーコンピテンシー 冬期面談の記録記載 (面談者コメント)
			1月	4QTの目標・計画・評価	
2年次	リーダーシップⅠ	リーダーシップⅠ～目指したいリーダー像～ ☑	2月	1年を通した「学びと成長」ー多面的な自己分析(1年次 4QT)	※PROGの結果参考 ※SPI結果参考 PROG リテラシーコンピテンシー
	リーダーシップⅡ	リーダーシップⅡ～自己分析～ ☑	5月	未来計画書作成	
			6月～7月 or 9月～11月	2年次以降の「学びと成長」のプラン(冬期面談の記録を含む)	
			11月～12月	目指すリーダーシップについて (リーダーシップ像の再構築)	
	リーダーシップⅢ	リーダーシップⅢ～進路研究～ ☑	11月～12月	私の勤労観	
			1月	卒業後の目標の再設定	
3年次	(アントレ各コース)	アントレプレナーシップ育成教育プログラム「学修計画書」 ☑	4月	自己分析 (2年次時点)	修学カルテは、学生自身が学修や成長の過程を記録・振り返るためのツールであると同時に、教職員やチューターが学生の状況や経年変化を把握し、適切な支援を行うための指標としても活用できるものです。
			8月	これまでのガクチカ (高校から大学2年生春まで) 今後取り組みたいガクチカ (大学2年生夏以降から卒業まで) 自己PRの作成	

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

1) 学生支援とPDCAサイクル

■学生の実態の評価・掌握

学生の状況把握と評価については、以下の方法を組み合わせることで多面的にアプローチしています。これらの取り組みにより、学生の実態を総合的に把握し、適切な支援とPDCAサイクルによる改善を継続しています。

【状況把握】 学務システム(T-Po)の学生ポートフォリオでは、学生の成績履歴や履修状況に加え、資格取得状況や進路情報、キャリアセンターとの面談記録などを通じて、学生の状況を総合的に把握することが可能です。さらに、LMS(UR-note)の修学カルテを活用することで、学修と成長の経年記録を確認できるため、学生の将来の夢や目標に基づく学修計画や行動計画を具体化し、期末ごとの振り返りを通じて達成度を把握することができます。

【評価方法】 アンケート調査、PROG(能力診断テスト)、および進路調査の分析結果を活用しています。

アンケート調査: 授業評価アンケートにプラスして、学生自身の学修満足度や学修に対する理解度、成長実感を測定するために学生アンケートを実施しています。

PROGテスト: 入学時(4月)と3年次(12月)の2回実施しています。リテラシーとコンピテンシーの2つの観点から学生の能力別の成長度合(学修成果)を確認します。

進路調査: キャリアセンターが全3年生、4年生、卒業生を対象に継続的に進路調査を実施しています。この取り組みにより卒業後の方向性や就職活動の進捗を確認し、個別のサポート計画の立案に繋げていきます。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

2) 卒業生のモデルケースについて

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



2) 卒業生のモデルケースについて

第Ⅰ類から第Ⅲ類のプログラムを通じて成長を遂げた学生の「モデルケース」をいくつか提示します。

アントレプレナーシップ育成教育プログラムは、学生が第Ⅰ類から第Ⅲ類にわたる教育プログラムを履修し、将来地域戦略人材として活躍できる力を養うことを目的としています。基礎科目、スキル科目、実践科目(ワークショップ)の3つの領域から体系的に学び、成長できる仕組みになっています。

現在のところ、Ⅲ類のアントレプレナー育成教育プログラムを修了した卒業生はまだいません。そのため、現4年生が第Ⅰ類から第Ⅲ類を履修し、理論と実践を繰り返す中での学びや成長を「モデルケース」として紹介します。今後、卒業生が出た際には、中・長期的な視点を取り入れたモデルケースを追加し、プログラムの成果をさらに具体的に示していく予定です。

年度	対象学生	Ⅰ類 探究&DS教育開始 (2020年～)	Ⅱ類 学融合ゼミナール開始 (2021年～)	Ⅲ類 アントレ教育開始 (本格的には2023年～)
2020年度	社会人1年目(2020年入学)	○ ※Ⅰ類開始 DSは3学部のみ先行開始	—	—
2021年度	4年生(2021年入学)	◎ ※DS全学部で開始	◎ ※学融合ゼミナール開始	◎ ※アントレ3コース開始
2022年度	3年生(2022年入学)	◎	◎	◎
2023年度	2年生(2023年入学)	◎	◎	未受講(3年次から)
2024年度	1年生(2024年入学)	◎	未受講(2年次から)	未受講(3年次から)

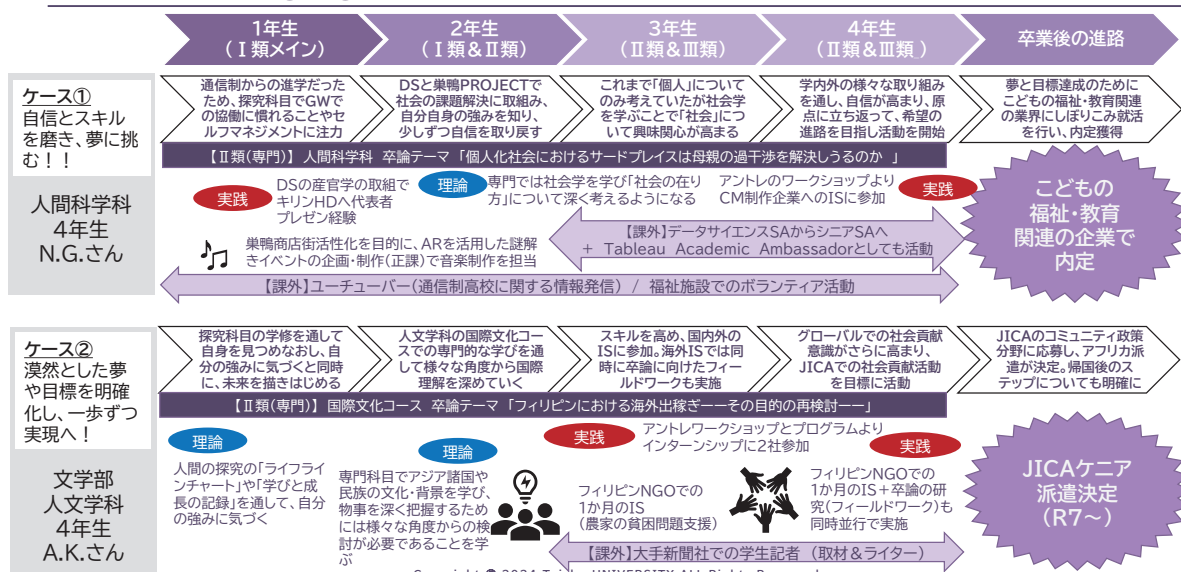
Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



モデルケース①・②

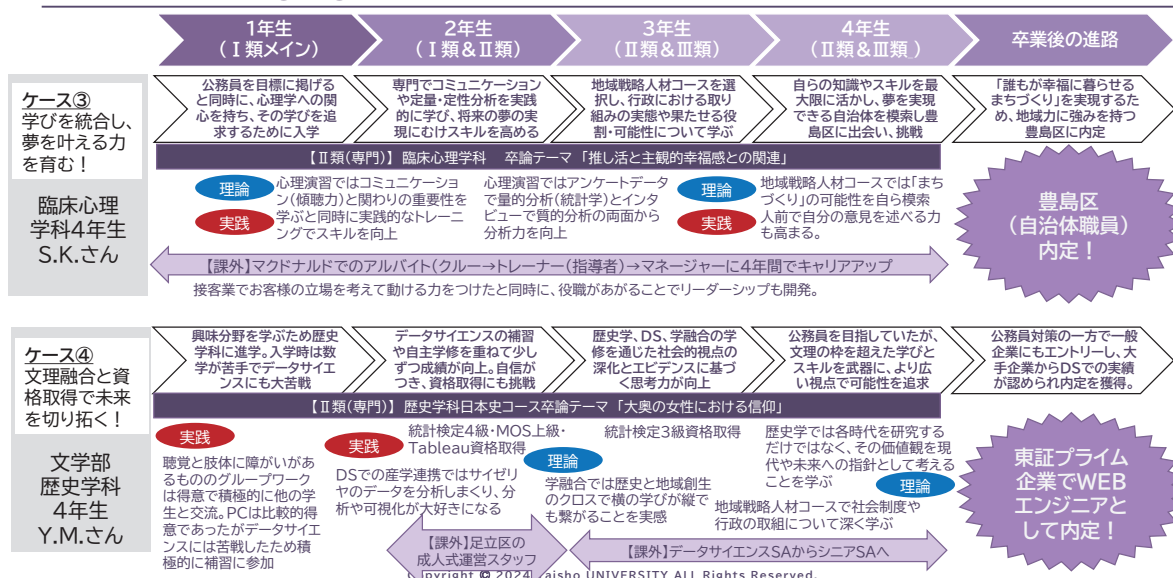


大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



モデルケース③・④



大正大学における第Ⅰ類科目から第Ⅲ類科目の取組

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



3) データサイエンス教育

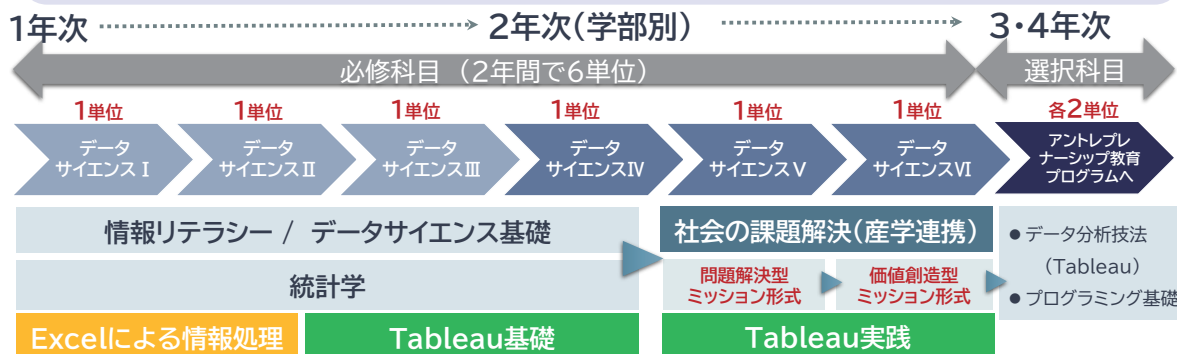
Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【確認】データサイエンス教育目標と教育プログラムの流れ

【データサイエンス教育プログラムでの教育目標】

主観的な判断ではなく、データをもとに意思決定を行うデータドリブンな思考を高め
社会の課題を解決し、価値を創造していく人材となる

つまり、特定の職業スキルとしてのデータサイエンティストを育成するのではなく、データを活用した論理的な意思決定力と課題解決能力を備え、あらゆる分野で社会に貢献できる人材を育成するプログラムである。



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

3) データサイエンス教育の必修科目としての継続について

本学のデータサイエンスプログラムは、文理融合の視点で設計されており、特定の職業スキルとしてのデータサイエンティストの育成を目的としていません。むしろ、データを活用した論理的な意思決定力や課題解決能力を養い、多様な分野で社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。このため、現時点では適性を理由にデータサイエンス教育の変更をする必要性は低く、大きな問題はないと考えます。

テストや課題は基礎的な内容(リテラシーレベル)を中心に構成し、復習や補習を通じて十分にクリアできる設計となっています。一方でその結果、プログラム開始の2年目には満点を取る学生が続出し、成績配分に課題が生じたため、上位層の学生間で差が出るような出題方法の工夫を進めてきました。また、「物足りない」という声を寄せる学生が一定数存在していたことに加え、上層学生のさらなる成長の可能性を担当教員の複数が感じていたことから、R6年度よりアドバンスクラスの設置に踏み切りました。

プログラム設計自体には大きな問題はないと感じていますが、一方で、学生自身の高校時代の数学アレルギーに起因する「食わず嫌い」の傾向がわずかに見られます。これに対応するため、チュートリアル教育におけるチームティーチングの力を活かし、各学生に適した学修支援者(教員、チューター、SA)や支援方法を用意しています。これにより、「まずはやってみよう」という姿勢を促すための個別の立て直し体制を盤石に整えています。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

2. 事業の報告

(1) 「探究科目」

「探究科目」について



トランジション教育チーム長
歴史学科・准教授

櫛田 良道

本学は「智慧と慈悲の実践」を建学の理念と教育・研究の根幹に位置づけ、変容を遂げていく社会状況の先を視野に入れながら、その都度教育改革を繰り返してきました。令和5年11月から神達知純先生が学長に就任されると、本学の教育ビジョン「4つの人（慈悲・自灯明・中道・共生）となる」を用いた「『4つの人となる』ための10の力」（以下、「10の力」）が新たな学力観として示されました。これによって、4つの人が建学の理念を示し、「10の力」が汎用的な資質・能力を示すものとして、全学DPにも紐付けることで、さらなる地域戦略人材育成を目指すことになりました。そこで先ず、令和6年度からは全学に先がけて、第Ⅰ類科目で「10の力」を実装した授業運営を開始しました。これにともない、第Ⅰ類科目では従来の教育目標と育成する資質・能力に関しても見直し、各科目で関連する教育目標を設定しました。その結果【図】のように整理されました。このように教育目標が改めて整理されることによって、学生自身も第Ⅰ類科目の各授業において、実際にどのような力を身につけていくのかを理解でき、より一層の主体的な学修態度へ繋がっていくことが期待されます。

2024年度 第Ⅰ類科目の教育目標		慈悲		自灯明		中道			共生		
		他者に 共感する力	物事の 本質を 見極める 力	自分自身 を理解 する力	自分事 として 問いを 立てる力	根拠に 基づいて 思考する 力	自分 らしい 方法で 表現する 力	みずから の主張を 吟味し、 ふりかえ る力	多様性を 尊重する 力	新たな 価値を 創造する 力	他者と 対話し、 協働する 力
人間の探究			○	◎	◎			◎	○		○
社会の探究		◎	○	○			○	○		○	◎
自然の探究			○	○	◎	◎	○	○			
リーダーシップ	I	○	○	◎	○		○	○	○	○	
	II			○	○		◎			○	
	III			○	○		○	◎		◎	
データサイエンス	I～V		○	○	○	◎				○	
	VI		○	○	○	◎				◎	◎
総合英語		○					◎		◎		○

【図】 2024年度 第Ⅰ類科目の教育目標 ※ ◎＝特に重点を置いて育てる資質・能力

これまで、探究科目では専門パートと共通パートの2つの講義内容を設け、学生はそれぞれの学びを統合させて知識を身につけるという授業方針で進めてきましたが、令和6年度の授業は、上記の新たな教育目標の下でスタート致しました。今まで、そうした構造での授業は順調に運営されてきましたが、今年度は、学生が2つのパートの学びをより統合的に学習できるように、共通パートと専門パートを担当するそれぞれの教員が授業内容の接続性、授業運営の連携の強化を図りました。具体的には、1QT開始前の講師会にて、令和5年度に多くの学生の共感を得ていたクラスの実践内容を好例として担当教員に示し、2QT終了後（期中）の講師会にて各クラスの実践をふり振り返り、あらためて4QT（期末）に向けた意識合わせをおこないました。両パートの教材や講義内容の統合はもちろん、教員やクラスチューターらの学修支援者としての連携の在り方なども含め、各科目内での意識合わせの確認をしました。結果として科目の目的実現に向けたチーム・ティーチングの深化を図ることができました。

ここからは各科目における授業への取り組みと工夫などについて報告させていただきます。

「人間の探究」科目では、「自分自身を理解する力」（自灯明）を中心に、「物事の本質を見極める力」「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」「多様性を尊重する力」「他者と対話し、協働する力」の育成を教育目標としました。この目標達成に向けて授業内容や方法の見直しを行い、また、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけられるよう取り組みました。1QTでは、「これまでのわたし」をテーマに、時間管理やノートテイク、メール活用などの基礎スキルを強化しました。特に、修学カルテ「学びと成長の記録」を活用し、PROGによる自己診断で自身の強みや弱みを把握し、目標と具体的なアクションプランを設定する仕組みを導入しました。このプロセスは2QTおよび4QTにも継続し、学生が達成状況を振り返りながら学修計画を立て、主体的に学びに取り組む姿勢を育てる体制を整えました。また、リフレクションの重要性を理解させるため、授業内容を見直し、関連イベントや教員による「リフレクションの紹介」を実施するなどの工夫もしました。担当教員がリフレクションの好例を紹介することで、学生が他者の学びからヒントを得る機会を提供しました。期末課題としては「自己紹介スピーチ」を取り入れ、自己理解と表現力の向上を図りました。続いて、2QTでは「いまのわたし」をテーマに、主体的な学びの経験や「大学で学ぶ意味」を考える授業を展開しました。自己理解を深めるエッセイ執筆を課題とすることで、学生が自身の学びを振り返り、モチベーションを高めることを目指しました。そして、4QTでは「大正大学の教育と地域社会」へテーマを改定しました。本学の学びが地域社会とどのように結びついているのかを学び、先輩の事例を参考にキャリア形成の具体的なヒントを得る内容に変更しました。また、「ありたい自分」を描くことを重視し、10年後の自分と世界との関係を考えながらキャリア意識を高めました。その集大成として「未来計画書」を作成し、2年次以降の学修に活かせる学びを促進しました。

「社会の探究」科目は、「他者と対話し、協働する力」を身につけ、さらに磨くことを目的としています。この目的を実現するために、グループ学習を通じて問題解決型学習（PBL）を実践し、基本的なソーシャルスキルやプレゼンテーションスキルを修得する共通パートと、クラスごとのテーマに基づき自己と地域・社会との関わりを考察しながら専門的な視点や基礎知識を身につける専門パートを組み合わせています。この取り組みにより、学生の知的好奇心を刺激しながらの汎用的技能の修得を目指しています。共通パートでの特筆すべき取り組みとしては、以下の三点が挙げられます。第一に、学生の学びへの動機づけを図るため、2QTおよび4QTの初回授業で「地域プロジェクト」（第Ⅲ類科目）に取り組む先輩学生によるプレゼンテーションを実施しました。授業後の履修学生のリフレクションからは、先輩たちの学修姿勢、プレゼンテーションスキルや協働的な活動の意義を評価し、自身が成長するためのロールモデルに位置づける声が多く寄せられました。このことから、この取り組みは、学生の学びへの動機づけに大きな効果をもたらしたと判断できます。第二に、「他者と対話し、協働する力」の育成を支援するため、学修成果を可視化する仕組みを導入しました。具体的には、本学のLMS（UR-note）を活用してグループワークの相互評価を実施したのですが、学生たちは、ここで受けた評価を通じて自身の課題を発見し、目標設定を行う自律的な学修サイクルを形成しました。この取り組みの成果は、2024年8月の初年

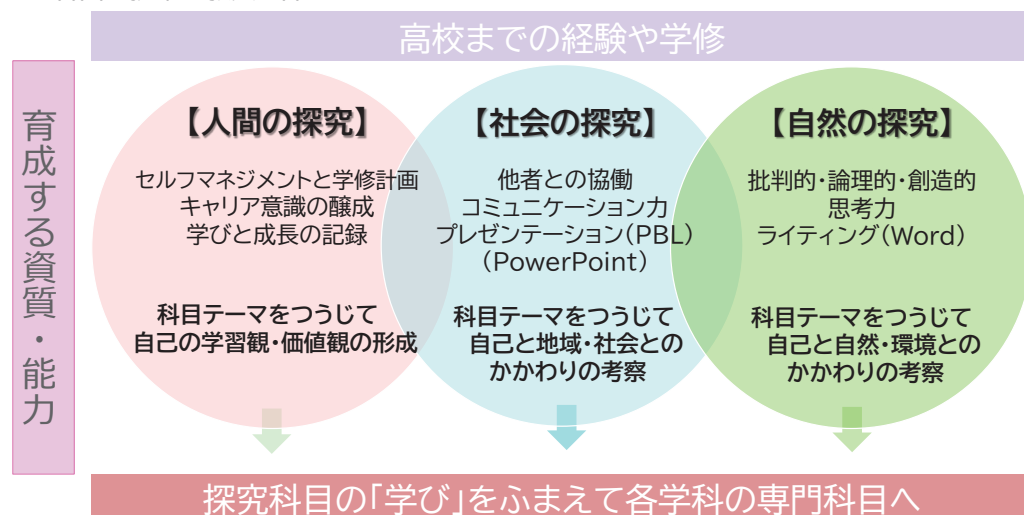
次教育学会第 17 回大会で報告することもできました。第三に、4QT 最終回では、全クラスの教室をライブ配信でつなぎ、PBL の成果を発表するプレゼンテーション大会を開催しました。各クラスの代表チームの発表を全学生が評価し、優秀チームを表彰する仕組みを設け、学修意欲の向上と相互学習を促すだけではなく、専門パートの教員が審査員として参加し公開で講評を行うことで、すべての学生がさらなる向上を目指せる助言を得られる場を提供しました。この大会は、専門パートと共通パートの連携強化の具体的な施策であり、学生の統合的な学びの促進に寄与するものとなりました。

「自然の探究」では、専門パートで『『自然』をめぐる問題』を学び、その内容を共通パートで学ぶレポート・ライティングの技術にもとづき、いっそう探究（研究）するという構造で授業を展開しています。学生はこの中で、授業で扱う「自然」をめぐる問題にいっそう迫り、自分なりの「問い（疑問）」を抱き、その問いへの「答え」を考え、その主張の妥当性を「根拠をもって」論じることを経験します。本科目ではこの一連の作業を、作業条件の軽重をつけて3つのQTで繰り返しおこなうこととなります。したがって、本科目教育目標は、「自分事として問いを立てる力」「根拠に基づいて思考する力」に重点を置いて育成することとしました。以上にもとづくと、学生における到達目標達成のかなめは、共通パート×専門パートの連関であることが明らかになります。その連関が学生の学修経験上、有機的であり、かつ円滑であればあるほど、到達目標が達成されやすい条件が整う、といえますので、今年度は共通パート×専門パートの「統合」に重点を置いて促進してきました。本年度開講前の講師会では、全科目担当の教員に向けて「共通パートと専門パートとの『統合』促進のための観点」を発信し、その観点にもとづき授業展開するよう依頼をしましたが、各教員側からも「共通×専門パートの統合」についてアイデアが出てくるなど、「統合」にまつわるFD文化は醸成されていきました。そうした担当教員同士の連関性を意識した授業内容によって、2QT期末に学生に対しておこなったアンケートでは、学生の70%以上が、共通パートと専門パートを統合させ、探究（研究）できたと回答しました（答数949件、「とてもできた」10.3%「できた」60.8%の合計）。多くの学生において、本科目が1つの有機的な経験であることが見て取れたと言えます。また、各QT終了時に実施したアンケート調査では、到達目標に対する学生の自己評価を集計しましたが、その評価は、QTを重ねるごとに達成度が向上していました。そうした点からも、授業改善によって、学生にとっての目標達成のプロセスが明確にされ、学びを深める契機が提供されたと判断できます。

探究の各科目の報告としては以上となりますが、冒頭でも述べましたように、今年度は全学に先駆けて新たな学力観「10の力」を実装して授業をスタートしました。情報化社会での活躍を求められる現代の学生にとっては、本学の建学の理念が10の学力観として細分化されることで、より明確なものとして捉えることができるようになったと思われます。そして、それを基盤としながら学生自身の主体的学修態度の醸成へと結びつけられることが期待されます。前掲の【図】に表されているように、各科目で特に重点を置いて育成する力はI類全体を通して見ると点在していますが、それらを個々に見つめるのではなく、一つの集合体として捉えることで、本学が目指す統合型教育を可視化できるのです。つまり、各科目における教育目標に即した育成を深めることで、知識集約型の教育をより実現度の高いものへと導き出すことが期待できるでしょう。さらに今年度は、最終的には専門パートと共通パートの「統合」という部分に観点を絞ることで、統合型教育が実際に果たされているのかを実証していきます。ここには各探究科目での、専門・共通両パートの授業内容や教材の面での連関性はもちろん、教員同士の連携度合いなどもその指標に含まれます。それらの結果で、学生個人の学修態度が主体的なものへと導かれていくのかどうか、また今後のキャリア形成に寄与するものであるのかということを意識しながら、教育改革を進めていきたいと考えています。

探究科目の概要—統合型の教養教育—

- 探究科目は人間・社会・自然という3つの科目群から構成
- 各回の授業は教員2名&チューターによる**チームティーチング**



探究科目担当チューターの主な業務内容

コアチューター

1. 教職員と連携したより良い学修支援の仕組み構築と運営
(グループワークなどの授業内学修支援、各学科教員との情報共有・打ち合わせなど)
2. クラスチューターのマネジメント
3. 全1年生を対象とする「学生面談」の運営・実施(夏冬年2回)
4. 「学修相談コーナー」の運営
5. 学修イベントの開催、各学科との連携ミーティングなど、学生の学びと成長を支える施策の実施

クラスチューター

1. 授業担当教員・コアチューターと協働した、グループワークなどの学修支援
2. 授業後に学生が入力した「授業の振り返り(リフレクション)」へのコメント返却
3. 全1年生を対象とする「学生面談」の実施(夏冬年2回)

※「学修支援」とは
授業中の指導、欠席者・課題未提出者の洗い出しおよびフォロー、授業外の指導・面談など、総合的な学生の学びに対するサポート

(2) データサイエンス教育

データサイエンス教育について



学修支援センター
教授

前田 長子

大正大学が展開するデータサイエンス教育プログラムは令和2年度にスタートし、学生がデータを活用して社会課題を解決し、価値を創造できる人材へと成長することを目標として様々な取組みを実施してきました。このプログラムは、文系学生を対象としながら、多様な背景を持つ学生にも対応できる教育設計を備えています。さらに、実践的かつ段階的な学びを提供するカリキュラム構成と、学生一人ひとりを支える包括的な学修支援体制により、データサイエンス教育のモデルケースとして注目されています。

本教育プログラムの基盤となるのは、データサイエンスⅠ～Ⅵの6科目から成る必修科目です。1～2年次の2年間にわたる学びは、1年次にExcelやTableauを活用しながらデータリテラシーや統計学の基礎を習得し、2年次には産官学連携先から提供された実データを用いた実践的な課題解決に取り組むという構成になっています。これにより、理論と実践の双方をバランスよく学べるよう設計されています。社会でのリアルな課題に向き合う機会として、三鷹市の政策課題解決や、サイゼリヤの販売データ分析、麒麟のヘルスサイエンス事業に関する提案など、具体的かつ実践的なプロジェクトが課題として提示されます。学生は、これらの課題にチームで取り組み、最終的に企業や自治体の担当者に対してプレゼンテーションを行います。これにより、単なる教科書の知識を超え、データサイエンスを活用した価値創造のプロセスを体感することができます。また、授業の最終回では、産官学連携先の担当者から評価やフィードバックを直接受けることで、実社会の視点を学び、さらに学習意欲を高めることができます。

さらに、1・2年次での学びを基盤としつつ、3・4年次にはアントレプレナーシップ教育プログラムの中で、データサイエンスの発展学修の場を提供しています。これにより、履修希望する学生は専門性をさらに高め、学んだ知識を応用して新たな価値を創造する力を磨くことができます。こうした段階的な学びの設計により、初学者からスキルを持つ学生まで幅広く対応可能な教育プログラムとしています。

令和6年度はデータサイエンス教育が始まって5年目であり、新たな取り組みとして、1年生にアドバンスクラスを設置しました。令和2年度以降、入学時のITリテラシーの格差が拡大し、サポートが必要な学生とスムーズに学修を進められる学生との差が広がることが経年的な課題となっていました。特に、1年生の段階から上位層の学生を伸ばす必要性が高まり、この格差を早期に是正し、能力の高い学生の成長を促進するため「アドバンスクラス」を新設しました。クラス分けは、入学時の基礎学力テストの結果に加え、高校でのExcelや情報教育の履修状況を基に判断しています。令和6年度におけるアドバンスクラスの対象学生は、1年生の約1割にあた

る約 100 名です。

授業内容は、MOS（Microsoft Office Specialist）エキスパート資格の取得や、統計検定 4 級を目指すカリキュラムが含まれており、学生が早期に高度なスキルを習得できる環境が整えられています。一方で、基礎的な学修が必要な学生には反復学習を重視した教材や演習を提供し、基礎から応用まで一貫して学べる学修支援体制を作り上げています。

また、SA（Student Assistant）の学修支援力やリーダーシップ力が向上していることを踏まえて、SA の育成および学修支援の牽引役としての役割を担うため、1 年以上の経験を持つ SA を対象とした「シニア SA 制度」を導入しました。令和 6 年度は 62 名の SA のうち 14 名がシニア SA として活躍しています。彼らは日々トライアンドエラーを繰り返しながら、自身のスキルアップに取り組むとともに、学修支援全体の質の向上にも貢献しています。

令和 6 年度の目標として、単位未取得者の割合を 3 % 未満に設定しました。また、データサイエンス教育の学びを資格取得につなげるため、資格試験の目標合格率は 80 % と高い水準を掲げています。しかし、令和 6 年度は単位未取得率を 3 % 未満に抑えられない期がやや増加しています。ただしさまざまな取り組みにより出席率は改善傾向にあり、今後の課題は「出席しているが単位を取得できていない学生」への支援強化です。

また、今年度から授業内での生成 AI の活用方法について模索を開始し、1 年生向けに実践的な学習を重視したハンズオン形式の特別講義を導入しました。さらに夏のデータサイエンス特別プログラムでは、有資格者のみが受講可能な生成 AI（ChatGPT）活用講座を開講し、学生が AI を実用的に活用するスキルを習得する機会を提供しました。本講座では、AI を活用したアイデア発想や企画書のドラフト作成などの実践的なスキルを学び、学生からは非常に高い満足度を得ています。なお、プログラムを 10 時間受けた学生には修了証を配布しています。

夏のデータサイエンス特別プログラムについては、資格合格率 80 % を目標に掲げていましたが、達成には至りませんでした。しかし、合格者数は過去最大となり、5 つの資格において延べ 250 名が合格しました。また、受講者に対する合格率は 55 %、受験者に対する合格率は 95 % と高水準を維持しています。これにより、本プログラムが資格取得を促進する有効な機会となっていることが示されました。

また、学生の学内での活躍について、Tableau Academic Ambassador のグローバル選考で昨年度は 1 名、今年度は 2 名が採用されるなど、着実に活躍の場を広げています。また、今年度採用された 2 名は、オープンキャンパスにおいて高校生や保護者向けに Tableau のハンズオンを実施するなど、学内外で Tableau の普及活動に積極的に取り組んでいます。コンテストについては、12 月に Tableau の学外のコンテストがあり、優秀賞を受賞しています。このような活動は、学生のモチベーションを高めるだけでなく、プログラム全体の価値を高めるものとなっています。

学習管理システム（LMS）の活用もこのプログラムの重要な要素です。昨年度は LMS の導入 1 年目として、トライアンドエラーを繰り返しながら運用を進め、学生向けにテスト対策用の自主学修問題の配布に取り組みしました。しかし、問題量の不足や難易度の低さなど、さまざまな課題が浮き彫りになりました。現在は、学生のニーズに応じて難易度別に問題が用意されており、本年度は問題数がさらに増加しました。加えて、ランダム出題形式が導入され、より効果的な学習環境が整っています。これにより、学生は反復学習を通じて知識を定着させ、テスト対策をより効率的に進めることが可能となりました。昨年度は LMS 導入の準備に十分な時間を割くことが難しい状況でしたが、運用の改善により、より充実した学修体制が整いつつあります。

LMS の一環である UR-note を活用した自主学修には、約 80 % 以上の学生が取り組んでおり、高い評価を得ています。学修時間についても、学生の自己申告ではありますが、過去の記録と比較して増加傾向にあります。LMS を活用した自主学修に関しては、アドバンスクラスの学生にはより高度な問題を、習熟度の低いクラスには基礎的な問題を提供するなど、学生のレベルに応じた調整が求められています。また、問題数が多すぎると学修意欲が低下するという意見もあり、適切な難易度設定と問題量のバランスを取ることが課題となっています。

一方で、LMS の問題を積極的に活用しようとする意識は着実に高まっており、今後もより効果的な活用方法を模索しながら、学修成果の向上につなげていきたいと考えています。

総括すると、大正大学のデータサイエンス教育プログラムは、単なる知識の伝達に留まらず、実社会で活躍できる力を養うことを目指した教育活動と言えます。このプログラムは、段階的かつ実践的なカリキュラム、学生の多様なニーズに応える支援体制、そして産官学連携や資格取得支援を通じた学生の成長を促す仕組みを構築しています。データドリブンな意思決定が求められる現代社会において、今後も学生にとって極めて重要な役割を果たすといえます。社会的な課題解決と価値創造を実現する人材を育成するためのさらなる発展を目指していきます。

令和6年度 第Ⅰ類科目 データサイエンス科目について

MAKE YOUR UNIVERSE.

一緒だからつくれる世界を。



大正大学



第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

本日の目次

MAKE YOUR UNIVERSE.

一緒だからつくれる世界を。



大正大学



Résumé

1. R2からの取り組みとデータサイエンス教育プログラムの概要について
2. R6_目標設定と定量目標の進捗状況
3. R6_学修支援面での重点課題と進捗状況 ① SSA制度の導入と育成
4. R6_学修支援面での重点課題と進捗状況 ② UR-noteの活用推進
5. R6_秋学期に向けての重点課題

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

1. R2からの取り組みと データサイエンス教育プログラムの概要について

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和2年～6年度にかけての取組の流れ

- R2** ✓ 令和2年度4月から先行3学部で前期共通教育でデータサイエンスⅠ～Ⅲを必修科目として開始
✓ データサイエンスⅢ(第4QT)からTableauを取り入れた学修を開始。チュートリアル教育開始
- R3** ✓ 令和3年4月から全6学部でのデータサイエンス教育を展開
✓ 2年次の必修科目であるデータサイエンスⅣ～Ⅵの授業を開始(先行3学部の2年生対象)
✓ データサイエンスⅣ、ⅤではTableauを活用した産官学連携の取組を開始
(株)サイゼリヤ様、三鷹市様、ニューラルポケット(株)様の2企業、1自治体と連携をスタート
✓ 学生の学外コンテストの参加支援開始。チューターにプラスしてSAの導入も開始
- R4** ✓ 「MDASH Literacy」および「MDASH Literacy+」に選定される
✓ 産官学連携先は、令和3年度の連携先に加えて、麒麟ホールディングスヘルスサイエンス事業様、Softbank(株)様、ガモールマルシェと5企業、1自治体となる
- R5** ✓ 夏休み、春休みを活用した年2回の資格取得のデータサイエンス特別プログラム(正課外)を開始
✓ データサイエンス科目Ⅰ～Ⅵの発展学修として、アントレプレナーシップ教育で2つの科目を開講(データ分析法、プログラミング基礎)
- R6** ✓ データサイエンス科目Ⅰ～Ⅲでのアドバンスクラスの設置開始 (2クラス)
✓ SAのマネジメントや育成を行う、シニアSA制度の導入 (3・4年生14名)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

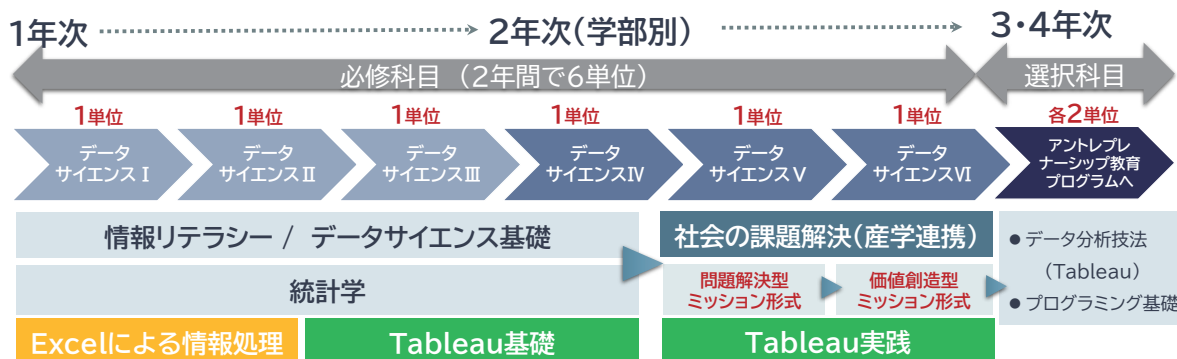
第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

データサイエンス教育目標と教育プログラムの流れ

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



【データサイエンス教育プログラムでの教育目標】
主観的な判断ではなく、データをもとに意思決定を行うデータドリブンな思考を高め
社会の課題を解決し、価値を創造していく人材となる



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

分かりやすさと反復学修について

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



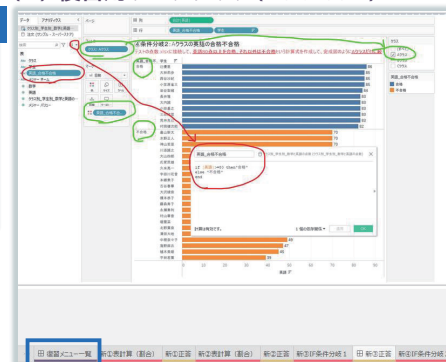
学生が自分事として学修できることを目指し、社会での様々な分野での身近なテーマを教材として扱っている。数学の苦手な学生のために、講義と合わせてExcelやTableauでも学んだ統計を繰り返し復習できる教材を開発し、さらには復習用の演習(ワークブック)の提供なども行い、学生が常に反復学修ができるように工夫している。

(1)「頭で理解する」と「手を動かす」のセットで学修の流れ

例:分散・標準偏差



(2) 復習用ワークブック (Tableau)



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



実データ・実課題を活用したリアリティのある学修について

産官学連携先からは連携先が直面するリアルな課題の提示を受け、その課題解決のために活用できる実データの提供を受けている。実データを用いて実課題を解決する実践型の演習を段階的に充実させていくことによりデータサイエンスを学修する意義を実感させ、学修意欲を高めている。またデータサイエンスⅤ、Ⅵの最終回では産官学連携先が授業に参加し、プレゼンの講評やフィードバックを行うなど、リアリティのある学びの場となっている。

学部学科	R6 産学連携先	R6 DSVI「価値創造型」ミッション内容	提供いただくデータ
心理社会学部	キリンホールディングスヘルスサイエンス事業 	サプリメントの「iMUSE」3つの商品のうち、今後注力すべき商品は何か、アンケートデータの分析からも考察を行ったうえで、理由とターゲットを明確にし、拡充策を提案する	・顧客ごとの購買データ ・Webアンケートデータ
表現学部	ガモールマルシェ ソフトバンク株式会社 ニューラルグループ株式会社 	大正大学の運営するガモールマルシェにおける販売数向上を目的とし、POSデータを含む複数データを活用した分析結果をもとに示唆を見出し、施策を提案する	・販売POSデータ ・購入者の属性データ ・店舗内外カメラによる人流データ
地域創生学部 社会共生学部	三鷹市企画部企画経営課 	三鷹市の政策課題からテーマを選び、2022年に実施した2つの調査をもとにし、さらにオープンデータも活用して、現状と課題を多面的に明らかにする。その上で、新しい価値創造につながる具体的な解決策を提案する	・介護予防・日常生活圏ニーズ調査 ・第5次三鷹市基本計画策定に向けた市民満足度調査
文学部 仏教学部	株式会社サイゼリヤ 	サイゼリヤの2年間の販売データ(POSデータ)から、サイゼリヤのディナーの売上を伸ばす要因を分析してください。オープンデータも活用して「ディナーの売上」の課題を発見し、新しい価値を創造できる解決策をご提案ください。注文点数が増え、より豊かで「楽しい食卓」となるように考えてください。	・全メニューのPOSデータ ・22年秋～24年夏ディナータイムのみ(販売価格マスタ) ・レシートデータ

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



チームティーチングと「ひとりもとこぼさない学修支援」の実践

教員、チューター、SAのチーム・ティーチングと授業前後の学修支援で、学生の主体的学びを推進する体制を構築し、文科系学生を念頭に学修者の苦手意識の克服・リテラシー向上を重視したデータサイエンス教育を推進している



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



R6_データサイエンス科目のクラス編成について

データサイエンスⅠ～Ⅲは習熟度+ITリテラシーレベルを踏まえたクラス編成となっており、学生の状況に応じた授業運営を行っている。特に習熟度や理解度が低い学生に対しては基礎的内容の反復や個別学修支援の強化などに取り組んでいる。またデータサイエンスⅣ～Ⅵは学科別クラスとなっており、産官学連携先や扱うデータや課題解決ができるだけ専門の学問につながるように工夫している

R6 1年生（学部混成13クラス）

木曜日クラス 1限目	金曜日クラス 1限目
A: 習熟度低クラス	A: 習熟度低クラス
B: 習熟度低クラス	B: 習熟度低クラス
C: 普通クラス	C: 普通クラス
D: 普通クラス	D: 普通クラス
E: 普通クラス	E: 普通クラス
F: 普通クラス	F: Adv.クラス
G: Adv.クラス	

R6からアドバンスクラス
2クラス設置

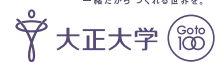
R6 2年生（学部学科別14クラス）

学部学科	クラス数	産学連携先
心理社会学部	3クラス	キリンホールディングスヘルスサイエンス事業
表現学部	3クラス	ガモールマルシェソフトバンク株式会社 ニューラルポケット株式会社
地域創生学部 社会共生物学部	3クラス	三鷹市企画部企画経営課
文学部 仏教学部	5クラス	株式会社サイゼリヤ

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



R6_アドバンスクラスの新設について（2年生はR7より）

【アドバンスクラス設置の背景】

- ✓ 高校までの情報教育の差により、入学時のITリテラシー格差が年々拡大傾向にあるため
- ✓ 1年次からの上位学生への早期育成に着手するため（これまでは2年次以降）

【DSⅠ～Ⅲのアドバンスクラスの方向性について】

- クラス数: 木1クラス、金1クラス 各約50名 合計100名弱
- 担当教員: 佐藤 晋也先生+SSA
- 教育目的: 通常クラスの教育目的にプラスしてMOSエキスパート、統計4級レベル相当の授業内容とする
- 成績評価: 学年全体として判断し、成績評価とする（傾斜配分）

【DSⅠアドバンスクラスの教育目的の例】

データサイエンスとは何かを学び、更に身近な事例や社会で活用されている事例を通してデータを活用するスキルの必要性を理解すると同時に、統計学の基礎知識を習得する。またPCやデータを利用する際に必要となる情報リテラシーについても学ぶ。演習では統計の基礎知識と連動して、Excelの基礎・応用的な操作を習得する。すでに入学までにExcelの基本的な手技が身につけていることを前提とし、MOS Expert資格および統計検定4級レベルに相当する内容を扱う。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_シニアSA制度の導入について

【シニアSA導入の背景】

- ✓ データサイエンス科目を学修支援できるチューターの確保が年々困難になってきていること
- ✓ 既存のSAの中にチューターと同レベルの学修支援力が備わっている学生が複数出てきたこと

【シニアSAの対象学生】 ※R6は14名採用

- SA1年以上経験の3・4年生の中から更に学修支援力、リーダーシップ・マネジメント力を高めたい学生

【データサイエンス科目受講者への効果】

- ① 学生が苦手なことにでも向き合える学修環境の構築
- ② 学生・後輩のロールモデルとしての存在

【シニアSA自身の資質・能力の向上への期待】

- ① 実践的な業務や授業外の学修支援を通じて、主体的な学びの創出
- ② リーダーシップ開発、キャリア開発、情報処理に関するスキルアップ

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

2. R6_目標設定と定量目標の進捗状況

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_データサイエンス科目チームの目標と重点課題

【R6_定量目標】

- ① 単位未取得者3%未満の目標継続
- ② 春夏の特別プログラムでの受講者に対しての合格者率80%の達成
 🏠adv.クラスの特別プログラムの受講率90%と受験者合格率90%達成(基本:MOS上級、統計4級)
- ③ 学外コンテストへの4チーム参加目標 (R5は3チーム)

【学修支援面での重点課題】

- ① シニアSA制度の導入と育成
 - ✓ SSA14名→SSA制度(マネジメント含)の導入と定着
 - ✓ SA48名の育成とのSSA候補者の抜擢と早期育成
- ② UR-noteの活用推進
 - ✓ UR-noteの自主学修問題のレベルアップ
 1. 特別プログラムの自主学修問題の配信
 2. 難易度別(A~Cランク)の問題のAランク問題の充実
 3. 自主学修問題数アップとランダム出題の実施

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_データサイエンス科目の単位履修状況 : 定量目標①

単位未取得者3%の目標は未達状態。1年生は成績不振者や休みがちの学生に対して、2QT開始時に探究科目チームのコアチューターと連携して、101名の学生と個別面談を実施。前年と比較すると出席状況は改善されたが(R5_85.2%→R6_89.6%)単位未取得者は微減にとどまったため、4QT以降の立て直しに取り組む

R6 入学生	R6(2024年入学:1年生時)		
	DSⅠ	DSⅡ	DSⅢ
学生数	1,048	1,049	
単位未取得者	28	65	
単位取得率	97.3%	93.8%	

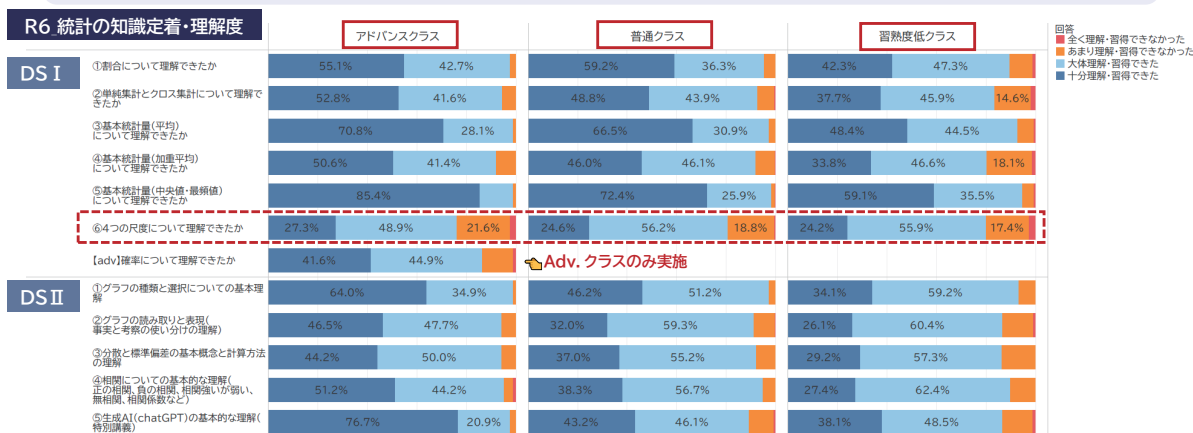
R5 入学生	R5(2023年入学:1年生時)			令和6年度(2年生次)		
	DSⅠ	DSⅡ	DSⅢ	DSⅣ	DSⅤ	DSⅥ
学生数	1,212	1,210	1,177	1,130	1,119	
単位未取得者	38	76	93	84	91	
単位取得率	96.9%	93.7%	92.1%	92.6%	91.9%	

※QT末時点での休退学学生除く

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】1年生 統計の知識定着・理解度(習熟度別学生の自己評価)

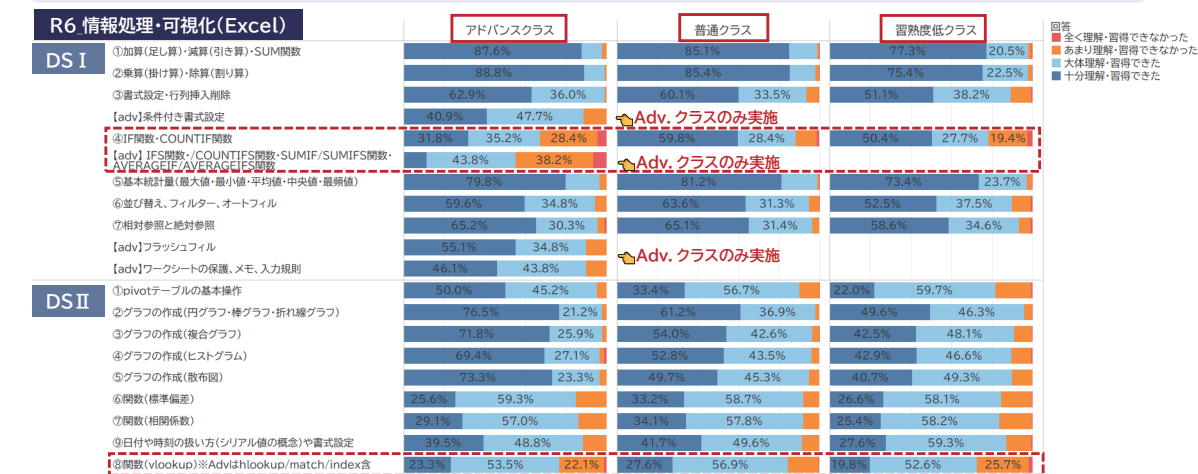
全体的にアドバンス>普通クラス>習熟度低いクラスの順に統計の知識定着理解度となっている
4つの尺度については3クラスとも「あまり理解・習得できなかった」の割合が高い。対策を検討していく必要がある。
習熟度が低いクラスの「あまり理解・習得できなかった」の割合が高い授業テーマについても対策を検討する必要がある



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】1年生 情報処理・可視化(習熟度別学生の自己評価)

全体的にアドバンス>普通クラス>習熟度低いクラスの順にExcelの習熟度が比例している
アドバンスクラスのIF・IFS関数の習熟度が低めで、ボリュームと学修時間の配分が一致していない可能性がある



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第 I 類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



R6_夏の特別プログラム_講座一覧 : 定量目標②

R5まで5講座を開講していたが、
R6夏休みより生成AIの特別プログラムを新規で開講(2日間10時間)

NO	名称	対象の資格・試験	対象者	資格・試験の主催
1	Tableau Desktop Specialist 対策講座	Tableau Desktop Specialist	データサイエンス I ~ VI 修了学生 1年生対象外	Tableau Software
2	MOS Excel 一般レベル 対策講座	マイクロソフト オフィススペシャリスト Excel 一般レベル	特に指定なし	Microsoft
3	MOS Excel 上級レベル 対策講座	マイクロソフト オフィススペシャリスト Excel 上級レベル	Excel 一般レベル 資格保有者がのぞましいが 必須ではない	Microsoft
4	統計検定4級 対策講座	統計検定 4級	特に指定なし	一般財団法人 統計質保証推進協会
5	統計検定3級 対策講座	統計検定 3級	4級資格保有者がのぞましいが 必須ではない	一般財団法人 統計質保証推進協会
New !	ChatGPTの実践的 活用力の向上のための講座	2日間(10時間)参加した学生には 修了書を発行	【50名限定】2年生のみで ①3年次にアントレ教育プログラム へ進む予定の学生 且つ ②1年次DSの成績がすべてA以上	株式会社DIK & Companyより 修了書を発行

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第 I 類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



R6_夏の特別プログラムの結果状況 : 定量目標①

◆R6夏_合格者数進捗状況◆

- ✓ R6_夏休みのプログラムの受講生はのべ451人でそのうち受験者261人、合格者が250人(受講者に対しての合格率は約55%、受験者数に対しての合格率は96%)
- ✓ R5年度の夏休みと比較すると受講者数は+134名に伸長、夏の合格者の250名は過去3年間で最高の実績
- ✓ 統計検定3級の合格率をあげるために様々な取り組みをしてきたが、R5春休みと比較すると合格率は25%から63%へ上昇。👉引き続き受験サポート強化
- ✓ アドバンスクラスの約8割近くの学生が申し込みをしたが、受講者に対しては統計検定4級は56%、MOS上級は39%、受験者に対しては統計検定4級は98%、MOS上級は78%の合格率であった。
👉春休みに向けて対策を検討する

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計	R5夏との差	R6進
Tableau Desktop Specialist	18	25	43	86	25	111	81	81	-5	—
MOS Excel 一般	93	112	205	142	56	198	98	98	-44	5
MOS Excel 上級				49	36	85	125	125	76	74
統計検定4級	44	31	75	40	15	55	123	123	83	72
統計検定3級				12	12	24	24	24	24	—
合計	155	168	323	317	144	461	451	451	134	151

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計	R5夏との差	R6進
Tableau Desktop Specialist	10	18	28	56	18	74	57	57	-1	—
MOS Excel 一般	58	82	140	93	44	137	61	61	-32	0
MOS Excel 上級				36	24	60	59	59	-23	29
統計検定4級	17	22	39	22	6	28	68	68	46	40
統計検定3級				2	2	4	5	5	5	—
合計	85	122	207	207	94	301	250	250	43	69

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計	R5夏との差	R6進
Tableau Desktop Specialist	56%	72%	65%	65%	72%	67%	70%	70%	5.3%	0%
MOS Excel 一般	62%	73%	68%	65%	79%	69%	62%	62%	-3.2%	39%
MOS Excel 上級				73%	67%	71%	47%	47%	-26.3%	39%
統計検定4級	39%	71%	52%	55%	40%	51%	55%	55%	0.3%	56%
統計検定3級				17%	17%	21%	21%	21%	20.8%	—
合計	55%	73%	64%	65%	63%	63%	55%	55%	-9.9%	46%

講座 (講義)	R4夏	R4春	R4計	R5夏	R5春	R5計	R6夏	R6計	R5夏との差	R6進
Tableau Desktop Specialist	100%	100%	100%	98%	100%	99%	100%	100%	1.8%	—
MOS Excel 一般	97%	98%	97%	98%	98%	98%	102%	102%	3.8%	0%
MOS Excel 上級				95%	100%	97%	88%	88%	-6.7%	78%
統計検定4級	77%	92%	85%	88%	60%	80%	99%	99%	10.6%	98%
統計検定3級				25%	25%	63%	63%	63%	62.5%	—
合計	92%	97%	95%	96%	90%	94%	96%	96%	-0.5%	88%

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第I類科目_データサイエンス科目

R6_chatGPTの実践的活用力の向上のための講座

MAKE YOUR UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。



講座名: ChatGPTの実践的活用力の向上のための講座

授業日: 8月5日(月)、8月6日(火) 2日間

授業時間: 13時～18時 @1号館 2階 大会議室

参加人数: 35人

講師: 株式会社DIK & Company 中田元樹先生

講義内容:

- 1)Text to Textのプロンプトの演習
 - ・プロンプトシンプルな考え方
 - ・キックプロンプトとチューニングプロンプトの演習
 - ・端的化演習
 - ・具体化演習
- 2)Text to 表形式のプロンプトの演習
 - ・企画書ドラフト作成演習



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第I類科目_データサイエンス科目

R6_chatGPT講座の受講後アンケートから

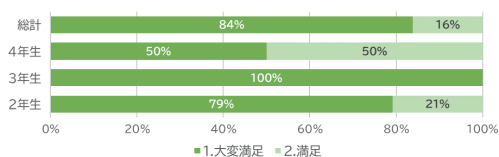
MAKE YOUR UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。

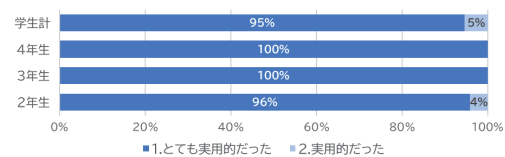


1年生向けの授業でもChatGPTのハンズオンを実施したが、生成AIの社会的な活用を考慮すると、授業でも取り入れていくべきであるが、**今後の教育プログラムへの組み込み方については深く検討する必要がある。**

◆講座の全体的な満足度について (n=35)



◆講座で学んだ内容の実用性について (n=35)



- ✓ 基礎スキルを身に付けることができた。生成AIにアイデアを出させるスキルも学べたので、今後も活用していきたい。
- ✓ 日頃の使用法を改め、欲しい回答が得られる確率が上がったことを実感した。
- ✓ ChatGPTに対する知識がなかったが、使いこなすための知識と技量が向上した。今後も更なる理解を深めていきたい。
- ✓ 日常的な動作やアイデア出しとして、生成AIの活用幅を理解し、適切なプロンプトの組み立て方の重要性を学んだ
- ✓ ChatGPTに対して無知からくる偏見があったが、実際に使用して非常に実用的で人間に近いと感じた。
- ✓ ChatGPTを試験的に使っていたが、今回の講習で出力の質が向上し、使用頻度が増えそうだと感じた。
- ✓ ChatGPTの活用方法やプロンプトの使い方について貴重な知識を得られ、今後の日常生活に役立てていく。
- ✓ 初心者には難しいと感じていたが、プロンプトの調整により対話の楽しさを体感した。今後の作業にも役立てたい。
- ✓ 生成AIをはじめAIは今後より発展し重要になってくるため、今後活用するための様々な研修を開催してほしい。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_学生たちの学内外での活躍 : 定量目標③

R5は学外コンテストに3チームが出場し、うち1チームが受賞した。R6も12月の学外コンテスト出場にむけて2チームが準備を開始している。さらにR6のTableauのアカデミックアンバサダーに心理社会学部4年生、仏教学部3年生計2名が選抜され（R5は1名のみ）、学外コンテスト以外でも活躍を広げている。

2024Tableau Academic Ambassadorに選抜

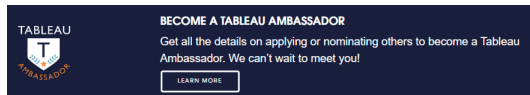
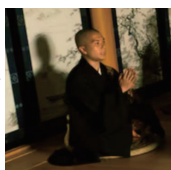
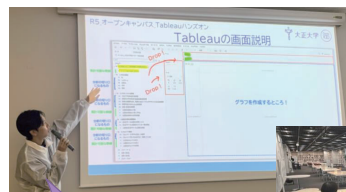


Tableau Academic Ambassador
👉心理社会学部 4年生
新里元大さん
仏教学部 3年生👉
霜村舜英さん



Ambassadorの2人はオープンキャンパス(春学期に3日間)高校生(+保護者)向けにTableauのハンズオンを実施!



新里さん



霜村さん

Salesforce社がグローバル募集を行っていたもので、Academic Ambassadorの対象は教員と学生。2024年世界で82名が選出され、日本人は7名(教員1名、学生6名が選抜のうち学生2名が本学の学生)

<https://www.tableau.com/community/community-leaders/ambassadors#tableau-student>

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

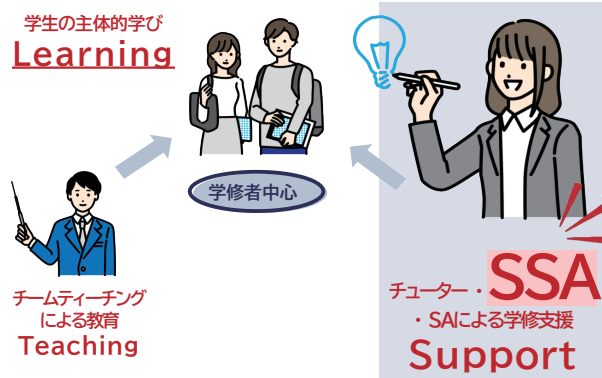
3. R6_学修支援面での重点課題と進捗状況

①シニアSA制度の導入と育成

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

① R6からシニアSA制度の導入と育成

シニアSAは、学生でありながらクラスチューターと同様、個々の学修支援にプラスしてクラス全体を見つつ、マネジメント業務を行う。



◆SSA制度の背景と目的・期待すること

<データサイエンス科目受講者への効果>

- ①学生の苦手なことにでも向き合える学修環境構築
- ②学生・後輩のロールモデルとしての存在

<シニアSA自身の資質・能力の向上>

- ③実践的な業務や授業外の学修支援を通じて、主体的な学びの機会の創出
- ④リーダーシップ開発、キャリア開発、情報処理に関するスキルアップ

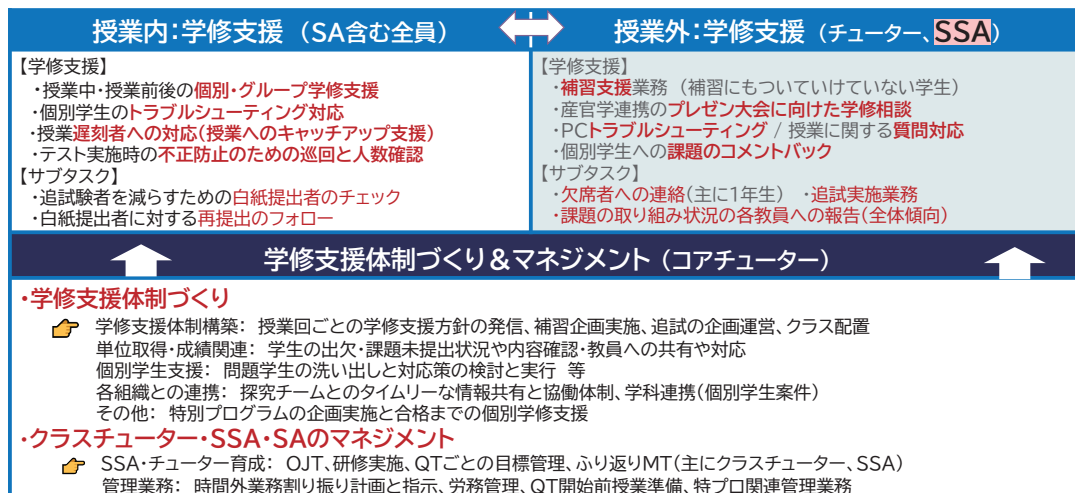
🏠SSAを育成することで

学修支援の質の向上を目指す

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【確認】学修支援者(チューター、シニアSA)の業務

SAは授業内のみ学修支援に取り組むが、チューター・SSAは授業内・外で幅広く学修支援に取り組んでいる。またコアチューターは学修支援体制全体のマネジメントを行っている。

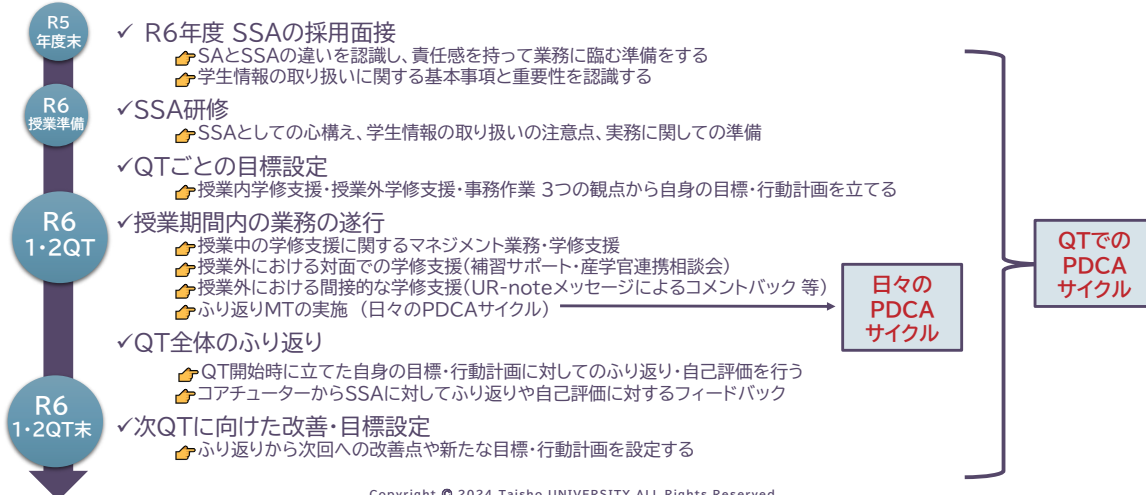




R6_シニアSA採用と育成の流れ

R6のコアチューターによるシニア育成の流れは以下の通りである。

特にシニアSAにはPDCAの意識を高めさせ、PDCAの日常化を通して、SSAの育成に取り組んでいる



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



【参考】R6_春学期SSA導入 & 育成で取り組んだことと成果・課題

春学期のコアチューターのSSA育成における取組とふり回りは以下の通りである。

春学期のSSA育成の取組	成果と問題点	4QT以降の改善点
SSA研修の実施 目的: 責任感を持って業務に臨む準備 ・学生情報の取り扱いに関する共有	【成果】 ・SSA導入の背景と目的や、期待する点の認識合わせができた ・学生個人の学修支援だけでなく、授業中の学修支援に関するマネジメント業務を行うため、 クラス全体を見る「鳥の目」やクラスの流れを見る「魚の目」が求められるという認識を持たせることができた ・チューター同様に学生の個人情報や出欠・課題の提出状況等、業務で知り得る 情報の取り扱いについての認識合わせができた 【問題点】 ・ 研修で扱う情報量が多く 、出欠登録(公欠や遅刻等)UR-noteの操作説明など業務の基本となる操作の十分な説明ができなかった	研修のボリュームが多く、1度に消化しきれないため、研修では心構えと情報取り扱いについてのみの扱い、出欠ルールやUR-noteの操作等実務研修に関しては、別途ふり回りMTなどで都度フォローする。(R7にむけて)
授業のふり回りMTの実施 目的: 授業内の取り組み事例の共有 ・PDCAサイクルでのSSA育成	【成果】 ・一部教員・コア・クラスチューター・SSAで授業のふり回りMTを毎週行ったことで、 次回の改善点を考えることや他クラスの事例を共有する場となった 。また、SSA同士のふり回りを共有することにより、 互いに切磋琢磨する環境を整えることができた 。 ・SSAのふり回りの深さがクラスチューターへの刺激にも繋がった 【問題点】 ・ふり回りMTに参加できないSSAがいるため、 ふり回りMTの内容を全員に共有できなかった 。	ふり回りMTの議事録(重要点のみ)を作成し共有することで、MTに参加できていないSSAにも、事例共有を行う(4QT以降)
QT目標・行動計画・ふり回りシートによるマネジメント 目的: PDCAを常に意識してSSAの育成や業務改善を図る	【成果】 ・QTごとに授業中学修支援・授業外学修支援・事務作業 3つの観点から自身の目標・行動計画を立てることで 日々の業務で意識することを明確にすることができた ・QTごとに立てた目標のふり回りや次QTに向けた改善・目標設定を行うことでPDCAサイクルを繰り返し、業務品質の向上や効率化をはかることができ、 SSA自身の責任感やリーダーシップの醸成をすることができた ・1QTのふり回りに対してコアチューターからコメントバックをすることにより、 SSAができたことに対する承認と2QTの目標の確認 を行なった 【問題点】 ・SSAが提出した 目標や課題・改善策についての横軸での分析を行うことができなかった 。(例: 個々の目標管理レベルのGAPの把握やSSAに共通した課題の抽出など)	SSAが記入した目標・行動計画・ふり回りシートを分析することで成長レベルの高い学生を見つけ、他のSSAに目標や行動計画・ふり回りの方法をOJTすることも検討していく。(4QT以降)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【参考】R6_春学期SSA導入 & 育成で取り組んだことと成果・課題

春学期のコアチューターのSSA育成における取組とふり返りは以下の通りである。

春学期のSSA育成の取組	成果と問題点	4QT以降の改善点
SSAの業務に偏りが出ず どの業務もこなすことのできる 体制づくり 目的: 業務の効率化やリスク管理の向上 ・チーム全体のスキルの底上げ	【成果】 ・各SSAの業務品質の向上のため、業務をローテーションさせたことにより、 出席登録など全員が習得すべき業務は行うことができるようになった ・2人1組で業務を行う体制にすることで、 SSA同士が教え合いながら業務を習得することができた 【問題点】 ・SSA間で 業務品質に差 はあった。	各業務において得意としているSSA(4年生)が、次年度の体制を踏まえ、特に3年生に全業務ができるよう指導する(4QT以降)
クラスチューターが SSAのOJT を実施する体制づくり 目的: 実践的なスキルの習得 ・クラスチューターとSSAの信頼構築	【成果】 ・SSAが新しい業務をすぐに習得することができ、 業務に対する迅速なフィードバックをすることができた ・チューターとSSAがコミュニケーションを取るきっかけとなり、 信頼関係の構築をすることができた 【問題点】 ・4年目の ベテランクラスチューターの退職によるOJTができる人材の不足	ベテランクラスチューターの退職に伴い業務に慣れているクラスチューターが減るが、社会人ならではの視点を生かしてSSAの業務に対する指導をしてもらう体制を再構築する(4QT以降)
SSAの個別業務ごとの マニュアル作成 目的: 事務業務の効率化	【成果】 ・業務のマニュアルを6つ作成することができ、 事務作業の時間効率化をすることができた (例:VBAを用いた課題チェック 1QTは210分で1クラス分だったが2QTは2クラス分こなせるよう改善した) ・SSA同士が業務を教え合う際に活用できた 【問題点】 ・ ダブルチェックや業務報告までが業務の一連の流れであることを認識が取れないこともあった(マニュアルに記載なし)	ダブルチェックや業務報告を業務終了時に行うことをマニュアルに追加で記載する(4QT以降)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【参考】シニアSAの目標・行動計画 / ふり返り・改善点(1・2QTの比較)

多くのSSAが、1QTと2QTを比較するとより具体的な目標設定とふり返りができるように成長しており、前QTの改善点を踏まえた目標を設定し、PDCAサイクルを回せるように成長している。

Aさん	1QTのふり返りと2QTに向けた改善点	2QTのふり返りと4QTに向けた改善点
目標	授業についていけない学生がひとりもないように、話しかけやすいSAになりたい。教室のマネジメントをOO先生のようにできるようにしたい	個人への学修支援だけでなく、 全体に大きな声で呼びかける学修支援 をして、授業の進み具合を良い方向に向けたい。授業についていけずに友達に頼ってしまう学生が散見されるので、 友達ではなく、SAを頼ってもらえるようになる 。2年生はプレゼン作成が始まるので、提案やアドバイス、質問の回答ができるような頼りになる先輩になりたい。
行動計画	PC画面をのぞいた時に遅れていたり、分からなさそうな学生に積極的に話しかける。教室中を歩き回る。先生やSA同士でコミュニケーションをとる。	全体への呼びかけは、一気に全体に呼びかけるのではなく、 ブロックごとに何度も呼び掛けることを意識して、行動する 。友達に聞いてしまう学生には、フレンドリーに聞く。2年生のプレゼンの質問に答えられるように、今まで学んだグラフや表の再勉強をする。
自己評価達成度(10段階)	8点	7点
ふり返り	昨年からの経験が活き、学生への支援はできていると感じる。学生が手を挙げていなくても、PC画面を見て、心配だったら声をかけることを継続しており、学生本人も気づいていなかったことや、わからなかったことの支援が毎授業できている。しかし、全体への声掛けがまだ足りず、教室全体の支援や指示ができていない。	学生に対する学修支援は、1QTに比べてできていたと思う。また、全体に周知させるために 大きな声で全体の支援をすることもできた 。しかし、SAの勤務態度の注意を、先生に言われたから動くことになってしまったり、SAの人数が多いクラスでは、一人一人の仕事の振り分けをスムーズにできなかった。臨機応変に対応することは、苦手ではないが、支援する側の中で情報が錯綜してしまうことがあった。チャットで、情報を流すなど、やり方は如何様にもできたと思うので、もっと考えて動けたら良かったと思う。
次QTに向けた改善点	個人への学修支援は今後も継続して行い、 学生主体で抱えている課題を解決できるよう導くことを意識 する。また、全体への声掛けは、授業がスムーズに進むよう、考えて挑戦する。	履修学生に対する学修支援はできていたが、 SAの勤務内容の教室マネジメントができていなかった ので、やる気を出させる声かけを学び、一人一人がその教室にSAとしての価値を作っていきたい。後ろにたむろしてしまうので、それがないようにする。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

4. R6_学修支援面での重点課題と進捗状況

②LMS(UR-note)の活用推進他>

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

② UR-note活用推進 【自主学修問題の改善】

R5から開始したLMSでのテスト対策の自主学修問題のレベルアップをはかるべく、3つの項目に取り組んだ。

【R6取り組み内容】UR-noteの自主学修問題のレベルアップ



1. 特別プログラムの自主学修問題の配信

R5:自主学修できる練習問題を用意 (4級は30問×2種類、3級は30問1種類)

R6:自主学修できる練習問題を増加 (4級は35問×2種類、3級はCBT対応問題へ改編)

2. 難易度別(A~Cランク)の問題のAランク問題の充実

R5:自主学修問題はAランクからCランクまで用意しておりA:2 B:4 C:4割合

R6:Aランクの問題の割合をUP A:3 B:4 C:3 (Cは授業での課題でも多く出題)

3. 自主学修問題数アップとランダム出題の実施

R5:初年度だったため配信問題数に限界あり且つ通常出題形式

R6:トータルで2割増しで配信且つランダム出題を開始(正答を覚えている学生もいるため)

特にグラフの読み取りは問題数を5問から10問と2倍にする(1年生:2QT)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

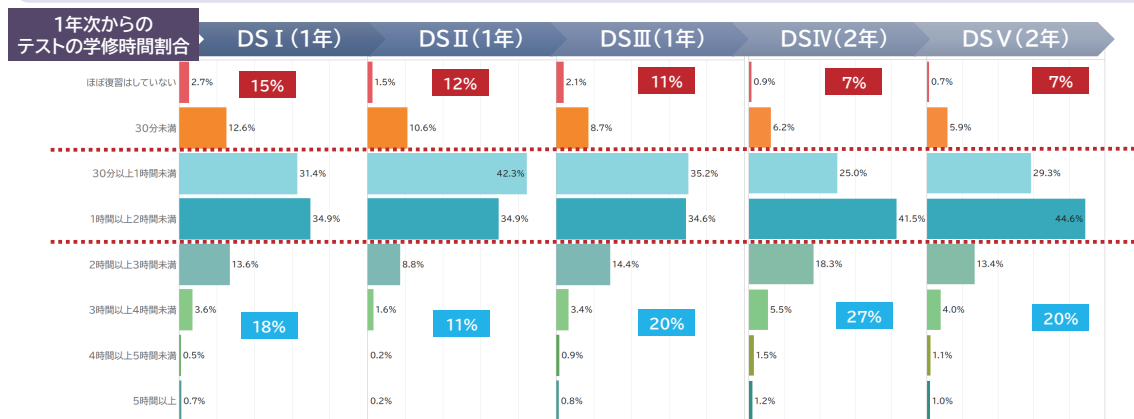
【参考】1年生_LMS自主学修問題への取り組み(習熟度別)

R5から開始したLMSでのテスト対策の自主学修問題だが、全体で8割以上の学生が利用しており、活用率が高い。アンケートでの学生からの改善要望であった「もっと問題数を増やしてほしい」「より難易度の高い問題を用意してほしい」「正答の解説をより詳しく書いて欲しい」に可能な限り対応した。



【参考】2年生_テスト対策自主学修時間(1年次からの変化)

学修時間は学生からの自己申告である。1年の春学期から徐々にテストにむけて学修習慣がついてきていることがわかる。難易度が高くなり勉強せざるを得ない状況であることも事実であるが特に1時間以上2時間未満の割合が1年次から2年次では逆転している。



QT終了時ごとに学生にアンケートを実施R5(1年生の時)1068名、R6(2年生の時)1243名が回答

Copyright © 2024 TAISHO UNIVERSITY ALL RIGHTS RESERVED.

【参考】LMSの自主学修問題に対する学生の声

【よかった点】

- ✓ テストに出るところをまとめてくださっていたのである程度の理解やふり返りができた。またわからなかったところがどこなのかわかるので、**重点的なふり返しをしやすかったのがよかった。**(アドバンスクラス)
- ✓ テストに出るような難易度の問題をそれぞれの分類ごとに出してくれたのもとてもありがたかった。特に一番最初のテストの自主学修課題でテスト自体では難易度B・Cの問題しか出なかったが、自主学修教材ではA問題もあったので、より難しい問題を練習で解くことで、テストがとても簡単と感じて気が軽かった。(普通クラス)
- ✓ 自主学修を取り組んだ時に、不安な問題やわからなかった問題があった時に、その場ですぐに、計算の仕方や解き方などが理解することが出来た。また、採点のときに、**すぐに答えが出るのですぐ、復習することが出来た。**(習熟度低いクラス)
- ✓ スライドにも問題は乗っている量が少なく、説明の合間の問題を見つけることも難しかった。授業内では問題を解く回数も少ないので、自主学修教材でより理解を深めることができた。**正答や正しい計算式がすぐに分かるのもいい。**(習熟度低いクラス)

【改善してもらいたい点】

- ✓ おそらく普通クラスと共通の教材なので、応用的なことまで取り組む事ができなかった。テストの問題のほうが格段と難しいので、**この教材の他に応用編(テストと同レベルで、今のより少し難しいVer.)も配信して貰えるとありがたい。**(アドバンスクラス)
- ✓ もう少し難易度にレパートリーをつけていただけると助かります。簡単な問題を正解して理解できている気に自分になってしまっているのが、難しめの問題も1つや2つでいいので増やしていただけるとありがたいです。(普通クラス)
- ✓ 答えの確認の解説欄がたまに分からないような書き方があって少し理解できないところがあったので、**難しい問題には別解を記載して欲しい**と思った。(習熟度低いクラス)
- ✓ また、説明がやや不十分なものがあってその部分を改善した方が、対策に役立つと思う。(習熟度低いクラス)
- ✓ テストに出ないような難易度の問題があったこと(習熟度低いクラス)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

5. R6_秋学期に向けての重点課題と進捗状況

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

データサイエンス科目の秋学期に向けての重点課題

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



【R6 定量目標】

- ① 単位未取得者3%未満の目標継続
👉 出席率は改善しているため、もうひと踏ん張りできる学生への育成支援
- ② 春夏の特別プログラムでの受講者に対するの合格者率80%の達成
👉 春のプログラムでの統計検定3級の合格支援継続
👉 アドバンスクラスへの資格取得の目的・意義の伝達の工夫、各自の習熟度に応じた資格の選択の導入
- ③ 学外コンテストへの4チーム参加目標（R5は3チーム）
👉 12月のコンテスト出場に向けての支援継続

【学修支援面での重点課題】

- ① シニアSSA制度の導入と育成
👉 4年生中心から3年生(新4年生)中心の体制づくり
👉 現2年生SAからの新SSAの早期発掘と育成
- ② UR-noteの活用推進
👉 アドバンスクラス向けの自主学修問題の強化

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



MAKE
YOUR
UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

(3) クロスディシプリン（学融合）教育

クロスディシプリン（学融合）教育



学長補佐・教務部長
小林 伸二

学融合教育は、現代社会が直面する複雑で多様な課題に応えるために設計された教育プログラムです。この教育は、学生が自らの専門分野を深く探究すると同時に他学科の異なる学問領域を統合的に学ぶことを通じて、多面的な視野、重層的な思考力、そして課題解決能力を養うことを目的としています。本プログラムは、学生が単なる知識の習得に留まらず、社会の中でその知識をどのように活用し、実践に結びつけていくかを重視しています。その学融合教育の中心にあるのが、「学融合ゼミナールⅠ」と「学融合ゼミナールⅡ」です。

「学融合ゼミナールⅠ」は、2年次の必修科目として設けられています。このゼミナールは、学生が自らの学科内で培った専門知識を他学科の学生や教員と共有し、異なる分野の視点を取り入れることで既存の知識に新たな価値を加える場として設定されています。

「学融合ゼミナールⅠ」の授業構成は、次の通りです。まず、自学科の専任教員による「学科パート」で、学生が専門分野の基礎を確認し、次に他学科の教員による「横断パート」で異分野の知識に触れます。その後、「混合パート」で、異なる学科の学生とグループディスカッションや共同作業を行い、最終的にはプレゼンテーションやアカデミックエッセーの形で成果を発表します。このプロセスを通じて、学生は自らの専門知識を他分野の視点から再評価し、新たな視座を得ることができると思っています。

「学融合ゼミナールⅡ」は、3年次に実施されるより高度な学習プログラムです。このゼミナールでは、学生が「学融合パート」と呼ばれる自由選択型の授業に参加することが可能です。そこでは、自身の興味や研究テーマに応じて、異なる学科の授業を選択し、学問の垣根を超えた学びを実践します。たとえば、歴史学科の学生が社会福祉学科の学生とともに地域の課題を議論する中で、歴史的背景を踏まえた新しい解決策が見出されるということを目的としています。

令和5年度に日本学術振興会から課題・意見を受けて、可能な限り改善を行いました。まず、異なる分野の融合が理論的な理解に留まる場合があり、実践的な成果として明確に現れないという点が挙げられました。また、学生が自由に選択できる授業がまだ十分に多様化されていないとの指摘もありました。この点について、学内で教職一体となりながら検討協議を行いました。さらには、教員も含めて説明会等を実施して教育改革を推進しました。学融合ゼミナールの従来型をタイプAとして改革を行い、また、テーマの選択を主とするタイプBも設置し、これにより学生の選択の幅を拡大しました。

本ゼミナールは全学必修であり、2・3年生全員が履修するため、より細かなアプローチの周知徹底を行います。

した。授業の運用方法について、LMS（学習管理システム）の動画視聴を活用した講義とワークをセットにしたワークグループディスカッションを実施することとし、学科専任教員のなかから選任されたコーディネーターを中心に全学的な推進を行いました。また、同じグループでの浅いディスカッションが続かないように、毎回異なる座席を指定し、異なる学生同士による十分な時間を確保した深いディスカッションに導く方針としました。

さらに、学融合ゼミナールⅠについては学科の組み合わせに終わらず、複数の学科の学生交流の機会として新たに学科を超えた2学科混合の混合パートというものを第10回に設置しました。横断パートの振り返りを通してディスカッションを実施するというような位置付けにしております。

そして、決まった学科の組み合わせで果たして学融合が可能かというご指摘に対し、学融合ゼミナールⅡに新たに学融合パートという回を6回から10回まで設けました。これにより学生自身が今までとは異なり、学科の枠にとらわれずに自由に自らの研究領域、あるいは選択領域というものを決めることにより、学科の組み合わせを超えた学生が自由に授業を学ぶ新たな学習というものを実現しました。

続いて、学融合ゼミナールⅡに「旅する学融合」という授業も設けました。こちらは学科から推薦された学生を中心に、学生の居住している地域と、全国からと合わせて2地域を選択してフィールドで学融合を実施しました。また、これらの知見を活かして、「地域プロジェクトⅠ」という授業を第Ⅲ類科目に設けて、学生が地域社会と連携して課題解決に取り組むプロジェクト型授業も実施しました。このプログラムでは、学生が自ら授業内容を企画・運営し、成果をオンデマンドやフィールドワークを通じて発表します。たとえば、「巣鴨を学融合する」というテーマのもと、地域の課題を調査し、具体的な解決策を提案するといった取り組みを行いました。

令和7年度には、今までの学融合を学んだ後に、4年生を対象に学融合ゼミナールの発展型として、本学の京都エリアキャンパスを中心とする地学連携、また産学共創の体制を生かしたフィールドワークを実施する選択科目の導入を予定しています。

そして、テーマの選択を通じた授業として学融合ゼミナールⅠ・ⅡタイプBも設けました。オンデマンドを活用した講座であり、学科の所属教員以外の本学の実務家教授、客員教授、招聘教授を中心として社会課題・生活課題を中心としたテーマを学生が自由に選択する形で学科の学びとクロスをする授業としました。これにより学生の社会の見方を変えるという点に重点を置いた講義を行っています。

以上が、令和6年度に実施をいたしました改善点となります。学融合ゼミナールは現代社会の課題に答えるという意味で、あるいは地域戦略人材育成という意味で、ある一定の方向性を示すことができたのではないかと考えております。

学融合教育を受けた学生からは、多くの肯定的な声が寄せられています。異なる分野を学ぶことで、自分の専門分野を新たな視点から見つめ直し、独創的なアイデアや解決策を考える力が養われたとの報告が多くあります。また、ディスカッションや共同作業を通じて他学科の学生と交流することで、多様な価値観を理解し、協力する力が身についたとする声も多いです。さらに、フィールドワークや実地調査を通じて、学んだ知識を実践に活用する経験が大きな学びとなったと学生からは評価されています。

しかし、未だ学生の専門領域における他分野との融合が議論、あるいは興味といったところにかなり偏っており、いわば認識レベルにとどまっています。今後はしっかりと実践に導けるかどうかということが本ゼミナールの課題です。こうした課題に対処するためには、カリキュラムのさらなる柔軟性と多様性の確保、そして、異分野の教員や実務家の参加による教育内容の充実が必要です。学生が、社会でリーダーシップを発揮し、革新的なアイデアで社会の発展に貢献する一助となることを期待しています。

第Ⅱ類科目 学融合（クロスディシプリン） 教育

学長補佐 教務部長 文学部歴史学科教授

クロスディシプリン教育チーム長 小林 伸二

- ・令和6年度 改善点の要旨
- ・学融合ゼミナール改革経緯
- ・学融合教育の概念
- ・学融合ゼミナールの位置づけ
- ・授業改善
- ・「学融合ゼミナールⅠ」の概要と改善
- ・学生の声 授業評価アンケートから
- ・「学融合ゼミナールⅡ」の改善
- ・「学融合ゼミナールⅡ」スタンダードの概要
- ・学融合パート授業事例 社会福祉学科 坂本教授
- ・学生の声 アンケートから1
- ・「学融合ゼミナールⅡ」プレミアムの概要
- ・学生の声 アンケートから2
- ・「地域プロジェクトⅠ」概要
- ・「クロスディシプリンフィールドワーク」概要
- ・クロスディシプリン教育ラボ研究開発
- ・今後に向けた課題認識

【令和5年度現地視察報告書】 第Ⅱ類科目：学融合（クロスディシプリン）教育においては、いまだ改善の余地が大きいことを指摘したい。①複数の視点を得るための学科の組み合わせは事前に決定しており、ゼミナールⅠ、Ⅱではその組み合わせが繰り返される。②内容において一部類似のものもあることが学生との意見交換で明らかになった。また授業全体でディスカッションの機会が導入されたことは改善がなされた点として認められるが、同じグループでの浅いディスカッションに留まっているとの指摘もある。所記の目的を果たすべく、アクティブ・ラーニングの活用など、授業方法については更なる検討が求められる。③また、決まった学科の組み合わせだけで「現代社会の課題」に依拠しているのか疑問が残る。オンデマンドなども駆使して自由に選択できるようなシステム等も考えられるのではないか。あわせて、授業内での他学科との学生との対話・交流も検討いただきたい。

改善点

- ①・ゼミナールⅠ「混合パート」の設置
・ゼミナールⅡ「学融合パート」の設置
- ②・講義とワークの組み合わせによる授業改善
・各回座席指定
・アクティブ・ラーニングの活用
- ③・ゼミナールⅡ「学融合パート」の自由選択
・タイプBの設置
・一部の学科・タイプBのオンデマンド開講
・ゼミナールⅠ「混合パート」、Ⅱ「学融合パート」、タイプBによる学科を超えた学生対話・交流

※授業内容検討 意見交換3月4日（月）
学科長・Ⅱ類コーディネータ

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

●現地視察提言・助言

・クロスディシプリン教育チームとして、「学科の組み合わせは事前に決定」「内容において一部類似のものもある」「ディスカッションの機会が導入」「同じグループでの浅いディスカッションに留まっている」「アクティブ・ラーニングの活用」「決まった学科の組み合わせ」「オンデマンドなども駆使」「授業内での他学科との学生との対話・交流」等のご指摘を重視

・令和6年度、カリキュラムの調整を前提とした、改革案を作成

●教育改革 ⇒ 資料1 資料2

- ・法人、DACとの連携のもと改革案の協議、修正
- ・教育改革説明会
- ・Ⅱ類コーディネータとの意見交換、教務主任との情報共有
- ・意見集約
- ・提出された意見を法人、DACと協議し意見を集約、改革案を確定

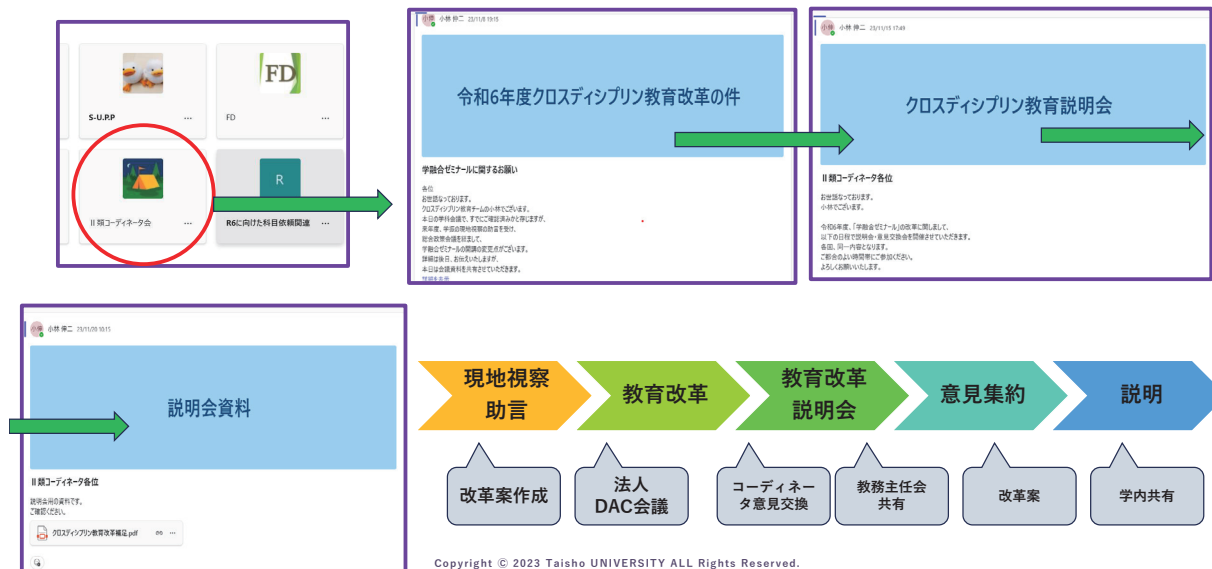
●教員・学生説明 ⇒ 資料3 資料4 資料5 資料6 資料7

- ・授業を前提に、教員、学生を対象に学内共有、履修年とタイプを明示

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

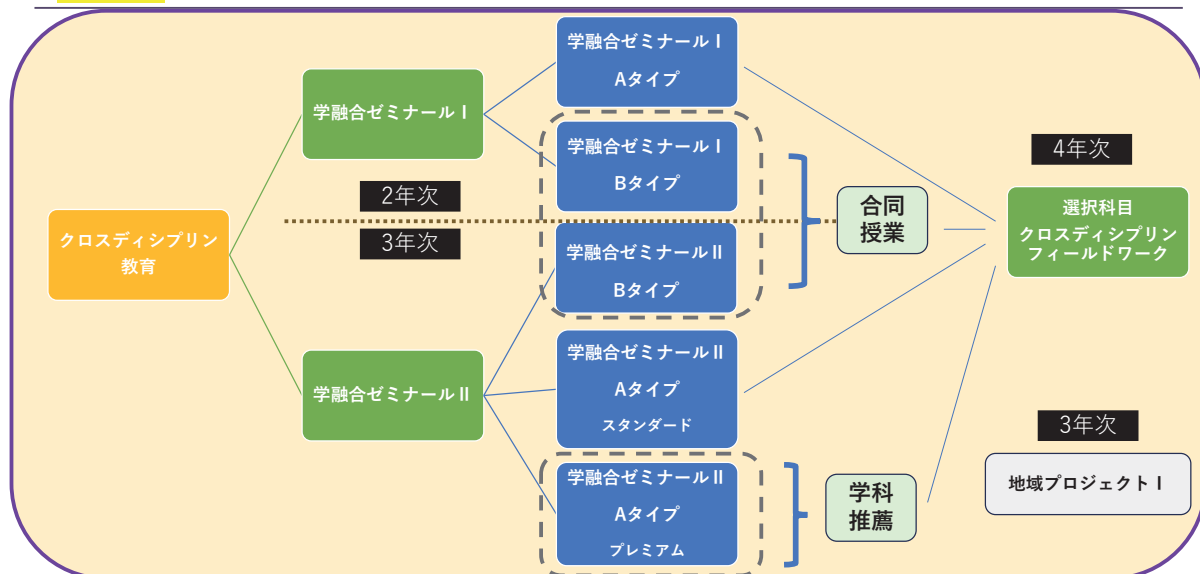
資料1 クロスディシプリン教育改革

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



資料2 学融合ゼミナール 履修年とタイプ

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



資料3 学融合ゼミナール I 学生説明資料抜粋

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線からつくれる世界を。

令和6年度
第II類科目
クロスディシプリン教育
「学融合ゼミナール」

学長補佐・教育研究マネジメントセンター長・教務部長
クロスディシプリン教育チーム長
小林 伸二

●知識集約型社会を支える人材育成事業

2020年（令和2年）文部科学省
「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択

地域連携人材の育成

学融合・統合型教育
クロスディシプリン教育
アントレプレナシップ育成教育

●「学融合ゼミナール」Aタイプ

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

授業イメージ

1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

知識集約型社会を支える人材育成事業
学融合ゼミナール タイプ
学融合ゼミナールの概要
II類コアディシプリン・学融合cross
学融合ゼミナールの意義・目的・要旨
「学融合ゼミナール」Aタイプ
「学融合ゼミナール」混合パートの授業
学融合ゼミナール
「クロスディシプリンフィールドワーク」
「地域プロジェクト」
「学融合ゼミナール」履修の流れ

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

●「学融合ゼミナール」混合パートの授業

授業イメージ

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料4 学融合ゼミナール I 教員説明資料抜粋

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線からつくれる世界を。

「学融合ゼミナール I」第10回混合パート

第10回混合パート概要について

第10回混合パート概要について

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

●第10回の目標

●学融合ゼミナール I 第10回混合パートの学びのねらい

●学融合ゼミナール I 第10回混合パートの学びのねらい

2024・2025
「学融合ゼミナール I」Aタイプ

第10回混合パート・ワークシート

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

学融合ゼミナール I 第10回混合パート

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

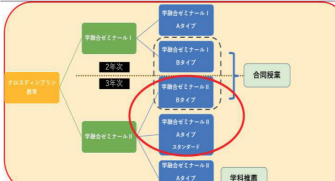
資料5 学融合ゼミナールⅡ 学生説明資料抜粋

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 

**令和6年度
第Ⅱ類科目
クロスディシプリン教育
「学融合ゼミナールⅡ」**

学長補佐・教育研究マネジメントセンター長・教務部長
クロスディシプリン教育チーム長
小林 雅二

学融合ゼミナール タイプ



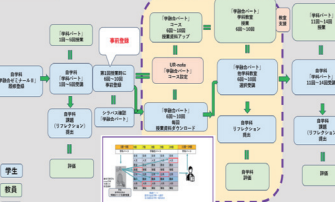
学融合パート1授業一覧

詳細は各学科シラバス参照

学域	学域名	学融合パート1授業名
人文科学	国文学科	「開示物と情報」
	国文学科	「現代社会の文化的多様性：生活政策をめぐる問題」
	国文学科	「倫理の思考と倫理」
	国文学科	「倫理と倫理」
	国文学科	「倫理と倫理」
社会科学	社会学科	「社会主義の発展からみた現代社会」
	社会学科	「ハンセン病への差別と偏見」
	社会学科	「ハンセン病への差別と偏見」
	社会学科	「ハンセン病への差別と偏見」
	社会学科	「ハンセン病への差別と偏見」
地域創造	地域創造学科	「ハンセン病への差別と偏見」
	地域創造学科	「ハンセン病への差別と偏見」
	地域創造学科	「ハンセン病への差別と偏見」
	地域創造学科	「ハンセン病への差別と偏見」
	地域創造学科	「ハンセン病への差別と偏見」

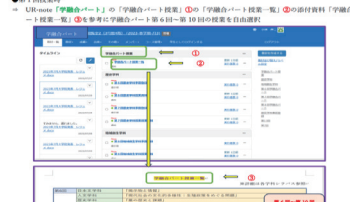
知識基盤型社会を支える人材育成事業
学融合ゼミナール タイプ
学融合ゼミナールの概要
Ⅱ類コアディネータ
学融合ゼミナールの定義、目的、主旨
「学融合ゼミナールⅡ」Aタイプ・スタンダード・探究する学融合
「学融合ゼミナールⅡ」スタンダード履修の流れ
学融合パート1授業事前登録・リフレクション提出
「クロスディシプリンフィールドワーク」
「地域プロジェクト」
「学融合ゼミナール」履修の流れ

「学融合ゼミナールⅡ」スタンダード履修の流れ



学生用「学融合ゼミナールⅡ」学融合パート1

●第1回授業時
UR-note「学融合パート1」授業「学融合パート1授業一覧」の添付資料「学融合パート1授業一覧」を参考に学融合パート1第6回～第10回の授業を自由選択



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料6 学融合ゼミナールⅡ 教員説明資料抜粋

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 

**学融合ゼミナールⅡ
「学融合パート1説明補助資料」**

Ⅱ類コアディネータ各位

「学融合ゼミナールⅡ」説明資料「学融合パート1」に関する
教員用・学生用説明資料を作成いたします。
資料が正しいか、確認をお願いします。
また、学融合ゼミナールⅡ「学融合パート1」に関する資料を、
UR-noteの「学融合パート1」フォルダにアップロードしてください。
小林 雅二

教員用「学融合ゼミナールⅡ」学融合パート1

●UR-noteに作成

- UR-note 自学科「学融合ゼミナールⅡ」(●●●学科)に第6回～第10回レベル「●●●回学融合パート1」①、レポート・タイトル「●●●回学融合パート1」②を作成
- 「●●●回学融合パート1」レポートに③点「③点」欄に記入し「●●●回学融合パート1」の新たな視点も、自専攻の分野の課題にどのように活用することができるかについて、300字から400字で述べてください。・教員用スタイル「記述式」(字数制限「300」字以上、上限「400」字)で④を作成(⑤フレクションの内容・配分・字数は各学科で自由に設定しても可)



●第6回～第10回授業表

- UR-note 自学科「学融合ゼミナールⅡ」(●●●学科)のレベル「●●●回学融合パート1」の「●●●回学融合パート1」を確定・評価⑥



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

[illegible]

学融合教育の概念

- 自らの専門分野の学問領域と他学科の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる力を養う。⇒ [資料8](#)
- 多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて、異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダーの育成をめざす。⇒ [資料8](#)
- 「学融合ゼミナールⅠ」「学融合ゼミナールⅡ」（横の学び）により、専門分野の「基礎ゼミナール」「専門ゼミナール」（縦の学び）と連携した、知識創生を促す。⇒ [資料8](#)
- 専門分野の教育を前提に、探究実証系と社会創造系学科領域のクロスを通じて、学融合をコーディネータによる運営と支援体制により推進する。⇒ [資料9](#)

資料8 クロスディシプリン教育・目標・授業運営

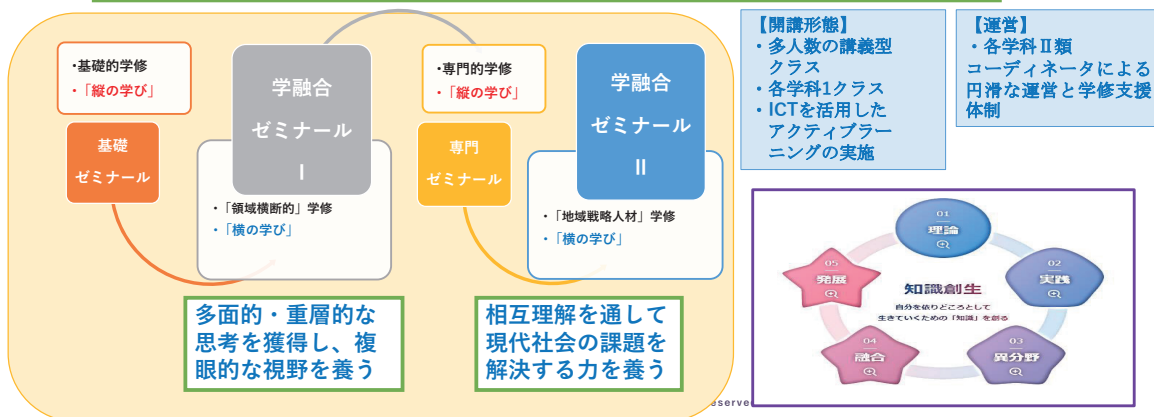
MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100

クロスディシプリン教育

「自らの専門分野の学問領域と他学科の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる」

目標

「多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダーの育成」



資料9 学科cross II類コーディネータ

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100

コーディネータによる支援体制

学科	コーディネータ		学科	コーディネータ
歴史学科	三浦 龍昭	CROSS	地域創生学科	大橋 重子
人文学科	天木 勇樹	CROSS	公共政策学科	本田 裕子
日本文学科	中川 祐治	CROSS	社会福祉学科	沖倉 智美
仏教学科	工藤 量導	CROSS	表現文化学科	ヨシムラ ヒロム
臨床心理学科	石川 亮太郎	CROSS	地域創生学科	大橋 重子
人間科学科	澤口 恵一	CROSS	公共政策学科	本田 裕子

授業内容・方法の改善

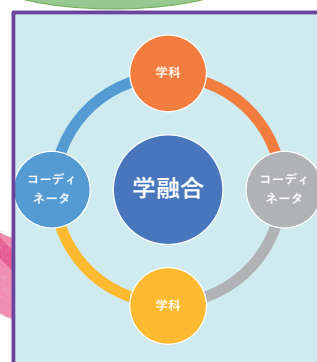
学融合教育意見交換
3月4日(月)
参加者 学科長
II類コーディネータ

探究実証系

歴史
人文
日本文学
仏教
臨床心理
人間科学

社会創造系

地域創生
公共政策
社会福祉
表現文化



学融合ゼミナールの位置づけ

●全学共通、必修科目として、第Ⅰ類、第Ⅱ類、第Ⅲ類教育の有機連携を図る。

⇒ **資料10**

●「学融合ゼミナールⅠ」（2年次）⇒ **資料10**

・学科の学びを超えた、領域横断的「横の学び」による専門教育であり、自専攻とは異なる専門領域の学びから多面的・重層的な思考を獲得し、複眼的な視野を養うことを目指す。

・探究実証系学科は学科専門領域に「地域学」を前提にした教育、社会創造系学科は学科専門領域に「人文科学」を前提にした教育を通じて、卒業論文テーマについて多様な視点を修得させる。

●「学融合ゼミナールⅡ」（3年次）⇒ **資料10**

・複雑で多様な現代社会に応えることのできる「地域戦略人材」教育を、複数のディシプリン（分野、領域）の連携と交流から、相互理解を通して現代社会の課題を解決する力を養うことを目指す。

・探究系学科は学科専門領域と「現代社会」を前提にした教育、社会系学科は学科専門領域と「人間学」を前提にした教育を通じて、卒業論文テーマについて多様な視点を修得させる。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料10 定義・目的 学融合ゼミナールⅠ（2年次）

【定義】学科カリキュラムの履修「縦の学び」と学科を超えた

領域横断的「横の学び」による専門教育

【目的】自専攻とは異なる専門領域の学びから多面的・重層的な思考を獲得し、複眼的な視野を養う

【開講内容】 **地域学cross 人文科学cross**

■探究実証系学部群 ⇒ 学科専門領域と**地域学**

■社会創造系学部群 ⇒ 学科専門領域と**人文科学**

●評価 卒業論文テーマについて多様な視点を修得するため、プレゼンテーション、アカデミック・エッセー

学融合ゼミナールⅡ（3年次）

【定義】複雑で多様な現代社会に応えることのできる「地域戦略人材」教育

【目的】複数のディシプリン（分野、領域）の連携と交流、

相互理解を通して現代社会の課題を解決する力を養う

【開講内容】 **現代社会cross 人間学cross**

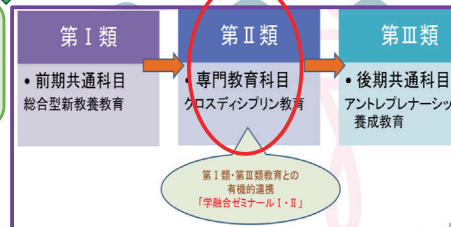
■探究実証系学部群 ⇒ 学科専門領域と**現代社会**

■社会創造系学部群 ⇒ 学科専門領域と**人間学**

●評価 卒業論文テーマについて多様な視点を修得するため、プレゼンテーション、アカデミック・エッセー

第Ⅱ類科目 文学部 歴史学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単 位	備 考
全学共通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎部門	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	5科目10単位必修
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	2	2	
	基礎ゼミナールⅣ	2	2	
	歴史学入門	1	2	
	基礎歴史科学	1	2	
	仏教と歴史	1	2	
	地域の歴史	1	2	
		2	2	



rights Reserved.

●ワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションから、学科パートでは学科内の学びに関する異なる視点を共有し、横断パート・混合パート（ゼミナールⅠ）、学融合パート（ゼミナールⅡ）では他学科の異なる学びの共有と交渉を通じて、「cross領域の形成」を目指す。

⇒ **資料11**

●クロスディシプリンに関する「態度と好奇心の重要性」を認識し、リフレクション、コーディネーターによる学融合支援のもと、学生同士の「学融合知」をめぐる「理論」と「実践」に向けた交流の重要性を示す。⇒ **資料11**

●LMS（UR-note）を活用した、事前学修、ワーク、アクティブ・ラーニングの活用、チャットによる交流、学修成果の可視化 ⇒ **資料11**

●授業プラン＝講義とワークのくり返し ⇒ **資料11**

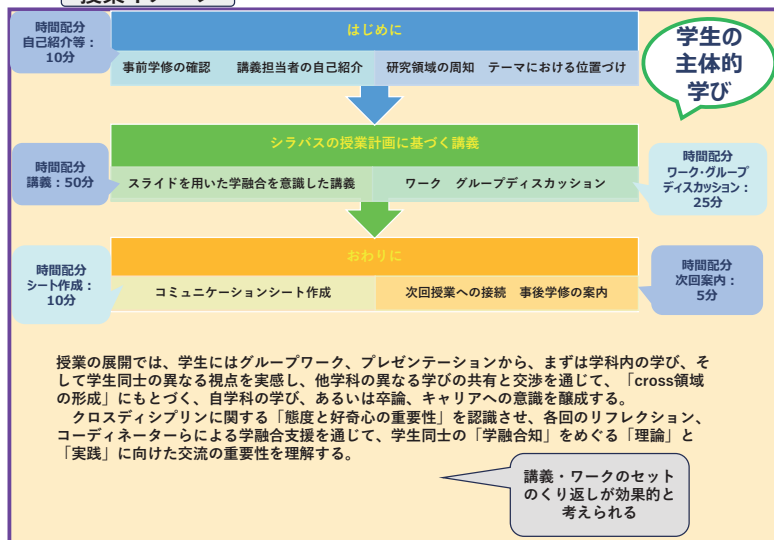
- ・10minute 事前学修の確認、研究領域におけるテーマの位置づけ
- ・50minute スライドを用いた講義（＋ワーク・グループディスカッション）
- ・25minute ワーク・グループディスカッション（＋講義）
- ・10minute まとめ リフレクション
- ・5minute 次回授業への接続

●シラバス検討 ⇒ **資料12**

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料11 授業改善

授業イメージ



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

授業運用例

授業プランの提示 事前学習

事後課題 学修成果の可視化

チャットの活用による意見交換

学科1クラスを前提とした中で、講義型とワーク型を組み合わせた、UR-noteの活用による授業運営を推奨する。

資料12 シラバス例・授業目的 歴史学科

学融合ゼミナールⅠ(2年次)

テーマ /Thema	学際的学修から学融合学修 学科の研究領域「縦の学び」と学科を超えた領域横断的 「横の学び」
授業の目的 /Class Objectives	クロスディシプリン（複数の分野・領域の連携と融合） の実現を目的とし、複数のディシプリン（分野・領域）の 連携や交流、融合により、異なる分野の専門知を横断的に とらえ「新たな知」とする力の育成を目指す。具体的には 多面的な性質をもつ地域の課題を解決する力を身につける ため、以下の内容について学んでいく。 まず学科の専門領域では、歴史学における地域の「記 録」（データ）という視点から、日本史、東洋史、文化 財・考古学の各分野を関連させ、対象とする地域において 歴史的に生成された豊かな地域性や多様な課題についての 理解を深める。また横断的領域については、現在の地域社 会における観光・環境・災害などの実態とともに、それぞ れ分野で直面している課題を認識する。 それらを通して、それぞれの専門知を「融合」させた多 面的・重層的な思考を修得し、地域が直面する課題に対し て、どのように歴史学の成果を還元し、より良い地域社会 の実現に貢献していくかを考える。 ①学科専門領域を地域の視点から説明することができる。 （歴史DP①②） ②学科専門領域に他学科専門領域を関係づける思考を身に 付けている。（歴史DP③⑤） ③学科専門領域に他学科専門領域の視点を加えた、新たな 課題を的確に表現することができる。（歴史DP④） ④学科専門領域が現在の社会の課題に関係しているという 問題意識をもつことの大切さがわかる。（歴史DP⑤⑥ ⑦）
授業の到達目標・DP との関連性 /Relevance to Class Goals and DP	

学融合ゼミナールⅡ(3年次)

テーマ /Thema	学際的学修から学融合学修 学科の研究領域「縦の学び」と学科を超えた領域横断的 「横の学び」
授業の目的 /Class Objectives	複数のディシプリン（分野・領域）の連携と交流、相互 理解を通して現代社会の課題を解決する力を養う。「歴 史学の融合」では、歴史学と「現代社会」の視点から、 日本史、東洋史、文化財・考古学の専門分野を通じて、 複雑で多様な現代社会に 대응することのできる「地域戦略 人材」を担う思考を修得する。
授業の到達目標・DP との関連性 /Relevance to Class Goals and DP	① 学科専門領域を現代社会の視点から説明することがで きる。（歴史DP①②） ② 学科専門領域に他学科専門領域を関係づける思考を身 に付けている。（歴史DP③） ③ 学科専門領域に他学科専門領域の視点を加えた、新た な課題を的確に表現することができる。（歴史DP④） ④ 学科専門領域が現代社会の課題に関係しているという 問題意識をもつことの大切さがわかる。（歴史DP⑤）

UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学融合ゼミナールⅠ」の概要と改善

- 学科crossを前提にした14回授業を展開 ⇒ 資料13
 - ・ 自学科専任教員5名による1～5回の「学科パート」
 - ・ cross先学科専任教員4名による6～9回の「横断パート」
 - ・ 2学科crossの「学科パート」と「横断パート」のふり返りの「混合パート」
 - ・ プレゼン、レポート作成のための11～14回の「学科パート」
- 混合パート ⇒ 資料13 資料14 資料15
 - ・ 「学科パート+横断パート+学科パート」の枠組みを継承しながら、改善点としてグルー
プディスカッションによる意見交換、学生交流の推進のため、「横断パート」の最終回に
「混合パート」を設定。
 - ・ 異なる学科間の学生交流ができるよう、座席の指定
 - ・ 当該教室で2学科学生を対象に、「個人ワーク」「グループディスカッション」「全体共
有」「リフレクション作成」とし、学生のワークを中心に、教員がサポート。
 - ・ 学生は学科パートと横断パートの学びから自身の「学融合」の視点を整理し、「学融合」
（学科パートと横断パート）のふり返しを行う。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



第5回中嶋則夫「お茶の歴史地理」

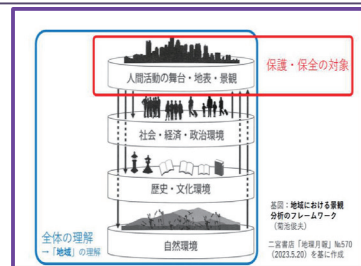
- [第5回授業コメントシート \(05/15\)](#)
レポート (成績評価公開)
利用可能期間 2024/05/15 12:00 - 2024/05/15 23:59
- [第5回授業チャット \(05/15\)](#)
チャット
利用可能期間 2024/05/15 10:50 - 2024/05/15 12:30
- [第4回振り返り](#)
資料
- [第5回授業資料](#)
資料
利用可能期間 2024/05/14 08:10 - 2024/05/21 08:10

リフレクション
実施

グループディス
カッション共有

前回のふり返り

授業資料提示



お茶の歴史地理

学融合ゼミナールⅠ 第5回

2024年5月15日(水)2限 中嶋則夫

授業スライド

静岡県 茶産出額1位陥落 史上初、鹿児島県に譲る
2021.3.13 静岡新聞
農林水産省は12日、2019年の農業産出額を発
の251億円と減収、生産量が低迷していた鹿児島
が252億円と静岡県をやや上回った。産出額ベース
陥落した。



日本茶の産地、静岡県静岡市清水区。茶畑の風景。茶畑の緑が美しい。背景には静岡市清水区の家々が visible。

江戸時代末期～明治時代初期の茶業

- 開港を機に、欧米諸国で日本茶需要が高まっていることを知った各地の篤農家は、山林などを開墾して茶園を造成し、茶の大規模な栽培・集荷に乗り出した。各地の茶葉は横濱に運送されて大きな利益を得る者も現れた。
- 中小の産地でも茶の需要拡大への対応は急務に迫られた。例として、開港番（千葉県野田村）では、茶の専売を主張し、改選で茶産の改良に取り組んでいた中山元成らに命じて1853（嘉永6）年に物産会所を設立した。
- 牧ノ原地区（静岡県）では、1869（明治2）年に海外からの茶葉に上る開拓は当初計画が、丸亀元による開拓の指導や海外からの製茶技術の導入などに沿って次第に茶葉拡大→茶園拡大→大々開拓が農業主などにも行われて現金収入を獲得し、それを茶園の拡大に用いる機会の増大

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved

●学融合ゼミナールI



35	今回の学融合ゼミナールでは、実際に他の学科の先生方の講義を聞くことができて、他の視点から見た公共とはということを考えることが出来ました。	55	多文化共生が今後必要であることについて理解が深まった。
36		56	他学科の学びを踏まえて、公共政策学科の3QTのフィールドワークなどに生かせる視点が深まった。
37		57	
38	他学科の授業や交流を通して違った視点から新しい刺激を受けることが出来たから	58	人種差別についての理解が深まり、学ぶ意欲も高まった。
39	他学科の学びを通してどんな問題が公共政策とつながることができるのかを考察した。	59	人文学科の教員の講義からは、公共政策とは違う視点での見方を学ぶことができたため、新たな公共政策への考え方が身についた。
40		60	教育社会学をこの講義を通じて新たに知り、今後公共政策を考えるうえで重要な知識を身に付けることが出来たと感じた。
41		61	違う学部を知るというのも大切だと感じた
	人文学科の学びを通じて、新たな視点を得ることができた。 毎回違う分野を学んでいたので、毎日が斬新な気持ちで授業を受講することができた。 今回の学融合では、基礎の基礎しか学べなかった気がする。 新しい視点や学びを得るには、もう少し深い所で学ぶ必要があるだろう。 もう少し深く学びたいと感じた。 学融合を通じて、自分の興味関心のある分野を発見し、他学科の第Ⅱ類科目を受講することにより、広く深く理解することができ、卒業研究や、今後の人生に生かせるようにできるような授業にすることも良いだろう。	62	他学科と公共政策の共通する部分を学び、それぞれの分野から見える問題点や疑問点をレポートにまとめたことでフィールドワークでの学びに活かせる部分を見付けることが出来た。
		63	学融合ゼミを通して、公共政策をより深く考えることができた。
		64	今回の初めて自分が学んでいない学問との結びつきを行った際に、発表原稿の作成などで悩んだ
		65	
	学融合ゼミナールでの、グループワークを行っていた中で、公共政策学科では普段学ぶことができない視点を持つことができた。他学科の視点を公共政策学科で活かすために、誰が誰にどこでどのような政策をしているのか今後学ぶべきだと思う。		別の授業でも「多文化共生」という部分を学んでおり、この授業でも学んだが、人文学科からの視点など普段ではあまり聞くことのできない考えを聞くことができ、自分の中でのこの分野に対する意欲が高まった。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved



151	他の学科との関わりが新鮮で、初めて知るようなこともあったので良かったと思います。	179	他の学科の学ぶ意欲が高まった。
152	社会学の分野や公共政策の分野のことをして、自分の興味のあることを知ることができたし、今回学んだ分野についてもっと知りたいと思った。	180	異なる分野でもどこかで融合できるという点について理解が深まったと感じる。一見何のかわかりもなさそうな臨床心理学と地域創生領域が回を重ねることで融合できるということを実感できたことで学ぶ意欲が高まったと感じた。
153	観光マーケティングや地域創生という普段触れない分野の話がきけて、その分野への興味が高まった。	181	この授業には何度か体調不良で出れないこともあったが、講義の中で聞いた多文化共生などの初めて聞く単語を調べたりすることが楽しく、別の分野に触れることが出来て楽しかった。しかし、リアクションペーパーの提出期限が他の授業とは比較的に短かったため、提出できないことがあったため気を付けていきたいと思った。
154	座学をしているだけでは得ることのできない、旅行会社の政策などを知ることができてとても面白かった。また、違うテーマを勉強している他学科との交流も自分にプラスになっていると感じる。	182	
155	マーケティングに関しては面白く今後に役立つものが多かった。また、地域のこととして自分のまちを振り返ることが多く自分の町のことをここまで考えるのが新鮮だった。	183	他学科の先生の授業を受ける機会が少ないため、知らない内容に触れることができて学ぶ意欲につながったと感じた。
156	様々な分野に触れることができた	184	違う学問のトピックについて、心理学とも絡めながら考える時間があった点。
157	学習したことのない他の学科の授業を受講したことにより、今の学科だけでは知ることのできなかったほかの分野の考え方を知る機会として、考えることにおいて選択肢を持てるようになった。	185	今回のレポートで、いろいろ後付けしているのが良くないと感じた。レポートの配点が高いので、教員同士で話し合い、すれ違いがないようにしてほしい。しかも、その注意喚起をわかりやすいところに記載してくれないと見逃してしまい困る。メールで送るなど、通知がいくものに切り替えもらえると助かる。
158		186	
159		187	他学科について理解が深まった。
160			
161			
162			
163			
164			
165	この授業において、観光マーケティングについての理解が深まりました。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学融合ゼミナールⅡ」の改善

●「学融合ゼミナールⅡ」の改編 ⇒ 資料16

・決まった学科の組み合わせを改善し、学生の自由選択に基づく視点から「現代社会の課題」に応える力を醸成する。

・授業内容の再検討

・「学融合ゼミナールⅡ」を2つに改編

●「学融合ゼミナールⅡ」をスタンダード「探究する学融合」とし、決まった学科の組み合わせであった6～10回の「横断パート」について、学科crossを超えて学生が自由に学ぶクロスディシプリン教育、マイ・クロスディシプリンの実現のため「学融合パート」とする。⇒ 資料16 資料17 資料18 資料19 資料20

●「学融合ゼミナールⅡ」にプレミアム「旅する学融合」を追加し、学科の学びを超えた、決まった学科の組み合わせを前提としない、自身の学融合、セルフ・クロスディプリンを、居住地と地域をフィールドとして実践する。⇒ 資料23 資料24

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学融合ゼミナールⅡ」スタンダードの概要

● 「学科パート」と「学融合パート」による14回授業を展開

⇒ 資料16 資料17

- ・ 自学科専任教員5名による1～5回の「学科パート」
- ・ 学生選択の6～10回の「学融合パート」
- ・ 「学科パート」と「学融合パート」のふり返りと、プレゼン、レポート作成のための11～14回の「学科パート」

● 「学融合パート」⇒ 資料18 資料19 資料20

- ・ 改善点として開講科目を、自己の学融合に基づく研究領域から自由選択し、決まった学科の組み合わせにならない、学科を超えた学融合（マイ・クロスディシプリン）の実現
- ・ 6～10回の各教室で行われる多様な学融合科目から毎回、自由に選択する。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料16 「学融合ゼミナールⅡ」スタンダード

授業内容・方法 改善

授業イメージ

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回
← 学科パート →					← 学融合パート →					← 学科パート →			
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
■					▲	▲	▲	▲	▲			◆	◆

学融合パート
多様な専攻学生を
対象

【学融合パート】
学科を超えた自由選択
自学科以外を選択受講
マイ・クロスディシプリンの実現

◎座席指定、グループワーク

■本専攻におけるクロスディシプリン教育の位置

- ・ 探究実証系学科 ⇒ 学科専門領域と現代社会
- ・ 社会創造系学科 ⇒ 学科専門領域と人間学
- ・ 学科専門領域を超えた学融合の探究

開講テーマ 探究実証系学科—人間学 社会創造系学科—現代社会

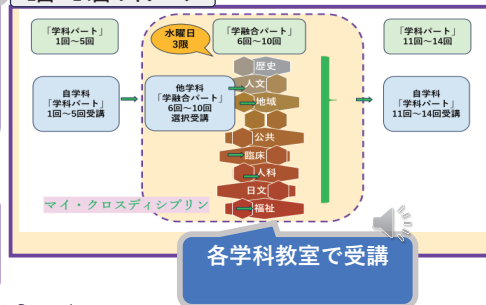
▲6回～10回学融合パート

- ・ 自己の学融合に基づく研究領域の自由選択、学科を超えた学融合（マイ・クロスディシプリン）
- ・ 当該授業時間帯—水曜日3時限開講の融合科目の中からcross学科を超えた授業選択
- ・ UR-noteに3年対象の授業コースを設定、資料提示、課題提出（各学科に提出＝採点）

◆レポート作成 プレゼン

各学科専門領域自由選択 マイ・クロスディシプリン

1回～14回のイメージ



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料17 学融合ゼミナールⅡスタンダード授業内容例歴史学科

【学科パート】

- 第1回 「『首都圏』はいつから『首都圏』なのか」
- 第2回 「現代東欧社会に関する歴史的考察—体制の変容の中で国民はどう生きてきたか—東ドイツ、ポーランド編」
- 第3回 「近現代東アジアと台湾」
- 第4回 「古代日本の対外観・異民族観」
- 第5回 「神仏習合から見る現代日本の宗教理解」

【学融合パート】

- 第6回 「墓の歴史と課題」
 - 第7回 「中世京都の人々と社会」
 - 第8回 「近世庶民の行楽」
 - 第9回 「地域の文化財としての近代建築」
 - 第10回 「『鳥鴨の近代』」
- 【学科パート】
- 第11回 「日本の文化の多様性—地域の歴史とその文化—」
 - 第12回 「考古学から考えるローカルな自然災害」
 - 第13回 「プレゼンテーションの準備—アカデミックエッセーに向けて—」
 - 第14回 「プレゼンテーション」

学科
パート

学融合
パート

学科
パート

【学科パート】

【学科パート】
第1回 「『首都圏』はいつから『首都圏』なのか」
第2回 「現代東欧社会に関する歴史的考察—体制の変容の中で国民はどう生きてきたか—東ドイツ、ポーランド編」
第3回 「近現代東アジアと台湾」
第4回 「古代日本の対外観・異民族観」
第5回 「神仏習合から見る現代日本の宗教理解」

【学融合パート】

【学融合パート】
第6回 「墓の歴史と課題」
第7回 「中世京都の人々と社会」
第8回 「近世庶民の行楽」
第9回 「地域の文化財としての近代建築」
第10回 「『鳥鴨の近代』」

【学科パート】

【学科パート】
第11回 「日本の文化の多様性—地域の歴史とその文化—」
第12回 「考古学から考えるローカルな自然災害」
第13回 「プレゼンテーションの準備—アカデミックエッセーに向けて—」
第14回 「プレゼンテーション」

資料18 学融合パート 授業一覧

第6回	「揭示物と情報」 「現代社会の文化的多様性：生殖政策をめぐる問題」 「墓の歴史と課題」 「精神医学と人権」 「社会学理論の視点からみた現代社会」 「ハンセン病への差別と偏見」 「小さな共創的実践から社会を変革する—社会デザインの視点」 「地域運営の視点からみた現代社会の公共（公共性）について」
第7回	「伝達文書とわかりやすさ」 「物語から考えるジェンダー・公共性・モラル」 「中世京都の人々と社会」 「積極的傾聴とは」 「記憶の社会学の視点からみた現代社会」 「精神障害のある人と文学」 「地域創生のプレイヤーとして事実からものごとを考える」 「外国人の就労という視点からみた現代社会の公共（公共性）について」
第8回	「日本の在留外国人の目線から考える街中の表示」 「地域活性化における理論と実践について」 「近世庶民の行楽」 「積極的傾聴とは」 「実験心理学の視点からみた現代社会」 「ヒューマンライブラリーを企画しよう」 「地域通貨による地域創生：地域通貨ゲームを用いた考察」 「男女共同参画の視点から考える現代社会の公共（公共性）について」
第9回	「『やさしい日本語』と言語権」 「言葉づかいを考える：言語コミュニケーションの可能性」 「地域の文化財としての近代建築」 「臨床心理学における情報伝達のしくみ（ペアワークを含む）」 「イノベーションと現代社会」 「まちで障害のある人と出会ったら」 「インタビューや口コミの言葉を分析する新たな手法：テキストマイニング入門」 「観光政策の視点からみた現代社会の公共（公共性）について」
第10回	「ノンネイティブ・スピーカーの日本語力向上を助ける」 「理想のセクシュアリティ教育について考える」 「『鳥鴨の近代』」 「臨床心理学における子育て支援」 「社会学の視点からみた現代社会」 「地域共生社会を実現するためには」 「自治体広報の現在地」 「宗教社会学の視点からみた現代社会の公共性について」

授業教室
受講

資料19 学融合パート 授業内容抜粋

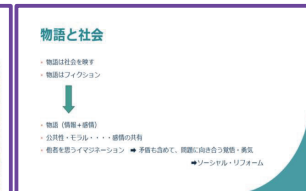
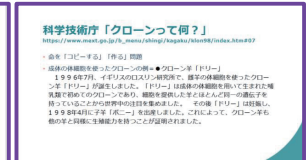
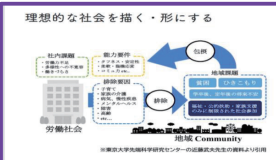
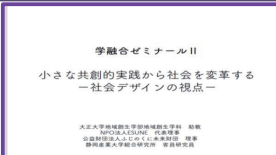
MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

第6回授業

- ☐ 「揭示物と情報」
- ☐ 「現代社会の文化的多様性：生殖政策をめぐる問題」
- ☐ 「墓の歴史と課題」
- ☐ 「精神医学と人権」
- ☐ 「社会学理論の視点からみた現代社会」
- ☐ 「ハンセン病への差別と偏見」
- ☒ 「小さな共創的実践から社会を変革する—社会デザインの視点—」
- ☐ 「地域運営の視点からみた現代社会の公共（公共性）について」

第7回授業

- ☐ 「伝達文書とわかりやすさ」
- ☒ 「物語から考えるジェンダー・公共性・モラル」
- ☐ 「中世京都の人々と社会」
- ☐ 「積極的傾聴とは」
- ☐ 「記憶の社会学の視点からみた現代社会」
- ☒ 「精神障害のある人と文学」
- ☐ 「地域創生のプレイヤーとして事実からものごとを考える」
- ☐ 「外国人の就労という視点からみた現代社会の公共（公共性）について」



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料20 学融合パート 授業内容抜粋

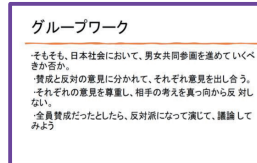
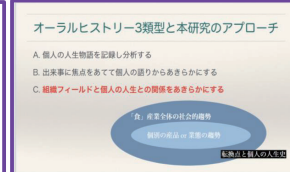
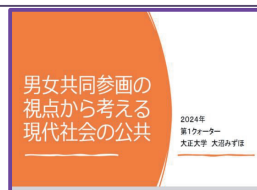
MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

第8回授業

- ☐ 「日本の在留外国人の目線から考える街中の表示」
- ☐ 「地域活性化における理論と実践について」
- ☐ 「近世庶民の行楽」
- ☐ 「積極的傾聴とは」
- ☐ 「実験心理学の視点からみた現代社会」
- ☐ 「ヒューマンライブラリーを企画しよう」
- ☐ 「地域通貨による地域創生：地域通貨ゲームを用いた考察」
- ☒ 「男女共同参画の視点から考える現代社会の公共（公共性）について」

第9回授業

- ☐ 「「やさしい日本語」と言語権」
- ☐ 「言葉づかいを考える：言語コミュニケーションの可能性」
- ☐ 「地域の文化財としての近代建築」
- ☐ 「臨床心理学における情報伝達のしくみ（ペアワークを含む）」
- ☒ 「イノベーションと現代社会」
- ☐ 「まちで障害のある人と出会ったら」
- ☐ 「インタビューや口コミの言葉を分析する新たな手法：テキストマイニング入門」
- ☐ 「観光政策の視点からみた現代社会の公共（公共性）について」



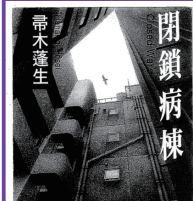
Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学融合パート授業事例 社会福祉学科 坂本教授

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



7回目「精神障害のある人と文学」(坂本)
【事前学修】授業資料を読む(1時間)
【事後学修】学習資料をまとめ、リフレクションシートを提出し、プレゼンテーションとアカデミックエッセイの準備をする(1時間)



授業概要
事前事後学修

授業スライド

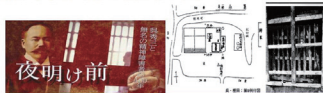
Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか?
【隔離 収容時代】日本

精神病院法(1919)⇒世界恐慌、満州事変
公設精神科病院整備遅れる
私宅監置続く 沖縄は1960年代まで



Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか?
【隔離 収容時代】日本

奥秀三(1918)
『精神患者私宅監置ノ実況及び其統計的観察』
「我邦十何万ノ精神患者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモト云フベシ」



スティグマと社会的排除の悪循環



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第7回「精神障害のある人と文学」授業概要

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

教材 資料を閉じる

> 【学融合ゼミナールⅡ】学融合パートコース
第7回社会福祉学科授業資料

小林 伸二さんがログイン中

前のページ 次のページ

目次を隠す 資料を閉じる

第1節 第7回授業資料 1 添付資料

第2節 第7回 質問 2 添付資料

第3節 3 添付資料

第4節 第7回講義資料 4 添付資料

LMS (UR-note) の活用

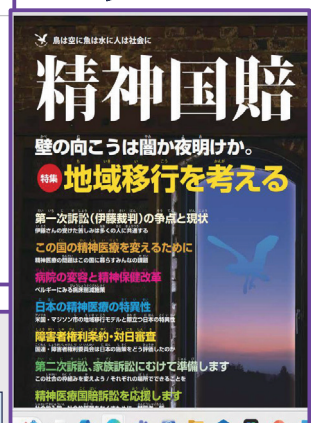
事前学修 資料提示

第7回授業資料の事前資料として、2点配信しますので、授業前に読んでおいてください。

授業資料提示

授業スライド 提示

グループディスカッション資料



アンチスティグマ活動へのアプローチを考えよう

第7回精神障害のある人と文学 人権を考える (office.com)

リフレクション

第7回「精神障害のある人と文学」坂本教授 授業スライド1

学融合ⅡA 第7回 精神障害のある人と文学 人権を考える

社会福祉学科 坂本智代枝

4つの人権課題(人権感覚を鍛える)

- ①ハンセン病
- ②旧優生保護法
- ③障害者
- ④精神医療

令和4年度版「人権教育啓発白書」法務省・文部科学省編
<https://www.moj.go.jp/content/001376516.pdf>

授業の到達目標

日本茶需要が高まっていることを

- ① 精神障害のある人への人権課題を自分事として説明できる。
- ② 社会福祉の理念や理論を踏まえて、精神障害のある人へのスティグマの構造について説明することができる。
- ③ 「閉鎖病棟」小説の文脈から、精神障害のある人とスティグマの背景を読み解き、説明できる。

精神障害のある人への人権課題の前に

- Q1 ところの健康(メンタルヘルス)に関係していることは何でしょうか?
- Q2 ところの病気は、心が弱い人になるのでしょうか?
- Q3 ひきこもりは本人や家族の問題だと思いますか?

ストレスとセルフケア (ncnp.go.jp)
ところの病気について理解を深めよう (ncnp.go.jp)
ひきこもりVOICE STATION | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)

当事者の家族が経験した人権侵害(みんなねっと2020)

家族として嫌な思い(嫌気や差別も含む)を経験しましたか?

⇒ 30.22%の人が経験している

ある	220
ない	1,487
無回答	187
総数	1,894

【年代別】

20代 - - - 54.55%

30代 - - - 38.40%

40代 - - - 37.00%

【性別】

男性 - 169

女性 - 429

無回答 - 122

総数 - 720

【経験した人権侵害】

「ある」と答えた方(220)は、当事者と一緒の時に経験した方です。

⇒ 23.47%の人が一緒に経験している。

【経験した人権侵害】

「ある」と答えた方(220)は、当事者と一緒の時に経験した方です。

⇒ 23.47%の人が一緒に経験している。

【経験した人権侵害】

「ある」と答えた方(220)は、当事者と一緒の時に経験した方です。

⇒ 23.47%の人が一緒に経験している。

医療へのアクセスの実態(みんなねっと2011)

医療へのアクセスと生活状況

Q. 最近、精神的に苦しいと感じたとき、どこで相談しましたか?

Q. これまで受けた医療機関に、人権に関心がある方いますか?

Q. これまで受けた医療機関に、人権に関心がある方いますか?

Q. これまで受けた医療機関に、人権に関心がある方いますか?

Q. これまで受けた医療機関に、人権に関心がある方いますか?

Q. これまで受けた医療機関に、人権に関心がある方いますか?

Q. これまで受けた医療機関に、人権に関心がある方いますか?

Q. これまで受けた医療機関に、人権に関心がある方いますか?

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「精神障害のある人と文学」授業スライド2

精神障害のある人への人権課題の背景

スティグマ⇒ある人の価値を下げるラベル(烙印)をつける態度や行為(ゴフマン)
ところの病気、生活保護受給者、LGBTQ等

※社会的に立場の弱い人々の周囲に共通してみられる社会問題

スティグマと社会的排除の悪循環



スティグマの種類

- ① 構造的スティグマ⇒当事者(家族を含む)に対して不利益に働く政策や慣行(制度・文化・メディア)
- ② 市民のスティグマ⇒当事者に対するステレオタイプ、否定的態度、差別的行動
- ③ 当事者のスティグマ⇒セルフスティグマ、当事者否定的なステレオタイプを認識し、自身に当てはめてしまうこと
- ④ 関係者のスティグマ⇒家族、支援者の否定的態度や差別的行動(山口: 2023)

精神障害のある人への人権課題を理解する

原典・伊藤詩朗著「閉鎖病棟」原典・伊藤詩朗著「閉鎖病棟」原典・伊藤詩朗著「閉鎖病棟」
7-1_pamphlet.pdf (seishinkubai.net)



「閉鎖病棟」から見た人権課題

スティグマ ⇄ 社会的排除 ⇄ 優生思想 ⇄ 人権侵害
社会防衛思想

文脈① 構造的スティグマ⇄隔離政策
文脈② 構造的スティグマ⇄隔離政策

- ①「患者はもうどんな人間にもならない。」
- ②「病院に入れられたとたん、(精神病)患者という別次元の人間になってしまう。」
- ③「僕れてしまえば全く気にならない」⇒施設化

「閉鎖病棟」から見た人権課題

スティグマ ⇄ 社会的排除 ⇄ 優生思想 ⇄ 人権侵害
社会防衛思想

文脈③ 精神障害のある人に対する関係者のスティグマ
文脈④と⑤ 当事者家族がもつスティグマ⇄セルフスティグマ

- ③「どうせ、患者がしたことだ。」
- ④「お母さんが知らせる」
- ⑤「息子のことを胸張って答えられない〜」

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「精神障害のある人と文学」 授業スライド3

「閉鎖病棟」から見た人権課題

スティグマ ⇨ 社会的排除 優生思想 人権侵害
社会防衛思想
文脈⑥⑦構造的スティグマ、市民のスティグマ、当事者家族がもつスティグマ
⑥「もう病院だけが自分のすみかになってしまった。」
⑦「病院の中での過ごし方で、自分ひとりとなると大違いですよ。」

Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか？

【隔離 収容時代】日本
⇒ 精神病患者監護法(1900)

私宅監置



Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか？

【隔離 収容時代】日本

精神病院法(1919)⇒世界恐慌、満州事変
公設精神科病院整備される
私宅監置続く 沖縄は1960年代まで



Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか？

・【隔離 収容時代】 西欧
・魔女狩り 「悪魔に憑かれたもの」
治安モデル
監禁施設に収容 「道徳的に墮落した怠け者」

社会防衛思想

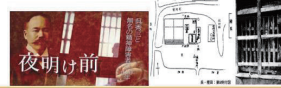


Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか？

【隔離 収容時代】日本

呉秀三(1918)

『精神病患者私宅監置ノ実況及び統計的観察』
「我邦十何万ノ精神病患者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモト云フベシ」



Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか？

【隔離 収容時代】日本

精神衛生法(1950)私宅監置廃止
精神病患者 ⇒ 精神障害者

1950年代 精神科特例
精神病院設置運営の優遇措置

社会防衛思想 医療モデル

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「精神障害のある人と文学」 授業スライド4

Q.精神障害者はどのように扱われてきたのか？
【隔離 収容時代】日本

1960年代 地域精神衛生活動の検討—

ライシャワー事件(1965)

精神患者の隔離収容



池田小学校事件により医療観察法創設へ

2001年6月8日大阪教育大付属池田小学校

無差別殺傷事件

実行犯が「精神障害者」を装っていたが詐病

医療観察法→触法精神障害者の処遇
社会復帰調整官 → 精神保健福祉士

相模原障害者殺傷事件の影響

2016年厚生労働省

措置入院後「退院後支援計画」

→ 障害者団体の反対、野党の反対

現行法のもとにできる範囲の対応

※社会防衛思想 ⇨ 優生思想
※社会的孤立

「閉鎖病棟」から見た人権課題

文脈⑧⑨構造的スティグマ⇨当事者家族がもつスティグマ
背景 私宅監置⇒家族主義 ⇒ 福祉サービス
(介護保険・生活保護等)

「病人ですか、精神病院の」
「ほら、その病気がまた出らんとも限らんでしょうが」

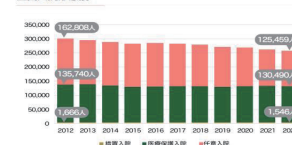
「閉鎖病棟」から見た人権課題

全国の精神科病院在院患者総数



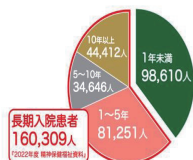
医療保護入院は増加

全国入院形別



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

長期入院者も減少しない傾向



Qアンチ・スティグマ活動へのアプローチを考えよう

マクロ・メゾ視点(社会や政策、地域)では?
構造的スティグマを軽減するためには?

メゾ・ミクロ視点(当事者視点)では?
市民のスティグマ・関係者のスティグマを軽減するためには?
当事者・家族のスティグマを軽減するためには?

文脈1③ リカバリー・ストレングス視点+ピアサポート

引用・参考文献

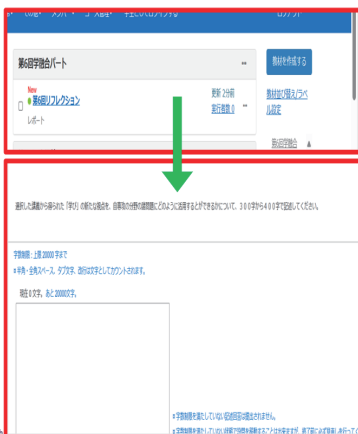
帯木 達(1997)『閉鎖病棟』新潮文庫
内田博文(2021)『感染症と人権』解放出版社
山口創生(2023)『こころの病気に対するスティグマと精神科医療』『こころの科学』228,日本評論社,16-23頁
平良仁雄(2023)『国策が私たちの人権を奪った』『響き合う街で』104号,やどかり出版,22-25頁
福田正人編(2023)『こころの科学』228,日本評論社

・ReMHRAD - 地域精神保健福祉資源分析データベース
日本の精神科医療の現状 | 調査報告 | 神奈川精神医療人権センター (kp-jinken.org)

アンチスティグマ活動へのアプローチを考えよう

第7回精神障害のある人と文学 人権を考える (office.com)

学科コース・リフレクション



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

●「学融合ゼミナールⅡ」探究する学融合 ⇒

資料21

資料22

全校3年生対象
162名回答

3. 学融合ゼミナールⅡの学科パート(1回~5回・11回~14回)の授業内容について

詳細

● 大変満足している	32
● 満足している	107
● あまり満足していない	20
● 満足していない	2



4. 学融合ゼミナールⅡの学融合パート(6回~10回)の授業内容について

詳細

● 大変満足している	44
● 満足している	97
● あまり満足していない	16
● 満足していない	5



5. 学融合ゼミナールの学びは、今後の学科専門領域に役立ちますか

詳細

インサイト

● 大変役立つ	33
● 役立つ	105
● あまり役立たない	21
● 役立たない	2



こちらでは修正できません（張り込んであるデータ）

資料21 学融合ゼミナールⅡ 探究する学融合 学生アンケート1

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

地域創生学科で学習したテキストミニングの手法と、臨床心理学におけるカウンセリングを融合させた提案
29 できた。
他学科の授業をただ聞くだけでなく、自学科の学びや知識と結びつけることで、自学科の視点に囚われない視
30 点を身につけることが出来たと考える。
人文学と公共政策は、数学と物理学のような関係にあるという理解に及びました。1+1=2ですが、これには何の
31 意味もありません。これに意味を加えて、リング+リング=2 個のリングとすることで初めて我々の生活に活かすこ
32 ことができます。このことを学融合を通して実感する事が出来ました。
33 他学科の授業は通常では受けられないため、自分の興味の幅が広がると感じた。
以前から臨床心理学に大変興味があったので、学融合で臨床心理学の学びに触れる事が出来たのは、とても
34 貴重な経験だったと感じています。
分野の近い日本文学以上に興味を持っていたのが、公共政策だった。現代社会に活かすには、学科の学びだけで
35 は難しいと感じていたため、公共政策での学びや考え方を活用できると考えプレゼンも行った。
36 歴史について触れた授業は高校以来久しぶりで楽しかったです。
歴史だけでなく、地域性や人々の心情など様々な視点で物事を考えることができた。
お寺に対して深い関わりを持ってこなかった人間なので、当初はお寺で若者らしいイベントを行うのは不謹慎な
37 のではないかと感じていた。だがお寺の運営の難しさや、広大な土地を活かす事が出来ないのは勿体無いと
感じ、堅苦しいイメージだけでなくみんなの参加しやすいお寺という選択肢が増えたのも良い事であると分かっ
38 った。
仏教と表現を掛け合わせたプロジェクトを考えるのが新鮮で面白かった。カスタマージャーニーを書いた回で
は、きちんと仏教の知識がないと書くことができないということを実感した。自分が学んでいること何かを掛け
合わせてプロジェクトを考える際は、掛け合わせるものの知識がないと良い企画が生まれないんだと感じた。



昨年までは地域創生学部の内容しか学べなかったが、今年は様々な学部の授業を模範的に体験できたので
56 新鮮な視点を得ることが出来て良かった。
普段聞けない授業を開けたのは良かった。地域に歴史あり、立地の属性によって歴史が成り立っていること
57 を学べた。歴史以外だと、少子化やイノベーションなど、深く知らないことを、深堀できたのは良かった。
58 色々な学科の学びを得ることで、知見が広がり、日常生活にも役立てられるようになって感じた。
59 本来なら学べる機会が無いことを学べるのは良いことだが、自分の学科で生かすというのは難しいと思った。
60 歴史中心の視点ではなく、現代の社会問題になっている事を詳しく学ぶことができた。
自分の専門以外の話を聞くことで新たな学びに繋がった。また、普段聞かない先生の授業を受けられたこと
61 で、普段とは異なる授業スタイルを体験することができた。
62 学習の成果は何もありません。
授業で出てきた内容だけでなく、自分でインターネットを使って幅広く調べること内容の濃いレポートを完成さ
63 せることができた。
64 日本語や地域、障害を持った人との接し方を詳しく理解できた。
65 他学問の視点を学ぶことで、自身の学問への新たな視点が生まれたと感じました。
日本文学では学べないようなセキュリティ教育について学べたのはいい学びだったと思った。サークル
66 で手話をやっているのを見ていて持っている人との関わり方について学べたのも良かった。
各講義でのリフレクションの中で、自学科と他学科のつながりについて、共生社会の実現というテーマで考えて
67 きた。そのなかで、学科によってさまざまな視点で共生社会を考えていることが理解できた。
68 仏教に関する知識を得ることができたこと、仏教を身近に感じることができた。おそらく学融合があれば、こ
こまでしっかりと学ぶことがなかったと思う為、とても勉強になった。
興味ある特定の事を詳しく学べた。例えば心理学では相手の気持ちを理解する為の授業があったが、非常に
69 面白いとおもった。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料22 学融合ゼミナールⅡ 探究する学融合 学生アンケート2

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

講義タイトルだけで決めるので、正直選んだ学科によって当たり外れが大きいし学融合しにくいこともあった
71 問5の理由としても当てはまる。あとは単純に受講人数差が激しいので、ディスカッションとか一切できず
的に聞いているだけの授業が存在して楽しくない。
72 自分の所属する学科の授業では絶対に受講できないようなタイプの講義を受講し、視野が広まったと感じる。
73
今まであまり気にしたことがなかった街中の日本語について、日本人目線でも外国人目線でも考えられた点が
74 良かった。
75
人間科学科の授業を受けて、現代の社会問題にフォーカスしている社会学系の授業を受けていたが、現代の
76 社会問題と私がやっている歴史とで比較しながら考えることにつながった。
77 学科によっては臨床心理と関連付けさせるのが難しいと感じた。
78 自分の学科とは違う学科の授業を受けたことで自分の知らない分野や知識を学ぶことができて面白かった。
79
表現学科の分野の学びも、多くの発見があったり、仏教学科の事とつながれるようなものもあり、自分の学科
80 以外の学びを試してみるのもおもしろいと感じた。



83 異なる学科のテーマに共通する部分を見つけようと試みたことはい体験になったと思います。
様々な学科の講義を聞き、理解した上で自分の学科のことについて考えることで、新たな視点が広がったと感
84 じている。
他学科の領域を学ぶことで歴史学に置いてこういう視点から見るという新たな学びを得ることができた。例えば
人文科学科の授業で学んだ男女のコミュニケーションスタイルの違いからジェンダーステレオタイプを知ることが
でき、歴史学と関連付けながら考えることができた。私自身明治時代の文化面について細かく調べたいと思っ
85 ており、当時の男女の格差を考える上で必要なことではないかと考えることができた。
86
聞いたことなかった話が深く聞けたので(ゲーム理論とか)勉強になった。今後の活動に何かしら役立てられ
87 る時が来たらよいなと思っている。
表現文化学科では、仏教学科の学びについて学んだため、自分の知らない知識についても、学べるのが楽し
88 かった。また、仏教芸術は芸術が好きなので自分にとって聞いていて学ぶと同時に楽しいという気持ちがあった。
89 学科を超えた学びの成果として、どのような歴史を経て商店街の形成や営みを行っているのかを理解できた。
90 社会福祉学科の授業で障害者が抱える問題について知るきっかけになった
あまりない。仏教に対する新しい知見を得ることはできたが、自分が専門としている領域とそこまで結びつくこと
91 はなかった。
普段全く受講しない分野の学習ができて、新たな知見を多く得ました。学びを統合することはかなり難しかった
92 ですが、試行錯誤する時間が自分の力に繋がったと思います。
普段の自学科での学びだけではなく、他学科の興味のある分野を選択し、講義を受講することによって、様々
93 な学びをすることができるとのいいと思った。
自学科パートとの共通点や相違点を確認し、自身の周りの出来事に関連付けて学びを振り返ることが出来まし
94 った。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学融合ゼミナールⅡ」プレミアムの概要

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100

- 「事前学習」「学融合実践Ⅰ」「学融合実践Ⅱ」「事後報告」を展開 ⇒ **資料23**
 - ・従来の「学融合ゼミナールⅡ」に、プレミアム「旅する学融合」を追加開講し、学科推薦学生を対象に、学科の学びを超えた、決まった学科の組み合わせによらない、自身の学融合、セルフ・クロスディシプリンを、居住地域と地域のフィールドで実践する。
 - ・学融合実践地は居住地域・地域1・地域2の合計3地域とする。当該期間の他授業についてはオンデマンドで対応。
- 「学融合実践Ⅰ」⇒ **資料24 資料25**
 - ・居住地域の3カ所を選択して、学融合を実践
 - ・実践は授業のない曜日・時限、ないし土曜日、日曜日を活用
- 「学融合実践Ⅱ」⇒ **資料24 資料25 資料26 資料27 資料28**
 - ・セルフ・クロスディシプリンに基づき、連携自治体等全国から2地域を選択し、4泊5日で実践
 - ・実施計画を担当教員、東武トップツアーズと相談の上、自身で策定、安全・安心の実践
 - ・学科推薦、事前学修シート、ディリーレポート、学融合レポートの提出、プレゼンテーションの実施
- 一連の計画策定からセルフ・クロスディシプリンの実践による、学生の満足度、成長実感 ⇒ **資料29**

資料23 「学融合ゼミナールⅡ」プレミアム 旅する学融合

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100

授業イメージ

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回
◎	◎	← 学融合実践1 →					← 学融合実践2 →					◎	◎
■		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	◆	◆

【学融合実践】
居住地域と2地域による学外実践
理論を地域で実践
セルフ・クロスディシプリン

【学融合実践】
居住地域と2地域による学外実践
理論を地域で実践
セルフ・クロスディシプリン

◎事前学習 事後報告 座席指定、グループワーク
■本事業におけるクロスディシプリン教育の位置 学融合ゼミナールの意義を周知
☆任意の2週間を活用した「学融合実践」 学科推薦登録制
◆「学融合実践レポート」報告

・学科の学びを超えた、自身の学融合（セルフ・クロスディシプリン）をフィールドで実践する。
・居住地域+本学全国エリアキャンパス=連携自治体から2地域を利用、合計3地域
・学融合実践1（1QT）ないし2（2QT）の期間のうち、連続する2週間を選択、学園祭期間は不可
・実践期間内はオンデマンド授業対応

⇒「学融合実践計画」を事前に提出
⇒「目的=あなたにとっての学融合」
⇒「学融合実践先・3地域=学融合との関連性」
「旅する学融合計画書」提出 ⇒ 面談 ⇒ 許可 ⇒ 履修登録

クロスディシプリン
教育チームが担当

各学科から1~2名の
学科推薦登録制
学修上、推薦不可能
な学科は除く



1・2回
事前学習

個別事前学習

居住地実践

地域実践

13・14回
事後報告

100分×3

4泊5日

事前学修シート
出発前面談3回
ディリーレポート
(居住地域・地域)
終了后面談
プレゼンテーション
学融合レポート

資料24 学融合ゼミナールⅡプレミアム授業内容例

新規
開講

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



旅する学融合

- 第1回 地域実践事前学修報告
事前学修：実践事前計画書の作成（2時間）
事後学修：実践地域調整（2時間）
- 第2回 居住地域実践報告
事前学修：実践事前計画書の作成（2時間）
事後学修：実践地域日程調整（2時間）
- 第3回 ～ 第12回
事前学修：実践事前計画書に基づく準備（2時間）
事後学修：実践地域に係る報告書作成（2時間）
- 居住地域実践
①日程・場所
②日程・場所
③日程・場所
- 地域実践1
①日程・場所
②日程・場所
- 地域実践2
①日程・場所
②日程・場所
- 第13回 地域実践報告
事前学修：プレゼンテーションの準備（2時間）
事後学修：コメント・意見を踏まえ、リアクションペーパーにまとめる（2時間）
- 第14回 アカデミック・エッセー作成
事前学修：アカデミック・エッセーの準備（2時間）
事後学修：コメント・意見を踏まえ、エッセーを完成させる（2時間）

実践事前
学修

居住地実
践

地域実践

実践報告

居住地域①②③実践場所の確定

地域1・2実践地の確定

東武トップツアーズ・京都アカデミアとの交渉

事前学修シートの完成

地域実践時期にかかわらず、事前学修・事後学修レポート・報告には十分な時間を確保すること

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料25 履修登録

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



履修登録までの流れ



「旅する学融合」履修者はⅡ類コーディネータからの推薦制とし、各学科から1～2名とする。
説明会参加後、担当教員・クロスディシプリン教育チームとの面談を経て、計画書の提出、現地ならびに東武トップツアーズとの調整後、履修登録を認める。

学融合実践のパターン

選択	・①実践第1周	日 月 火 水 木 金 土
	通常授業 月・火・水	通常授業
	居住地実践 木・金・土	居住地実践
選択	・②実践第1周	日 月 火 水 木 金 土
	通常授業週のうち居住地実践を任意で設定	通常授業・居住地実践
	(100分×3+事前事後学修)	
選択	・実践第2周	日 月 火 水 木 金 土
	地域実践1 月・火・水	地域実践1
	地域実践2 木・金・土 5泊6日	地域実践2

学融合実践の1週目を②の通常授業週のうち、任意の授業時間外で居住地実践を行うことで、実質2週目の1週間（5泊6日）だけのオンライン授業対応で「旅する学融合」が可能となる。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料26 事前学修シート デイリーレポート

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

●事前学修シート・経路計画書

「習得する学習成果」事前学修シート	「習得する学習成果」経路計画書
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)
学習成果 ()	経路計画 (月 日 時間 : ~ :)

事前学修
シート

経路計画

●デイリーレポート

「習得する学習成果」事前学修シート	「習得する学習成果」デイリーレポート
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()
学習成果 ()	学習成果 ()

デイリー
レポート
居住地域実践

デイリー
レポート
地域実践

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料27 居住地・地域実践一覧

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

クロス分野	居住地1	居住地2	居住地3	地域1	地域2	期間
「文化財保存修理」cross「地域創生・公共政策(社会教育)」	東京	東京	東京	北海道	奈良	6月24日(月)~28日(金)
「歴史」cross「地域創生」	東京	東京	東京	島根	鳥取	6月17日(月)~21日(金)
「歴史」cross「表現文化」	埼玉	埼玉	埼玉	福岡	長崎	6月25日(火)~29日(土)
「歴史」cross「日本文学」	埼玉	埼玉	埼玉	島根	鳥取	6月17日(月)~21日(金)
「歴史」cross「地域創生」	東京	東京	東京	愛知	大阪	6月10日(月)~14日(金)
「歴史」cross「表現文化」	東京	東京	東京	徳島	京都	6月17日(月)~21日(金)
「貧困対策」cross「地域共生」	東京	東京	東京	静岡	愛知	6月24日(月)~28日(金)
「近代文学」cross「地域創生」	神奈川	神奈川	神奈川	兵庫	京都	6月13日(木)~17日(月)
「芥川龍之介」cross「人文学科:宗教文化」	東京	東京	東京	長崎	奈良	6月17日(月)~21日(金)
「比較文化と異文化理解」cross「土地の歴史、風俗」	埼玉	埼玉	埼玉	京都	兵庫	6月29日(土)~7月3日(水)
「比較文化と異文化理解」cross「土地の歴史、風俗」	埼玉	埼玉	埼玉	京都	兵庫	6月29日(土)~7月3日(水)
「比較文化と異文化理解」cross「土地の歴史、風俗」	埼玉	埼玉	埼玉	京都	兵庫	6月29日(土)~7月3日(水)
「比較文化と異文化理解」cross「土地の歴史、風俗」	千葉	千葉	千葉	京都	兵庫	6月29日(土)~7月3日(水)

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料28

プレゼンスライド

大田区・鶴の木、大田区・田園調布、大田区・蒲田
⇒ 静岡・名古屋

MAKE YOUR UNIVERSE.



大正大学



一線だからつくれる世界を。

「貧困対策」cross「地域共生」

テーマ「貧困対策×地域共生」

《昭和》

地域のコミュニティ意識が高い
地域住民同士の繋がりが深い

【地域共生】

近所付き合いや交流が盛んである
皆が顔見知りで名前を知っている

【地域の子どもの過ごし方】

公園での外遊び
ひとりで買い物へ出かける

【地域の商店街の役割】

地域住民同士の交流の場

《近年》

地域が交流の場にはならない
地域住民が個別に暮らしている

【地域共生】

近所付き合いや交流が希薄である
皆の顔や名前を知らない

【地域の子どもの過ごし方】

家でのゲーム遊び
ひとりで買い物へ出かけるのは危険

【地域の商店街の役割】

それぞれの用事を済ますための手段

プレゼン
スライド

《静岡市歴史博物館》

名産品や土産物の文化が現代にも通じる



《名古屋都市センター》

昔から日本の中心地、繁華街の姿を見せている



《熱海市社会福祉協議会》

～熱海市の福祉的課題～

住民の高齢化、地形の特徴による移動難民の増加
地域住民に向けたイベントや交流活動の少なさ
児童・障がい分野の支援や福祉活動の不足

～代表的な取り組み～

運転ボランティアの養成講座
福祉まつり
→高齢者に対する取り組みが豊富

《名古屋都市総合社会福祉会館》

～名古屋市の福祉的課題～

地域住民に向けたイベントや交流活動の目立たなさ
人口が多いことによる顔の見える支援の困難さ
アプリによる福祉に関する取り組みの多さ

～代表的な取り組み～

健康なごやプラン21
地域学園
→様々な分野に対する取り組みがある

《熱海市》

地域住民の高齢化が進行しているため、高齢者を支援することを通じて地域住民同士の交流を行う
《名古屋市》
健康プランや地域学園、その他の様々な分野の活動が多くあることで地域住民のコミュニケーションの機会と
望まない孤立を防ぐことができる

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料29

居住地実践と地域実践 教育効果

MAKE YOUR UNIVERSE.



大正大学



一線だからつくれる世界を。

経路計画

見学地選定

銀行口座提出

見積書提出

事前学修シート提出

第1QT

第2QT

13・14回授業

保証人同意書
本人誓約書

出発前
面談3回

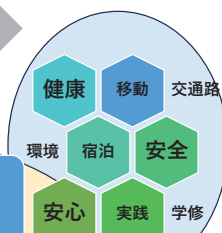
終了後
面談

終了後経路提出
見学料申請
アンケート

3カ所
居住地実践

2地域
地域実践
4泊5日
6月実施

実践報告



面談

計画

修正

事前学修

・実践
・ディリー
レポート

事前学修

・実践
・ディリー
レポート

報告

・プレゼン
テーション
・学融合レ
ポート

旅する大学

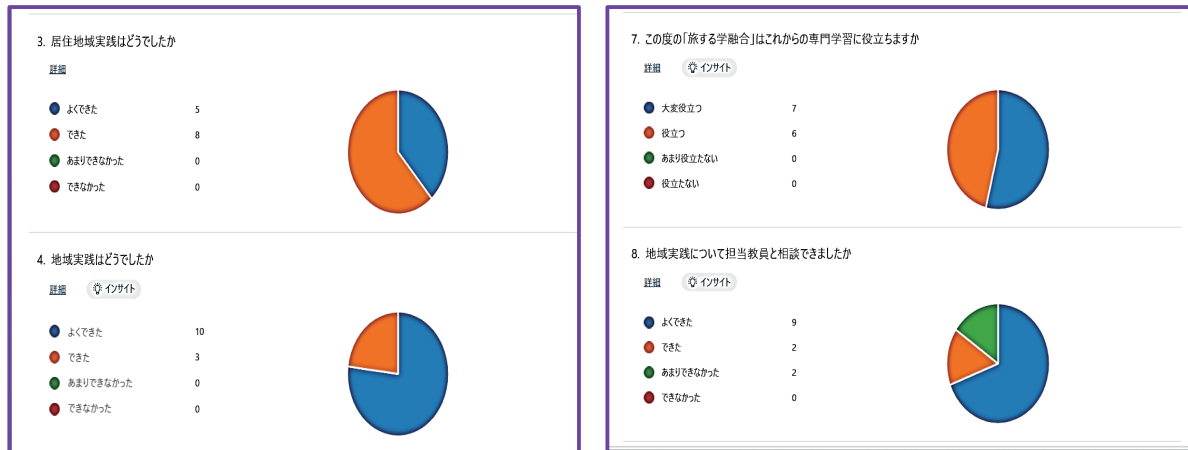
学生満足

教員負担

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学生の声 アンケートから2

●「学融合ゼミナールⅡ」旅する学融合 ⇒ 資料30



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料30 学融合ゼミナールⅡ旅する学融合学生アンケート

この度の「旅する学融合Ⅱ」に関して、自由に感想・意見を聞かせてください。	
1	色々な地域に向かうことができたのはとても魅力的だったし、さまざまな出会いがあって面白かった。さらに深い実践にするには一人で実践するのもそうだが、2・3人で向かっていく方がさまざまな意見を互いに交換でき、より深い内容となるのではないかと思います。
2	本や写真で見えるよりも、実際に訪れることで予想外の収穫は多かったように感じる。特に仏像では、色々な角度で細かい部分まで見ることができ、自分で考えて気づける場面が多々あった。実践を通して、その土地の空気や匂いなど、五感で学ぶことができたと感じる。
3	有意義な地域実践でした。地域の人と交流ができたことに満足しています。これからの学びに活かそうと思いました。
4	今回の学融合はもう少し事前学習をするという反省点があった。居住地域にしても地域実践にしても現地の人にもっと話を聞いて文面では得られないことを得たかった。しかし質問の内容が出てこないことやそもそもしなかったこともあった。事前学習をもっとしたら良い質問ももっと浮かんで身のあるものとなったと思うのでそこが反省点である。しかし実際に目で見て自分で立地などを確認したことではっきりとした認識が得られたのでとても良い体験ができた。
5	普段できない経験を積める良い機会にはなったと思う。
6	実際に現地に行って作家の散歩道などの作品の中だけでは分からないような、その土地の空気感を感じることが出来て、実際に行くということの大切さがわかった。
7	実践前に事前に調べてからいくことで、実践の時はさらに理解を深めることができた。また、自分で計画することでより興味のある分野、学習したいところを重点的に周り見学することができたのがよかった。
8	実践の宿泊地として使った京都アカデミアは、評判よりも環境がよく使いやすかった。
9	授業の一環で旅行に行くということがこれまでになく、すべてが初めての体験でももちろん準備や計画を練ることは大変だった。しかし、それ以上に行けて良かったと思う。実際に行ってみないと分からないことや現地の人々とのコミュニケーションの大切さ、実践地でこれまでに積み重ねられてきた歴史や文化を感じ取ることができ、非常に満足した学習となった。
10	大学からの資金援助のもと、自分の興味関心に沿った目的地選びと自由度の高い経路計画による学修体験は、非常に貴重だった。1人で黙々と進める事前学修はなかなか苦しいこともあったが、全て自分で知識をつけた上で1つの大きなテーマの視点から物事を見る機会はそうない。授業であるという適度な緊張感を持ちつつ、自分らしく物事をみて、日本という国を知ることができたことは心理的に大きな達成感と充足感があった。また、私のテーマは現時点でも進行中で誰も答えを出していない問いだったこともあり、学修成果を今後の自らの学びだけでなく社会に還元していきたいと思える実践となった。
11	自分で行きたい地と学びたいことを選択することができることで、活動意欲も向上する貴重な体験もできるため、とても良い実践活動ができたと思っています。
12	初めてのことでいろいろと苦労することもあったが、普通であれば経験できないことを経験することができたので良かった。今後この経験を生かせる場は多いと思う。
13	学校の資金援助もあり、濃密な学習をすることが出来た。非常に満足度の高い実践であった。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

●クロスディシプリン教育、「学融合ゼミナール」の実践プログラムとして、「プロジェクト研究」（第Ⅲ類科目・3・4年生対象）を開講

⇒ 資料2 資料31

●「学生のための学生による」「学びのプロデュース」「地域主義」

⇒ 資料31

・「巣鴨を学融合する」をテーマに、学生による授業のプロデュース

・「学融合ゼミナール」で修得した「学融合知」をもとに、授業内容、方法、事後課題学修に至るまでを、学生がプロデュースする。

・オンデマンドを活用し、対面+オンデマンド、対面+フィールドワーク、成果報告に関する立案

・「すがも街なかキャンパス」の活用

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料31 「地域プロジェクトⅠ」

地域プロジェクトⅠ4QT

第4QTにクロスディシプリン教育、「学融合ゼミナールⅡ」の実践プログラムとして、「プロジェクト研究」（第Ⅲ類科目・3年生対象）を開講する。
学生による授業のプロデュース
テーマ「巣鴨を学融合する」

「学融合ゼミナール」Ⅰ・Ⅱで修得した「学融合知」をもとに、授業内容、方法、事後課題学修に至るまでを、プロデュースする。

全14回の授業の担当学科、研究領域、担当教員、授業方法としてオンデマンド、対面、対面+オンデマンド、対面+フィールドワーク、成果報告に関する立案

学生のための
学生による

「学び」の
プロデュース

地域主義

「巣鴨を学融合する」

地域プロジェクトⅠシラバス

テーマ / Thema	学融合の実践 学科の研究領域「縦の学び」と学科を超えた領域横断的「横の学び」の「理論」を「すがも街なかキャンパス」を活用して「実践」する。
授業の目的 / Class Objectives	専門科目と異分野の知識を融合し、データ分析による科学的な視野に基づく、探究と実証に向けた「よく学びよく考える」思考としての「理論」を前提に、コミュニケーションを基盤とした交渉力や数理解解力によって、地域の人々の生活・文化・環境の現場を〈フィールドワーク〉を通じて「実践」する。
授業の到達目標・DPとの関連性 / Relevance to Class Goals and DP	①専門分野の多面的・重層的な思考と地域を結びつけることができる。 ②多面的な性質をもつ地域の課題を理解することができる。 ③複雑で多様な現代社会に生きる力を身につけている。 ④「地域戦略人材」の意義を的確に解釈することができる。
DP参照ページ / DP Reference Page	
授業形態 / Class Type	・グループ形式で学習成果を発表する。 ・双方向型授業を重視し、ディスカッションも随時行う。 ・「すがも街なかキャンパス」でのフィールドワーク
テキスト / Text	使用しない
参考文献 / References	授業時に提示
評価方法 / Grading Method	①成果報告（報告書・プレゼン）50%（授業の到達目標2・4） ②事前事後学修 50%（授業の到達目標1・3）
前提科目 / Prerequisite course	学融合ゼミナールⅠ 学融合ゼミナールⅡ

クロスディシプリン
教育チームが担当

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「クロスディシプリンフィールドワーク」概要

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一様だからつくれる世界を。

- 全学共通第Ⅱ類科目（2単位）として令和7年度開講 ⇒ **資料2 資料32**
 - ・当初は3年生対象に、夏期集中期間に予定していたが、インターンシップ等の時期と重なり、令和6年度は不開講とした。
 - ・クロスディシプリン教育を受講した4年生を対象に、令和7年度、夏期集中期間で開講する。
- 「学融合ゼミナールⅠ・Ⅱ」の授業内容を踏まえ、自らの専門分野と他学科の学問領域を統合的に学ぶ場としてのフィールドワークを行う。
 - ⇒ **資料32 資料33**
 - ・異なる分野のネットワーク結節点となるための力の育成と、地学連携・産学協創体制によるフィールドワークを通じた、複雑で多様な現代社会の課題に応える力を養成する。
 - ・講義（理論）と2泊3日の京都エリアキャンパス（京都アカデミア）を中心としたフィールドワーク（実践）を行う。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

資料32 令和7年度「クロスディシプリンフィールドワーク」開講

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一様だからつくれる世界を。

クロスディシプリン教育の展開 新規開講

全学共通第Ⅱ類科目（2単位）令和7年度開講 4年生対象
各学科「学融合ゼミナールⅠ・Ⅱ」の学科cross授業の内容を踏まえ、
自らの専門分野と他学科の学問領域を統合的に学ぶ場としてのフィールドワーク

【教育目標】

自らの専門分野の学問領域と他学科の学問領域を統合的に学ぶ実践として、異なる分野のネットワーク結節点となるための力の育成と、地学連携・産学協創体制によるフィールドワークを通じた複雑で多様な現代社会の課題に応える力の養成

●「クロスディシプリン・フィールドワーク」

【定義】学科の「縦の学び」と学科を超えた領域横断的「横の学び」の実践教育

【目的】地学連携・産学協創体制を生かした自分の専門性に繋がりを見出し、融合させるフィールドワーク

【評価】調査報告書「フィールドレポート」

【運営】学科Ⅱ類コーディネーターを通じた円滑な運営と学修支援

【開講形態】全学共通第Ⅱ類科目 選択2単位 CAP外

【実施時期】夏期集中期間 2泊3日の実地調査

【実施場所】京都エリアキャンパス「京都アカデミア」

【対象学年】4年生

別表(2)ー1		単位数又は時間数			備 考
授業科目の概要	授業科目の名称	必修	選択	自由	
		必修	選択	自由	
全学共通(第Ⅱ類科目)	学融合ゼミナールⅠ	2			全学部4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	2			
	クロスディシプリンフィールドワーク		2		

学生の交流の活性化

学生の主体的学びの場の提供



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY

資料33 クロスディシプリンフィールドワーク 授業内容

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界。

テーマ /Thema 学融合の京都実践 「学融合ゼミナールⅠ・Ⅱ」の学科cross、学科を超えた学融合の授業内容を踏まえ、自らの専門分野と他領域を統合的に京都エリアキャンパスで実践する。	授業の目的 /Class Objectives 自らの専門分野の専門領域と他領域を統合的に学ぶ実践として、異なる分野のネットワーク結節点となるための力の育成と、地学連携・産学官協創体制によるフィールドワークを通じた、複雑で多様な現代社会の課題に応える力の養成	授業計画 /Class Schedule 第1回 地域実践事前学修 事前学修：地域実践課題の調査（2時間） 事後学修：実践地の調整（2時間） 第2回 地域実践報告1 事前学修：実践計画書の素描（2時間） 事後学修：実践項目の調査（2時間） 第3回 実践予定報告2 事前学修：実践計画書の作成（2時間） 事後学修：実践項目の確定（2時間） 第4回 ～ 第12回 事前学修：実践計画書に基づく準備（2時間） 事後学修：実践報告書作成（2時間） 第1日目 ①日程・場所 ②日程・場所 第2日目 ①日程・場所 ②日程・場所 ③日程・場所 ④日程・場所 第3日目 ①日程・場所 ②日程・場所 第13回 地域実践報告 事前学修：プレゼンテーションの準備（2時間） 事後学修：コメント・意見を踏まえ、リアクションペーパーにまとめる（2時間） 第14回 調査報告書「フィールドレポート」作成 事前学修：調査報告書「フィールドレポート」の準備（2時間） 事後学修：調査報告書「フィールドレポート」を完成させる（2時間）
授業の到達目標・DPとの関連性 /Relevance to Class Goals and DP ① 専門領域を地学連携・産学協創の観点から説明することができる。 ② 専門領域に他専門領域を関係づける思考を身に付けている。 ③ 専門領域に他専門領域の視点を加えた、新たな課題を的確に表現することができる。 ④ 専門領域が現代社会の課題に関係しているという問題意識をもつことの大切さがわかる。	評価方法 /Grading Method ① 実践報告書（到達目標①②③に対応）40% フィードバックとして、コメントする。 ② プレゼンテーション（到達目標①②③に対応）20% 評価シートにもとづき、到達度を評価する。 ③ アカデミック・エッセー（1600字）（到達目標③④に対応）40% 回収後、フィードバックとして解答の解説を行う。	
前提科目 /Prerequisite course 「学融合ゼミナールⅠ」 「学融合ゼミナールⅡ」		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

クロスディシプリン教育ラボ研究開発

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界。

研究

成果

公表

『クロスディシプリン研究紀要』の刊行

⇒ 令和4年度「学融合ゼミナールⅠ」の開講を受けた「研究開発」の報告

仏教学科・公共政策学科

公開＝令和5年7月

⇒ 令和6年度 クロスディシプリン教育の現状報告

地域創生学科・表現文化学科

公開＝令和6年12月

本学独自のクロスディシプリン教育

2023（令和5）年度
知能集約型社会を支える人材育成事業
新時代の地域の取り方を構想する
地域戦略人材育成事業
クロスディシプリン研究紀要

大正大学
TAISHO UNIVERSITY

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

- Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類の連携のもと、本学独自の全学必修のクロスディシプリン教育が、学科の枠を超え、多様な選択肢の提供により、専門分野と他領域を統合的に学ぶ機会を可能とした。
- 「学融合ゼミナール」が、多面的・重層的な思考の獲得を目指し、現代社会の課題に応える地域戦略人材の育成に資するプログラムとして定着の方向にある。
- 学生が学科の枠を超え交流し、異分野の理解を通じた知識創生に向かうとともに、教員もサポートする職員と連携した教育を行い、全学・教職一体となった教学の新たな方向性が見られる。
- しかしながら、いまだ学生の専門領域における他分野との融合が、「理論」をもとに他専攻の学生との交流を通じた認識レベルに止まっており、必ずしも「実践」として明確な成果が表れているとはいえない。⇒ **課題解決に向けて1**
- 「学び」の提供には、クロスディシプリンが単なるかけ合わせ、興味の喚起に止まらず、真の異分野融合による知識創生として、今後、本学が目指す文理融合、旅する大学にあって新しい教育効果を創出できるかが課題である。⇒ **課題解決に向けて2**
- そのためにも、学外の有識者を含めたFD活動の強化を通じて、学生満足度、学習者本位の「学び」の成果を第一に、全学的な支援体制のもとさらなるクロスディシプリン教育を進め、付託された本事業に応えなければならない。⇒ **課題解決に向けて3**

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

- 1** 現代社会に対して、専門分野と他領域の統合的学びを通じ、学生同士がともに課題に取り組む体制支援の強化
 - ・専門分野の研究手法を現代社会の課題解決に援用させ、その体験、知見が専門の学びを通じて、より専門性を深める教育の構築
 - ・授業における、事前学修での動画視聴等を通じた学生の理解の促進、対面でのグループワーク、アクティブラーニングから、知識（理論）の定着と理解の促進の徹底
- 2** 連携自治体、エリアキャンパスを中心とした全国の地域で、クロスディシプリンの視点から、地域社会が抱える諸問題に対して仮説を立て取り組む、行動力（実践）の機会の構築
- 3** 自治体、企業関係者、高校教員、有識者を交えた全学FDの推進

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学融合ゼミナール タイプB

報告書

【令和5年度現地視察報告書】

第Ⅱ類科目：学融合（クロスディシプリン）教育においては、いまだ改善の余地が大きいことを指摘したい。複数の視点を得るための学科の組み合わせは事前に決定しており、ゼミナールⅠ、Ⅱではその組み合わせが繰り返される。内容において一部類似のものもあることが学生との意見交換で明らかになった。また授業全体でディスカッションの機会が導入されたことは改善がなされた点として認められるが、**同じグループでの浅いディスカッションに留まっているとの指摘もある。所記の目的を果たすべく、アクティブ・ラーニングの活用など、授業方法については更なる検討が求められる。**また、決まった学科の組み合わせだけで「現代社会の課題」に对应しているのか疑問が残る。**オンデマンドなども駆使して自由に選択できるようなシステム等**も考えられるのではないか。あわせて、授業内での他学科の学生との対話・交流も検討いただきたい。

【令和5年度POフォローアップ報告書】

第Ⅱ類科目については、学融合（クロスディシプリン）教育において複数の視点を得るための学科の組合せが事前に決まっており、学生には選択・変更の余地がないこと、さらに、授業におけるディスカッションに関しては、同じグループにおける浅いディスカッションに留まっている等の問題点が令和5年度委員現地視察において指摘されていた。これらの課題に対して令和6年度開講予定の学融合ゼミナールⅠ（全学の2年生が必修）においては、従来の形式を踏襲しながら、グループワークを徹底させ、より学生交流の観点あるいは各テーマに即したアクティブラーニング等を行うことが予定されており、特に授業の第10回目に混合パートとして、異なる学科の学生がディスカッションワークを通してクロスディシプリン教育を振り返りながら、成果を自ら共有していく仕組みを盛り込んでいる。さらに令和6年度開講予定の学融合ゼミナールⅡ（全学の3年生が必修）においてもグループワークを徹底させ、アクティブラーニングをテーマに即して実施すると同時に、授業の6回目から10回目にわたって学融合パートを新たに設定し、このパートにおいては、当該時間帯に開講されている学融合プログラムの科目から学生が学科を超えて自由に選択して受講できる仕組みとなっている。

学融合ゼミナールⅠ・ⅡタイプB 異なる学科の学生による課題解決型学習・テーマの選択型科目

授業スケジュール

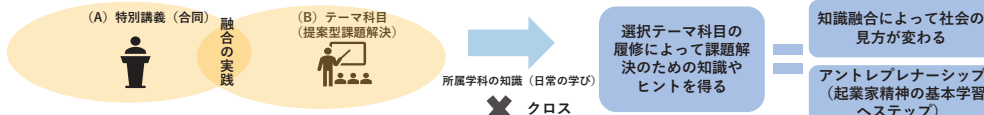
第1クォーター

第2クォーター

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
●	●	●	☆	☆	☆	☆	●	☆	☆	☆	☆	●	◎
自学科でのガイダンス	特別講義A (共通) (オンデマンド)	特別講義B (共通) (オンデマンド)	選択テーマ科目の履修				アドバイスパネル (オンデマンド)	選択テーマ科目の履修				報告書のまとめ方と作成	アカデミックレポート作成の作法と作成

第1クォーター：第1回…学融合ゼミナールの受講の事前知識

第2クォーター：第1回…第2クォーターの履修上のアドバイスパネル (オンデマンド)



テーマ設定の主題	学びの視点と講座学習のポイント	テーマ設定の主題	学びの視点と講座学習のポイント
1 環境安全と生物多様性	サステイナブルな環境維持を社会システムの視点から考察する	9 離島の生活と教育の課題	離島で育つ若者の生活と教育の現状と課題を「未来への希望」を視点に考察する
2 グリーンインフラ	「緑の流域治水」の実装研究を通じて新時代のグリーン環境を考察する	10 コミュニケーション力の醸成	現代社会のビジネスにおいて必須であるコミュニケーション力とは何かを考察する
3 食とAI活用	生成AIを活用した地域の食文化広報	11 情報社会と大学広報	情報社会における大学の広報活動を様々な事例を基に考察する
4 現代社会と宗教	多様化する現代社会における宗教の果たす役割を社会貢献の視点から考察する	12 旅する図書館一座、世界と日本をゆくー地域社会をインクルージョンに切り拓く図書館の創造ー	世界と日本の特色ある図書館の取り組み事例に、地域社会のコミュニティをインクルージョン（包摂的）に切り拓く図書館の役割や将来像を考える。
5 地域創生と公共哲学	新たなコミュニティの構築をテーマに公共哲学の視点から地域創生を考察する	13 世の中の事象を見極める実践統計学	統計学アプローチで世の中の事象を分析する
6 智慧と意思の実践	大正大学の教育ビジョン「4つの人となる」を考察し新たなビジョン「10の学力」を構築する	14 民主主義の課題と将来	民主主義とは何か、今後どうなっていくのか。日本における議会制民主主義を、地方から事例を踏まえつつ検証する。
7 スマート都市農業実践	キャンパス内で実践する都市農業へのIoT、AI技術の導入可能性を学ぶ	15 ゲームチェンジで社会の変革を	既存のルールを根本的に変えるゲームチェンジを学び、社会のあらゆる場面の変革を目指す
8 地域を牽引するローカルイノベーション	地域に新しい価値を生み出す取組事例を検証し、新たなモデルを創出する		

【受講を通して身に付く力】

- 批判的思考
- 問題解決能力
- チームワーク
- デジタルリテラシーの養成
- 学融合担当教員
実務家教員
研究所教員
招聘教授・客員教授
- アカデミックレポートの作成

学生が社会の多様な課題に対して包括的な理解を深める機会を提供し、専門分野との関連性を探りながら、問題解決能力を養うことができる。

学融合ゼミナールタイプBのコンセプト

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Taisho University

私たちの世界は、かつてない速さで変化しています。技術の進歩、社会構造の変化、環境問題など、複雑な課題が山積しています。これらの課題に対応し、新しい価値やビジネスを創出するためには、従来の枠を超えた学びが必要不可欠です。本学では「地域戦略人材」の育成を目標とし、学融合、文理統合、データサイエンス、アントレプレナーシップを柱とした教育プロセスを展開しています。

学融合と文理統合のアプローチは、多様な視点と知識の統合を促します。世界を一つの分野からだけでなく、複数の角度から理解することで、より深い洞察と広い視野を学生に提供します。このような教育は、創造的な思考を促し、異なるアイデアや概念を結びつける新しい発想を生み出す土壌となります。

データサイエンスの学びは、データに基づく意思決定やイノベーションの重要性を教えます。膨大な情報から有益な知見を抽出し、それを基に戦略を立てる能力は、今日のビジネスだけでなく、社会全体においても求められています。このスキルは、未来のリーダーたちが複雑な問題を解決し、持続可能な発展を実現するための基盤となります。

アントレプレナーシップの教育は、変化を恐れずに新しい価値を創造し、ビジネスを起こす精神を育みます。リスクを管理し、資源を効率的に活用し、イノベーションを通じて社会に貢献することの重要性を学びます。これにより、学生はただの知識を有する者ではなく、積極的に社会を形作るアクターとしての自覚を持つようになります。

そして、これらすべての教育プロセスは、「地域戦略人材」として、地域や社会の課題に対して責任を持ち、革新的な解決策を提案し実行できる人材を育成することを目的としています。地域社会と密接に連携し、その発展に貢献することで、学生は自らのキャリアだけでなく、よりよい未来を創造するための力を培います。

このような教育プロセスを通じて、本学は学生一人ひとりが持つ他潜在能力を最大限に引き出し、彼らを社会の中で活躍し、変革をもたらすことができる「地域戦略人材」として育成しています。変化の激しいこの時代において、私たちの学びの意義は、学生たちが直面する未来の課題に対し、勇気と創造性をもって立ち向かう力を育むことにあります。

学融合ゼミナールタイプBのコンセプト

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

これまでのプログラムは、自学科の専門分野に特化したプログラムを学生に受講させていましたが、学融合ゼミナールタイプBは、自学科のものは日常的に学んでいる知識であると認識し、もう一つの学びとして、社会課題の解決に関するオンデマンド動画に加えて、自ら興味や関心を持つ社会課題や生活の課題について親和性の高い授業科目（100分授業、4回完結のプログラム）を2テーマ自由に履修し、教員と学生、学生と学生のインタラクティブな関係性が構築されるような学習環境を構築し、ディスカッションを交え、一人一人が自らの課題解決テーマについてプレゼンテーションを繰り返していく授業展開となります。

2年生・3年生ともに春学期の受講であり、学年を超えたクラスとなり、学部学科を超えた学生が集う授業が展開されます。この新しいプログラムは、少人数ということもあり、実習方法の弾力化や、アクティブラーニング形式の課題解決型学習として有効なものであると考えます。

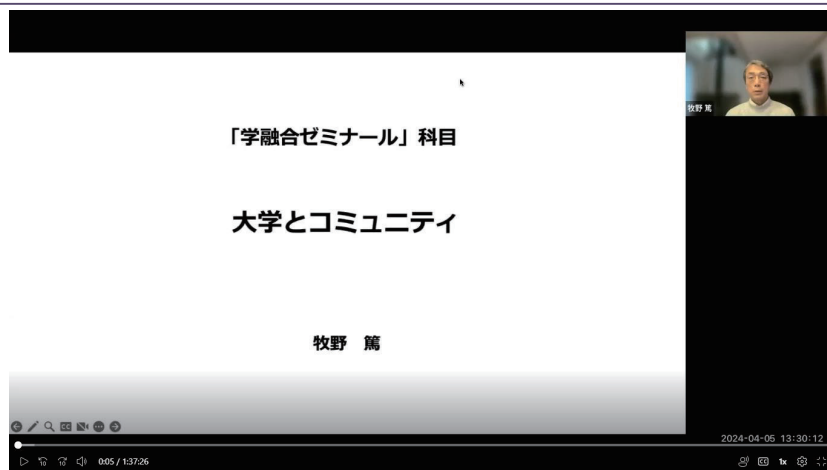
授業担当者は、学科に所属する教員以外の先生方に依頼し、本学の招聘教授、客員教授の方々にも協力をいただく形で実施いたします。ただし、この授業科目は、第Ⅱ類科目の学科の専門科目であることから、単位認定は学科長が統括して行うものとなります。そのために学生の受講状況、アカデミックレポートの現物（担当者が仮採点したもの）を開示、さらにはLMSを活用した学習ポートフォリオによって、学習成果の可視化を推進していきたいと思います。

自学科の学生を一時的ではありますが、「学融合の旅」に出しているものと考えて頂き、温かい心で応援してもらおうと同時にアフターケアを学科にお願いしたいと考えています。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

特別講義A（オンデマンド）

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

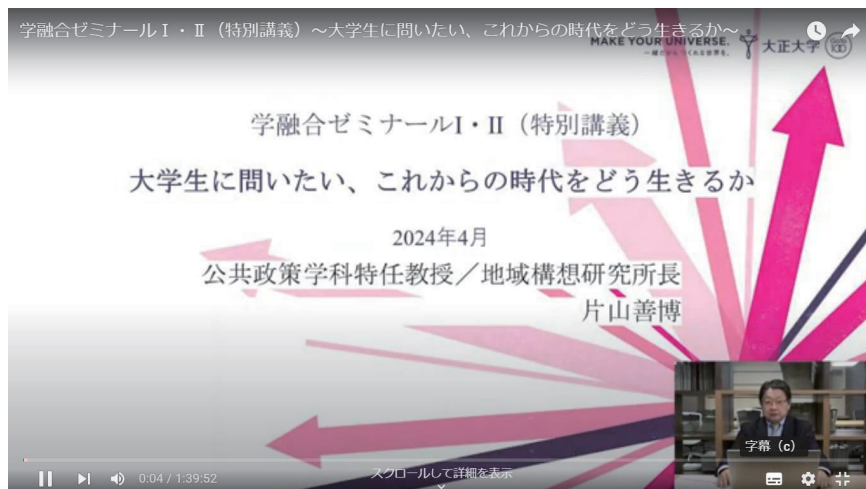


「大学とコミュニティの融合」
東京大学大学院教育研究科教授・大正大学招聘教授牧野篤

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

特別講義B（オンデマンド）

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



「～大学生に問いたい、これからの時代をどう生きるか～」 公共政策学科特任教授／地域構想研究所長 片山善博

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

自由選択科目（2テーマ選択）

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



環境保全と生物多様性



グリーンインフラ



スマート都市農業実践



現代社会と宗教



智慧と慈悲の実践



民主主義の課題と将来



旅する図書館一座、
世界と日本をゆく



地域を幸せにする
ローカルイノベーション



離島の生活と
教育の課題



コミュニケーション力
の醸成



食とAI活用



世の中の事象を
見極める実践統計学



情報社会と大学広報



ゲームチェンジで
社会の変革を



学科内グループワーク
アカデミックレポートへ

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

選択テーマ科目担当教員からの報告書（抜粋）

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



環境保全と生物多様性

学生との対話、学生間の議論を通じて生物多様性の概念、重要性、危機等、生物多様性に関する概略について把握することができた。また、自然科学としての側面だけではなく、人文科学の側面から人と自然の関係性や日本人や西欧の自然観についても議論し、今後の人と自然の共生する社会のあり方についても意見交換した。



グリーンインフラ

グリーンインフラについて、一市民が取り組むことができ、かつ世界的に多様な展開が見られる「雨庭」を中心に学ぶことで、防災への社会参加に対する気づき、治水や防災に自分が関わることへの気づきの発見を目的に講義を実施した。グループワークとして雨庭の設計を行った。コンセプト・規模・植生や利用者を意識したデザインを検討し、平面図の作成まで至った。



スマート都市農業実践

大正大学の巣鴨キャンパスや埼玉キャンパスでは、キャンパス内のスペースでIoTなどの最新情報技術を使いながら野菜栽培や養蜂などを行っている。本授業では、こうした大正大学キャンパス内で行われている都市農業やIoT技術の概要を学ぶとともに、実際にフィールドモニタリングのためのカメラ組み立てを行い、都市農業やIoTなどの情報技術の活用可能性について議論や考察を行う。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

選択テーマ科目担当教員からの報告書（抜粋）

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



現代社会と宗教

宗教の社会的機能に焦点をあて、少子高齢化、格差社会、自殺など現代社会が抱える諸問題に伝統仏教教団および僧侶がどのように取り組んでいるか事例を通じて学ぶことで、これからの社会における宗教の役割を考える。医学の立場からのゲスト講師も招聘し、一方的な講義とならないよう、学生からのプレゼンテーション・グループワークを設けることで、インプットした知識を咀嚼し、アウトプットできるような機会を設けた。



智慧と慈悲の実践

本講義では、大正大学の開学以来の歴史を述べつつ、その建学の理念「智慧と慈悲の実践」、教育ビジョン「4つの人となる」、さらには建学の理念に基づく新しい学力観「4つの人となる」ための10の力について解説した。受講生に課した個人ワークの内容は、「4つの人となる」の慈悲・自灯明・中道・共生のうちで自分自身がめざす人間像とその理由について、また「10の力」のうちで身につけたいと考える資質・能力とその理由の考察を行った。



民主主義の課題と将来

民主主義とは何か、今後どうなっていくのか。世界の制度や日本における議会制民主主義を法律改正、生成AIと民主主義の関係などについて講義を行う中で、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れて、学びを深める。各テーマにより、グループワーク、個人ワークののち、それぞれ発表を行った。また、ゲスト講師として現役の政治家による講義と意見交換を行った。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

選択テーマ科目担当教員からの報告書（抜粋）

MAKE YOUR UNIVERSE. 一緒にだから つかれる世界を。 大正大学 Goto 100



旅する図書館一座、
世界と日本をゆく

世界と日本の図書館を手掛かりに、地域社会との関係を考えることや、図書館が地域社会に果たす役割として、本学附属図書館の「めざす図書館像」でもある「社会的包摂」が世界の図書館の潮流(メインストリーム)である点について考えることを主な目的とする。授業では、世界と日本の図書館の事例紹介だけではなく、「学びを深める課題」を設けて、LMSを活用した意見交換や個人ワークを行い、より学びを深めることができた。



地域を幸せにする
ローカルイノベーション

新型コロナウイルスによって生まれてきた時代の変化を学ぶ。生き方、働き方、価値観等が大きく変化した実態や地方への人の移動が活発になってきたことを理解し、これからの地域活性化のポイントについて事例紹介も行い、最後には、「クラウドファンディングアイデアシート」を活用して、学生が幸せにしたい地域でイノベーションを起こす企画を考える。クラウドファンディングのアプローチをまとめられる内容とした。



離島の生活と
教育の課題

公益財団法人日本離島センターから離島の経済・生活・教育などの現状を学び、その上で離島の教育課題についてグループで深く考察し、解決策を構想する。その際、学科での学びの専門性をグループワークに活かすことを心掛ける。「離島の生活と教育の課題」がテーマだったが、離島出身者や離島を旅することが好きな学生、また、離島に限らず日本の教育に関心を持つ学生が集まっていた。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

選択テーマ科目担当教員からの報告書（抜粋）

MAKE YOUR UNIVERSE. 一緒にだから つかれる世界を。 大正大学 Goto 100



コミュニケーション力
の醸成

コミュニケーションの基礎を学ぶことで、社会における顧客、上司、同僚、部下との多方向のコミュニケーション力を向上させ、どのような相手、場面であってもビジネスを円滑に進めることができる能力を身に付けるためのきっかけとして、コミュニケーションに意識を向けていただく講義を実施する。ワークを多く取り入れ、まずはコミュニケーションに対して興味を持ってもらえるように体験型講義を実施した。



食とAI活用

学生が生成AIの基礎を学びつつ、地域の食文化を発掘し、それを広報する方法について実践的な学びを深めます。また、大正大学の提携する連携自治体の中から1つ選び、その地域の食文化を通して地域の魅力を広報する企画および実際にSNSを通じて広報するコンテンツを、生成AIを活用して作成することとした。学生が生成AIの技術を理解し、実践的に地域の食文化を広報するための知識とスキルを習得することを目指した。



世の中の事象を
見極める実践統計学

日常生活や世の中の事象をデータを通じて理解し、適切な判断を下すための統計学の実践的なスキルを習得する。具体的には、統計の基本的な概念から始まり、多変量解析（主に回帰分析）を中心に、実際のデータを活用しながら学びます。記述統計から相関分析、回帰分析まで、ステップを踏んで進めることで、分析結果の解釈方法を習得します。学生は個人ワークや実践により、統計の実践的な側面を体感することができた。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

選択テーマ科目担当教員からの報告書（抜粋）

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだから つくれる世界を。



情報社会と大学広報

スマートフォンおよびSNSの普及による1億総メディア化という現代社会における情報流通の特性を確認し、個人および組織と社会との関係づくりである広報の理論を背景に、大学を例にした特徴的な広報活動について受講生とのディスカッションを取り入れて理解を深めた。最後に大学広報をテーマとしたNHKドラマの事前視聴課題を受け、SNS全盛の現代においても対面コミュニケーションや自ら考え行動することの重要性を共有した。



ゲームチェンジで 社会の変革を

ゲームチェンジの歴史上の16事例の理解を深め、歴史の流れの中から実際のゲームチェンジを体感する。そして、ゲームチェンジ思考を阻害する「認知バイアス」を11事例紹介し、ゲームチェンジ思考とは意識と行動を様々な障害から解放することを理解する。さらに、現代のビジネス界のゲームチェンジ戦略の4類型を実際の企業戦略の例とともに学び、週間で立案したゲームチェンジ戦略をグループごとに発表し、他のグループとディスカッションを行った。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



MAKE
YOUR
UNIVERSE.

一緒にだから つくれる世界を。

(4) アントレプレナーシップ育成教育

アントレプレナーシップ育成教育について



学修支援センター
教授

前田 長子

アントレプレナーシップ育成教育プログラムは、令和6年度における知識集約型社会の発展を支える人材育成の柱として、大正大学が提供する教育プログラムです。本プログラムは起業やイノベーションの創出、地域課題の解決を担う人材を育成するため、学生のキャリアに応じた3つのコースを設けています。起業を目指す学生にはアントレプレナーコース、企業内でイノベーションを推進したい学生にはイントレプレナーコース、地域課題の解決に関心を持つ学生には地域戦略人材コースを提供しています。学生は本プログラムを通じて、自身の将来像を明確にし、必要な理論とスキル、実践力を体系的に身につけることを目指します。卒業後は、起業家、公務員、地域貢献型事業のリーダー、大企業での管理職など、幅広いキャリアの選択肢を支援します。

教育プログラムでは、正課活動と正課外活動を通じて多層的に学生を支援します。正課活動では、基礎科目、スキル科目、実践科目を組み合わせた履修モデルを提供し、2年次以降卒業までに合計24単位の取得を目指します。授業では、Society 5.0時代に求められる基礎知識に加え、創造性やイノベーション能力、社会課題解決力、挑戦する姿勢、機会を捉える力など、多様な資質と能力を育成することを目的としています。特に、学融合的なアプローチやデータドリブンの意思決定力、人的ネットワーク構築力を重視し、学術と実社会をつなぐ実践的なスキルの習得を目指します。

正課外活動としては、インターンシップやピッチコンテスト、地域連携イベント、海外研修プログラムなど、社会との早期接点を重視した経験学習の機会を提供しています。アントレプレナーコースでは、ゼミ形式の特別プログラムを通じて起業アイデアの具体化やロードマップの作成に取り組み、プロジェクト発表を通じて起業家としてのスキルを磨きます。イントレプレナーコースでは、夏休み期間中に企業でのインターンシップを実施し、実務経験を通じて課題解決能力やチームリーダーシップを養います。地域戦略人材コースでは、マイスターワークショップを実施し、現役の首長や公務員を招いた講義を通じて、公務員の職務や地域との関わり方、仕事のやりがいについて学びます。加えて、時事問題をテーマにしたグループ討議を行い、「生きた知識」を深めるとともに、地域戦略人材としての使命や将来の目標について考えを深めていきます。

教育目標の達成に向けて、継続的なプログラムの改善にも取り組んでいます。各担当教員は、学生の到達目標と現状のギャップを明確に把握し、計画的に授業を改善しています。また、教員同士のワークショップや研修会を通じて指導方法の向上を図り、プログラム全体の質を高めることを目指しています。

さらに、令和7年度には、巣鴨地域にインキュベーションセンターを設立いたします。この施設は、アントレ

プレナーシップ教育からのインキュベーション支援を可能とするものです。この施設を活用することで調査・研究・プロジェクトを企画し、参画してもらうことで学生たちの経験値があがり、知見を広げ、自分の持つ力に気づき、起業への一步を踏み出す支援を受けることができます。また、起業やプロジェクト立ち上げを目指す学生が専門のメンターから指導を受けるなど、具体的な支援を受ける場としても機能し、さらに地域社会との連携を促進する役割も担います。センターは、他大学の学生や地域の起業家との交流の場としても活用され、学びを深めるとともに、新たな価値を創造する拠点を目指していきます。

令和5年度は一年目ということもあり課題が複数存在し、多数のご指摘もいただきました。そこで、令和6年度は3つのコースが連携しながら様々な改善を重ね、学生が確実に成長できる地域戦略人材の育成を目指し、取り組んできました。

具体的な今年の重点課題は、プログラムの到達目標の明確化と、地域戦略人材の育成に向けた指標の整理です。現状では学生が自身にとって都合の良い部分のみを活用しがちであり、プログラム全体の価値を十分に理解させることが課題となっていました。そのため、学生が体系的に学びを深められるよう、コース選択前のガイダンスやコース説明会を充実させること、また履修学生のパネルディスカッション、授業見学会、個別相談会などを実施することでコース選択や科目履修の前段階でプログラムの意義を理解できる仕組みを整えました。

また、授業が本格的に始まって二年目を迎えたことから、教員間の連携をさらに強化し、授業改善を進めています。各教員は個別に授業を担当していますが、定期的にFDを開催し、教育目標に対する進捗状況やクラスの状態、科目ごとの課題を共有しながら、教育の質を高める取り組みを行っています。さらに、教員向けの自己評価アンケートを実施し、昨年度とのギャップや授業運営の課題を把握し、対策を検討することで、より良い教育環境の構築を目指しています。

これらの取り組みを通して、令和6年度の3年生のエントリー数は、令和5年度と比較するとやや減少したものの、自らの意思を持ってコースを選択し、意欲的に学ぶ学生が多く集まりました。こうした学生に対し、大学内での学びにとどまらず社会との接点を増やし、実践を通じたトライアンドエラーの機会を提供しています。得た経験を振り返りながら学びを深め、さらに社会へと踏み出す。このサイクルを早期に確立するため、さまざまな仕掛けを講じています。

昨年度以上に学生の外部との接点を増やすための各コースの具体的な取り組みは次の通りです。アントレプレナーコースでは、首都圏に限らず全国の自治体と連携し、現地での実習を実施。学生が地域で学び、その成果をフィードバックする仕組みを整え、地域の実践家や起業家の支援を受けられる体制を構築しました。イントレプレナーコースでは、令和5年度に実施した選抜型インターンシップの規模を拡大し、企業側が独自に設定したインターンシップの参加者を約2倍の35名に増やしました。終了後受け入れ企業へのヒアリングを通じ、社会のニーズを反映したプログラムにブラッシュアップしていきます。地域戦略人材コースでは、4自治体でインターンシップを実施し、公共サービスの理解を深めるとともに、公務員や地域戦略人材としてのキャリア形成を支援しました。海外インターンシップは、昨年度実施のベトナムに加え、新たにスリランカでの実施を開始し、国際的な学びの機会を広げています。学生が多様な社会経験を積み、成功や挫折を通じて成長し、大学での学びに還元できる環境を整えています。

アントレプレナー教育が始まって3年目を迎えるにあたり、令和7年2月3日にシンポジウム「To the Future Leaders ～未来のリーダーたちへ～」を開催しました。本イベントでは基調講演に加え、ピッチコンテストも実施します。春から準備を進めてきたこのコンテストでは、予選を勝ち抜いた5チームが本選でプレゼンテーションを行いました。

ピッチコンテストのスケジュールは、7月末にエントリー締め切り、9月末に企画書提出、10月に審査、11月にファイナリスト決定という流れで進められました。今回は「起業部門」と「プロジェクト部門」の二部門を設け、一般公募とアントレプレナーコースのワークショップ発表の両方から選出しました。ワークショップ発表

ではすでに中間発表会を実施し、学生の声も HP に掲載されています。また、一部の卒業生も登壇しました。最終的に、全 26 組の応募から 5 組がファイナリストとして選出されました。当日は、10 項目の評価基準に基づいて審査を行い、新たな企画書とプレゼンテーションを総合的に評価しました。

今後は、アントレプレナー教育とインキュベーションセンターの連携をさらに強化し、コンテスト出場者の継続的な支援を進めていきます。ファイナリストに限らず、惜しくも選ばれなかったチームにもフォローアップを行い、勉強会などを通じてさらなる成長を支援する方針です。

令和6年度 第Ⅲ類科目 アントレプレナーシップ育成 教育プログラムについて

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



大正大学



第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



大正大学



本日の目次

Résumé

最初に・・・アントレプレナーシップ育成教育のプログラムの確認

1. R5のふり返しからR6の目標設定
2. R6_履修登録までの取り組みと履修状況
3. R6_教育目標達成のための授業改善の取組
4. R6_プログラムの正課外の取組
5. アントレプレナーシンポジウムとPITCHCONTEST開催
6. インキュベーションセンター設立にむけて

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【最初に】 アントレプレナーシップ育成教育プログラムの確認

大正大学が目指す地域戦略人材とは

大正大学が育成する
新時代の地域リーダー像



地域戦略人材

地域戦略人材とは

多面的な性質をもつ地域課題解決に向けて、
異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー

<4つの要素>

- ✓ 主体的に解決策を提起する態度・意識
- ✓ 具体的課題に対する的確な事実認識、解決のための知恵を生み出す知識・技能
- ✓ 学融合からの視点、多様な視点からの課題アプローチ
- ✓ 複数分野のネットワークの結節点となるためのコミュニケーション能力

アントレプレナーシップ育成教育の3つのコース



アントレプレナーシップ育成教育の3つのコース

A. 起業人材コース（アントレプレナー）

地域に新しい価値を創造するビジネスを起業する人材

B. 企業内リーダーシップ人材コース（イントレプレナー）

地域企業や組織内においてイノベーションによって活性化と業績向上に貢献する人材

C. 地域戦略人材コース（公務員・地域貢献人材）

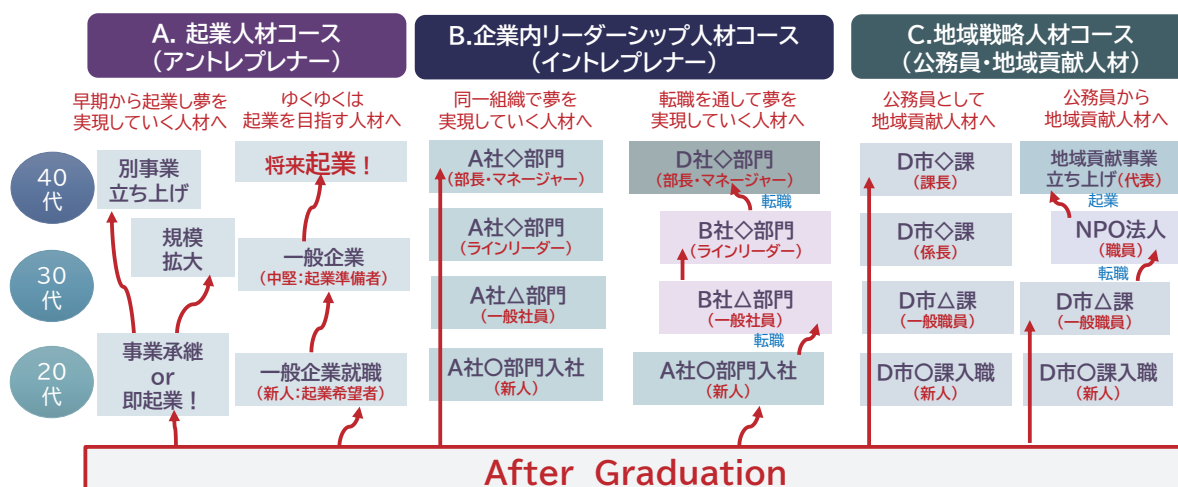
地域創生戦略志向とビジネスマインドを持つ人材

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

各コースの履修学生の卒業後のイメージ



✓ 卒業後の進路は多様で、一部を例に挙げています。コース選択の参考にしてください



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

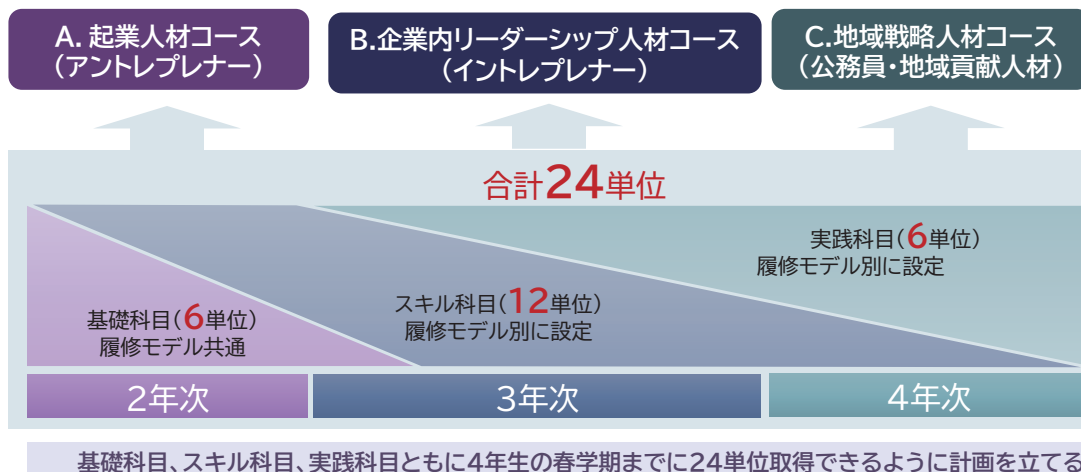
MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



アントレプログラムの単位取得について

■アントレプレナーシップ育成教育の履修モデル



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



アントレ育成教育プログラムで育成すべき資質と能力

アントレのすべての科目での以下の11のうちどの資質を能力を重点的に育成するのかということを各科目教員に検討してもらい、シラバスに落としている。

- ①汎用的知識: society5.0の社会で活動するにあたって必要となる基礎知識 ※主に基礎科目
- ②データドリブン: 常に明確な根拠に基づき、自ら意思決定を行い、判断・アクションできる力
- ③人的ネットワーク構築力: 対人力を発展させ、様々な領域での良質な人間関係を構築する力
- ④力強いリーダーシップとマネジメント能力: 多様性を理解しながら合意形成し、前進できる力
- ⑤未来をイメージできる力: 成し遂げたい目標を定めて具体化し、行動計画を立て実行する力
- ⑥創造性とイノベーション: 既存の枠組みにとらわれず、新しい価値を創り出す力
- ⑦社会の課題解決力: 解決したい社会課題を自ら解決する力、もしくは解決しようとする力
- ⑧探究心と意思決定能力: ものごとの本質を射抜き、判断や意思決定することができる力
- ⑨ポジティブシンキングとチャレンジ精神: どんな場面においてもリスクを恐れず果敢に挑む力
- ⑩機会の追求: 限られた資源を最大限に活かし、機会(チャンス)を追求して挑戦する力
- ⑪コミットメント: どんな困難があっても、目標達成に向けて最後まで諦めずにやり遂げる力

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

MAKE YOUR UNIVERSE.
一 誰がから つくれる世界を



「スキル科目」12単位



中分類	コース	科目	単位数
スキル科目	アトル	コミュニケーション（アトル）	2
スキル科目	アトル	ロジカルシンキング（アトル）	2
スキル科目	アトル	ハルボーション（アトル）	2
スキル科目	アトル	フューション（アトル）	2
スキル科目	アトル	マナジスト（アトル）	2
スキル科目	アトル	財務会計の基礎（アトル）	2
スキル科目	アトル	ファイナンスの基礎（アトル）	2
スキル科目	アトル	マーケティングの基礎（アトル）	2
スキル科目	アトル	情報表現技術（アトル）	2
スキル科目	アトル	言語表現技術（アトル）	2
スキル科目	アトル	キャリアデザインA（アトル）	2
スキル科目	アトル	キャリアデザインB（アトル）	2
スキル科目	アトル	キャリア探究B（アトル）	2
ワークショップ	アトル	ワークショップ（起業実案〜6名のプロが0から指導〜）	6
ワークショップ	アトル	ワークショップ（起業というキャリアデザイン）	6
ワークショップ	アトル	ワークショップ（チャレンジ・ケース・コミュニケーション）	6
ワークショップ	アトル	ワークショップ（地域共生コミュニティづくりの実践）	6
ワークショップ	アトル	ワークショップ（ビジネス実案）	6
ワークショップ	アトル	ワークショップ（起業・企業再生事例研究）	6
ワークショップ	アトル	ワークショップ（クリエイティブは一人じゃない〜学生が合う創造性の実践）	6
ワークショップ	アトル	ワークショップ（リビタ29・ワグタ21新入生キャリアデザイン）	6

[illegible]

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY All Rights Reserved.

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



「スキル科目」12単位

[illegible][illegible]

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY All Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



R6_地域戦略人材コース_開講科目一覧

- ✓ 地域戦略人材として、地域での仕組みづくりをする職種である公務員を想定し、問われる知識・資質について 春休みや夏休みでの集中講義を含めた年間を通じた学修をおこなう

「スキル科目」12単位
+ キャリアセンター講座 3科目



「実践科目(ワークショップ)」6単位

- ✓ 地域戦略人材として、地域での仕組みづくりをする職種である公務員を想定し、問われる知識・資質について 春休みや夏休みでの集中講義を含めた年間を通じた学習をおこなう

大分類	中分類	対象コース	科目名	単位数
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	マネジメント (専門知識A)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	ロジカルシンキング (教養科目B)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	データ分析法 (教養科目C)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	財務会計の基礎 (専門知識C)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	キャリア探究A 夏休み集中講義	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	プレゼンテーション 春休み集中講義	2

大分類	中分類	対象コース	科目名	開講期	単位数
実践科目	実践科目	地域戦略人材コース	マイスターワークショップ	通年	6

- ✓ 集中講義や実践科目では、公務員を主軸に、職務理解や地域貢献人材の現場を理解する。
✓ 時事問題を取り上げたワークショップや、現役の職員をゲスト講師に招へいた現実的な実情の理解、グループワークなどのアクティビティを通じた体感的な理解、モチベーションの向上などを行なう。

地域戦略人材コース	キャリアセンター講座 (教養科目A)	0
地域戦略人材コース	キャリアセンター講座 (専門知識B)	0
地域戦略人材コース	キャリアセンター講座 (専門知識C)	0

- ✓ スキルの背景となる知識・基礎力の科目として必須であることからキャリアセンター講座として、履修指導で推奨科目とする。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



1. R5のふり返しからR6の目標設定

【確認】R5アントレプレナーシップ育成教育プログラムの課題

1. アントレプレナーシップ育成教育のプログラムの設計
 - ✓ 希望科目が履修できるように、適切なクラス数の設定（抽選落ちを可能な限り抑制する）
2. 学生のプログラム履修登録にむけて
 - ✓ プログラム修了に向けたコースごとの登録学生ガイダンスや履修計画指導等の学修支援の実施
 - ✓ 各コース登録に向けたプログラムの意義・設計に関する説明会の見直しと授業見学の実施
 - ✓ 配慮学生への対応についての研修会実施や事例の事前共有などの取組
3. プログラム担当教員のFDについて
 - ✓ シラバス勉強会は新任以外の教員にも継続実施
4. 教育目標達成のための授業改善の取組
 - ✓ イントレコースの「力強いリーダーシップとマネジメント能力」強化など、各コース所属学生の資質能力について現状を把握し、各授業における仕掛け方をFDで議論していく
5. アントレ教育に関する正課外のプログラム
 - ✓ 選抜型インターンシップは早期から準備を開始し、選抜型とマッチング型の両方を実施検討していく
 - ✓ 「SHODAI BUSINESS Café」のようなアントレ教育に関する学生コミュニティ形成をしかけていく

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナー育成教育プログラム重点課題

0. 各コースの到達目標、地域戦略人材育成の到達目標設定について
 - 👉 3コース共通の「地域戦略人材育成」と各コースの到達目標設定と成果の図り方を検討し実行する
1. 学生へのプログラムの教育目標の理解浸透の推進
 - 👉 「地域戦略人材」の価値を正しく理解し、短期だけではなく、中長期の視点で主体的に目標を設定できるよう学生の視座が高まる取り組みを様々な場面で仕掛けていく。
2. 教育目標到達のための授業改善
 - 👉 各担当教員にプログラムの到達目標と現状とのGAPを正しく認識してもらい、具体的な授業改善に取り組んでもらう。
3. 学生と社会との早期接点強化による経験学修の推進
 - 👉 数日間のインターンシップへの参加など早期から外部での経験値を高める機会を増やしていくと同時に社会経験や実務経験から次の学びや成長につなげていくサイクルを強化していく。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_各コースの到達目標、地域戦略人材育成の到達目標設定

0. 各コースの到達目標、地域戦略人材育成の到達目標設定について

👉 3コース共通の「地域戦略人材育成」と各コースの到達目標設定と成果の回り方を検討し実行する

	現3年生	現4年生
「地域戦略人材育成」の評価	【学修成果】 ①学生アンケート(授業評価と成長実感の自己評価) ②PROGの経年比較(入学時と3年次12月時点との比較)	【学修成果】 ①学生アンケート(授業評価成長実感の自己評価) ②PROGの経年比較(入学時と3年次12月時点との比較)
起業人材コース	【実績】 ①起業実績(計画段階も集計) ②アントレシンプジウムコンテストへのエントリー数と実働実績	【実績】 ①起業実績(計画段階も集計) ②アントレシンプジウムコンテストへのエントリー数と実働実績
起業内リーダーシップ育成コース	【実績】 ①内定実績(令和8年3月末の時点で全学と各コースの比較)	【実績】 ①内定実績(令和7年3月末の時点で全学との比較) ※合格率だけではなく、内定先の業界、職種の変動も確認
地域戦略人材コース	【実績】 ①内定実績(令和8年3月末の時点で経年での比較)	【実績】 ①内定実績(令和7年3月末の時点で経年での比較) ※合格率だけではなく、1人あたりの受験先数と内定数

2月に
分析&
報告予定

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

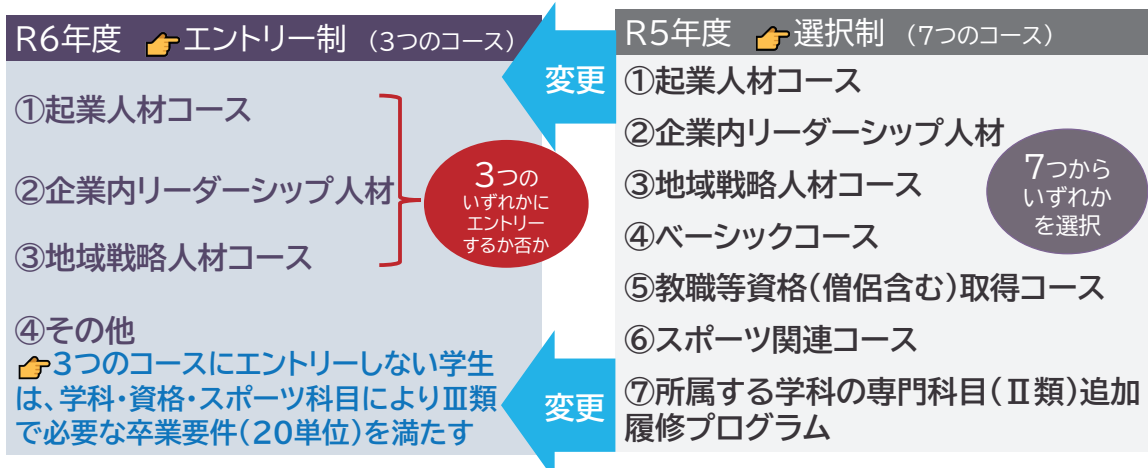
2. R6_履修登録までの取り組みと履修状況

1. 学生へのプログラムの教育目標の理解浸透の推進

👉 「地域戦略人材」の価値を正しく理解し、短期だけではなく、中長期の視点で主体的に目標を設定できるよう学生の視座が高まる取り組みを様々な場面で仕掛けていく。

R6_コース登録に関する変更点

- ✓ 選択式からエントリー制に変更。R6はベーシックは閉コース(新4年生向けは継続開講)
- ✓ コースの途中変更は不可。ただし個別の状況に応じて最初の半年のみは離脱を認める



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレ各コースの登録者条件

- ✓ 各コースの登録条件は以下の通りで学生に示しています。

3つのコース	コース登録者条件・履修ルール	単位取得期間 ※基礎科目除く
起業人材コース	✓ 実践科目は1科目のみしか履修できないため(1科目6単位)2024年4月の時点で履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
企業内リーダーシップ人材	✓ GPA2.3以上の学生のみが履修登録可能 📌 2023年春学期までの通期換算 ✓ 実践科目は春学期に2科目(6単位中4単位)履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
公務員コース (地域戦略人材)	✓ 基本的に実践科目6単位、スキル科目12単位の計18単位は3年次中にすべて履修する ✓ 春休みや夏休みでの集中講義を含みます。また実践科目は1.5年履修です。	3年生春学期 ～4年生春学期中

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。

R6_アントレのコース選択と履修登録に向けてのスケジュール



✓ アントレ各コースを正しく理解できるよう、履修登録にむけてのステップをR5より丁寧に実施

	履修までのスケジュール	登録	日程
PDは R6新規	プログラムガイダンス(履修学生のパネルディスカッション) ※1		2023年11月20日～24日
	相談窓口設置 (コース選択について)		2023年11月27日～30日
	学生への希望コース調査(プレ調査)	コース仮登録	2023年11月20日～30日
R6新規	アントレ3コース別説明会 (各コース3回実施) ※2		2023年12月4日～8日
	授業見学会 (各コースとも見学可能)		2024年1月15日～20日
	相談窓口設置 (コース選択/履修登録について)		2024年1月22日～26日
R6新規	アントレプレナーシップ育成教育プログラムコース登録	コース本登録	2024年1月22日～31日
	令和6年度 春学期履修ガイダンス ※履修登録にむけて学修計画の作成と個別相談実施		2024年3月19日
	プログラム履修登録修正(コース確定)	コース確定	2024年3月下旬
	春学期履修登録	履修科目確定	2024年4月上旬

※1 【プログラムガイダンス】学生にコースの魅力を伝えとと共にプログラムを理解してもらうことを目的に実施

※2 【コース別説明会】コースの詳細を理解した上で登録することで登録後のミスマッチや誤認を防ぐように工夫する

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。

【参考】学修計画書作成と修学カルテ(LMSへの提出)



履修ガイダンス: 3月19日(火)実施 📍 履修ガイダンスをR6から新たに開催

春学期 学修計画書提出: 4月16日(火)締め切り / 秋学期 学修計画書再提出: 10月15日(火)締め切り

※春学期提出率 起業人材コース: 90%、企業内リーダーシップ人材コース: 96%、地域戦略人材コース: 93%

A. 起業人材コース (アントレプレナー)		B. 企業内リーダーシップ人材コース (イントレプレナー)		C. 地域戦略人材コース (公務員・地域貢献人材)	
<p>学修計画書作成画面</p> <p>学修計画書提出画面</p> <p>学修計画書再提出画面</p>		<p>学修計画書作成画面</p> <p>学修計画書提出画面</p> <p>学修計画書再提出画面</p>		<p>学修計画書作成画面</p> <p>学修計画書提出画面</p> <p>学修計画書再提出画面</p>	

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

R6_3コース別のエントリー数と春学期の状況(現3年生)



コース	エントリー 学生数	学修計画書 提出状況	学修状況 (教員からのヒアリング)
起業人材 コース	132名	提出率90% ※119名	R5年度の学生より起業など新しいことにチャレンジしたいという目的意識をしっかりと持っている学生が多く、中には授業外で積極的にプレゼンや提案をする学生も出てきている。WS科目、スキル科目とも学習意欲が高い学生が多い。しかしながら、全体的にはまだまだ教員が深掘りしていかないと動き出さない(思いはあるが行動にまで至らない)傾向が強く、底上げや学習態度改善への労力が大きいことは課題である。
起業内 リーダー シップ 育成コース	75名 👉▲5名	提出率96% ※72名	学修意欲や姿勢についてはR5より全体的に高い印象であるという声が多い。各クラスとも全体的に人数が減ったことにより、昨年度より個別最適の教育が行いやすい環境であることもプラスに働いているとのこと。また教員の授業改善も寄与しているものと考えられる。ただし全体的に昨年に引き続きおとなしく、自己肯定感の低い学生が多い。自分に対する自信のなさから一生懸命取り組んでいこうとする姿勢が生まれている可能性もある。
地域戦略人材 コース	78名	提出率93% ※72名	R5年度より受け身の学生が目立つが、授業参加は各回とも90%を超える状況を継続しており、目標を自身で定め、認識した上で望んでいる。実務者・有識者による情報提供とディスカッションでは主体的な参画が出来る学生が多く、公務に就くために必要な基礎知識、専門知識に加え、実務を想定する機会を加え、目標をより明確にできていくと思われる。
3コース計	285名 👉280名	提出率92% ※263名	

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

R6_3コース別の修了見込み (現4年生)



コース	コース在籍者数	春学期 修了者数	秋学期修了者数 ※3QT修正登録終了時点	春学期/ 秋学期 残数
起業人材コース	130 (内、休学1名、除籍2名)	71	85 (春修了者含む)	59/45
起業内リーダーシップ 育成コース	163 (内、留年(休学)2名、退学3名)	77	82 (春修了者含む)	86/81
地域戦略人材コース	88 (内、留年2名)	64	67 (春修了者含む)	41/20
ベーシックコース ※R6は閉コース	136 (内、アントレ称号が獲得可能な表現文化学科学生64名)	2	2 (春修了者含む)	134/134

※ 修了者には[修了証]を発行する。また、修了予定者には[修了見込み証]の発行も予定している。
今後、修了証・修了見込み証については、デジタル証明(オープンバッジなど)での発行を検討する。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

3. 教育目標達成のための授業改善の取組

2. 教育目標達成のための授業改善

👉各担当教員にプログラムの到達目標と現状とのGAPを正しく認識してもらい、
具体的な授業改善に取り組んでもらう。

R6_教育目標達成のための授業改善の取組

✓ 約8割の教員が実務家且つ大学講師未経験者であることもあり、教育プログラム開始前、開始後の研修会・FDを計画的に実施することで、教育の質向上を図っている(R5から継続実施)

ふり回りMT や講師会	実施日	方法	目的
地域戦略人材コース全体MT	月1回	対面	✓ 毎月の状況把握と授業改善について コア教員との定例会
起業家人材コース (ワークショップ科目)	6月 3月	対面	✓ 半期ごとの授業内容と学生の状況の共有を行い、 アントレ支援の取り組みに対しての意見交換を実施
起業家人材コース (スキル科目/ワークショップ科目)	3月	オンライン(予定)	✓ ワークショップ科目とスキル科目の連携・連動を強 化するための意見交換と授業内容改善を実施
起業内リーダーシップ人材コース (スキル科目/ワークショップ科目)	8月 3月	対面 ※ワークショップ方式	✓ 半期ごとの授業のふり回りと次の半期や次年度に むけた授業改善の取り組み(教員同士で共有や意見 交換を行いながら、気づきを得ていく形式)

【事例】マイスターワークショップ科目ふり回り

◆ 1QT終了してのふり回り

日 時: 6月26日(水)

時 間: 19:10~21:00

場 所: ガモール志學亭

参加者: 起業人材コースワークショップ担当教員7名
アントレコース担当職員6名内 容: ①各マイスターワークショップの状況共有
②アントレプレナーコースの運営について討議

【議題:ふり回りと今後のアクションにむけて】

マイスターワークショップの担当教員7名が各講義で行っている取り組みや学生の修学態度などを共有し、相互理解を深めるとともに、今後の授業運営について意見を交わした。

本研修会には本学理事長の柏木をはじめ担当職員も出席し、コース運営の状況などを教員から直接意見を聞き、今後のコース運営に向けての討議を行った。アントレプレナー養成に向けてピッチコンテストなど発表の場の創出と学生への伴走サポートの重要性を全員で再確認した。

具体的には、ピッチコンテストへの学生参加を促すために、アントレコースの学生を対象とした「PRE TAIS PITCH中間報告会」(9/30)を開催するとともに、各WSから特色ある企画発案を期待し、その指導・支援の強化を依頼した。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【事例】授業改善のためのワークショップ

◆ 春学期のふり回りから秋学期に向けてのワークショップ

日 時: 10月6日(日)

時 間: 14:00~17:00

参加者: 企業内リーダーシップ人材コース科目担当教員 13名

次 回: 3月2日(日)に実施

【当日のアジェンダ】

★はじめに

0. 本日のワークショップについて/アイスブレイク (15分)

★春学期 ふり回りパート

1. 共有① 教員アンケートの報告 (15分)

2. 個人ワーク 授業設計と学生の成長実感 (15分)

全員ワーク 授業設計と学生の成長実感 (30分)

3. 共有② インターンシップ先からの学生評価(15分)

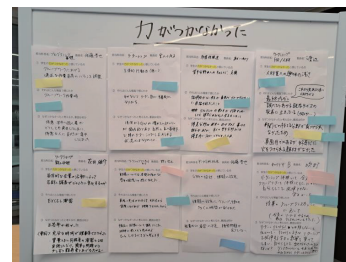
★秋学期&R7にむけての計画パート

4. グループワーク イントレ共通して育成・強化すべき資質と能力の絞り込み(25分)

5. グループワーク イントレ共通でどのように強化・育成するか(25分)

6. 個人ワーク 各担当授業で強化・育成するものとその手法(25分)

7. 今後のスケジュールについて(5分)

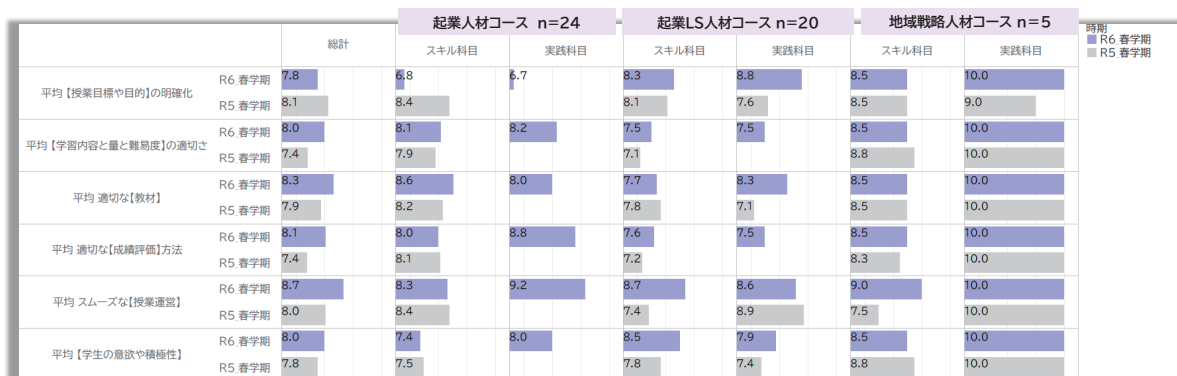


【参考】教員アンケート結果(授業運営や設計に関する自己評価)



授業改善にむけての現状把握の取組(3コース共通:教員アンケート結果)

QT毎に教員に自己評価のアンケートを実施している。概ね昨年の春学期より自己評価が上がっているが、2年目ということが最も大きい要因と考えられる。特に**授業運営(+0.7)**、**学修内容の量と難易度(+0.6)**が改善されている。一方で授業の目標や目的はスコアが下がっており(特に起業家人材コース)秋学期に向けて改善に取り組む



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



4. R6_正課外のプログラム

3. 学生と社会との早期接点強化による経験学修の推進

👉 数日間のインターンシップへの参加など早期から外部での経験値を高める機会を増やしていくと同時に**社会経験や実務経験から次の学びや成長につなげていくサイクルを強化していく。**

【事例①】4年生対象「アントレプレナーゼミナール」の実施

【内容】

- ✓ 起業人材コースの4年生を中心とした、起業に向けての「行動」を促す特別プログラム
- ✓ マイスターワークショップの発展的プログラムとして実施

【実施目的】

- 起業のアイデアを育て、プロジェクトにし、実際に行動に移すことで学生のアントレプレナーシップを高める
- アイデアの具体化や起業までのロードマップの制作を通して、起業への解像度を高める
- 学生同士のディスカッション、メンター(起業家など)からの指導など外部からのフィードバックを受ける機会を創出し、モチベーションの向上や起業プランのブラッシュアップなどにつなげる

【担当教員/参加学生数】 山本繁先生 / 10名

【スケジュール】

4月8日(4限)

- ・アントレプレナーゼミナールの目的、目標、内容、スケジュール、評価方法などの説明

4月30日、5月1日・2日(合宿)

- ・「本当にやりたいこと」の見つけ方、「育てるアイデア」の決め方
- ・テーマ・アイデアの選定から事業化までのロードマップ

5月13日・27日、6月3日・17日、7月1日(各日4限)

- ・ゼミ生によるプレゼンテーション、クラスディスカッション、複数のメンターからの助言・フィードバック

7月8日(4限)

- ・アントレプレナーゼミナールでの活動を振り返り、気づきや学び、洞察を得る。ゼミ生と共有し、お互いの学びにする

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【事例②】授業連動型インターンシップの実施

【内容】

- ✓ 企業側が独自に大正大学の学生向けに設定した選抜型インターンシップ
- ✓ キャリアデザインAの授業プログラムとして実施

キャリアセンターと連携して実施

【実施目的】

- インターンシップ参加により、学生自身の視野を広げる機会とし、同時にビジョン意識を高める
- 学んだことを実務につなげ、実務を通じた気づきで学びの質を高めるサイクルを生み出す
- インターンシップ受入企業様の事業・業界の理解と人的ネットワーク構築をはかる
- 働くことと自己実現の関連付けを行う

【参加学生数】

キャリアデザインA履修の2クラストータル34名 (R5年度16名)

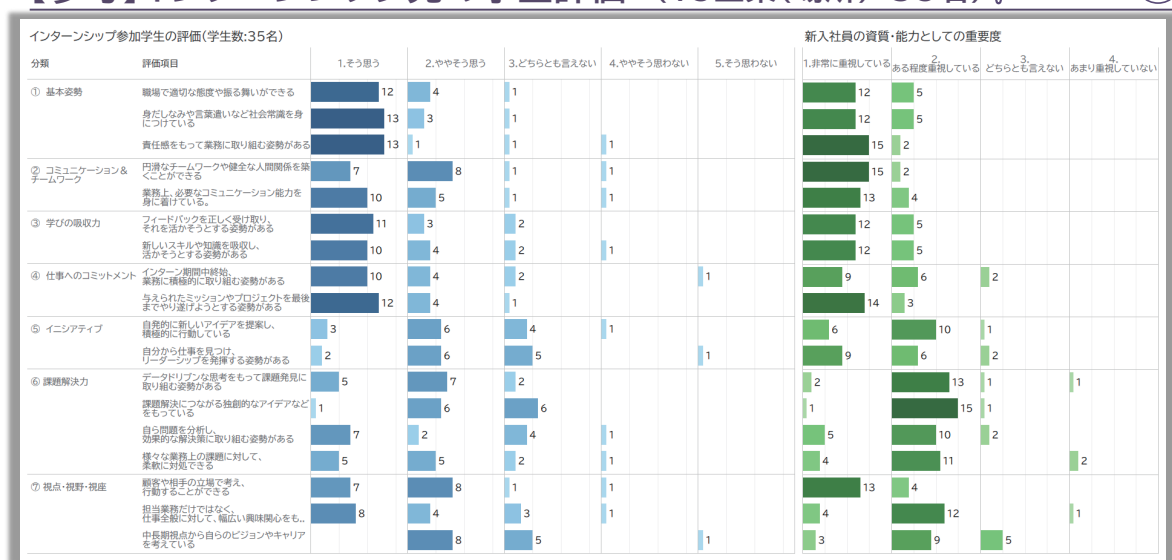
【スケジュール】

- 6月中旬 インターンシップ先の確定 (5日コースを基本として、5社実施)
- 7月上旬 インターンシップのエントリー実施
- 7月中旬 インターンシップ先確定
- 5月～7月 参加にむけての準備(自己分析、業界&企業研究、マナー研修)
- 8月～9月 インターンシップ参加
- 9月7日 インターンシップふり振り返り
- 9月14日 報告会

企業名	日数
1 ビックカメラ ロジスティクス	7日間
2 フォーバル (東京)	5日間
3 フォーバル (札幌)	5日間
4 ビックカメラ 法人営業	5日間
5 東日本電信電話	5日間
6 東武トップアース	5日間
7 フェスタリア	3日間
8 HRフォース	5日間
9 TBSアクト	約2週間
10 ビックカメラ 店舗・商品	5日間
11 木下工務店	5日間
12 バリューマネジメント/兵庫・篠山	10日間
13 スターツコーポレーション	5日間
14 セン&アイ・フードシステムズ	9日間
15 キヤリタス	3日間
16 セレボ	5日間

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】インターンシップ先の学生評価 (15企業(場所):35名) 大正大学



【参考】インターンシップ先からのアンケート

本学の学生の評価できる点が具体的に教えてください

- ✓ 聞く姿勢がとてもよかったです。話している社員の目を見てしっかりと説明を聞いていました。
- ✓ 非常に行動的であり、何を行うにも学が姿勢は大変好印象でした。自身の今後に活かす為に非常に前向きに取り組んで頂きました。私達にとっても、非常に有意義な時間となりました。
- ✓ 3名とも同じ内容の講義内容、店舗見学などを行ったのにも関わらず、三者三様の解釈をしてくださるおひとりず個性があり、こちらも勉強になりました。集中して取り組んでいただき、こちらとしてもとても充実した3日間を過ごさせていただきました。
- ✓ 期間中の学が姿勢や初日立てた目標についても真面目に取り組まれている。
- ✓ まじめで何事にも業務に向けて真摯に取り組んで頂く姿勢には感銘を受けました。質問等も積極的に発言して頂き、理解を深めようとする積極性も感じられました。身だしなみや社会人としての立ち居振る舞い、態度等は、非常にレベルの高いものを感じました。非常に優秀な学生さんですので、是非、当社の採用に繋げて頂ければ有難いです。
- ✓ 毎回の振り返りのFBから吸収しようとする姿勢。具体的な一例だと業務1つ1つの意図と意味を考えてみてほしいという風に伝えると次の日からは実際にその態度で業務と向き合ってくれました。
- ✓ 最新技術への造詣が深い：インターンのカリキュラムの中で学生様や教職員様にアンケート調査をする機会がありました。アンケートをMicrosoft Formsで実施することで調査・集計作業の効率化を図っておられて大変感心致しました。
- ✓ 弊社提供のコンテンツに積極的に参加され、最終のプレゼンでも大変素晴らしい資料に仕上げてくださいました。
- ✓ 最終日に学んだことを発表していただきましたが、内容はよくまとまっております素晴らしいものでした。特にスピーチ力・情報収集能力に関しては普段の学生生活の中で培ってきた地力を感じ、また発表を通してインターンシップに対する真摯な姿勢が伝わってまいりました。最終日の発表の際、弊社の社長と取締役が同席しました。完成度の高い内容に驚嘆し、是非弊社の選考に進んでもらいたい等お話をさせていただきました。
- ✓ 限られた期間内に期待以上の提案資料をまとめ上げる姿勢/常に前のめりで、興味を持って取り組む姿勢/フィードバックに対するアクションのスピード感

【参考】インターンシップ先からのアンケート



本学の学生の課題点、今後強化する必要がある点があれば具体的に教えてください

- ✓ 特に御座いませんが、1点挙げさせていただくと、社内の様々な人間とかかわる際、身構えすぎてしまう点が少し気になりました。人と触れ打ち解ける、そういった機会を増やし、コミュニケーション能力の向上を期待いたします。
- ✓ 少し大人しい傾向があるのではと思います。業務知識や社会経験が乏しいのは当然のことですので、大学生が有する元気よさ、明るさ等をもっと前面に打ち出すといいのではと感じました。
- ✓ 自分の中でじっくり考えてから発言するタイプとお見受けしましたが、もう少し積極的に発言できるとさらにいいと思います。
- ✓ 不明点や疑問点などもっと積極的に質問いただき、知識向上につとめていただくと一層スキルアップすると思われま
- ✓ 今後の経験を築いていき自己理解を深めていけばより広い視野で物事を見れるようになって感じました。
- ✓ 短い期間だったので、中々難しいですが、手が空いた時に自ら新たな仕事に挑戦する姿勢は感じられなかったです。
- ✓ 特に課題としてきになるというわけではありませんが、どこの学生にも共通する点ではありますが学生と社会人の生活リズムが異なるため、時間のギャップが課題となってしまうのかなと思いました。
- ✓ ビジスマナーという点では少し課題があると感じましたが、今は彼女達の長所をより一層磨いて頂きたいと感じます。
- ✓ 是非他の学生達との接点の持ち方を意識していただけると良いのではないかと思います。比較的、自分と感覚が近い(仲良くなれそうな)人と一緒にいる様子が見受けられていました。色んな価値観や考え方の人との交流を、こういった場面で積極的に取ってけると、新たな発見もあるのではないかと。 (他大学学生を含めてインターンシップを実施した企業)
- ✓ 改善提案についてジャストアイデアではなく、ピラミッドストラクチャーなどの考えに基づいて、課題の抽出から整理、そして根拠を明確にしたうえで提案ができると、より受け手側にとって納得感のある提案になると思います。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【事例③】自治体インターンシップについて



1. 主旨・目的

このコースでは、公務に必要な基礎知識学修とワークショップ等を通じたモデル公務員との人脈形成を通じて、新時代の地域を牽引するアントレプレナーシップ(新しい価値を創造する思考・行動能力)を意識し行動できる公務人材の育成を目指しています。

今回、インターンシップを通して、現場で働く公務員の方と一緒に働き、より明確に公務員の仕事をイメージできるようになるために、今年度はトライアルで実施しました。今後、受入れ自治体をお呼びして報告会を実施します。

2. プログラム内容

派遣先自治体	期間	参加学生数	主な内容	報告会実施日
藤枝市	8/26(月)～8/31(土) ※台風のため、 8/28(水)午前までに短縮	3名	市内施設見学、防災訓練準備・参加 職場体験:窓口、地域交通課、商業振興課、広報課 若手職員とディスカッション テーマ:働き方改革、人口減少 採用試験内容説明、模擬面接	令和6年12月16日
南魚沼市	8/22(木)～ 8/27(火)	2名	職場体験:市民課、税務課、総務課、商工観光課、U&Iとさめき課、子育て支援課、介護保険課道の駅 企画ミーティング見学	令和6年12月2日
益田市	8/26(月)～8/31(土)	2名	市役所概要説明、自治体の特性理解、市内視察まちづくり事業、ひとづくり事業 例:体験活動、意見交換、報告書作成、振り返り、欲しい人材、選考、模擬面接	令和6年11月25日
北本市	8/23(金)、8/26(月) 8/27(火)、8/31(土) ※台風のため、8/31中止	2名	市長(副市長)挨拶、概要説明、市役所見学 職場体験:くらし安全課、共生福祉課、産業観光課、議会事務局 若手職員とディスカッション 採用試験内容説明、模擬面接	令和6年12月9日

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【事例④】海外インターンシップについて

■海外インターンシップ

国際的な視座から企業や文化交流などを行うと共に、国内外の大学生との交流も行います。本取り組みは、本学と関係の深い埼玉工業大学が先行的に実施しているプログラムに本学の目的を組み入れた共同実施プログラムとして開催しています。令和6年度の開催は以下の通りとなります。

●令和6年度 夏期プログラム 時期・渡航先

A:令和6年8月6日～8月15日(ベトナム) 3名

B:令和6年8月21日～8月31日(スリランカ) 1名 ※体調不良のため現地研修は不参加

●令和6年度 春期プログラム

時期・渡航先 令和7年2月26日～3月8日(ベトナム)

キャリアセンターが中心に実施



【実施スケジュール】

事前研修

事前発表

海外研修(10日～11日)

事後研修

活動報告

チーム活動を通し、リーダーシップ、チームワーク、目標遂行力を養う約三ヶ月に渡るプログラム

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

5. R6_シンポジウムとPITCHCONTEST開催

3. 学生と社会との早期接点強化による経験学修の推進

☞数日間のインターンシップへの参加など早期から外部での経験値を高める機会を増やしていくと同時に社会経験や実務経験から次の学びや成長につなげていくサイクルを強化していく。

R6_アントレ育成教育プログラムのシンポジウム開催の目的



【概要】

アントレプレナーシップ育成シンポジウム To the future leaders
～未来のリーダーたちへ～

【実施時期】

令和7年**2月3日(月)13時～16時**

【実施目的】

本学の「アントレプレナーシップ育成教育プログラム」は、新しい時代にふさわしい地域社会の未来を考え、支える人材(地域戦略人材)を育てることを目指しています。大正大学の建学100周年記念事業の一環として、このプログラムがスタートしてから3年が経ちました。このシンポジウムでは、これまでのプログラムで学んだ学生たちがその成果を競う「大正大学 TAIS PITCH コンテスト」を実施します。基調講演に加え、**学生たちの創造的なアイデアやプロジェクトを発表する場を提供し、その中から優れた取り組みを表彰します。**また、現役の起業家を迎えて、未来の社会で活躍するための創造的な思考や起業家精神を育てるための意見交換を行います。**このシンポジウムを通じて、学生たちが未来の社会で活躍するためのヒントを得ると同時に、次のステージに踏み出す1歩となることを目指します。**

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_シンポジウムのテーマは～To The Future Leaders～



第1回 大正大学 アントレプレナーシップ育成シンポジウム

TO THE FUTURE LEADERS

～未来のリーダーたちへ～



2025年 2月 3日 月
13:00～16:00
(12:30 受付開始)

https://www.tais.ac.jp/guide/latest_news/20241014/89279/

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレ育成教育プログラムのシンポジウムスケジュール



【当日スケジュール】開催場所:8号館ラーニングコモンズ

進行案	時間(案)	内容
① 開会のあいさつ	13:00~13:10	神達学長からのあいさつ/目的と本日の流れの説明
② 基調講演 To the future leaders ~未来のリーダーたちへ~	13:10~13:40	川口盛之助 氏 https://en.wikipedia.org/wiki/Morinosuke_Kawaguchi
③ TAIS PITCH CONTEST	13:40~14:50	予選会を勝ち抜いた6チームが起業アイデアやプロジェクト案のPITCHを行う(発表5分+質疑5分)→発表順はあみだくじで決める
休憩	14:50~15:05	
④ パネルディスカッション	15:05~15:40	起業家と発表代表学生(3名)のディスカッション (川口盛之助氏、小林浩氏、黒田佳奈子氏)
⑤ 表彰式	15:40~15:45	コンテストの結果優れた起業案もしくはプロジェクトを表彰
⑥ 大正大学の取組について	15:45~15:55	アントレプログラムと大正大学100年の魅力化構想の展開と インキュベーションセンターの取り組みについて
⑦ 閉会のあいさつ	15:55~16:00	副学長からのあいさつ
⑧ 懇親会	16:30~18:00	ネットワーキングの機会 (外部の方々と学生の交流の場)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_TAIS PITCH CONTEST【概要】



【応募資格】

- ✓ 大正大学の在校生・留学生・大学院生・大学院研究生 (科目履修生は除く)
- ✓ 大正大学の卒業生 (卒業5年以内・令和元年度卒までを対象) ※メンバーは他大学生参加可能。
- ✓ 個人・グループでも参加可能(1チーム:1~5名まで)

【エントリー期間】

2024年**7月20日(土)**23時59分
※エントリーチームとは個別面談を実施(8月中)

【企画書提出期間】

2024年**9月30日(月)**23時59分

企画書には①から⑥
をすべて記入が必須

【エントリー項目】

- ◆ 学部/学科/学年
- ◆ チーム名/代表者氏名/参加メンバー名
- ◆ エントリー部門/エントリー分野
- ◆ 発表テーマ (50文字程度)

必要項目	内容
① 起業/プロジェクト概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 目的 (どんな社会や地域の課題解決につながるのか) ✓ 目標 (定性目標・定量目標があれば尚良い) ✓ 具体的な内容
② 市場と競合分析	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ターゲット市場と競合の状況について (環境分析などもあれば尚良い)
③ ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 提供する商品やサービスの内容 (社会へのインパクトはどうか、既存のモデルとの差異点も明確にする。) ✓ 収益モデル(収益源は何か?)
④ マーケティング戦略	<ul style="list-style-type: none"> ✓ メインターゲット(顧客)は誰か ✓ 販売戦略やプロモーション計画
⑤ 運営計画	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 必要な人材・技術や設備 ✓ 財務計画(初期投資額、資金調達計画、収益予測など) ✓ プロジェクトの場合は費用対効果を示シミュレーションできればよい。 ✓ 全体のスケジュール
⑥ その他	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主なリスクと対策 ✓ 必要な許認可や法的手続き ✓ 起業の長期的な持続可能性やプロジェクトの今後の発展性 ✓ 提案の実現に必要な専門知識やスキル、関連する分野/領域での経験値など ✓ 実現のためのリソース確保状況(支援団体、支援者など)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_PITCH CONTEST【概要】

【発表テーマ】

「社会の課題を解決し、地域を活性化するための提案」

【エントリー部門】

- ① 起業部門
- ② プロジェクト部門

いずれか1部門を選択して
エントリーをしてください

【エントリー分野】

- 1. デジタル・IT分野
- 2. エンターテインメント・文化分野
- 3. 新商品開発分野
- 4. 教育・福祉分野
- 5. その他

いずれか1分野を選択して
エントリーをしてください

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_PITCH CONTEST_2部門と5分野

分類		内容
2部門	起業部門	新しいビジネスやスタートアップを立ち上げることを目指す学生(社会人)のための部門です。 革新的なビジネスアイデアや実現可能な事業計画を提案してください。社会課題に応える新ビジネスモデルを期待しています。
	プロジェクト部門	特定の社会的課題やニーズに応えるプロジェクトを推進したい学生(社会人)のための部門です。 社会貢献や地域活性化、教育、福祉、環境保護、エンタメなどの様々な分野で具体的な成果を目指すプロジェクトを提案してください。 実現可能且つ発展性のあるプロジェクトで地域社会にプラスの影響を与える内容 を期待しています。
4分野+その他分野	デジタル・IT分野	最新の技術やデジタルソリューションを活用したアイデアやプロジェクトを対象とした分野です。 デジタル技術を活用して新しい価値創造を期待しています。
	エンターテインメント・文化分野	芸術、音楽、映画、スポーツ、文化活動などの領域で新しい体験や価値を提供するアイデアやプロジェクトを対象とした分野です。創造性に富んだエンターテインメントや文化的活動を通じて、人々に感動や喜びをもたらす提案を期待しています。
	新商品開発分野	市場に新しい製品やサービスを導入することを目指したアイデアやプロジェクトを対象とした分野です。 消費者のニーズに応える独自のコンセプト、優れたデザインと機能性を持つ製品を通して、消費者の利便性や満足度を最大化するためのクリエイティブな提案を期待しています。
	教育・福祉分野	高齢者、障がい者、子ども、低所得者層など、社会的弱者やニーズを持つ人々を支援するためのアイデアやプロジェクトを対象とした分野です。教育の向上や福祉サービスの向上、支援システムの構築、社会的包摂の促進をもたらす提案を期待しています。
	その他分野	上記4つの分野に当てはまらない場合はその他分野で申し込みしてください。 ただし「社会の課題を解決し、地域を活性化するための提案」であることが前提となります

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【PRE TAIS PITCH 中間発表会】

【実施日】

2024年9月18日(水)

【実施経緯】

2月のコンテスト出場を目指し、アントレワークショップを受講している学生が、グループで起業企画やプロジェクト企画をPitch形式で発表

【発表者】

アントレコース受講中の3年生
13グループの学生が参加

【観覧者】

アントレコース受講学生、一般学生、教職員

【ゲスト講師者】

ソフトバンク 株式会社
梅本 秀幸 様 神尾 裕志 様 田井 慎一 様
長島 祐太 様 山中 良太 様
経営コンサルタント 石川 広己 様



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【PRE TAIS PITCH 中間発表会の様子】

Pre Tais Pitch 中間発表会 プログラム

発表順番	発表者名	提案内容
第1部	1 高本 汐音 田代高子 釣智明友美	地域で若者の自己実現の機会創出やネットワーク拡充を目的とした拠点作りと組織化事業
	2 井村 颯	防災リュック×ぬいぐるみで、インテリアにあったバックの提案
	3 富田 智陽	発達障害を持つ子供や、そのグレーゾーンの子供達への教育や療育を経て、将来の選択肢の広がりを提供することができる、発達障害支援型学習塾の企画
	4 山口 健悟	果糖の商店街にアトム通商を導入し、それを契機とした学生と商店街・地域との交流の促進を図る。
	5 工藤 碧乃	運動部に所属する学生に向けた学習支援
	6 七五三 昌樹	人材不足に困っている小売業をアパター・店員を導入することで救う。
第2部	7 瀬戸 俊斗	エシカルファッション ヘアファッションを通して人にも服にも新たな価値を見出す— 人に笑顔と平和を届けられるように哲学を知ってもらう
	8 中村 高斗	照明家をスムーズに進行させるためのアプリの開発
	9 柳原 里桜	サイクリストやライダーといった旅人が集まるゲストハウス
	10 國見 一馬	住民同士の交流の場を目的とした居場所づくり —宮城県気仙沼市でのコミュニティ創生事業—
	11 熊谷 光輝	地域に中高生対象のサードプレイスづくりを目指すと共に、地域の行政・企業と学生をつなげ、地域に参画する若者を増やすことを目的とした事業です。
第3部	12 島飼 賢	果糖をテーマにしたガチャガチャを大学に設置する。 目的：果糖を楽しくかつ、刺激的な体験で知ってもらう 果糖に係る企画を考えてくれ。大正大学は果糖に関わっていないという印象がある。学内で果糖を知れるきっかけをつくらう！ カタログや小冊子。 果糖の和菓子店とかのカタログ、文芸部が書いた小説とか。果糖のおじいちゃんおばあちゃんのシールをモノにして。
	13 チーム 遊び心 甲斐 第一郎	



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【PRE TAIS PITCH 参加学生の声】

- ✓ 発表者の皆様がそれぞれの観点からアイデアを考えていて、とても刺激的になりました。講評でも学べることもたくさんあって、**ただやりたいのではなく、それをビジネスや起業にどのようにしていくかがとても大切なのだと感じました。**自分の中でじっくり考えてから発言するタイプとお見受けしましたが、もう少し積極的に発言できるとさらにいいと思います。
- ✓ 今日発表した全員がしっかりと自分の考えを持っていて、それをたくさんの人が見ている中で堂々と発表しているのがすばらしいと思いましたが、自分も見習いたいと思う所がたくさんありました。今日の発表者の意見はどれもすばらしいと思うようなものばかりだったのでぜひ実現させてほしいなと思いました。また先生方の話は自分にとっても為になるものでした。
- ✓ それぞれが経験していたことが土台となっていることによって確固たる動機が保たれていることがわかった。
- ✓ **新しい観点を知り、また自分なりの考察もできた。**興味深い発表も短時間に収めようと早足になってしまっていたことが残念だった。
- ✓ 第2部から参加しました。同じ学科・コースの人が発表していてすごいと思いました。学びを活かしてビジネスにしていた。世界を変えようと言っていたのが印象的だった。講評で「受け手が価値を決める」という言葉と「自分自身が武器になる」という言葉が印象的だった。
- ✓ 他の学部の子のアイデアを聞くことができ、また先生方の講評を聞いたことで、今の自分は何をしたら良いのか、これからどうしたら良いのか考えることができた。今回の発表で、ただ自分がやりたいことだけでなく、「自分からできること」、「大正大生としてできること」を考えなければ、競合他社との差別化は難しいのではないかと感じた。そして、良いアイデアを生み出すことではなく、それをどう伝えるかということがいばん大切だと思った。
- ✓ 実際に自身の経験に基いた、痒い所に手が届くような事業があり、現実存在するニーズに向けた事業として素晴らしいと感じた。講評では自身のプランで補うべき要素を指摘して頂けたのが、とても身になったと感じています。
- ✓ **同じ学年で社会課題のことをここまで考えていることに驚き、**さらには画期的な発想でそれを解決する事業をねり上げていることに驚いた。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【進捗状況】R6_PITCH CONTEST_企画書提出数

- ✓ 7月末のエントリーは45組であったが、9月末締め切りの企画書提出数は26組となった。
- ✓ アントレコースから12組、公募が14組でトータル26組のうち卒業生が6組であった。

申し込み区分	エントリー部門	学生区分	デジタル・IT 分野	エンターテインメント・ 文化分野	新商品開発 分野	教育・福祉 分野	その他 分野	総計
アントレコース	起業部門	3年生	2		1	2	2	7
	プロジェクト部門	3年生		2		3		5
アントレコース 集計			2	2	1	5	2	12
一般公募	起業部門	2年生			1		1	2
		3年生		1			1	
		4年生					1	1
		卒業生	1		1		2	4
	起業部門 集計		1	1	2		4	8
	プロジェクト部門	2年生		1				1
		4年生		1		2		3
		卒業生				2		2
プロジェクト部門 集計			2		4		6	
一般公募 集計			1	3	2	4	4	14
総計			3	5	3	9	6	26

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【進捗状況】R6_PITCH CONTEST_Finalists

✓ 以下の6チームが本選(シンポジウム)に出場します (HPに掲載)



【進捗状況】R6_PITCH CONTEST_Finalists評価

✓ 以下の6チームが本選(シンポジウム)に出場します

部門	ランク	チーム名 代表者名/分野	卒業生 在学生	総合点	1. 起業/ プロジェクト概要 (目的の明確さと目標の具体性)	1. 起業/ プロジェクト概要 (具体的な内容)	2. 市場と 競合分析	3. ビジネスモデル	4. マーケティング 戦略 (ターゲット顧客の明確さ)	4. マーケティング 戦略 (事業戦略やプロモーション計画)	5. 運営計画	6. オリジナリティ/ 社会的インパクト	7. 持続性と発展性	8. 知識・能力と経験値orリソースの確保
P	1	ゆーすふるプロジェクト 長田 のぞみ/教育・福祉	卒業生	40.0	4.8	4.2	4.2	3.4	4	4	3.6	4.4	3.8	3.6
起業	2	yukinowa 田中晴樹/その他	4年生	38.0	4.6	4.4	3.8	4	3.4	3.6	3.6	3.2	3.4	4
P	3	ラフィッチ 和田 竜馬/教育・福祉	4年生	34.4	4	3.8	3.6	3	3	3.6	3	3.4	3.2	3.8
起業	4	だだんだん+ 後藤田 雄星/その他	卒業生	34.0	3.8	4	3.2	3.4	3	3.4	3	3	3	4.2
P	5	銭湯コミュニティ班 門 美優/教育・福祉	4年生	33.4	3.8	3.4	3.6	3	3.4	3.4	3	3.2	3.2	3.4
起業	6	RECONTE 小川由乃輔/デジタル・IT	卒業生	33.2	3.8	3.8	3.4	3	3.2	3	3.2	3	3.4	3.4

【参考】R6_PITCH CONTEST 最終審査基準と配点

項目	評価観点	配点	非常に優れている	優れている	平均的	やや不十分	不十分
最終企画書での評価	1. 起業/プロジェクト概要						
	目的の明確さと目標の具体性 具体的な内容	5	5	4	3	2	1
	2. 市場と競合分析						
	ターゲット市場の明確さ 競合分析	5	5	4	3	2	1
	3. ビジネスモデル						
	提供する商品やサービスの内容 収益モデルの実現可能性	5	5	4	3	2	1
	4. マーケティング戦略						
	ターゲット顧客の明確さ 事業戦略やプロモーション計画	5	5	4	3	2	1
当日のPITCH力	5. 運営計画						
	必要な人材・技術や設備 財務計画 全体のスケジュール	5	5	4	3	2	1
	6. オリジナリティ/社会的インパクト						
	革新性 差別化要素 影響範囲	5	5	4	3	2	1
	7. 持続性と発展性						
	持続&発展可能性	5	5	4	3	2	1
	8. 知識・能力と経験値もしくはリソースの確保						
	提案の実現に必要な専門知識やスキルもしくは関連する分野/領域での経験値があるかどうか。 実現のためのリソースをすでに確保しているか(大学教員以外の支援者、支援組織など)	5	5	4	3	2	1
当日のPITCH力	9. PITCH力 論理展開力						
	内容の明確さ 主張の強みのスムーズさと一貫性	5	5	4	3	2	1
当日のPITCH力	10. PITCH力 インパクトと説得力						
	表現技術レベル 説得力や共感性の深さ	5	5	4	3	2	1

10項目で評価
(合計50点満点)

企画力
40点満点



PITCH力
10点満点

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

6. インキュベーションセンター設立にむけて

3. 学生と社会との早期接点強化による経験学修の推進

☞ 数日間のインターンシップへの参加など早期から外部での経験値を高める機会を増やしていくと同時に社会経験や実務経験から次の学びや成長につなげていくサイクルを強化していく。

インキュベーションセンター設立の背景

インキュベーションセンター設立の背景

- 1 R2_文科省「知識集約型社会を支える人材育成事業」「アントレプレナーシップ(地域戦略人材育成)」
- 2 <情報科学部の設置(構想中)>
建学の理念を行動の礎とする特定成長分野の可能性を拓く文理融合型のデジタル人材の育成
- 3 <創立100周年社会事業>
卒業生寺院を中心とした生涯学習事業、寺子屋ネットワーク(寺学寺習)の開発と実装
- 4 <本学が目指す特定成長分野の可能性>
テーマ：人間、社会、経済の安定と開発を目的としたソーシャルビジネスやスタートアップ人材の育成
- 5 すがもインキュベーションセンターハブ(企業・自治体・大学・海外との連携を通じた人材育成体制の整備)
- 6 スタートアップ支援(通称すがもバレー)
- 7 地域連携による地場産業の発展と人材の育成と発信

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

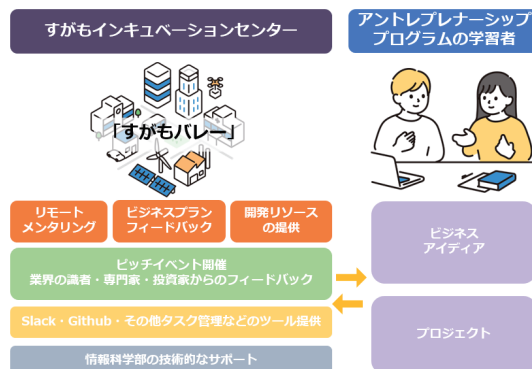
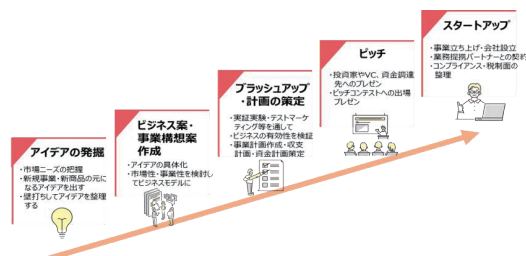
インキュベーションセンターへの連動推進

【内容】

これまで巣鴨で展開してきた教育活動をより促進し、スタートアップの総合的な支援、アントレプレナー養成のための施設として「すがも街なかインキュベーションセンター」を開設する。

インキュベーションセンターでは、アントレプレナーシップ育成プログラムを受講する学生には、アイデアを実現するための具体的な支援・伴走を行うメンターをマッチングしたり、ピッチの場を提供する。

さらに、地元巣鴨地域の起業家や他大学の起業した、もしくは起業を目指している学生との交流の場となり、プログラムとの協働に繋げていくなど様々な仕掛けを提供していきたい。



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

インキュベーションセンター概要について

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだから つくれる世界を。



【場所】

東京都豊島区巣鴨3丁目27-6(座・ガモールの隣です)

【階数】

4階建

【用途(予定)】

☆1階・2階☆

👉 起業を目指す学生、一般の方が思い思いに活動する、オープンスペース

☆3階・4階☆

👉 教室・イベントスペース及び企業への貸しオフィスとして活用を検討

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



MAKE
YOUR
UNIVERSE.

一緒にだから つくれる世界を。



令和7年度 第Ⅲ類科目 アントレプレナーシップ育成 教育プログラムガイダンス

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



1. アントレプレナーシップ育成 教育プログラムについて

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム 大正大学が目指す地域戦略人材とは



大正大学が育成する
新時代の地域リーダー像



地域戦略人材

地域戦略人材とは

多面的な性質をもつ地域課題解決に向けて、
異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー

<4つの要素>

- ✓ 主体的に解決策を提起する態度・意識
- ✓ 具体的課題に対する的確な事実認識、解決のための知恵を生み出す知識・技能
- ✓ 学融合からの視点、多様な視点からの課題アプローチ
- ✓ 複数分野のネットワークの結節点となるためのコミュニケーション能力

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

アントレプレナーシップ育成教育の3つのコース



アントレプレナーシップ育成教育の3つのコース

新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、
社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する科目である。

講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞き、地域を題材とした学びと活動を一体化したワーク
ショップやインターンシップなどの実践的な学びを通して、新しいことにチャレンジするアントレプレナー
シップの修得を目指す。

A. 起業人材コース（アントレプレナー）

地域に新しい価値を創造するビジネスを起業する人材

B. 企業内リーダーシップ人材コース（イントレプレナー）

地域企業や組織内においてイノベーションによって活性化と業績向上に貢献する人材

C. 地域戦略人材コース（公務員・地域貢献人材）

地域創生戦略志向とビジネスマインドを持つ人材

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

2. 3つのコースの特徴と科目構成、概要について

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

アントレプログラムの単位取得について

■アントレプレナーシップ育成教育の履修モデル

A. 起業人材コース
(アントレプレナー)

B. 企業内リーダーシップ人材コース
(イントレプレナー)

C. 地域戦略人材コース
(公務員・地域貢献人材)



基礎科目、スキル科目、実践科目ともに4年生の春学期までに24単位取得できるように計画を立てる

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



R7_イントレコース_開講科目一覧と履修モデル（予定）

✓ 希望する業界や職種(実践科目3科目)と関連するスキル科目を選択&履修

「スキル科目」12単位

中分類	コース	科目	単位数
スキル科目	イント	コミュニケーション (イント)	2
スキル科目	イント	ロジカルシンキング (イント)	2
スキル科目	イント	丸ゼンゼーション (イント)	2
スキル科目	イント	丸ゼンゼーション (イント)	2
スキル科目	イント	丸ゼンゼーション (イント)	2
スキル科目	イント	リーディング (イント)	2
スキル科目	イント	財務会計の基礎 (イント)	2
スキル科目	イント	マーケティングの基礎 (イント)	2
スキル科目	イント	データ分析技法 (イント)	2
スキル科目	イント	プログラミングの基礎 (イント)	2
スキル科目	イント	ビジネス英語 (イント)	2
スキル科目	イント	キャリアデザインA (イント)	2
スキル科目	イント	キャリアデザインB (イント)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (全学共通共通、多様性推進)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (全学共通共通、課題解決型実習)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (全学共通共通、財務分析)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (外・国際)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (グローバル)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (H/W・人材開発境界)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (ユガタゼン)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (海外実習)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (出版・編集)	2
ワークショップ	イント	ワークショップ (全学共通共通/金融リテラシー)	2
インターンシップ	イント	インターンシップ (イント)	2



「実践科目(ワークショップ)」6単位

✓ 希望する業界や職種ごとに履修モデルを学生に提示

[illegible]

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



R7 地域戦略人材コース 開講科目一覧（予定）

✓ 地域戦略人材として、地域での仕組みづくりをする職種である公務員を想定し、問われる知識・資質について 春休みや夏休みでの集中講義を含めた年間を通じた学習をおこなう

「スキル科目」12単位
+ キャリアセンター講座 3科目



「実践科目(ワークショップ)」6単位

✓ 地域戦略人材として、地域での仕組みづくりをする職種である公務員を想定し、問われる知識・資質について 春休みや夏休みでの集中講義を含めた年間を通じた学習をおこなう

大分類	中分類	対象コース	科目名	単位数
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	マネジメント（専門知識A）	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	ロジカルシンキング（教養科目B）	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	データ分析法（教養科目C）	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	財務会計の基礎（専門知識C）	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	キャリア探究A 夏休み集中講義	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	プレゼンテーション 春休み集中講義	2

地域戦略人材コース	キャリアセンター講座（教養科目A）	0
地域戦略人材コース	キャリアセンター講座（専門知識B）	0
地域戦略人材コース	キャリアセンター講座（専門知識C）	0

大分類	中分類	対象コース	科目名	開講期	単位数
実践科目	実践科目	地域戦略人材コース	マイスターワークショップ	通年	6

- ✓ 集中講義や実践科目では、公務員を主軸に、職務理解や地域貢献人材の現場を理解する。
- ✓ 時事問題を取り上げたワークショップや、現役の職員をゲスト講師に招いた現実的な実情の理解、グループワークなどのアクティビティを通じた体感的な理解、モチベーションの向上などを行なう。

✓ スキルの背景となる知識・基礎力の科目として必須であることから キャリアセンター講座として、履修指導で推奨科目とする。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



R7_コース登録に関する注意点

- ✓ 3つのコースはすべてエントリー制です。**4月以降のコース変更は不可能**となっていますので、
十分理解した上でのエントリーをお願いします。

R7年度 エントリー制 (3つのコース)

①アントレプレナーコース

(起業人材コース)

②イントレプレナーコース

(企業内リーダーシップ人材コース)

③公務員コース

(地域戦略人材コース)

3つのいずれかに
エントリーするか否か
を決める

卒業までにⅢ類科目は24単位以上修得する必要があります。
第Ⅱ類科目として修得した単位を、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができるため、
3つのコースにエントリーしない学生は、
学科科目・資格関連科目等によりⅢ類で必要な卒業要件(20単位)満たしてください。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



R7_アントレ各コースの登録者条件

- ✓ 各コースごとの説明会でも詳細は説明しますが、十分確認をした上でコース登録をしましょう

3つのコース	コース登録者条件・履修ルール	単位取得期間 ※基礎科目除く
アントレプレナーコース	✓ 実践科目は1科目のみしか履修できないため(1科目6単位)2025年4月の時点で履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
イントレプレナーコース	✓ GPA2.3以上の学生のみが履修登録可能 2024年春学期までの通期換算 ✓ 実践科目は春学期に2科目(6単位中4単位)履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
公務員コース	✓ 基本的に実践科目6単位、スキル科目12単位の計18単位は3年次中にすべて履修する ✓ 春休みや夏休みでの集中講義を含みます。また実践科目は1.5年履修です。	3年生春学期 ～4年生春学期中

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

3. コース選択から登録までのスケジュール コースの履修ルールについて

アントレの各コース選択と履修登録に向けてのスケジュール

- ✓ コース修正登録期間以降は変更はできません。
コースの内容を十分理解した上でエントリーしてください

履修までのスケジュール	登録	日程
プログラムガイダンス		2024年11月18日(月)～11月22日(金)
アントレプレナーシップ育成教育プログラムコース登録	コース本登録	2024年11月18日(月)～12月20日(金)
プログラム3コース別説明会（各コース3回実施）		2024年12月2日(月)・4日(水)・6日(金)
授業見学会（各コースとも見学可能）		2024年12月9日(月)～12月14日(土)
相談窓口設置（コース選択/履修登録について）		2024年12月16日(月)～12月20日(金)
アントレプレナーシップ育成シンポジウム開催		2025年2月3日(月)
アントレプレナーシップ育成教育プログラムコース 修正登録期間	コース修正 登録期間	2025年2月3日(月)～2月7日(金)
令和7年度 春学期履修ガイダンス(コース別) ※履修登録にむけて学修計画の作成と個別相談実施		2025年3月中旬～下旬
春学期履修登録	履修科目確定	2025年4月上旬

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

コース選択&登録のステップについて(詳細)

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



【Step4】受講科目の履修登録

4月上旬

【Step3】春学期履修ガイダンス(コース別)

3月下旬

※同時に学修計画書作成開始

- ✓ 登録したコースからteamsの招待が届きます。連絡事項を確認し、UR-note上で「学修計画書」を作成してください。最終提出日は4月上旬です。

【Step2】アントレコース修正登録期間

2月3日～2月7日

- ✓ 原則、**修正登録期間以降のコース変更はできません。**

Now !

【Step1】アントレコース本登録

11月18日～12月20日

- ✓ 各コースの説明会、授業見学などを通して、エントリーするコースを決めてエントリーをしてください。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【Step1】アントレプレナー3コース本登録 ※重要！

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



11月18日(月)からコース本登録が開始されます。

必ず12月20日(金)までに現時点の希望を選択し、登録をお願いします。

- 対象者: **2023年度入学者(現2年生)全員 <回答必須>**
- 回答期間: **11月18日(月)～12月20日(金)23:59**まで

<回答先> UR-note

設問内容:

学部学科/プログラム履修希望コースの選択とその理由

- 01.起業人材コース(アントレプレナーコース)
- 02.企業内リーダーシップ人材コース(イントレプレナーコース)
- 03.地域戦略人材コース(公務員コース)

04. 3コースは選択せず、学科科目・資格関連科目等によりⅢ類で必要な卒業要件(20単位)を満たす



ココ！

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【Step1】に向けてコース別説明会について

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



大正大学 Goto 100

コース別説明会を下記の通り実施します。
コースの選択に悩んでいる場合は複数コースの説明会に参加可能です。

アントレプレナーコース

日程①12月2日(月)
時間:17:00~18:00
教室:551教室

日程②12月4日(水)
時間:17:00~18:00
教室:551教室

日程③12月6日(金)
時間:17:00~18:00
教室:551教室

イントレプレナーコース

日程①12月2日(月)
時間:17:00~18:00
教室:552教室

日程②12月4日(水)
時間:17:00~18:00
教室:552教室

日程③12月6日(金)
時間:17:00~18:00
教室:552教室

公務員コース

日程①12月2日(月)
時間:17:00~18:00
教室:553教室

日程②12月4日(水)
時間:17:00~18:00
教室:553教室

日程③12月6日(金)
時間:17:00~18:00
教室:553教室

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【Step1】に向けて授業見学会について

12月9日(月)~14日(土)

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



大正大学 Goto 100

【アントレコース】科目別開講時間割は以下の通りです。静かに見学をしましょう

コース名	種別	科目名称	担当教員	見学可能日	曜日	時間	教室
アントレプレナーコース	スキル科目	ファシリテーション (アントレ) [QT4]	刀祢館 ひろみ 安藤 伸雅	12月9日	月	4-5	TSRスタジオ1 (521)
		マーケティングの基礎 (アントレ) [QT4]	高柳 直弥	12月9日	月	4-5	752
		マネジメント (アントレ) [QT4]	竹村 浩	12月9日	月	4-5	1022
		言語表現技術 I (アントレ) [QT4]	山本 哲也	12月9日	月	4-5	1052
		キャリアデザイン B (アントレ・クラス2) [QT4]	吹野 あゆ子	12月10日	火	4-5	564
		ファイナンスの基礎 (アントレ) [QT4]	井原 守茂	12月13日	金	4-5	1053
		コミュニケーション (アントレ) [QT4]	佐藤 有希	12月13日	金	4-5	764
		ロジカルシンキング (アントレ) [QT4]	田村 允	12月14日	土	1-2	752
		プレゼンテーション (アントレ) [QT4]	岡 遼平	12月14日	土	3-4	763
	実践科目	マイスターワークショップ(アントレ・チェンジメーカーズ・コミュニティ)[通年]	山本 繁	12月9日	月	5	プロダクトスタジオⅢ (すがもキャンパス)
		マイスターワークショップ (アントレ・起業・企業再生事例研究) [通年]	小堺 正記	12月10日	火	4-5	プロダクトスタジオⅢ (すがもキャンパス)
		マイスターワークショップ (アントレ・「ゼロスタ・ツグスタ」新しいキャリアデザイン) [通年]	井原 守茂	12月11日	水	4-5	プロダクトスタジオⅤ (すがもキャンパス)
		マイスターワークショップ (アントレ・クリエイティブは1人じゃない。～生かす創造性の実践～) [通年]	平石 洋介、鈴木 雄飛	12月11日	水	4-5	プロダクトスタジオⅢ (すがもキャンパス)
		マイスターワークショップ (アントレ・ビジネス実践) [通年]	夏山 直道	12月11日	水	4-5	711
		マイスターワークショップ(アントレ・地域共生コミュニティの実践)[通年]	牧野 篤	12月12日	木	5	プロダクトスタジオⅢ (すがもキャンパス)
		マイスターワークショップ (アントレ・起業というキャリアデザイン) [通年]	黒田 佳奈子	12月13日	金	4-5	プロダクトスタジオⅢ (すがもキャンパス)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。

【Step1】に向けて授業見学会について 12月9日(月)～14日(土)



大正大学



【イントレコース】科目別開講時間割は以下の通りです。静かに見学をしましょう

コース名	種別	科目名称	担当教員	見学可能日	曜日	時間	教室
イントレプレナーコース	スキル科目	プレゼンテーション (イントレ) [QT4]	渡辺 朋子	12月9日	月	4-5	533
		財務会計の基礎 (イントレ) [QT4]	吉田 厚志	12月9日	月	4-5	1033
		ロジカルシンキング (イントレ) [QT4]	島村 宏子	12月10日	火	4-5	1044
		マーケティングの基礎 (イントレ) [QT4]	持田 智也	12月11日	水	4-5	742
		データ分析技法 (イントレ) [QT4]	佐藤 晋也	12月11日	水	4-5	766
		プログラミングの基礎 (イントレ) [QT4]	佐藤 晋也	12月12日	木	4-5	プロダクトスタジオⅡ (すがもキャンパス)
		コミュニケーション (イントレ) [QT4]	吹野 あゆ子	12月13日	金	4-5	1052
	実践科目	マスターワークショップ (イントレ・全業態共通_金融・経済と私) [QT4]	吉田 厚志	12月10日	火	4-5	731
		マスターワークショップ (イントレ・メディア業界) [QT4]	伊藤 翼一	12月11日	水	4-5	763
		マスターワークショップ (イントレ・プランディング) [QT4]	宮本 雅恵	12月14日	土	1-2	753
		マスターワークショップ (イントレ・全業態共通_多様性推進) [QT4]	あかい ゆかり	12月14日	土	1-2	754
		マスターワークショップ (イントレ・出版・編集) [QT4]	長坂 邦宏	12月14日	土	1-2	762
		マスターワークショップ (イントレ・全業態共通_課題解決型営業) [QT4]	平田 憲太郎	12月14日	土	1-2	764
		マスターワークショップ (イントレ・サービス業界) [QT4]	岡本 有子	12月14日	土	3-4	752
		マスターワークショップ (イントレ・全業態共通_財務分析) [QT4]	花田 雄介	12月14日	土	3-4	754
		マスターワークショップ (イントレ・人と企業を繋ぐ人材関連業界) [QT4]	渡辺 朋子	12月14日	土	3-4	761
		マスターワークショップ (イントレ・コンサルティング) [QT4]	野上 智之	12月14日	土	3-4	762

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。

【Step1】に向けて授業見学会について 12月9日(月)～14日(土)



大正大学



【公務員コース】科目別開講時間割は以下の通りです。静かに見学をしましょう

コース名	種別	科目名称	担当教員	見学可能日	曜日	時間	教室
公務員コース	スキル科目	財務会計の基礎 (公務員) 通年	上林 領	12月10日	火	5-6	711
		データ分析技法 (公務員) [QT4]	岸 根也	12月11日	水	5-6	754
	実践科目	マスターワークショップ (公務員) 1.5年	田辺 慎一	12月9日	月	5-6	711

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



【Step1】に向けて相談窓口設置について(コース選択/履修登録について)

アントレプレナーシップ育成教育プログラムのお問い合わせ窓口

entreall@mail.tais.ac.jp

- 相談期間: **2024年12月16日(月)～20日(金)**
- 場所: 各窓口、またはteams会議機能を利用したオンライン
- 相談予約方法

✓ 12月2日(月)から予約開始 相談時間は30分単位

事前予約が必要です!

※予約時間の6時間前まで受け付けます。

<相談窓口予約URL>

プログラム全体: [https://timerex.net/s/n maeda 1ddc/1535cabf](https://timerex.net/s/n%20maeda%201ddc/1535cabf)

アントレプレナーコース: [https://timerex.net/s/chi tamura ad05/fe944f1b](https://timerex.net/s/chi%20tamura%20ad05/fe944f1b)

イントレプレナーコース: [https://timerex.net/s/chi tamura ad05/b3e68f92](https://timerex.net/s/chi%20tamura%20ad05/b3e68f92)

公務員コース: [https://timerex.net/s/chi tamura ad05/63194e8f](https://timerex.net/s/chi%20tamura%20ad05/63194e8f)

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



大正大学



【Step1】に向けて相談窓口設置について(コース選択/履修登録について)

アントレプレナーシップ育成教育プログラムのお問い合わせ窓口

entreall@mail.tais.ac.jp

- 相談期間: **2024年12月16日(月)～20日(金)**
- 場所: 各窓口、またはteams会議機能を利用したオンライン
- 相談予約方法

✓ 12月2日(月)から予約開始 相談時間は30分単位

※予約時間の6時間前まで受け付けます。

<相談窓口予約QRコード、アクセス先>

事前予約が必要です!

プログラム全体



アントレプレナー
コース



イントレプレナー
コース



公務員コース



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

4. アントレプレナーシップ育成シンポジウムについて

【参考】R6_アントレプレナーシップ育成教育のシンポジウム

【シンポジウム名】

第1回 大正大学 アントレプレナーシップ育成 シンポジウム

サブタイトル: **To the future leaders ~未来のリーダーたちへ~**

【実施時期】

令和7年 **2月3日(月)13時~16時** ※16時半から懇親会

【実施目的】

知識集約型社会を支える人材育成事業「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」が目指す教育改革の第1段階として計画された「アントレプレナーシップ育成教育プログラム」が始動し3年目を迎えた。大正大学の建学100周年記念事業として、本学の上記教育プログラムの学修成果を広く社会に周知し、今後のアントレプレナーシップ育成教育の発展に資するとともに、大正大学100年の魅力化構想の新たな展開についての社会発信の場として公開シンポジウムを実施したい。当日は、基調講演の他に学生のコンテストを実施し、学生の学修成果の発表及び実践教育の場とすると同時に、実社会で活躍する著名な起業家を交え、不確実性の高い未来社会を生き抜く創造的な思考やアントレプレナーシップ育成教育、さらにインキュベーションセンターの支援に関わる意見交換を行う。

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

シンポジウムのテーマは～To The Future Leaders～

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



第1回 大正大学 アントレプレナーシップ育成シンポジウム

TO THE FUTURE LEADERS

～未来のリーダーたちへ～

2025年 2月3日(日)
13:00～16:00
(12:30 受付開始)

会場
大正大学
8号館ラーニングcommons

参加費
無料

PROGRAM

- 01 開会挨拶
神達 知純
大正大学 学長
- 02 基調講演
To the future leaders
～日本の未来を共に創る挑戦～
川口 盛之助 氏
株式会社盛之助 代表取締役社長 / 日経BP社 日経BP総研 未来ラボ 客員研究員 / 技術とイノベーションの育成に関するエキスパート / 未来学者
- 03 TAIS PITCH CONTEST

TAIS PITCH CONTEST_ファイナリスト

ファイナリスト紹介

すべての人に人生の選択を！
ゆめを語るプロジェクト
ゆめみる (黒田のぞみ)

DIS PROJECT
フレイバー (和田竜彰)

また知らない日常へ。
地域価値再編事業
RECONTE (小川 由乃 / 永塚 夢実)

全国の若者と新潟県南魚沼市との
人材マッチング & 人材育成事業
yukinowa (田中 晴恵 / 佐藤 幸貴)

Campus de 足湯
足湯コミュニティ
(藤原 温之清 / 土田 穂香 / 門 美穂 / 上野 龍斗 / 名倉 拓海)

地図とGISの力で広げる地域と人材創造事業
だだんだん+ (後藤田 雄馬 / 若月 美登 / 菊地 陽生 / 藤本 耀也 / 矢口 晋光)

TPC
TAIS PITCH CONTEST

https://www.tais.ac.jp/guide/latest_news/20241014/89279/

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【参考】R6_アントレプレナーシップ育成教育のシンポジウム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【シンポジウム構成】開催場所:8号館ラーニングcommons

進行案	時間(案)	内容
①開会のあいさつ	13:00～13:10	学長からのあいさつ/目的と本日の流れの説明
②基調講演 To the future leaders ～未来のリーダーたちへ～	13:10～13:40	川口盛之助 氏 https://en.wikipedia.org/wiki/Morinosuke_Kawaguchi
③TAIS PITCH CONTEST	13:40～14:50	予選会を勝ち抜いた6チームが起業アイデアやプロジェクト案をPITCHを行う (在校生 & 卒業生)
休憩	14:50～15:05	
④パネルディスカッション	15:05～15:40	起業家と発表代表学生3名とのディスカッション
⑤表彰式	15:40～15:45	コンテストの結果優れた起業案もしくはプロジェクトを表彰
⑥大正大学の取組について	15:45～15:55	アントレプログラムと大正大学100年の魅力化構想の展開とインキュベーションセンターの取り組みについての広報
⑦閉会のあいさつ	15:55～16:00	

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

【参考】R6_アントレプレナーシップ育成教育のシンポジウム



【学生コンテスト名】TAIS PITCH CONTEST

【スケジュール】

7月末	エントリー締め切り
8月～9月	個別面談
9月末	企画書提出締め
10月中	審査(本選出場5チームの選出)
11月上旬	本選出場チームの発表
2月3日	本選、表彰

エントリーは45組
企画書提出は26組
ファイナリストは6組



【発表テーマ】「社会の課題を解決し、地域を活性化するためのアイデア」を分野×部門で発表

- A) デジタル・IT分野
- B) エンターテインメント・文化分野
- C) 新商品開発分野
- D) 教育・福祉分野
- E) その他分野

5つの分野から1つを選択し
「起業部門」「プロジェクト部門」のいずれかで発表

【賞品】

- ① メンターシッププログラム支援
- ② インキュベーションセンター使用権利
- ③ 活動支援金

予選会を突破した全チームに
①②を賞品として授与する

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

【参考】TAIS PITCH CONTEST_ ファイナリスト



チーム名	代表者	部門	分野	発表テーマ名(変更の可能性あり)
ゆーすふるプロジェクト	長田 のぞみ (人間科学科 卒業生)	プロジェクト部門	教育・福祉	すべての人に人生の選択を！ゆーすふるプロジェクト
yukinowa	田中晴樹 (地域創生学科 4年生)	起業部門	その他	全国の若者と新潟県南魚沼市との 人材マッチング&人材育成事業
ラフィッチ	和田 竜馬 (地域創生学科 4年生)	プロジェクト部門	教育・福祉	DIS PROJECT
だだんだん+	後藤田 雄星 (地域創生学科 卒業生)	起業部門	その他	地図とGISの力で広げる地域と人材創造事業
銭湯コミュニティ班	門 美優 (臨床心理学科 4年生)	プロジェクト部門	教育・福祉	Campus de 足湯
RECONTE	小川由乃輔 (地域創生学科 卒業生)	起業部門	デジタル・IT	まだ知らない日常へ。地域価値再編集事業

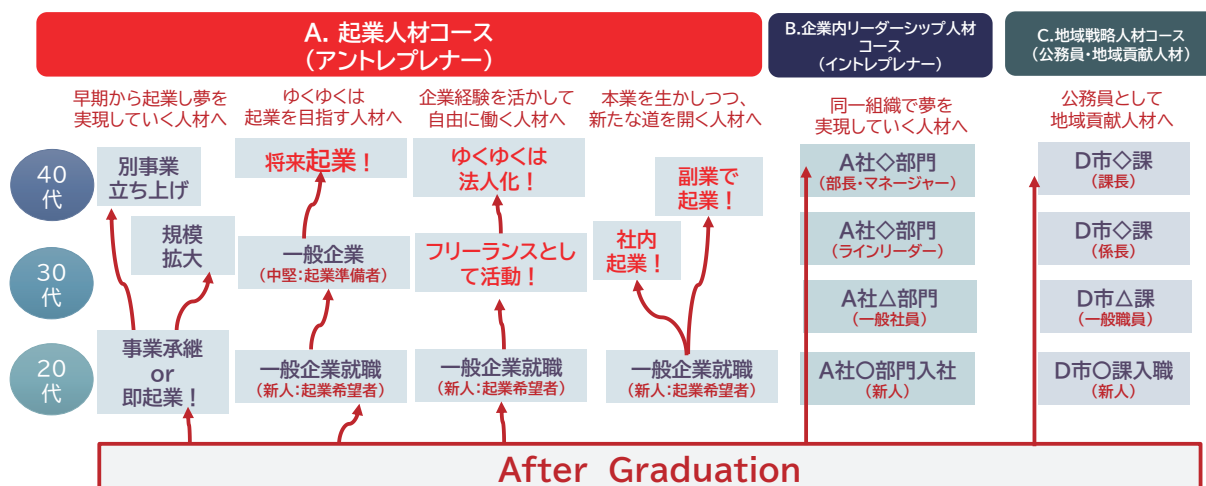
Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

5. アントレプレナーコースについて

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

各コースの履修学生の卒業後のイメージ

✓ 卒業後の進路は多様で、一部を例に挙げています。コース選択の参考にしてください



R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム アントレプレナーコースについて

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。
大正大学 Goto 100

Q.どんな学生が対象か？



**A.地域に新しい価値を創出する
起業チャレンジを目指したい学生にお勧めです！**

将来起業を
目指す学生にも
お勧めです！



Q.どんな資質・能力が身につくのか？

A.イノベーション思考と実行力が身につきます
時代の変化を先取りし、新たなビジネスや新たな価値、
顧客価値を発見し、創り出していく思考と実行力を養っていきます

Q.基礎科目以外の履修についてのポイントは？

A.実践科目（ワークショップ）では1人の教員から体系的に学びます



「スキル科目」12単位
(6科目選択)



「実践科目」6単位
(1科目選択)

実践科目は3年から4年で履修し、1科目6単位の科目です。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム アントレコースの単位取得について

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。
大正大学 Goto 100

■アントレプレナーシップ育成教育の履修モデル

**A. 起業人材コース
(アントレプレナー)**



基礎科目、スキル科目、実践科目ともに4年生の春学期までに24単位取得できるように計画を立てる

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

R6_アントレプレナーコース 開講科目一覧と履修モデル(予定)

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



✓ 希望するワークショップ(実践科目1科目)を中心にスキル科目を選択&履修

「スキル科目」12単位

【6科目選択】

科目名	単位数
コミュニケーション (アントレ)	2
ロジカルシンキング (アントレ)	2
プレゼンテーション (アントレ)	2
ファシリテーション (アントレ)	2
マネジメント (アントレ)	2
財務会計の基礎 (アントレ)	2
ファイナンスの基礎 (アントレ)	2
マーケティングの基礎 (アントレ)	2
情報表現技術 (アントレ)	2
言語表現技術 (アントレ)	2
キャリアデザインA (アントレ)	2
キャリアデザインB (アントレ)	2
キャリア探究B (アントレ)	2



「実践科目 (ワークショップ)」6単位

【1科目選択】

科目名	単位数	担当	履修条件	履修可能
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	①	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	②	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	③	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	④	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑤	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑥	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑦	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑧	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑨	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑩	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑪	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑫	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑬	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑭	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑮	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑯	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑰	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑱	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑲	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	⑳	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉑	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉒	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉓	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉔	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉕	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉖	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉗	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉘	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉙	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉚	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉛	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉜	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉝	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉞	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㉟	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊱	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊲	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊳	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊴	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊵	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊶	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊷	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊸	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊹	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊺	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊻	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊼	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊽	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊾	○
起業実践 ～6名の力だけで 0から起業～	6	山本 繁	㊿	○

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

スキル科目の担当講師は社長や歴戦のビジネスパーソンたち

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



「スキル科目」12単位

【6科目選択】

科目名	単位数
コミュニケーション (アントレ)	2
ロジカルシンキング (アントレ)	2
プレゼンテーション (アントレ)	2
ファシリテーション (アントレ)	2
マネジメント (アントレ)	2
財務会計の基礎 (アントレ)	2
ファイナンスの基礎 (アントレ)	2
マーケティングの基礎 (アントレ)	2
情報表現技術 (アントレ)	2
言語表現技術 (アントレ)	2
キャリアデザインA (アントレ)	2
キャリアデザインB (アントレ)	2
キャリア探究B (アントレ)	2



株式会社LIFE BASE取締役Co-CEO 佐藤 有希
(2・4QT 月曜 4・5限「コミュニケーション」担当)

日鉄興和不動産に入社後、社内でリビオライフデザイン総研を立ち上げ。顧客調査や新商品開発を行う傍ら、会社に所属しながら「LIFE BASE」を起業し、宿泊施設の運営や研修事業など幅広く活躍中。



大手コンサルティング企業 コンサルタント 田村 充
(4QT 土曜 1・2限「ロジカルシンキング」担当)

日本最大規模のコンサルティングファーム勤務。コンサルタントとして多くの有名企業と連携し、新事業立ち上げや組織改革など組織が抱える課題をロジカルシンキングをはじめとする様々なスキルを活用し、解決に導く



クリエイティブディレクター 平石 洋介
(2QT 木 4・5限「情報表現技術」担当)

電通のクリエイティブディレクターとして企業や商品ブランディングなどから、TVドラマ企画演出、さらに海外でデジタル雑誌編集長など幅広く活躍。今年、独立し、広告全般を扱う(株)ストーンズを起業。



大手コンサルティング企業 コンサルタント 岡 遼平
(2QT 土曜 1・2限「プレゼンテーション」担当)

日本最大規模のコンサルティングファーム勤務。有名企業の事業戦略策定、業務改善、DX推進の支援に幅広く携わる。また、プレゼンテーションやコーチングなどの企業研修も担当。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

そのほか多数

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

起業家やその道のプロフェッショナルから実践的に学ぶ濃密な1年

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



「実践科目（ワークショップ）」6単位

【1科目選択】

科目	単位数
ワークショップ（起業実践～6名のプロが0から指導～）	6
ワークショップ（起業というキャリアデザイン）	6
ワークショップ（チェンジメーカーズ・コミュニティ）	6
ワークショップ（地域共生コミュニティづくり実践）	6
ワークショップ（ビジネス実践）	6
ワークショップ（起業・企業再生事例研究）	6
ワークショップ（クリエイティブは一人じゃない～生かし合う創造性の実践）	6
ワークショップ（「ゼロスタ・ツグスタ」新しいキャリアデザイン）	6



起業実践（～5名のプロが0から指導～） 1QT・2QT・4QT・4年1QT 水曜4限

大正大学客員教授 海老原嗣生
（（株）ニッチモ代表取締役）
学生を指導する5名のプロフェッショナル：
（株）ミライフ代表取締役社長 佐藤雄佑
・（社）Fukusen代表理事 細野真吾
・3BOOKS（株）代表取締役 山際尚徳
・（株）リクルートキャリア マネジャー 新井雅子氏
・（株）HARES CEO 西村創一朗氏



起業というキャリアデザイン 1QT・2QT・4QT 金曜4・5限

大正大学招聘教授 黒田佳奈子
（株式会社WOMAN COLLEGE代表取締役）
中央大学法学部卒業後、（株）ベンチャー・リンク、（株）電通コンサル
ティングにて勤務ののち、30歳で独立。
2016年からは企業の女性活躍支援に力を入れるため（株）
WOMAN COLLEGEを創業。のべ4,000人との1on1やメンタリン
グを担当し、現場との対話力を強みとしたHR支援を行う。



チェンジメーカーズ・コミュニティ 1QT・2QT・4QT 月曜5限

大正大学総合学修支援機構DAC特命教授 山本繁
社会起業家。「日本の社会起業家30選」（週刊ダイヤモンド）、「日
本を立て直す100人」（週刊AERA）に選ばれ、日本における社会
起業家やチェンジメーカーという生き方の普及につとめてきた。



地域共生コミュニティづくり実践 1QT・2QT・4QT 水曜5限

大正大学招聘教授 牧野篤
（東京大学大学院教育学研究科）
日本のまちづくりや高齢化と過疎化問題、中国・台湾のコミュ
ニティ教育・少子高齢化問題などに関心。最近では、自治体と
一緒になって公民館や生涯学習の共同調査を行ったり、多世
代交流型コミュニティの構築を進めたり、さらには企業と一緒に
「ものづくりの社会化」プログラムなどを運営している。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

起業家やその道のプロフェッショナルから実践的に学ぶ濃密な1年

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



ビジネス実践 1QT・2QT・4QT 水曜4・5限

大正大学 教授 夏山 直道
（株式会社ロフティー・ジャパン 代表取締役）
ソフトバンク、NTTドコモなどの大手一流企業にて、
企業内幹部研修を実施。実戦で活かせる実学（アウト
プット型）のコミュニケーション心理学（性格形成分析＋
論理療法＋交流分析主軸）、消費者心理マーケティング
（購買心理学・行動心理学）を主に知る→理解する→使
えるようになる、の三段階にて指導。



起業・企業再生事例研究 1QT・2QT・4QT 火曜4・5限

大正大学 招聘教授 小堀正記
（NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー）
「クロースアップ現代」や「NHKスペシャル」などのドキュメ
ンタリーや報道番組の制作を通じて数多くのベンチャーや
社会起業家の取材を行い、企業再生の現場も訪ねてきた。
その経歴から授業では多種多様なゲスト講師を招く予定。



クリエイティブは、一人じゃない ～生かし合う、創造性の実践～ 1QT・2QT・4QT 水曜4・5限

大正大学 招聘教授 平石洋介（左）/鈴木雄飛（右）
（株式会社 電通 クリエイター）
企業や商品ブランディングなどから、TVドラマ企画演出、
海外でデジタル雑誌編集長など幅広く活躍（平石）
企画屋・構想家として、TVCMやキャンペーン企画、
コンサルティングやブランディングに携わる（鈴木）



「ゼロスタ・ツグスタ」新しいキャリアデザイン ※昨年度参考

1QT・2QT・4QT 水曜4・5限
大正大学地域創生学部 教授 井原守茂（上）
大正大学 講師 中野裕哲氏（左下）
（税理士法人V-Spirtis 代表）
大正大学 講師 上野光夫氏（右下）
（株式会社 MMコンサルティング 代表取締役）



日本政策金融公庫にて創業支援事業に従事、数々の企業を
支援（井原）
起業支援コンサルティング、資金調達サポートを行うほか、
研修、講演、執筆など幅広く活動（上野）
100社を超える起業家を支援。事業計画支援、会社設立、資
金調達、経理財務、人事労務、法務支援等に携わる
（中野）

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

【アントレ独自の取り組み】PRE TAIS PITCH 中間発表会



【実施日】

2024年9月18日(水)

【実施経緯】

2月のコンテスト出場を目指し、アントレワークショップを受講している学生が、グループで起業企画やプロジェクト企画をPitch形式で発表

【発表者】

アントレコース受講中の3年生
13グループの学生が参加

【観覧者】

アントレコース受講学生、一般学生、教職員

【ゲスト講師者】

ソフトバンク 株式会社
梅本 秀幸 様 神尾 裕志 様 田井 慎一 様
長島 祐太 様 山中 良太 様
経営コンサルタント 石川 広己 様



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

【PRE TAIS PITCH 中間発表会の様子】



Pre Tais Pitch 中間発表会 プログラム

発表順番	発表者名	提案内容
第1部	1 高木 沙音 田代高子 釣哲明友美	地域で若者の自己実現の機会創出やネットワーク拡充を目的とした拠点作りと組織化事業
	2 井村 颯	防災リュック×ぬいぐるみで、インテリアにあったバックの提案
	3 富田 智陽	発達障害を持つ子供や、そのグレーゾーンの子供達への教育や療育を経て、将来の選択肢の広がりを提供することができる、発達障害支援型学習塾の企画
	4 山口 健悟	集積の商店街にアトム運営を導入し、それを契機とした学生と商店街・地域との交流の促進を図る。
	5 工藤 碧乃	運動部に所属する学生に向けた学習支援
	6 七五三 昌樹	人材不足に困っている小売業をアパター・店員を導入することで救う。
第2部	7 瀬戸 俊斗	エシカルファッション ヘアファッションを通して人にも服にも新たな価値を見出す— 人に笑顔と平和を届けられるように哲学を知ってもらう
	8 中村 奈斗	照明家をスムーズに進行させるためのアプリの開発
	9 柳原 里桜	サイクリストやライダーといった旅人が集まるゲストハウス
	10 國見 一馬	住民同士の交流の場を目的とした旅人集まるゲストハウス
	11 熊谷 光輝	—宮城県気仙沼市でのコミュニティ創生事業—
第3部	12 島制 賢	地域に中高生対象のサードスペースづくりを目指すと共に、地域の行政・企業と学生をつなげ、地域に参画する若者を増やすことを目的とした事業です。
	13 チーム 渡辺心 甲斐 第一郎	果糖をテーマにしたガチャガチャを大学に設置する。 目的：果糖を楽しくかつ、刺激的な体験で知ってもらう 果糖に係る企画を考えてくれ。大正大学は果糖に関わっていないという印象がある。校内で果糖を知れるきっかけをつくらう！ カタログや小冊子。 果糖の和菓子店とかのカタログ、文芸部が書いた小説とか。果糖のおじいちゃんおばあちゃんのシールをモノにして。



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム 【PRE TAIS PITCH 参加学生の声】



- ✓ 発表者の皆様がそれぞれの観点からアイデアを考えていて、とても刺激的になりました。講評でも学べることもたくさんあって、**ただやりたいのではなく、それをビジネスや起業にどのようにしていくかがとても大切なのだと感じました。**自分の中でじっくり考えてから発言するタイプとお見受けしましたが、もう少し積極的に発言できるとさらにいいと思います。
- ✓ 今日発表した全員がしっかりと自分の考えを持っていて、それをたくさんの人が見ている中で堂々と発表しているのがすばらしいと思いました、自分も見習いたいと思う所がたくさんありました。今日の発表者の意見はどれもすばらしいと思うようなものばかりだったのでぜひ実現させてほしいなと思いました。また先生方の話は自分にとっても為になるものでした。
- ✓ それぞれが経験していたことが土台となっていることによって確固たる動機が保たれていることがわかった。
- ✓ **新しい観点を知り、また自分なりの考察もできた。**興味深い発表も短時間に収めようと早足になってしまっていたことが残念だった。
- ✓ 第2部から参加しました。同じ学科・コースの人が発表していてすごいと思いました。学びを活かしてビジネスにしていた。世界を変えようと言っていたのが印象的だった。講評で「受け手が価値を決める」という言葉と「自分自身が武器になる」という言葉が印象的だった。
- ✓ 他の学部・学生のアイデアを聞くことができ、また先生方の講評を聞いたことで、今の自分は何をしたら良いのか、これからどうしたら良いのか考えることができた。今回の発表で、ただ自分がやりたいことだけでなく、「自分からできること」、「大正大学生としてできること」を考えなければ、競合他社との差別化は難しいのではないかと感じた。そして、良いアイデアを生み出すことではなく、それをどう伝えるかということがいっばん大切だと思った。
- ✓ 実際に自身の経験に基いた、痒い所に手が届くような事業があり、現実存在するニーズに向けた事業として素晴らしいと感じた。講評では自身のプランで補うべき要素を指摘して頂いたのが、とても身になったと感じています。
- ✓ **同じ学年で社会課題のことをここまで考えていることに驚き、さらには画期的な発想でそれを解決する事業をねり上げていることに驚いた。**

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム アントレコース独自の学生支援プログラムをご用意



アントレコースでは通常の授業の他にコース生の成長を応援するオリジナルの支援プログラムを準備中。歴戦のビジネスパーソンがメンターとなり起業や就活をサポートする個別指導やコース生同士のコミュニケーションの場などを創出します。

アントレコースの専属メンター（一部抜粋）



岩林 誠氏

J-フォン東日本（現「ソフトバンク」）に在籍時、カメラ付き携帯電話を、「写メール」と名付け、キャンペーンをリード。その後、四街道市の、民間雇用課長としてシティープロモーションに携わる。



山下 信一氏

クリエイティブディレクターとして「東京ドーム」、読売新聞少額広告や「P ARCO」のリブランディングに携わる。日本経済新聞広告賞、ACC賞、朝日広告賞受賞



千田 康夫氏

サンスターグループ顧問。銀行や米大手広告代理店で営業を担当。社内外でマーケティングやブランディング、広告についての講師を行う。

学生同士のコミュニケーションの場を創出



昨年度から起業や新しいプロジェクト（地域活性化など）に意欲や興味がある学生を対象とした交流イベントを実施中！イベントには現役の起業家やクリエイターなどをゲストとしてお招きし、経験談などを聞きながら学生同士も交流を深めています。アントレコースでは今後も学生交流イベントを拡大予定！「同じ想いの仲間を見つけない！」「誰かと一緒に事業をやりたい！」という学生は是非ご参加ください。

その道のエキスパートがあなたの成長を支援！

目標に向かって一緒に歩む仲間が見つかる！

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム 【Step1】に向けて授業見学会について



【アントレコース】科目別開講時間割は以下の通りです。静かに見学をしましょう

コース名	種別	科目名称	担当教員	見学可能日	曜日	時間	教室
アントレプレナーコース	スキル科目	ファシリテーション（アントレ）[QT4]	刀祢館 ひろみ、安藤 伸雅	12月9日	月	4-5	TSRスタジオ1（521）
		マーケティングの基礎（アントレ）[QT4]	高柳 直弥	12月9日	月	4-5	752
		マネジメント（アントレ）[QT4]	竹村 浩	12月9日	月	4-5	1022
		言語表現技術Ⅰ（アントレ）[QT4]	山本 哲也	12月9日	月	4-5	1052
		キャリアデザインB（アントレ・クラス2）[QT4]	吹野 あゆ子	12月10日	火	4-5	564
		ファイナンスの基礎（アントレ）[QT4]	井原 守茂	12月13日	金	4-5	1053
		コミュニケーション（アントレ）[QT4]	佐藤 有希	12月13日	金	4-5	764
		ロジカルシンキング（アントレ）[QT4]	田村 允	12月14日	土	1-2	752
		プレゼンテーション（アントレ）[QT4]	岡 遼平	12月14日	土	3-4	763
	実践科目	マイスターワークショップ（アントレ・チェンジメーカーズ・コミュニティ）[通年]	山本 繁	12月9日	月	5	プロダクトスタジオⅢ（すがもキャンパス）
		マイスターワークショップ（アントレ・起業・企業再生事例研究）[通年]	小堺 正記	12月10日	火	4-5	プロダクトスタジオⅢ（すがもキャンパス）
		マイスターワークショップ（アントレ・「ゼロスタ・ツグスタ」新しいキャリアデザイン）[通年]	井原 守茂	12月11日	水	4-5	プロダクトスタジオⅤ（すがもキャンパス）
		マイスターワークショップ（アントレ・クリエイティブは1人じゃない。～生かす創造性の実践～）[通年]	平石 洋介、鈴木 雄飛	12月11日	水	4-5	プロダクトスタジオⅢ（すがもキャンパス）
		マイスターワークショップ（アントレ・ビジネス実践）[通年]	夏山 直道	12月11日	水	4-5	711
		マイスターワークショップ（アントレ・地域共生コミュニティづくり実践）[通年]	牧野 篤	12月12日	木	5	プロダクトスタジオⅢ（すがもキャンパス）
		マイスターワークショップ（アントレ・起業というキャリアデザイン）[通年]	黒田 佳奈子	12月13日	金	4-5	プロダクトスタジオⅢ（すがもキャンパス）

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム「イントレ」



6. イントレプレナーコースについて

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》 イントレプレナーコースで求める学生像



- ✓ アントレプレナーシップ教育プログラムで起業家(企業家)精神を養い、卒業後にはビジネスリーダーとして、世のため人のために貢献しようと志す学生を求めます。
- ✓ 自分自身の強みや課題を把握した上で将来の夢や目標を明確化し、短期的なビジョンだけでなく、長期的なビジョンも持ちたいと考える学生を求めます。
- ✓ イントレプレナーの各科目の教育目標を達成するためには知的好奇心が旺盛で、主体的に学修計画を立案し、さらには様々な課題に積極的に取り組む意欲があり、且つ一定の基礎学力を備えていることが必要となります。

そのため1年生から2年生の春学期までの通期でGPA2.3以上をコース履修条件とします。

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》 【確認】就職活動のポイント



【特に大手企業は注意】 職種はあくまで「希望」となるケースが多いことを理解する
📌 日本はメンバーシップ型が主流。多くの一般企業は「職種」を選べない。
ただし、業種と職種は連動しているケースもある。

	ジョブ型 (就職型)	メンバーシップ型 (就社型)
主な採用国	主に欧米型	主に日本型
概要	仕事に人を割り当てる	人を仕事に割り当てる
給料	成果給	役職・勤務年数などベース
雇用	転職、解雇が容易	終身雇用が基本
仕事の範囲	限定的・専門的	総合的(ジョブローテーション)
労働時間	仕事が終われば定時で帰社	長時間労働になりやすい
転勤	基本なし	会社の指示で転勤

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。

 大正大学 



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY All Rights Reserved.

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。

 大正大学 



中分類	コース	科目	単位数
主専科科目	イ単位	コミュニケーション（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	03シルシエナゴブ（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	フルセーション（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	フルセーション（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	フシリテーション（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	リサーチング（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	財務会計の基礎（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	マーケティングの基礎（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	データ分析技法（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	プログラミングの基礎（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	ビジネス英語（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	キャリアデザインA（イ単位）	2
主専科科目	イ単位	キャリアデザインB（イ単位）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（全案組共通、多様性推進）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（全案組共通、課題解決力養成）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（全案組共通、財務分析）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（サービス実習）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（プロジェクト）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（人材・財関連業界）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（クリエイティブ）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（海外実習）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（出版・編集）	2
ワークショップ	イ単位	ワークショップ（全案組共通/金融リテラシー）	2
インターンシップ	イ単位	インターンシップ（イ単位）	2

[illegible]

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



イントレプレナーコースの科目ごとの開講日と開講クラス数

【注意】イントレのワークショップの開講曜日が2科目除いてすべて土曜日となっています。

大分類	中分類	科目	新規	R7教員	R7				開講クラス 見込み数	
					1QT	2QT	夏休み・ 集中	4QT		
スキル科目	スキル科目	コミュニケーション (イントレ)		吹野あゆ子	金4・5	金4・5	—	金4・5	3	
スキル科目	スキル科目	ロジカルシンキング (イントレ)	○	森田伸彦	火4・5	火4・5	—	火4・5	3	
スキル科目	スキル科目	プレゼンテーション (イントレ)		渡辺朋子	月4・5	—	—	月4・5	2	
スキル科目	スキル科目	フシリテーション (イントレ)	○	予定：木下 託志	木4・5	月4・5	—	火4・5	3	
スキル科目	スキル科目	リーダーシップ (イントレ)		宮入小夜子	月4・5	月4・5	—	—	2	
スキル科目	スキル科目	マーケティングの基礎 (イントレ)		持田哲也	水4・5	水4・5	—	土1・2	3	
スキル科目	スキル科目	データ分析技法 (イントレ)		佐藤晋也	水4・5	—	—	水4・5	3	
スキル科目	スキル科目	プログラミングの基礎 (イントレ)		佐藤晋也	木4・5	水4・5	—	木4・5	3	
スキル科目	スキル科目	ビジネス英語 (イントレ)		レベント・アキヨル	木4・5	水4・5	—	—	2	
スキル科目	スキル科目	キャリアデザインA (イントレ) ①		前田長子	—	—	隔週土1・2①	—	2	
スキル科目	スキル科目	キャリアデザインA (イントレ) ②		前田長子	—	—	隔週土1・2②	—	2	
スキル科目	スキル科目	キャリアデザインB (イントレ) ①		吹野あゆ子	—	—	隔週土1・2①	—	2	
スキル科目	スキル科目	キャリアデザインB (イントレ) ②		吹野あゆ子	—	—	隔週土1・2②	—	2	
スキル科目	スキル科目	財務会計の基礎 (イントレ)		吉田厚志	火4・5	金4・5	—	—	2	
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (企業経営共通、金融・経済と私)		吉田厚志	—	火4・5	—	金4・5	2	
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (メディア業界)		伊藤真一	水4・5	水4・5	—	水4・5	3	
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (企業経営共通、多様性推進)		あかいゆかり	—	—	隔週土1・2①	—	土1・2	2
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (出版・編集)		長坂邦宏	—	—	隔週土1・2①	—	土1・2	2
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (コンサルティング)		野上智之	—	—	隔週土3・4①	—	土3・4	2
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (サービス業界)		岡本有子	—	—	隔週土3・4①	—	土3・4	2
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (人と企業を繋ぐ人材関連業界)		渡辺朋子	—	—	隔週土1・2②	—	土3・4	2
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (プランニング)		宮本雅典	—	—	隔週土1・2②	—	土1・2	2
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (企業経営共通、課題解決型営業)		平田薫太郎	—	—	隔週土3・4②	—	土1・2	2
実践科目	ワークショップ	ワークショップ (企業経営共通、財務分析)		花田雄介	—	—	隔週土3・4②	—	土3・4	2
実践科目	インターンシップ	インターンシップ (イントレ)		前田長子	—	—	※後認定	—	—	—

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



コース選択&科目選択における注意事項

【コース選択】

- ✓ **3年春学期にワークショップ2科目履修登録は必須(スキル科目のキャリアデザインA/B含む)**になっていますが、**ワークショップ10科目中8科目が土曜日開講**となっていますので、**その前提でコース登録**をお願いします。

【科目選択:スキル科目】

- ✓ **ビジネス英語**を履修登録できる学生は1QTはTOEIC350点以上、2QTは400点以上が目安です。
- ✓ **キャリアデザインAとB**両方を履修することはできませんので注意してください。
- ✓ **キャリアデザインA**は夏のインターンシップ参加(5日間前後)が必須となっています。大学の指定の企業約15社の中から希望した企業に参加してもらう予定ですが、希望学生が多い企業を第1希望としている学生は第2希望、第3希望の企業になる可能性もあります。必要条件をクリアすれば、自分自身で見つけてきた先をインターン先として認めることもできます。履修後個別相談となります。
- ✓ **財務分析(実践科目)**を履修希望する学生で会計に関する知識や数的処理能力に全く自信がない学生は、**財務会計の基礎(スキル科目)**を春学期受講した上で秋学期に履修することをおすすめします。

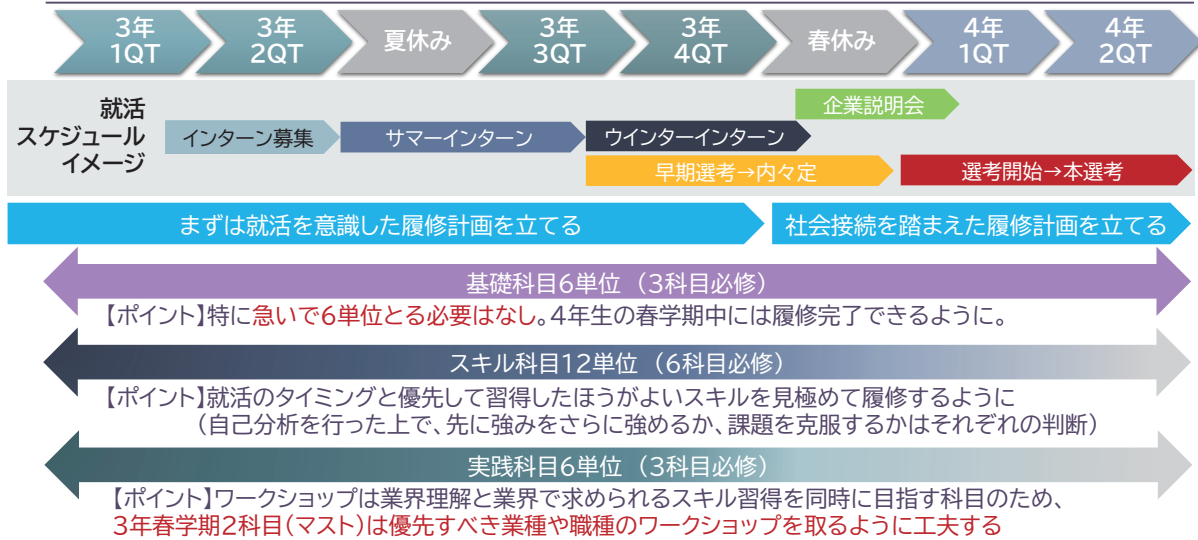
Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



就活と連動した履修計画を立てる



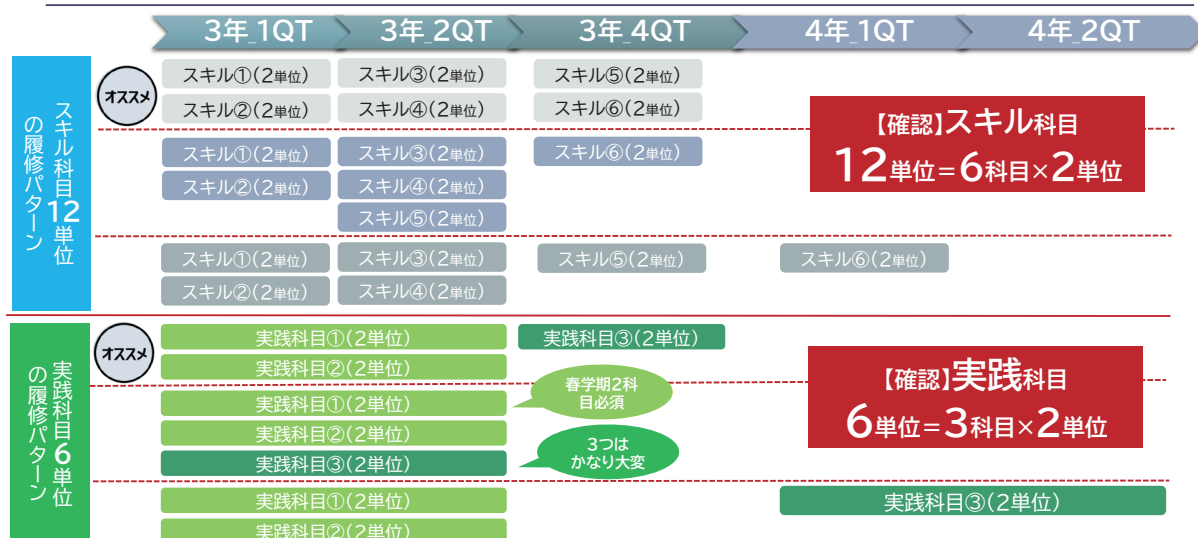
Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



スキル科目12科目と実践科目6単位の履修パターン(一例)



Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



春学期・秋学期の平日の受講に関して

スキル科目のキャリアデザインA・Bを除いて、残り10科目と実践科目の『メディア業界』(水曜日4・5限開講)と『経済・金融と私』(火曜日4・5限開講)の2科目はすべて平日の4・5限の開講となります。

同じ科目が年間2～3回開講されます。

どのタイミングでどの科目を履修するかはⅡ類の科目のカレンダーを元に計画を立ててください。

	授業科目	1QT(4・5限)					2QT(4・5限)					4QT(4・5限)				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
スキル科目	コミュニケーション					★					★					★
	ロジカルシンキング		★					★					★			
	プレゼンテーション	★										★				
	ファシリテーション				★		★						★			
	リーダーシップ	★					★									
	マーケティングの基礎			★					★							
	プログラミングの基礎				★				★						★	
	データ分析技法			★						★				★		
	ビジネス英語				★					★						
	財務会計の基礎		★								★					
実践科目	メディア業界			★					★					★		
	金融・経済と私							★								★

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



春学期(1・2QT)の土曜日の受講に関して

実践科目の『メディア業界』(水曜日4・5限開講)と『経済・金融と私』(火or金曜日4・5限開講)の2科目を除いて、他のワークショップ8科目とスキル科目のキャリアデザインA/Bはすべて土曜日開講(春学期は隔週開講、秋学期は毎週開講)となります。注意してください。2QT跨ぎで開講し、1科目2単位となります。

時限	科目名	4月(1QT)			5月(1QT)				6月(2QT)			7月(2QT)				9月	
		12日	19日	26日	10日	17日	24日	31日	14日	21日	28日	5日	12日	19日	26日	6日	13日
①	WS 出版・編集 WS 多様性推進 キャリアデザインB①	★		★		★		★		★		★		★			
	キャリアデザインA①	※授業なし				★		★		★		★		★		★	★
	WS サービス業界 WS コンサルティング	★		★		★		★		★		★		★			
②	WS ブランディング WS 人材関連業界 キャリアデザインB②		★		★		★		★		★		★		★		
	キャリアデザインA②	※授業なし				★		★		★		★		★		★	★
	WS 課題解決型営業 WS 財務分析		★		★		★		★		★		★		★		

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

秋学期(4QT)の土曜日の受講に関して

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



大正大学



- ✓ 秋学期(4QT)は春学期と同じ科目が開講されますが、毎週開講となる点異なります。
- ✓ 12月20日(土)が6日目で、最終日が1月10日(土)と3週間間空きますので注意してください。

時限	科目名	4QT						
		11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	1/10
1・2限	WS ブランディング WS 多様性推進 WS 出版・編集 WS 課題解決型営業 スキル科目 マーケティング	★	★	★	★	★	★	★
3・4限	WS サービス業界 WS 財務分析 WS コンサルティング WS 人材関連業界	★	★	★	★	★	★	★

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

イントレコース科目の授業見学会について

MAKE YOUR UNIVERSE.

一線だからつくれる世界を。



大正大学



【イントレコース】科目別開講時間割は以下の通りです。静かに見学をしましょう

コース名	種別	科目名称	担当教員	見学可能日	曜日	時限	教室
イントレプレナーコース	スキル科目	プレゼンテーション (イントレ) [QT4]	渡辺 朋子	12月9日	月	4・5	533
		財務会計の基礎 (イントレ) [QT4]	吉田 厚志	12月9日	月	4・5	1033
		ロジカルシンキング (イントレ) [QT4]	島村 宏子	12月10日	火	4・5	1044
		マーケティングの基礎 (イントレ) [QT4]	持田 智也	12月11日	水	4・5	742
		データ分析技法 (イントレ) [QT4]	佐藤 晋也	12月11日	水	4・5	766
		プログラミングの基礎 (イントレ) [QT4]	佐藤 晋也	12月12日	木	4・5	フロダスタジオⅡ (すがもキャンパス)
	実践科目	コミュニケーション (イントレ) [QT4]	吹野 あゆ子	12月13日	金	4・5	1052
		マイスターワークショップ (イントレ・全業態共通 金融・経済と私) [QT4]	吉田 厚志	12月10日	火	4・5	731
		マイスターワークショップ (イントレ・メディア業界) [QT4]	伊藤 賢一	12月11日	水	4・5	763
		マイスターワークショップ (イントレ・ブランディング) [QT4]	宮本 雅恵	12月14日	土	1・2	753
		マイスターワークショップ (イントレ・全業態共通 多様性推進) [QT4]	あかい ゆかり	12月14日	土	1・2	754
		マイスターワークショップ (イントレ・出版・編集) [QT4]	長坂 邦宏	12月14日	土	1・2	762
		マイスターワークショップ (イントレ・全業態共通 課題解決型営業) [QT4]	平田 憲太朗	12月14日	土	1・2	764
		マイスターワークショップ (イントレ・サービス業界) [QT4]	岡本 有子	12月14日	土	3・4	752
		マイスターワークショップ (イントレ・全業態共通 財務分析) [QT4]	花田 雄介	12月14日	土	3・4	754
		マイスターワークショップ (イントレ・人と企業を繋ぐ人材関連業界) [QT4]	渡辺 朋子	12月14日	土	3・4	761
		マイスターワークショップ (イントレ・コンサルティング) [QT4]	野上 智之	12月14日	土	3・4	762

Copyright © 2024 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

7. 地域戦略人材コースについて

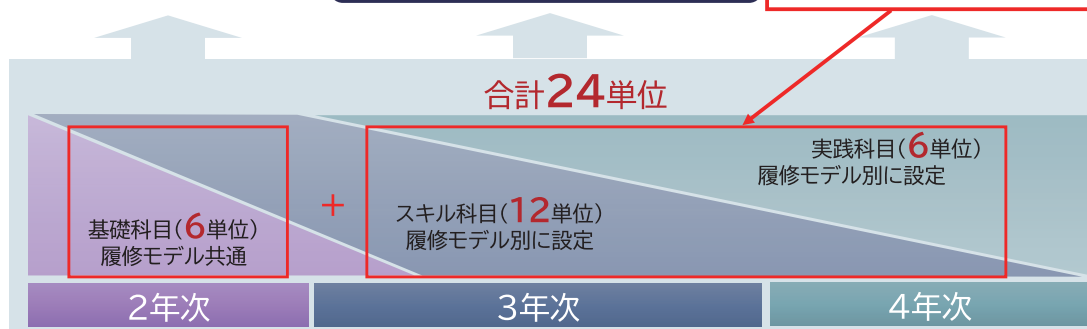
R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム アントレプログラムの単位取得について

■アントレプレナーシップ育成教育の履修モデル

A. 起業人材コース
(アントレプレナー)

B. 企業内リーダーシップ人材コース
(イントレプレナー)

C. 地域戦略人材コース
(公務員・地域貢献人材)



基礎科目、スキル科目、実践科目ともに4年生の春学期までに24単位取得できるように計画を立てる

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム 公務員コースについて

MAKE YOUR UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。



大正大学



Q.どんな学生が対象か？



A.公務員を目指す学生です。
2025年度1年間で履修するプログラムです。

**履修者チームで
公務員を目指します！**

Q.どんな資質・能力が身につくのか？

A.地域創生戦略思考とビジネスマインド

地域課題解決に向けて、異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する力を養います。

Q.基礎科目以外の履修についてのポイントは？

A.公務員試験突破に向けて、基本的な知識の定着を目指します。
また、近年の人物試験重視傾向の対策までカバーします。



**「スキル科目」12単位
+6単位推奨**

一次選考（筆記）対策 科目学習



「実践科目」6単位

二次選考（面接）対策、学習ベースメイク等

**全科目
必修**

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム R7_アントレ各コースの登録者条件

MAKE YOUR UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。



大正大学



✓ 各コースごとの説明会でも詳細は説明しますが、十分確認をした上でコース登録をしましょう

3つのコース	コース登録者条件・履修ルール	単位取得期間 ※基礎科目除く
アントレプレナーコース	✓ 実践科目は1科目のみしか履修できないため(1科目6単位)2025年4月の時点で履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
イントレプレナーコース	✓ GPA2.3以上の学生のみが履修登録可能 ↳ 2024年春学期までの通期換算 ✓ 実践科目は春学期に2科目(6単位中4単位)履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
公務員コース	✓ 基本的に実践科目6単位、スキル科目12単位の計18単位は3年次中にすべて履修する ✓ 春休みや夏休みでの集中講義を含みます。また実践科目は1.5年履修です。	3年生春学期 ～4年生春学期中

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム 公務員コースで求める学生像

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



- ✓ アントレプレナーシップ教育プログラムで起業家(企業家)精神を養い、卒業後にはビジネスリーダーとして、**世のため人のために貢献しようと志す学生**を求めます。
- ✓ 自分自身の強みや課題を把握した上で、**将来の夢や目標を明確化し、短期的なビジョンだけでなく、長期的なビジョンも持ちたいと考える学生**を求めます。
- ✓ **公務員を志望する学生**を求めます。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



R7_地域戦略人材コース_開講科目一覧 (予定)

- ✓ 地域戦略人材として、地域での仕組みづくりをする職種である公務員を想定し、問われる知識・資質について **春休みや夏休みでの集中講義を含めた年間を通じて学習をおこなう**

「スキル科目」12単位
+ キャリアセンター講座 3科目



「実践科目(ワークショップ)」6単位

- ✓ 地域戦略人材として、地域での仕組みづくりをする職種である公務員を想定し、問われる知識・資質について **春休みや夏休みでの集中講義を含めた年間を通じて学習をおこなう**

大分類	中分類	対象コース	科目名	単位数
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	マネジメント (専門知識A)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	ロジカルシンキング (教養科目B)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	データ分析法 (教養科目C)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	財務会計の基礎 (専門知識C)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	キャリア探究A 夏休み集中講義	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	プレゼンテーション 春休み集中講義	2

地域戦略人材コース	キャリアセンター講座 (教養科目A)	0
地域戦略人材コース	キャリアセンター講座 (専門知識B)	0
地域戦略人材コース	キャリアセンター講座 (専門知識D)	0

大分類	中分類	対象コース	科目名	開講期	単位数
実践科目	実践科目	地域戦略人材コース	マイスターワークショップ	通年	6

- ✓ 集中講義や実践科目では、公務員を主軸に、職務理解や地域貢献人材の現場を理解する。
- ✓ 時事問題を取り上げたワークショップや、現役の職員をゲスト講師に招へいた現実的な実情の理解、グループワークなどのアクティビティを通じた体感的な理解、モチベーションの向上などを行なう。

- ✓ スキルの背景となる知識・基礎力の科目として必須であることからキャリアセンター講座として、履修指導で推奨科目とする。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【参考】公務員コースプログラム_科目内容

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



1～6 必修 7～9 推奨科目 スキルの背景となる知識・基礎力の科目として必須

No.	科目名	授業のテーマ
1	マネジメント(専門知識A)	将来、公務員として、マネジメントするために必要な憲法の基本的な知識を習得する。 「憲法」
2	ロジカルシンキング(教養科目B)	将来、公務員として、プレゼンテーションを進める際に必要な、 算数・数式的な基本的知識と資料の読み方を習得する。 「数的推理・資料解釈」
3	データ分析法(教養科目C)	将来、公務員として、コミュニケーションを図るために必要な考え方、幅広い教養を 身に付ける。 「図形」「基礎教養」
4	財務会計の基礎(専門知識C)	将来、公務員として、財務会計を携わるために必要な基礎的な知識を習得する。 「経済学(ミクロ、マクロ)」
5	キャリア探究A(公務員)	公務員として、社会事情を知り、論文を構成する力を身に付ける。 時事問題・論文文1
6	プレゼンテーション(公務員)	公務員試験の合格を目指すため、重要視されている論文試験の対策を万全に行う。 時事問題・論文文2
7	キャリアアセッサー講座(教養科目A)	将来、公務員として、必要な事務処理能力を身に付けるため、与えられた条件下で、 推測する過程で鍛える柔軟な思考力を向上させる。 「判断推理」
8	キャリアアセッサー講座(専門知識B)	将来、公務員として、どのような状況でもリーダーシップを発揮するために、 あらゆる法律の基本的体系となる民法の知識を習得する。 「民法(総則)」
9	キャリアアセッサー講座(専門知識D)	将来、公務員として、スムーズなファシリテーションを遂行するために、 基本的な民法の知識を習得する。 「民法(債権)」

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【参考】公務員コースプログラム_科目内容

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



第1クォーター(週4日) ※ 土曜日開講はなし

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限					
2限					
3限					
4限					
5限		●	●	●	●
6限		●	●	●	●

- 1 上記のほか、オンデマンド講義があります。
- 2 集中講義期間、長期休み期間の実施があります。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【参考】公務員コースプログラム_科目内容

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



第2クォーター（週4日）※ 土曜日開講はなし

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限					
2限					
3限					
4限					
5限		●	●	●	●
6限		●	●	●	●

- 1 上記のほか、オンデマンド講義があります。
- 2 集中講義期間、長期休み期間の実施があります。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

【参考】公務員コースプログラム_科目内容

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



第4クォーター（週4日）※ 土曜日開講はなし

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限					
2限					
3限					
4限					
5限	●	●	●	●	
6限	●	●	●	●	

- 1 上記のほか、オンデマンド講義があります。
- 2 集中講義期間、長期休み期間の実施があります。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R7_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。

【Step1】に向けて授業見学会について 12月9日(月)～14日(土)



【公務員コース】科目別開講時間割は以下の通りです。静かに見学をしましょう

コース名	種別	科目名称	担当教員	見学可能日	曜日	時限	教室
公務員コース	スキル科目	財務会計の基礎（公務員）通年	上林 領	12月10日	火	5・6	711
		データ分析技法（公務員）[QT4]	岸 摂也	12月11日	水	5・6	754
	実践科目	マイスターワークショップ（公務員）1.5年	田辺 慎一	12月9日	月	5・6	711

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



MAKE
YOUR
UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。

(5) 学修支援・学びのコミュニティ

学びのコミュニティ・学修支援について



図書館情報メディア部長
附属図書館長

稲井 達也

本学の8号館が2020年11月にグランドオープンした際はコロナ禍であり、学生はオンライン授業が中心でした。学生が登校できない中、学生の学びを支援することを図書館からも示したいと考えておりました。そういった思いと社会情勢を考えて、オンラインでの図書の推薦だけではなく、学生の学びをオンライン上でも提供したのが、学びのコミュニティのスタートです。ここ数年は、学融合の学びを具現化するために、継続的・計画的に取り組んでいます。学びのコミュニティの講座については、平日の17時～18時に開催しています。多くの学生が帰宅する中、参加したいと言う学生に学部学科の学びを超えて、社会課題に取り組む学びを提供しています。そして、3階に「本の響」というコーナーを設置しています。このコーナーは、学生がイノベーションを創発するため、横断的・総合的な課題を見出すように、分類にとらわれず書籍を設置しています。「本の響」の書籍を手にとった学生が学びのコミュニティの講座を受講する。また、講座を受講した学生がその書籍を手にとるといった相互連携の仕組みを構築しています。ゼミや学科の学生の成果物を展示することもあります。

学びのコミュニティについては、今までは学内中心でしたが、学び合い集いあう理念のもと、一般市民や高校生に公開していく講座を企画することとしました。大正大学附属図書館は地域開放を行っており、日常的に高校生が図書館を利用しています。それを踏まえ、高校生も参加できる講座『源氏物語』を実施しました。4回の連続講座のうち、3回に高校生の参加がありました。高校生も大変熱心に受講しており、講座後には質問する姿も見られました。図書館内では貴重資料である『源氏物語写本』を含む源氏物語関係資料の展示をするなど、講座と連携した展示企画にも取り組みました。

また、初めて地域の方も参加できる講座『戦争の記録との向き合い方 東京大空襲のあとに生きること』を企画し、多くの市民が参加しました。その他、金融の講座「お金・キャッシュレスについて考えよう」は昨年に引き続き、地域創生学科の教員と財務省との協働で行いました。また、他部署とも連携し、学生が仏教に触れる機会として「写経体験」も行いました。

入館者数も増加していき、学生の学びのコミュニティの参加については、2022年度は、全17講座217名、2023年度は全16講座147名、2024年度は12月現在、208名が参加しました。なお、この学びのコミュニティ参加学生からはアンケートを取っています。

参加者数を増加させるための周知と、同時に魅力的な内容を増やすことが課題です。今後は、名称を「学びingラボ」に変更し、一般市民、高校生に公開していく予定です。引き続き、学生の主体的・自律的な学びを育

成することも念頭におき、前例にとらわれず企画して参ります。

また、令和4年度より3回目となりますが、豊島区との連携で、「としま文化の日」の一環として、11月9日(土)に地域の方が集える図書館祭^{フェス}も開催しました。当日は読書推進フォーラム「高校生・大学生×学校図書館×作家×出版社」も並行して開催しました。近隣の高校から高校生にも参加いただき、様々な立場の方と読書についての意見交換を行いました。多くの本と一緒に学びが繋がっていくということを念頭に、今後も様々な取組みを実施していきたいと考えています。

図書館で企画した 2024（令和6年）年度“学びのコミュニティ” 実施報告

全体概要



企画講座数

23

※実施数は、19講座

2023年度は16講座



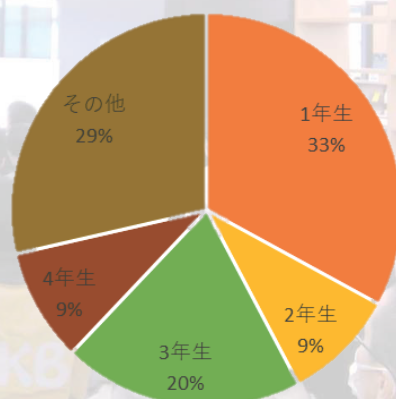
受講者数

235

2023年は242名



学年割合



恋愛、結婚関係から読む『源氏物語』（全4回）

外部公開講座

講師：古田 正幸（文学部 日本文学科 教授）

物語を「恋愛、結婚関係」の視点から知る講座を開講しました。源氏物語で「恋愛、結婚関係」について知りたい方向けに企画し、開講しました。本講座は、**学外の方も参加できる**企画として実施しました。

【講座企画の意図】
本学の日本文学科での学びを多くの方に提供できたらと思い、開講しました。また、本学は貴重資料として源氏物語（写本）を所蔵しており、講義の後に実物を見ることで学びが深まることを狙い、実施しました。

【受講者数】（全4回の延数）
延べ人数：58名
＜内訳＞
高校生：15名・他大学の学生：4名・
本学学生：39名



実物を見る 機会



講座に関連した展示の実施

講座の内容に沿い、本学の貴重資料の展示を実施しました。講座終了後、講師が展示の解説を行いました。





受講者アンケート（感想）の一部

今まで疑問に思っていた、光源氏と紫の上の関係について詳しく知れたのでスッキリしました。ありがとうございました。（高校生）

全4回の講座、とても面白かったです。
元々源氏物語に詳しいわけではなかったのですが、いろいろな解釈や伏線回収?など、考えさせられることも多くて楽しめました。（高校生）

過去の研究での見方と現在の研究の見方とで変化があることがおもしろく、流れを知ることでもまた新たな発見が見つかるように思った。（大学生）

古典文学を先生から学ぶ機会は高校以来なかった。これまでは文法に忠実に逐語訳を行うという授業が大半であったため、内容を深読みしていく授業は非常に魅力的で面白かった。（大学生）



戦争の記憶との向き合い方 東京大空襲のあとに生きること

外部公開講座

講師：木村 豊（人間学部 人間科学科 准教授）

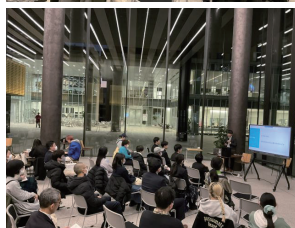
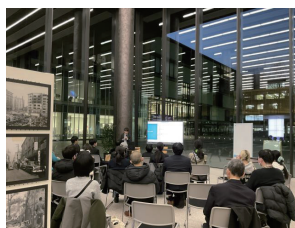
「東京大空襲」に焦点を当て、戦争の記憶との向き合い方を探る機会を作りました。
学外の方にもご案内し、講座を実施しました。

【講座企画の意図】

東京大空襲から80年目となる今年、戦争の記憶について考える機会を作るため実施しました。戦争を経験していない世代の方が社会学の観点から戦争の記憶について考えることで、後世に伝えることもできると考えました。

【受講者数】

延べ人数：28名
＜内訳＞
高校生：5名・学外の方：4名・
本学学生：19名



写真展示



講座に関連した展示の実施

講座の内容に沿い、図書館内で写真展示を実施しました。



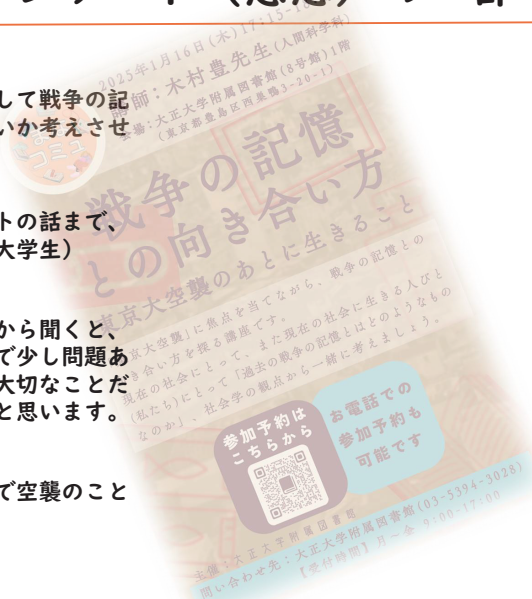
受講者アンケート（感想）の一部

戦後80年を迎え、戦争体験者が減っていく中で、どのようにして戦争の記憶や体験を継承していくか、また学んでいかなければならないか考えさせられた（大学生）

記憶の社会学という学問分野から、慰霊のためのモニュメントの話まで、初めて聞いた話が数多くあり、とても勉強になったから。（大学生）

卒論で、「戦争責任の変遷」について調べました。この経験から聞くと、地域の記憶の継承は「かわいそうな記憶」しか伝わらないので少し問題あるかなと思います。それでもやっぱり戦争の記憶の継承は大切なことだし、先生が研究してることは意義があってとても素晴らしいと思います。（大学生）

今まで戦争といえば原爆の事ばかり考えていたが今回の講義で空襲のことについても考えていかなければと思ったからです。記憶と歴史の違いについてもわかったからです。（高校生）



「紀伊國屋書店新宿本店3階」で開催

外部公開講座

新宿から若者が消えた日 アングラの新宿・サブカルの渋谷

講師：榎本 了亮（表現学部 表現文化学科 教授）

会場を新宿とし、一般の方を中心に募集しました。
学外の方へも学びの機会を提供しました。

【講座企画の意図】



多くの若者の力によって文化が作られ、街が変化していく様子を改めて考え、知る機会を作りたいと思い、企画しました。1970年代に大きな変化をした新宿を会場に実施することで変化のあった街を感じながら受講できる機会を作りました。



【受講者数】

延べ人数：28名（学外の方：28名）



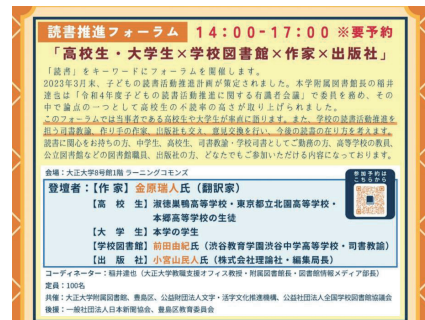
「読書推進フォーラム」の開催

「高校生・大学生×学校図書館×作家×出版社」

本学を会場として「読書」をキーワードにフォーラムを開催しました。2023年3月末、子どもの読書活動推進計画が策定されました。本学附属図書館長の稲井達也は「令和4年度子どもの読書活動推進に関する有識者会議」で委員を務め、その中で論点の一つとして高校生の不読率の高さが取り上げられました。このフォーラムでは当事者である高校生や大学生が率直に語ります。また、学校の読書活動推進を担う司書教諭、作り手の作家、出版社も交え、意見交換を行い、今後の読書の在り方を考えます。読書に関心をお持ちの方、中学生、高校生、司書教諭・学校司書としてご勤務の方、高等学校の教員、公立図書館などの図書館職員、出版社の方、どなたでもご参加いただける内容となっております。

登壇者：【作家】金原瑞人氏（翻訳家）
【高校生】淑徳巣鴨高等学校・東京都立北園高等学校・本郷高等学校の生徒
【大学生】本学の学生
【学校図書館】前田由紀氏（渋谷教育学園渋谷中学高等学校・司書教諭）
【出版社】小宮山民人氏（株式会社理論社・編集局長）

共催：大正大学附属図書館、豊島区、公益財団法人文字・活字文化推進機構、公益社団法人全国学校図書館協議会
後援：一般社団法人日本新聞協会、豊島区教育委員会



フォーラムに関連した展示と様子

フォーラムの内容に関連した展示と当日の様子です。



コーディネーターの進行のもと、活発に意見が交わされました。



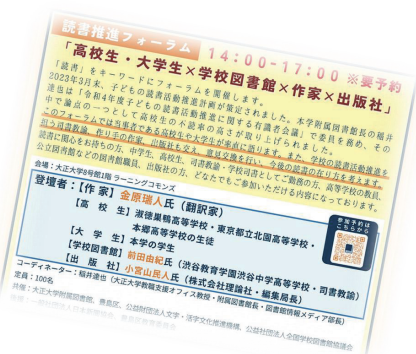
フォーラム内でもキーワードとして出た「YA」等の展示を行いました。

受講者アンケート（感想）の一部

同じ年代の高校生の意見だけでなく、なかなかお話を聞く機会のない大学生や作家さん、出版社さんのお話を聞けておもしろかったです。

高校生の話を聞く機会がないので貴重な体験だった。読書離れというものに関心を抱いたことがなかったので貴重な体験だった。

高校生や大学生の話を直接聞くことができたのは、大変貴重な機会だったと感じました。どうしても こういう機会だと、先生方のお話を 学生さんが 拝聴するという形式 はあるのですが、学生の話が大人が聞く機会 はなかなかありません。もっとたくさんの 学生の忌憚のない意見を聞かせていただけるとありがたく 嬉しいです。



2024年度「学びのコミュニティ」講座実施報告

2024年度企画した講座の一部を紹介します。様々なテーマの講座を受講する機会を作り、特定の分野にとらわれない学びの機会を作りました。

2024年度開講講座一覧

月日	曜日	時間	講座名称	講師	月日	曜日	時間	講座名称	講師
4/17	水	17:15-18:30	はじめての写経～経巻の心を学ぼう～	大正大学本部	10/15	火	14:00-15:00	秋の読書会	地蔵院書庫
4/18	木	16:30-17:30	2024年度入学生対象 春のカルパ	総合学芸支援部・地蔵院書庫	10/21	月	17:15-18:15	自己と他者のどちらも大切にする方法を学ぼう！ ～適切な伝え方と聞き方～	横谷理子 (心理社会学部 臨床心理学)
4/24	水	17:15-18:15	～化の防災～地震半島地域の避難所体験～	岡山県子 (地域創生学部 地域創生学科)	11/8	金	17:15-18:15	【音楽】特選関係から読む『源氏物語』 源の上の戦争の断片 ― 平安時代の女性は一歩多歩秋風を待っていたのか ―	吉田正幸 (文学部 日本文学)
4/26	金	16:30-17:30	2024年度入学生対象 春のカルパ	総合学芸支援部・地蔵院書庫	11/14	木	15:30-17:00	【延慶】仙みに向き合うタマゴの ―あんなで考える延慶解決アプローチ―	西村理子 (カンセン研究科)
5/21	火	17:15-18:45	お盆、キリシタンについて考える	岡山県子 (地域創生学部 地域創生学科) 新宮後援会事務局	11/18	月	15:30-17:00	【延慶】大学生のためのライフワークショップ 課題に計画的に取り組もう	横田尚子 (カンセン研究科)
5/24	金	17:15-18:15	【音楽】特選関係から読む『源氏物語』 源氏の上の戦争の断片 ― 平安時代の女性は一歩多歩秋風を待っていたのか ―	吉田正幸 (文学部 日本文学)	11/19	火	17:15-18:15	あまのりから学ぶ「書・音楽の世界」	荒生弘夫 (人文学部 人文学科)
6/14	金	17:15-18:30	はじめての写経～本専科特別加算講座を学ぼう～	大正大学本部	11/20	水	13:20-15:00	「ボランティア」運動ってどんな活動？」	金澤 (人文学部 社会学科)
6/21	金	17:15-18:45	アパの自立の観点から読む『源氏物語』 源氏の上の戦争の断片 ― 平安時代の女性は一歩多歩秋風を待っていたのか ―	伊藤直子 (文学部 人文学)	1/16	木	17:15-18:15	戦争の記憶との向き合い方：東京大空襲のあとに生きる	木村貴 (人文学部 人文学科)
6/27	木	15:10-16:50	英は歴史と文化でも大発見！ 延慶の音楽と書庫	伊藤直子 (文学部 日本文学)	1/20	月	17:15-18:15	スーパ マネジメント講座	阿部拓真 (地域創生学部 公共政策学)
7/11	木	17:30-18:30	お盆、キリシタンについて考える	中川仁恵 (文学部 国文学)	2/15	土	14:00-15:30	新宮から書庫へ来た日 アンダの断片「サブカル」の断片	横本了希 (表現学部 表現文化学)
7/19	金	17:15-18:15	【音楽】特選関係から読む『源氏物語』 源氏の上の戦争の断片 ― 平安時代の女性は一歩多歩秋風を待っていたのか ―	吉田正幸 (文学部 日本文学)	※2025年1月10日 現在				
9/27	金	17:15-18:15	【音楽】特選関係から読む『源氏物語』 源氏の上の戦争の断片 ― 平安時代の女性は一歩多歩秋風を待っていたのか ―	吉田正幸 (文学部 日本文学)					
9/30	月	15:30-16:30	読書会	地蔵院書庫					

23講座 企画

写経体験会

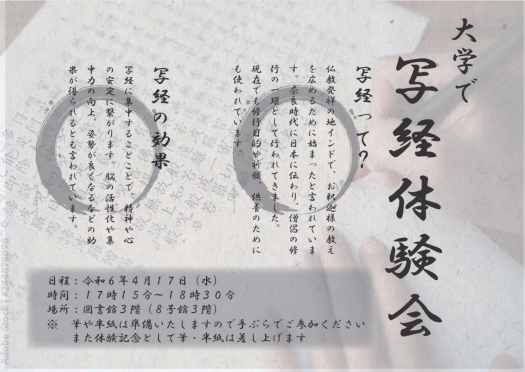
本学の宗教部と協同開催。本学の特色を学生に講座として提供しました。

講師：宗教部

【講座企画の意図】



本学の特色を活かし、仏教を身近に感じてもらうため実施しました。学内で気軽に写経の体験ができる機会を設け、多くの学生が写経の意味を含め、体験できる機会を作りました。



トイレの防災 ～能登半島地震の被災地トイレ～

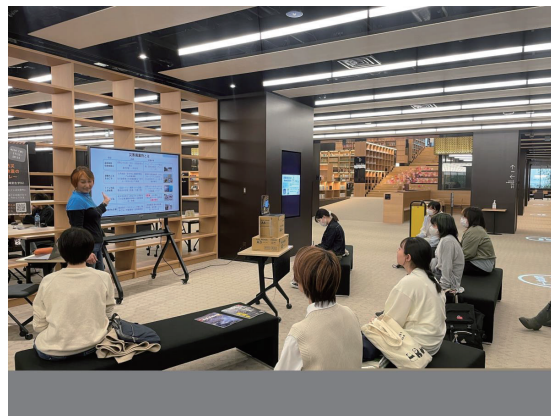
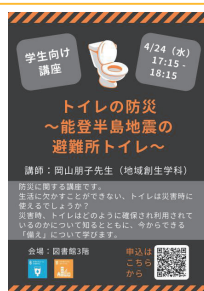
講師：岡山 朋子（地域創生学部 地域創生学科 教授）

災害時、トイレはどのように確保され利用されているかについて知るとともに、今からできる「備え」について学ぶ機会を作りました。

【講座企画の意図】



2024年1月1日に発生した能登半島地震を踏まえ、災害が発生した際にトイレは使えるのか、どのような状態になるのか、どのような準備が必要かを知らるとともに、各自ができる備えについて学ぶ機会を作りました。



お金・キャッシュレスについて考えよう

講師：西山 巨章（地域創生学部 地域創生学科 教授）

財務省関東財務局

財務省職員の方にお越しいただき、「キャッシュレス決裁」を中心に利用時の注意点を学ぶ機会を作りました。

【講座企画の意図】



大学生になると親の同意なくクレジットカードを作ったり、ローンを組んだりすることができ、仕組みを知らないまま利用をすると後々トラブルに発展することが考えられるため、お金についてのリテラシー向上を目指しました。



ケアと自立の視点で読み直す アニメーション映画 ～ジブリ『となりのトトロ』とディズニー『白雪姫』を中心に～

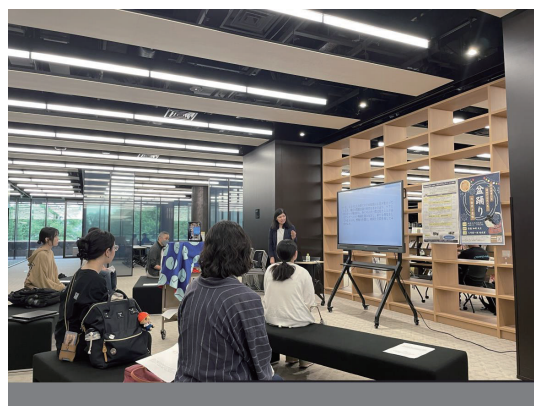
講師：伊藤 淑子（文学部 人文学科 教授）

ジブリ『となりのトトロ』とディズニー『白雪姫』をテーマにアニメーションから読み取れる「ケア・自立」について考える機会を作りました。



【講座企画の意図】

現代的な問題を「ケアと自立」の視点から考える講座を企画しました。講座はアニメーションから学ぶ方法をとって、大学生がイメージ、理解しやすいように工夫しました。



ふしぎなきつねのはなし ～王子の稲荷と狐の話～

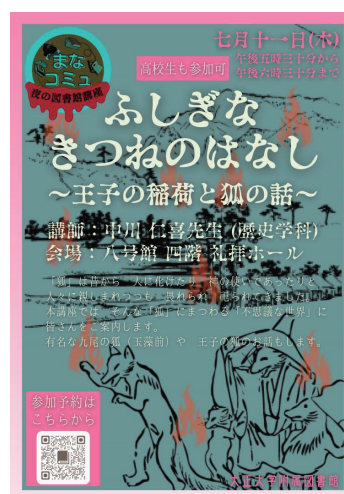
講師：中川 仁喜（文学部 歴史学科 准教授）

「きつね」を題材に「語られる不思議な話」や「背景」などを学ぶ機会を作りました。



【講座企画の意図】

本学に近い地域「王子」に関する「きつね」を題材に宗教、文化、伝承について知り、学ぶ講座を企画しました。他分野を学ぶ学生の参加も促すため、「不思議な話」とし、多くの学生が興味を持ち、参加しやすいようにしました。



自己と他者のどちらも大切にする方法を学ぼう！～適切な伝え方と聴き方～

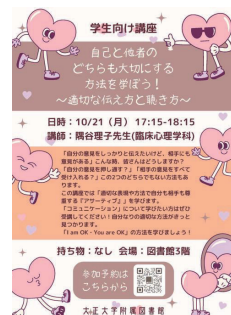
講師：隅谷 理子（心理社会学部 臨床心理学科 准教授）

人とのコミュニケーションを例に「アサーティブ」について学ぶ機会を作りました。



【講座企画の意図】

オンラインでのコミュニケーションが増え、対面でのコミュニケーションを負担に思う学生、他者との意見の相違にストレスを感じる学生もいると思い、「適切な表現方法や相手を尊重する方法」を学ぶ講座を企画しました。



あそびながら学ぶ／作る 音・音楽の世界

講師：荒生 弘史（人間学部 人間科学科 教授）

「音・音楽」を題材に人はどのように音を感じ取るかについて機器で測定をしながら学ぶ機会を作りました。



【講座企画の意図】

目には見えないが人に働きかける音を学ぶ機会を作り、人の感じ方などを学び、学ぶ機会を企画しました。講座内では機材を使用することで、他学科の学生でも理解しやすいようにしました。



オレンジリボン運動ってどんな活動？

講師：金 潔（人間学部 社会福祉学科 教授）

本学の社会福祉学科の学生が中心で活動している「オレンジリボン運動」について学ぶ機会を作りました。



【講座企画の意図】

社会全体で取り組まないといけない、児童虐待に関する問題を知ってもらい、もし目の前で起きていたらどのような行動を取ればよいか学ぶ機会を作りました。



スポーツの出来事を「スポーツ科学」で振り返る -2024まとめ-

講師：阿部 拓真（地域創生学部 公共政策学科 助教）

スポーツに興味関心を持った学生が2024年スポーツに関する話題を、「スポーツ科学」の視点から学ぶ機会を作りました。



【講座企画の意図】

2024年はスポーツについて様々な話題がありました。スポーツを題材に取り巻く問題や経済について学ぶきっかけを作りました。



地域に開かれたイベントの開催

「にぎやかな図書館祭」^{フェス}の開催

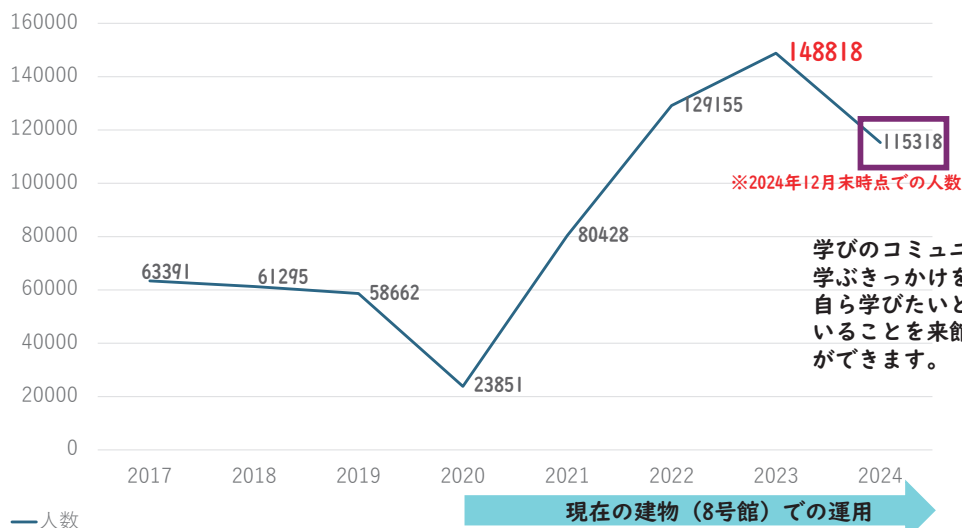
豊島区立図書館と協同で開催し、地域の方に楽しんでいた
だくとともに体験の機会を作りました。

共催：大正大学附属図書館、豊島区



イベントタイムテーブル	
10:00-11:00	にぎやかな図書館祭 (フェス) 開場!
10:30-11:00	読み聞かせ会① (9年館1階)
11:00-11:20	読み聞かせ会② (9年館1階)
11:30-13:00	読み聞かせ会③ (9年館1階)
13:00-13:30	読み聞かせ会④ (9年館1階)
13:30-13:50	読み聞かせ会⑤ (9年館1階)
14:00-17:00	読者のためのワークショップ (9年館1階)
10:00-13:00	イベントタイムテーブル
10:30-11:00	読み聞かせ会① (9年館1階)
11:00-11:20	読み聞かせ会② (9年館1階)
11:30-13:00	読み聞かせ会③ (9年館1階)
13:00-13:30	読み聞かせ会④ (9年館1階)
13:30-13:50	読み聞かせ会⑤ (9年館1階)
14:00-17:00	読者のためのワークショップ (9年館1階)

附属図書館 入館者推移表 (2017年度から2024年度)



学びのコミュニティ講座を実施し、
学ぶきっかけを提供することで、
自ら学びたいと思う学生が増えて
いることを来館者数から見るこ
ができます。

現在の建物 (8号館) での運用

【2020年4月】
新型コロナウイルス感染症対策のため、
入構制限緩和・オンライン授業への移行、
配送貸出開始
【2020年9月】
現在の建物でのサービス開始

【2021年】
入構制限緩和に伴い来館者数増
【2022年】
卒業生・退職職員の利用再開

(6) チューター育成プログラム

チューター育成プログラムについて



総合学修支援部部长
君島 菜菜

本学のチューター育成プログラムは、授業内外で総合的かつ質の高い支援ができるチューターを育成採用するための独自のプログラムです。教員・職員とは異なる第3の人材である学修支援者を、今後の高等教育の学修支援に向けて輩出する試みでもあります。学修支援センター DAC のトランジション教育チームにおいて、チューターの役割を念頭にといったプログラム内容の精査をしており、令和6年度で6回目の実施になります。本プログラムは、本学の求める資質・能力・働き方にマッチした人材育成と受講生側のニーズやモチベーション維持の観点で、ボリュームを考えながら試行錯誤をしてきました。

前述の2つの目的に照らしてこれまでを振り返ると、チューター制度の維持・充実という観点では、育成採用するシステムを確立し、十分に機能したと言えます。また、チームティーチングという特徴的な手法において、応募者の学修支援イメージとのマッチングを図り、採用後の研修も充実させるなど教育・学修支援の質の向上に寄与しています。一方第3の人材の育成・波及という観点では、令和5年度に「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択校4大学の取組みとして「多様な学びのための学修支援実務者ガイドライン」を公開しました。令和6年度は12月に採択校合同で開催したシンポジウムにおいて実践事例の発表を行う等、外部への発信も積極的に実施しました。そして、チューター養成プログラムの第1期生は、修了後に本学でのコアチューター実務の経験を経て、本学や他大学の教員に採用され、現在も教育研究・学修支援を担っています。また、受講者の4割は大学関係者であり、本学の採用に結び付かなかった場合でも、他大学での実務における教育の質向上につながっていると考えます。

今後の方向性としては、本学のチュートリアル教育の維持・充実の観点では、現在入れ替わりの採用の段階であり、全学共通かつ必修科目中心の組織的な学修支援においては、事務スキル、マネジメント力、個人の学修支援だけではないクラス全体、カリキュラム全体への視野の拡大が求められます。また、専門教育やキャリア教育への接続支援に対応する能力など、アカデミックスキルズ、キャリアデザインなど機能別支援の充実を意識した採用を見据えていく必要性を感じています。さらに、他大学への波及の観点では、本プログラムを育成のモデルとした発信、一部コンテンツの一般開放、研修パッケージの展開、学修支援者の実践の場に関する情報収集と共有というような4つが想定されます。現状は模索している段階にあり、今後のプログラムの汎用性に関しては、学修支援の意義や現状も踏まえて検討していきたいと考えています。

チューター育成プログラムについて

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。
大正大学 Goto 100

大正大学チューター育成プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。
大正大学 Goto 100

・大正大学トランジション教育チームが実施する教育の成果を高める観点から、授業内外における総合的かつ質の高い学修支援を行うチューターを育成・採用するため、本学が独自に運営するプログラム

・大正大学のチュートリアル教育制度の維持・充実を第一の目的としつつ、教員・職員とは異なる「第3の人材」である学修支援者を育成することで、今後の高等教育における学修支援活動で幅広く貢献できる人材を輩出する可能性を模索する試み

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学トランジション教育チームの学修支援体制

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

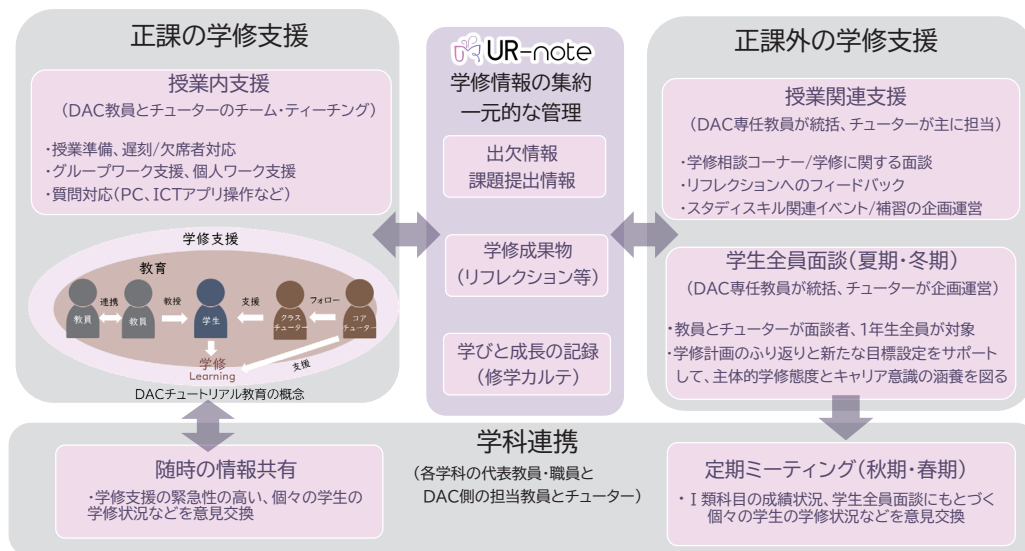
チューターの定義 : 一人ひとりの学びと成長を支える総合的学修支援者
 チューターによる学修支援の目的 : 学生が自律した学修者として成長するための支援
 チューターの役割 : 教員・職員と協働して学修支援する「第3の人材」

学修支援内容	教員	チューター/SA	職員
・学修スキルの習得支援	◎(教育内容の一部)	○(学修支援として)	
・レポート・論文作成支援	◎(教育内容の一部)	○(学修支援として)	
・授業内容に関する学修支援	○	◎(ワークの支援)	
・資格取得(データサイエンス科目関連)	◎	○(企画運営)	
・学生相談	○	◎	
・履修指導オリエンテーション	○	○	◎
・学修環境の整備		○	◎

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学トランジション教育チームの学修支援内容

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

大正大学のチューター職種

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



①コアチューター(任期制専門事務職員)

- ・科目別採用(探究・リーダーシップ科目担当/データサイエンス科目担当)
- ・週5日常勤
- ・年俸制
- 探究科目・リーダーシップ科目担当
 - ・教職員と連携したより良い学修支援の仕組み構築と運営(グループワーク等の授業内学修支援、各学科教員との情報共有・打合せなど)
 - ・クラスチューターのマネジメント
 - ・「学修相談コーナー」の運営
 - ・学修イベントの開催、各学科との連携ミーティングなど、学生の学びと成長を支える施策の実施
 - ・全1年生を対象とする「学生面談」の運営・実施(夏冬年2回)
- データサイエンス科目担当
 - ・教職員と連携したより良い学修支援の仕組み構築と運営(授業・テストに向けた補習、データサイエンス関連の資格取得プログラム、新入生対象のPC相談会、各学科教員との情報共有・打ち合わせなど)
 - ・クラスチューターとSAのマネジメント
 - ・授業準備および学修支援
 - ・全1年生を対象とする「学生面談」の実施(夏冬年2回)

②クラスチューター(臨時雇用)

- ・科目別採用(探究・リーダーシップ科目担当/データサイエンス科目担当)
- ・各クラスに配属され、授業実施日のみ勤務
- ・時給制
- 探究科目担当
 - ・授業担当教員・コアチューターと協働した、グループワーク等の学修支援
 - ・学生が授業後に入力した「授業の振り返り(リフレクション)」へのコメント返却
 - ・全1年生を対象とする「学生面談」の実施(夏冬年2回)
- データサイエンス科目担当
 - ・授業担当教員・コアチューターと協働した、授業準備および学修支援
 - ・全1年生を対象とする「学生面談」の実施(夏冬年2回)

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

チューターの主な業務(科目別)

MAKE YOUR UNIVERSE.
一掃だからつくれる世界を。



授業関連(正課)の学修支援業務

	探究科目・リーダーシップ科目担当	データサイエンス科目担当
開講前	<ul style="list-style-type: none"> ・開講前の授業準備 ・授業備品の管理と準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・開講前の授業準備 ・授業備品の管理と準備
授業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行の確認(授業中・前後) ・授業後ミーティングの進行 ・授業中・前後の学修支援や学生への個別対応(含クラスチューター指示) ・学生の出席・提出物の提出状況と内容の確認と教員への共有 ・欠席学生やテスト未受験の学生への連絡とフォローと教員への相談共有 ・リフレクション未提出者のフォローとコメント返却※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行の確認(授業中・前後) ・授業後ミーティングの進行 ・授業中・前後の学修支援や学生への個別対応(含クラスチューター指示) ・学生の出席・提出物の提出状況と内容の確認と教員への共有 ・欠席学生やテスト未受験の学生への連絡とフォローと教員への相談共有

授業外(正課外)の業務

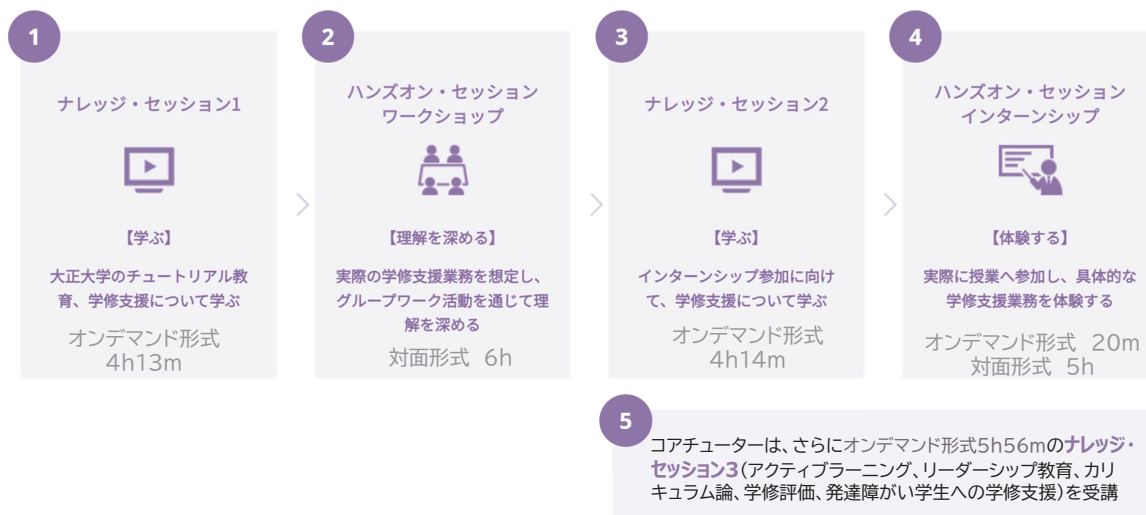
	探究科目・リーダーシップ科目担当	データサイエンス担当
学修支援 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・学科との連携業務(教員と連携) ・夏期・冬期定期学生面談の運営(教員・総合学修支援部と連携) ・「学びのコミュニティ」イベントの企画運営(教員・図書館との連携) ・学修相談コーナーの運営(スタディ・スキルの支援) ・チューター育成プログラムの運営補助(教員・総合学修支援部と連携) ・学生支援部、入試課、就職課などその他部門との連携業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科との連携業務(教員と連携) ・補習実施計画についての教員とのすり合わせ ・授業期間中の補習スケジュール確定と担当割の作成と実行、進捗状況確認 ・資格取得特別プログラム(正課外)の企画運営(教員と連携) ・問題学生の洗い出しと対応策の検討と実行(学生個別面談含む)
マネジメント 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスチューターの動員確認やコメント返却計画の作成と指示 ・年度末のチューター研修の企画・運営(教員・学修支援部と連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ・労務管理 / チューター、SA配置の検討と最適化 ・授業運営・準備に関するクラスチューターとSAへの業務割り振りと指示 ・SA採用面談 ・チューター研修、SA研修立案と実行(教員と連携)

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

※クラスチューターは勤務時間外業務になるため別途委託契約を結びます。

チューター育成プログラムの構成(令和6年度採用)

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

教職協働によるチューター育成プログラムの運営(令和6年度採用)

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

チューター育成プログラム内容(令和6年度採用)

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



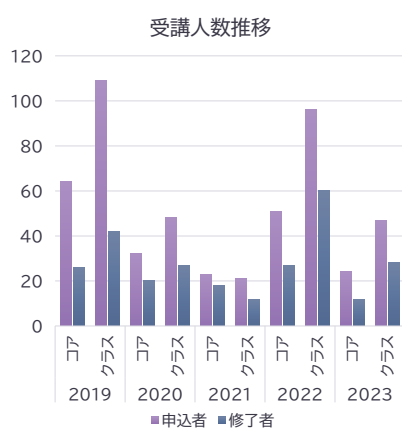
項目	ユニット	講座内容	課題(レポート内容)
ナレッジ・セッション1	大正大学のチュートリアル教育と高等教育の現状 学修支援	1 大正大学のチュートリアル教育について	動画視聴をとおしての ①学び・気づき、疑問 ②志望理由の変化
		2 学生の主体的な学びを促す学修支援	
		3 学びを深めるリフレクション	
		4 学びと成長を支えるキャリアカウンセリング	
ハンズオン・セッション ワークショップ	学生対応、グループ支援、個人支援などの学修支援の実践と、授業サポートを行う上でのスキル確認	学修支援マネジメントについて 学生対応時における留意事項 グループ活動のファシリテーション 面談 学生の個別支援 学修支援に必要なスキルチェック など	事前:支援についてのケーススタディ 当日:リフレクション、面談記録 事後:1日を通してのリフレクション
ナレッジ・セッション2	学修支援	5 学びを深めるコーチング 6 教育における障がい者支援 7 中退予防	動画視聴をとおしての ①もっとも印象的な学び・気づき ②志望理由の変化
インターンシップ	事前視聴	大正大学の学修支援(インターンシップ事前研修)	インターンシップの目標設定
	インターンシップ	インターンシップ(実際の授業参加)	目標設定をかまえた学修支援のふり振り返り
ナレッジ・セッション3(コア志望のみ)	大正大学のチュートリアル教育と高等教育の現状 学修支援	8 トランジションと高等教育 9 大学教育とリーダーシップ 10 大学のカリキュラム・マネジメント 11 学修評価の全体像	動画視聴をとおしての ①チューターとして求められる教員との連携のあり方 ②志望理由の変化
		12 知的障がい者への学修支援	

※ナレッジ・セッションはオンデマンド、ハンズオンセッション、インターンシップは対面にて実施
※オンデマンドや課題提出はすべて大正大学LMS(UR-note)を利用

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

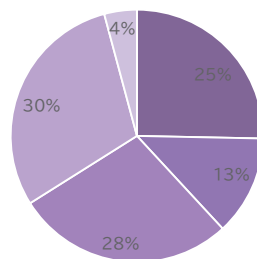
チューター育成プログラムの受講生

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



※探究科目希望・データサイエンス科目希望をカウントした延べ数で表示

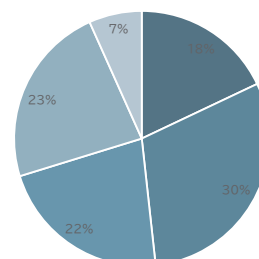
申込者職種
(過去申込者累計)



- 1.大学教員(非常勤講師含む)
- 2.大学事務
- 3.その他教育(小中高非常勤教員含む)
- 4.一般企業
- 5.職歴なし

申込者のうち大学院在籍歴がある方は、全体の57.7%
※該当項目について記載を求めなかった年度に関しては、集計から除外

申込者年代
(過去申込者累計)



- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

受講者の声

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



<プログラム全体>

- ・とにかく貴重な経験を積ませていただきました。応募の時期は、締め切り直前でしたので、知識の講義受講の際は、仕事をしながら、時間をやりくりしつつパソコンに向き合いながら、でしたが、内容は興味深く楽しみながら受講をさせていただきました。対面での講習もさらに興味深く参加させていただきましたこと、感謝しかありません。現在の業務に早速、生かしています。学生への声がけも変わりました。ありがとうございました。
- ・全国的にも珍しい取り組みであり、学生にとっても教員や職員とまた違った学修支援をしてくれるチューターがいるのは心強いのではないかと思います。今回採用されるかどうかにかかわらず、今後大学教育にかかわることがあれば大正大学このような事例があるのだと紹介していきたいと思います。
- ・学修支援というテーマでしたが、对学生また支援者側に限らず、活かせる学びだと感じました。これだけのプログラムを無料で受講できることにも感謝しています。他の受講生の方から学んだことが沢山あったので、もう一度、プログラムを受けたいくらいです。私は病気によってキャリアが中断していますが、最終学歴ではなく最新学歴の更新が重要であることを実感しました。この経験をきっかけに、学修支援に限らず、自分の学修経験を重ねて社会に活かせるように、勉強を続けます。何よりも学ぶことは楽しい！と、改めて気づかせてもらいました。ありがとうございました。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

受講者の声

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



<ナレッジセッション>

- ・高等教育機関におけるこれからの時代に向けた広い学修支援のあり方を学ぶことができ、よかったです。
- ・動画の視聴を短期間で受講したので非常にきつかったですが、大学の現状を理解することが出来て良かったです。特に、学生一人一人に対して密に支援をしようと試みている姿勢は、将来にわたってどこかで実を結ぶのではないかと感じました。
- ・オンデマンド講義レポートを書くためには見直したり止めて書いたりするため、大変長時間の視聴になる。もう少しコンパクトにしていただと良かったのではないかと思います。⇒ 2023年度より、視聴順を調整し負担感を軽減させた。

<ハンズオンセッション>

- ・知識を身につけただけでは実践ではなかなか役に立たないということがよく分かった。リフレクションを通して自分の行動を変化できた点は良かった。
- ・教員の頭を悩ます、学生の行動ケースの解決方法として、色々な考え方があることにとても感心した。できればもっと多くのケースについてディスカッションしたかった。
- ・今の大学で業務についてふりかえり検討ができた。大学を挙げてこのような取り組みができることは、素晴らしいと感じました。
- ・3つのボリュームのあるワークが半日に凝縮していたので、全体像はつかめたものの、消化不良感が少々残りました。あと10分程度、各ワークのふりかえりをじっくり行いたかったです。⇒ 次年度より終日の実施とし、ワークおよび振り返りの時間を多く設けた。

<インターンシップ>

- ・実際の授業に入らせてもらうことで、チューターがどのような役割を担っているのかがよく分かりました。また、授業後のミーティングでは、講師とチューターとの関係性やチューターがどのような視点で授業に臨んでいるか等が分かり、とても勉強になりました。
- ・現職とは違う視点で、高等教育の現在をあらためて体感することができたことは非常に貴重な経験だった。また、複数でのチームティーチングを体験させて頂くことで、自分自身の行動や考え方を振り返ることができ、自分自身の深い気づきに繋がったと思う。
- ・授業が終盤でのインターンシップだったため、学修支援の体験としては、やりづらい（介入しにくい）部分が多かったのではないかと思われる。⇒ 2023年度よりグループワークなどを行っている授業回にインターンシップを設定した。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

採用後の研修(令和5年度)

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



科目名	時期	日付	名称	出席者	方法	所要時間	実施内容
全体	開講前	3月22日	コアチューター研修会	コアチューター、DAC教員、事務	対面	2時間	知識集約型、大正大学、DAC組織、I 類科目、学修支援方針、履修、施設説明など
		7月14日	夏期面談研修	コアチューター、クラスチューター、DAC教員、事務	オンライン	1時間	夏期面談実施に向けた留意点
		1月11日	冬期面談研修	コアチューター、クラスチューター、DAC教員、事務	オンライン	1時間	冬期面談実施に向けた留意点
データサイエンス	開講前	3月27日	コア研修	コアチューター	対面	4時間	データサイエンス科目の業務について
		2月26日	講師会#1	新任教員、新任コア、新任クラス	対面/オンライン	1時間30分	大正大学の教育方針、データサイエンス教育の位置づけ他 チームティーチングについて(教員とチューターの役割)
		3月5日	講師会#2	新任教員、新任コア、新任クラス	対面/オンライン	1時間30分	シラバス確認と授業の進め方、成績評価について
		3月26日	講師会#3	教員、コア、クラス全員 (一部新任のみ)	対面	4時間	令和5年度DS教育方針、チーム別ミーティングなど 大学で使用するアプリケーションの使い方(LMS含む)
		2月26日	Tableau研修#1	教員、コア、クラス	対面	2時間	Tableauの1年生で扱う範囲
		3月5日	Tableau研修#2	教員、コア、クラス	対面	2時間	Tableauの1年生で扱う範囲
		3月12日	Tableau研修#3	教員、コア、クラス	対面	3時間	Tableauの2年生で扱う範囲
		10月22日	Tableau研修#4	コア、クラス	対面	3時間	ハンズオン研修
		11月5日	Tableau研修#5	コア、クラス	対面	3時間	ハンズオン研修
		11月19日	講師会#4	教員、コア、クラス	オンライン	2時間	第4QTIに向けた講師会
探究	開講前	3月27日	コア研修	コアチューター	対面	3時間	探究科目の業務について
		3月20日	講師会#1	教員、コアチューター	オンライン	1時間30分	探究科目(全体・各科目)について
		3月28日	顔合わせ会	教員、コア、クラス	対面	3時間	探究科目の運営、学修支援について、各クラス担当ミーティング
		8月上旬	講師会(各科目)#2	教員、コアチューター	オンライン	1時間	1・2QTI振り返り
		10月下旬	講師会(各科目)#3	教員、コアチューター	オンライン	1時間	第4QTIに向けた講師会
リーダーシップ	開講前	2月	講師会(各科目)#4	教員、コアチューター	オンライン	1時間	年間振り返り
		3月	講師会#1	教員、コアチューター	対面	1時間	リーダーシップ科目について
		1QTI後	講師会#2	教員、コアチューター	対面	1時間	振り返り

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

チューター育成プログラムの変遷

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。



2019(R1) 年度	<ul style="list-style-type: none"> すべてのプログラムを対面で実施 ナレッジセッションとハンズオンセッションの2部構成で開始 	<p>チュートリアル教育準備年度 8月・9月と早めの時期に実施</p>
2020(R2) 年度	<ul style="list-style-type: none"> コロナによりプログラムすべてをオンラインで実施 	<p>半分の学部でチュートリアル教育開始 コロナのためすべてをオンラインで実施。時期も2021年1月中旬～2月中旬と遅い日程</p>
2021(R3) 年度	<ul style="list-style-type: none"> 履修証明プログラム(60時間)に再編して実施 ナレッジセッションはオンライン、ハンズオンは対面実施、インターンシップ導入 履修証明プログラム受講者向け(8月～12月)と履修証明以外の受講(1月～2月)に分けて採用実施 	<p>知識集約型事業採択 全学部共通教育開始 総合学修支援部とDACの教職協働でプログラム運営開始 60時間に拡大・インターンシップを導入</p>
2022(R4) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ナレッジセッションの受講時間を減らして再編 同内容のプログラムを3回実施(9月～12月、11月～1月、1月～2月) 	<p>ナレッジ21時間、ハンズオンおよびインターンシップ14時間の計35時間 (3回目はインターンシップなし)</p>
2023(R5) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ナレッジセッションのコンテンツを分割する構成に変更し、一部のコンテンツについてクラスチューター志望者は任意視聴とした 2回実施、2回目の対象をクラスチューター志望のみとした 	<p>コア合計26時間、クラス合計20時間 1回目8月～12月、2回目8月～1月</p>
2024(R6) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ナレッジセッションをさらに再編成(学修支援関連を前半、高等教育全般を後半) 1回目をコアチューター志望者のみ(8月～12月)、2回目をクラス志望者のみ(1月～2月)を対象とした 	<p>コア合計26時間、クラス合計15時間 1回目8月～12月、2回目8月～1月</p>

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

チューター育成プログラム変更のポイント

プログラムは、大学が求める資質・能力、働き方にマッチした人材育成と、受講者のニーズやモチベーション維持の観点で、教職協働によるブラッシュアップを重ねてきた

1. 応募者側がイメージする個別学修支援と、大正大学が行う組織的学修支援のミスマッチの解消

- ☞ ハンズオンセッションでは、大正大学の学修支援を踏まえたレクチャーやワークを多く取り入れる
【ハンズオンセッション内容変更の一部】
 - ・レクチャーにて、コアチューターは専門的な知見やスキルだけでなく「事務スキル」「マネジメント力」が求められることを強調
 - ・学修状況(出欠席や課題提出など)に課題のある学生に対する支援の優先順位を話し合うグループワークの導入
 - ・受講者が交替で面談者・学生役となる「模擬面談」ロールプレイ、「Excelスキルチェック」の実施
- ☞ インターンシップで実際の授業に入り、大正大学の授業内支援を経験してもらう
- ☞ 大正大学の教育で使用するLMSをプログラムでも使用し、ICTを活用した支援の理解とスキルを身につけてもらう

2. 採用人数の確保(プログラムの途中離脱を防ぐ)

- ☞ 臨時雇用であるクラスチューターに視聴を求めるコンテンツを見直し、時間を短縮する
- ☞ 学修意欲を維持する工夫
 - ・ナレッジセッションのユニットを分け、間にハンズオンセッションを入れる構成にする
 - ・チューターと教員の役割を整理し、チューターが主となる学修支援を優先した順序に変更

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

これまでの振り返り

大正大学のチュートリアル教育制度の維持・充実

- ・学修支援者を学内で育成・採用する仕組みを確立し、大正大学のチュートリアル制度を維持した
- ・本学のチュートリアル教育の実在に合わせてプログラムを修正し、採用後の研修も充実させるなど、チューターとしての資質・技能の向上と併せて本学の学修支援活動へのマッチングを図った
- ・専門的な知識を持ち、かつ円滑な協働ができるように育成段階から工夫し、質の良いチームティーチングが実現した
- ・採用したコアチューターは、教員と協働で支援の振り返りと改善を継続し、教育・学修支援の質的向上に貢献した

教員・職員とは異なる第三の人材である学修支援者の育成・波及

- ・チューター制度の実践については、採択校共通テーマ3の4大学で「多様な学びのための学修支援実務者ガイドライン」としてR5年度に公開するとともに、R6年度採択校合同シンポジウム（12月9日）にて実践事例を報告済
- ・第Ⅰ期のチューターについては、プログラムを修了し本学のチューター実務の経験を経て、本学ないし他大学の教員として採用され、教育研究および学修支援にあたっている
- ・プログラム全体の「受講者の声」にもあるように、大学関係の受講者（教員・職員含め38%）は、本学の採用に結びつかない場合でも、他大学で本プログラムの学びを実践している

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

今後の方向性

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒にだからつくれる世界を。



よりアカデミックなスキルズの支援やキャリアデザインを見据えた支援を意識したプログラムの再構築

1. チューターに求められる資質・能力の再整理
 - ・全学共通教育の運営に必要な事務スキル・マネジメント力
 - ・個別学修支援から組織的な学修支援への視野の拡大
 - ・初年次の学修習慣の支援から専門教育やキャリア教育への接続支援まで対応できる能力
2. 再整理された資質・能力を育成・評価するプログラムの再検討・実施
 - ・アカデミックススキルズやキャリア教育など、機能別能力評価の視点の導入検討

プログラムの汎用性の模索

- ・学修支援者育成プログラムモデルとして発信・情報公開
- ・一部コンテンツの一般開放(SD等)
- ・研修パッケージとしての展開(ナレッジは汎用的に提供可能、ハンズオンは各大学用にコンサルが必要)
- ・学修支援者の実践の場に関する情報収集

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



MAKE
YOUR
UNIVERSE.

一緒にだからつくれる世界を。



終わりに



学校法人大正大学
理事長

柏木 正博

本学は、来たる令和8（2026）年に創立100周年を迎えます。これを契機に様々な改革や新規事業を展開していく計画ですが、そのひとつが情報科学部（仮称）の設置構想（2026年4月開設予定）です。本学が今まで培ってきた文系の教育研究の実績と理系の分野との統合・融合をビジョンとして掲げ、デジタル化が加速する社会において、新しい時代が要請する人材の育成に挑戦します。

知識集約型社会を支える人材育成事業については、Society5.0社会を担う人材を育成するために、学融合・文理融合・データサイエンス・アントレプレナーシップ等の新しい教育活動を実施してきました。本学は、学融合教育を通じて学生が学問の枠を超えて学びを深め、複雑化する現代社会の課題に対応できる学生の能力を育成してきました。この取組みは、統合的な学びを促進し、学生が新たな価値創造を実現できるように、学問分野を超えた視点を養い、多様な知識とスキルを統合的に活用できる教育活動と言えます。

そして、学融合教育の中心には「学融合ゼミナール」があります。このゼミナールでは、学生が自学科で培った専門知識を基盤に、他学科や他分野の知識を組み合わせ、実際の社会課題に取り組む機会を提供しています。令和6（2024）年度には、2年生と3年生が共同で履修することで、異なる学年や分野の学生が交流し、多様な視点から課題解決に取り組むダイナミックな学びの場を形成しました。学融合教育は単なる知識の寄せ集めではなく、異なる学問分野の融合を通じて、新たな知のフロンティアを切り開くことを目的としています。このため、学生が一貫した学びのプロセスを通じて成長できるよう、教育プログラムの連携を強化しています。学生は、データサイエンスやアントレプレナーシップといった知識・経験を基盤に、現代社会が直面する多様な課題に対応するための実践力を養成することになります。これにより、学生は異なる学問分野のディシプリンを深く理解し、それを課題解決に活用する力を身に付けることが期待されています。

これらの取組みは、文理融合学部設置に向けた基盤の取り組みとして、大学教育の改革を推進してきました。本学の学融合教育は、時代の要請に応える次世代のリーダー育成に貢献するものであり、本学が掲げる「地域戦略人材育成」のための取り組みです。学生一人ひとりが持続可能な社会を実現するための知識とスキルを獲得し、変化する社会に柔軟に対応する力を備えることを期待しています。

以上のように、本学は100周年を契機として、学内外のリソースを最大限活用し、文理融合や学融合教育の深化を図っています。地域や企業と連携しながら、学生が実社会で課題解決に挑戦できる教育環境を整備することで、持続可能な社会を支える人材の育成を目指していきます。これらの取り組みを通じて、学生一人ひとりが

主体的に学び、未来を切り開く力を養うことが本学の使命であると考えています。来年度の4月以降は、学長が推進する「10の力」に基づいた専門科目の展開を進めていきます。

また、「文理融合」・「学融合」・「データサイエンス」・「アントレプレナーシップ」については、来年度も継続して重視していきます。基本的なポリシーは維持しながら、「知識集約型社会を支える人材育成事業」、「文理融合」、「学融合」を基盤とするカリキュラムの一環として位置づけていきます。また、「ウェルビーイング」を中心に据え、その基本的な理念は仏教の教えに基づくウェルビーイングを基盤とします。最終的には、地域戦略人材の育成やアントレプレナーシップの醸成、DX人材の確立を目指し、デジタル関連科目を体系的に並べ、基礎的な学習からしっかりと取り組む方針です。

加えて、持続可能な世界の構築を見据え、「グリーン」、「日本の文化財」、「デジタル技術」を組み合わせた新たな学修プログラムを設計していきます。デジタル技術を活用することで、VRシアターを用いた文化財の再現を可能にし、地域人材の育成にも寄与していきます。PBLを取り入れることで教育の質を向上させ、大きな学びの融合を図ります。これにより、「知識・応用・融合」の成果を最大化し、社会で活用できる人材を育成していきます。そして、これまでの大正大学の取り組みとして、10年以上にわたり自治体と連携し、地域との結びつきを強めてきました。産官学連携を推進し、地域拠点を全国に設けることで、サテライトや支局の活用を促進しています。

最後に、私たちは単にキャンパス内で学びを完結させるのではなく、地域や企業等と積極的に連携し、実社会の課題解決に取り組む決意です。社会が直面する複雑で多様な課題に対して、学生が現場で経験を積みながら、実践力を身に付けることのできる教育環境を整備していきます。人口減少や産業構造の変化が加速する中で、大学の役割はますます重要となっています。本学はこれからも「地域戦略人材」の育成を継続し、全学が一体となって未来を切り開いていくための教育活動を続けて参ります。

